

# 舞 台 遺 跡 (3)

舞 台 遺 跡  
(縄文時代・旧石器時代編)

大 井 戸 遺 跡

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第30集

2 0 0 5

日 本 道 路 公 団  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団



# 舞 台 遺 跡 (3)

舞 台 遺 跡

(縄文時代・旧石器時代編)

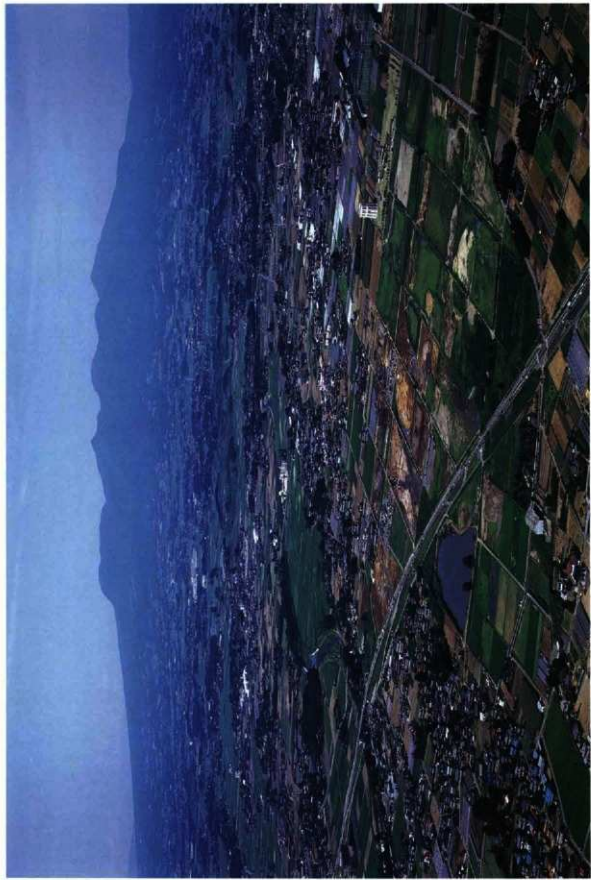
大 井 戸 遺 跡

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第30集

2 0 0 5

日 本 道 路 公 団  
財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団





舞台遺跡風景 上縁の山並は赤城山。左下方の弧状道跡は国道172号。中央部方面地帯が遺跡地で三和工業団地遺跡もこの一帯に連なる。



## 序

北関東自動車道は、本県高崎市の関越自動車道から分岐し、茨城県那珂湊にいたる延長150kmの高速自動車道であります。その間、群馬・栃木・茨城各県の主要都市及び東北自動車道・常磐自動車道を結び、地域社会の発展に大きな役割を果たすものと期待されています。

この北関東自動車道の高崎～伊勢崎間約15kmの建設に先立って、平成7年6月から36の遺跡で発掘調査が行われましたが、当事業団ではその内、31の遺跡の発掘調査を担当いたしました。また、それらの遺跡の整理作業は平成10年度から実施しており、本書『舞台遺跡(3)』は、その発掘調査報告書第30集として刊行するものであり、舞台遺跡・大井戸遺跡の2遺跡の調査結果を併せ報告いたします。

舞台遺跡は、伊勢崎市三和町に所在し、発掘調査は平成7年度から11年度まで実施してきました。その結果、旧石器時代、縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の住居跡や遺物が数多く発見されました。整理は平成10年度から進められており、既に平成13年には第1巻を『舞台遺跡(1)』として刊行しております。平安時代を対象にする報告で、中でも11基の須恵器窯跡は平地に築かれた県内でも希な窯跡群です。また、平成16年刊行の『舞台遺跡(2)』は主として古墳時代の遺構・遺物について報告いたしました。古墳時代前期と古墳時代後期の住居跡を中心としますが、この中で注目される遺構として10基の方形周溝墓があります。古墳時代前期の墓域としては隣接する三和工業団地遺跡と合わせ、その数20数基からなる県内でも最大規模の方形周溝墓群として特筆されます。本書『舞台遺跡(3)』は縄文時代と旧石器時代を主たる掲載対象としますが、縄文時代では前期を中心とする堅穴住居と陥穴の他、石器製作関連跡が注目されます。また、旧石器では後期旧石器時代に特徴となりつつある石器・石材集中分布群環状配置の構造的解明に良好な事例遺跡の一つに加えられるであります。

大井戸遺跡は舞台遺跡の東に連続しており、周辺域に多い湧水の一つ男井戸湧水に相当する地点になります。原始から人間生活に深く関わっていたことが偲ばれます。

本書もまた北関東自動車道の建設に先立ち発掘調査された他の遺跡とともに、波志江沼周辺地域の古代を明らかにしていく貴重な資料となるものと確信しております。

最後になりましたが、日本道路公団東京建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会文化課、伊勢崎市教育委員会、地元関係者の皆様には、発掘調査から本報告書刊行まで終始ご協力を賜り心から感謝の意を表します。

平成17年2月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小野 宇三郎





## 例 言

1. 本書は、北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域建設に伴い事前調査された、舞台遺跡（遺跡略号KT-320）と大井戸遺跡（遺跡略号KT-330）の発掘調査報告書である。本書は、舞台遺跡調査報告書全3巻中の第3巻で、舞台遺跡から検出された諸時代のうち縄文時代と旧石器時代を対象とする。なお、第1巻は『舞台遺跡(1)』（奈良・平安時代他編）2001・第2巻は『舞台遺跡(2)』（古墳時代編）2004として刊行した。

2. 舞台遺跡及び大井戸遺跡は群馬県伊勢崎市三和町の次に掲げる諸地番にまたがって所在する。

1690-1. 1091-1. 1091-2. 1092-1. 1703-1. 1704-1. 1704-2. 1705. 1706. 1707-1. 1708-1. 1730-1. 1731-1. 1731-2. 1732-1. 1733-1. 1739-1. 1741-1. 1742-1. 1743-1. 1744-1. 1745. 1746. 1747-1. 1748. 1749. 1750. 1750-2. 1751-1. 1752-1. 1753-1. 1754-1. 1755-1. 1756-1. 1756-2. 1757-1. 1757-2. 1758-1. 1759-1. 1789-4. 1791-1. 1792-1. 1793-1. 1794-1. 1794-8. 1795. 1796. 1797. 1798-1. 1798-2. 1798-3. 1798-5. 1798-6. 1799. 1802. 1803. 1804. 1805. 1806. 1807-1. 1823-1. 1824. 1825. 1826. 1827. 1828. 1892-1

3. 事業主体 日本道路公団

4. 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

5. 調査期間 舞台遺跡 平成7年4月1日～平成12年3月31日

大井戸遺跡 平成11年9月1日～平成12年3月21日

6. 整理期間 舞台遺跡 平成16年4月1日～平成17年2月28日

大井戸遺跡 平成16年10月1日～平成17年3月31日

7. 調査・整理組織

事務担当 小野宇三郎・吉田 豊・神保佑史・水田 稔・能登 健・菅野 清・原田恒弘・赤山容造・萩原利通・渡辺 健・小河 淳・巾 隆之・津金沢茂吉・真下高幸・植原恒夫・坂本敏夫・大島信夫・中東耕志・西田健彦・小山建夫・笠原秀樹・高橋房雄・井上 剛・国定 均・須田朋子・吉田有光・森下弘美・柳岡良宏・田中健一・宮崎忠司・岡島伸昌・片岡徳雄・大澤友治

調査担当 井上哲男・伊平 敬・岩崎泰一・金子伸也・久保 学・熊谷 健・小林大吾・小室綾子(旧姓立澤)・須田正久・関口美枝・津島秀章・友廣哲也・長沼孝則・新倉明彦・深澤敦仁・綿貫邦男

整理担当・Staff

舞台遺跡 綿貫邦男・大勝桂子・島村玲子・長谷川公子・福島和恵・新井雅子・萩原由香・森田智子・須田正久・伊藤淳子・星野春子・吉沢やよい・猪野熊洋子・船津博子  
大井戸遺跡 飯塚卓二・鹿沼敏子・阿部由美子・萩原由美子・大嶋 緑・伊藤悦子

遺物写真 佐藤元彦・綿貫邦男

保存処理 関 邦一・土橋まり子

8. 石器石材鑑定 飯島静男氏（群馬県地質研究会）

9. 発掘調査資料・出土遺物は群馬県埋蔵文化財センターに保管してある。

10. 発掘調査及び報告書作成には次の方々からご協力・ご指導いただいた。

伊勢崎市教育委員会・地元関係者各位・荒川正夫・昆 彰生・佐々木幹雄・須長泰一・高橋 紘・  
平田貴正・波辺 一・山口逸弘・原 雅信・松村和男・木津博明

11. 本書執筆

舞台遺跡 第1章 第1節 中東耕史・第2節 新倉明彦・第2章 總貫邦男

第3章 第1節 須田正久・第2節 須田正久・中東耕史・第3節 中東耕史

第4章 麻生敏隆・第5章 總貫邦男

大井戸遺跡 總貫邦男

12. 本書編集 總貫邦男

## 凡 例

1. 本書における遺構名称は区名を示す Alphabet 及び算用数字と遺構形状や機能による慣例的名称を用いて表す。Alphabet および数字は調査の進行に伴って便宜上付与してあるためいかなる順位をも示すものではなく、遺構固有名称とする。
2. 本書の遺構図版中にある+印とそれに付記される3桁2種の数値は、国家座標値 X・Y 値を表す。ただし、5桁数値のうち前2桁の X 値38、Y 値54は省略してある。
3. 遺構の位置及び範囲を示すに国家座標値 X・Y 値を用いる。ただし、5桁数値のうち前2けたの X 値38、Y 値54は省略してある。範囲を示す座標値単位は 1 m<sup>2</sup> である。
4. 本書における遺構図版にはそれぞれ縮尺比例尺を付したが、基本的には次のようである。  
堅穴住居跡・堅穴跡：1/80 土坑：1/40 但し図によってはこの限りではない。
5. 本書における遺物図版にはそれぞれ縮尺比例尺を付したが、基本的には次のようである。  
石器類・土製品等の小型品：1/2 土器類：1/4 ただし遺物によってはこの限りではない。
6. 本書における遺構図版中の断面水平基準は標高値でこれを表した。単位はメートル(m)である。
7. 本書における各遺構図版中の遺物・遺物図版・遺物写真図版・遺物計測表の遺物に付された同一番号は同一遺物を示す。
8. 土器の実測図は原則として四分画法をとった。但し残容量が二分の一以下のものは180度展開して図上復元とし、中心線は点線でこれを示した。
9. 「方位」は、真北に対する長軸線の東ないしは西方への傾きを、また、長・短軸長差のない場合は北面あるいは北面近似の壁線に平行する軸線の傾きをもってこれを示した。
10. 遺物の撮影及び展開・断面は基本的に一角法で示した。
11. 土層及び土器の色調名は『標準土色帳』農林省農林水産技術会議事務局・財団法人日本色彩研究所監修に基本的に準じた。
12. 本書で使用する浅間山及び榛名山噴火による降下火砕物・泥流堆積物の呼称については以下のように表記する。  
As-A : 浅間山噴出の火砕物 1738(天明三)年  
As-B : 浅間山噴出の火砕物 1108(天仁元)年  
FP泥流 : 榛名山二ツ岳噴出の火砕物泥流堆積物  
FP : 榛名山二ツ岳噴出の火砕物  
FA泥流 : 榛名山二ツ岳噴出の火砕物泥流堆積物  
FA : 榛名山二ツ岳噴出の火砕物  
As-C : 浅間山噴出の火砕物
13. 遺構平面図・断面図・土層に示した網のうち、焼土は点網でこれを示した。

# 目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
写真目次	
報告書抄録	
第1部 舞台遺跡	
第1章 発掘調査の概要	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査の方法と経過	4
第2章 遺跡の立地と歴史環境	7
第1節 遺跡の立地	7
第2節 歴史環境	7
第3章 縄文時代の遺構と遺物	13
第1節 縄文時代の遺跡概要	13
第2節 縄文時代の遺構と遺物	15
第3節 縄文時代の遺物	52
第4章 旧石器時代の遺物群と遺物	105
第1節 旧石器時代の遺跡概要	105
第2節 旧石器時代の歴史環境	106
第3節 旧石器時代の基本土層	109
第4節 遺物群と遺物	112
第5章 その他の遺構と遺物（補遺）	169
第2部 大井戸遺跡	
第1章 発掘調査と遺跡の概要	181
第1節 調査に至る経緯	181
第2節 遺跡の立地と概要	181
第2章 検出された遺構と遺物	185
第1節 遺 構	185
第2節 遺 物	197
写真図版	

## 挿図目次

第 1 図	北関東自動車道開通道路位置図	003	第 48 図	F-188号土坑	044
第 2 図	舞台遺跡・大井戸遺跡位置図	006	第 49 図	F-190号土坑・出土遺物	044
第 3 図	舞台遺跡・大井戸遺跡区画図	006	第 50 図	F-191号土坑	044
第 4 図	伊勢崎市城地形区分図	007	第 51 図	F-192号土坑	045
第 5 図	周辺遺跡位置図	011	第 52 図	F-202号土坑・出土遺物(1)	045
第 6 図	舞台遺跡縄文時代遺構配置図	014	第 53 図	F-202号土坑出土遺物(2)	046
第 7 図	D-210号住居跡	015	第 54 図	F-204号土坑・出土遺物	047
第 8 図	D-210号住居跡出土遺物(1)	016	第 55 図	F-205号土坑	047
第 9 図	D-210号住居跡出土遺物(2)	017	第 56 図	F-207号土坑	048
第 10 図	E <sub>1</sub> -190号住居跡・出土遺物	018	第 57 図	F-208号土坑	048
第 11 図	E <sub>2</sub> -202号住居跡	019	第 58 図	F-213号土坑	048
第 12 図	E <sub>2</sub> -202号住居跡出土遺物(1)	020	第 59 図	F-217号土坑	049
第 13 図	E <sub>2</sub> -202号住居跡出土遺物(2)	021	第 60 図	F-220号土坑	049
第 14 図	F-62号住居跡	023	第 61 図	E-302号埋変跡	049
第 15 図	F-62号住居跡出土遺物(1)	024	第 62 図	E-302号埋変跡出土遺物	050
第 16 図	F-62号住居跡出土遺物(2)	025	第 63 図	E-377号埋変跡・出土遺物	050
第 17 図	F-86号住居跡	026	第 64 図	縄文土器出土分布状況	053
第 18 図	F-86号住居跡出土遺物(1)	027	第 65 図	A区出土遺物(1)	054
第 19 図	F-86号住居跡出土遺物(2)	028	第 66 図	A区出土遺物(2)	055
第 20 図	F-86号住居跡出土遺物(3)	029	第 67 図	B・C区出土遺物	056
第 21 図	D-1号陥穴跡	030	第 68 図	D区出土遺物(1)	057
第 22 図	D-2号陥穴跡	030	第 69 図	D区出土遺物(2)	058
第 23 図	D-3号陥穴跡	031	第 70 図	D区出土遺物(3)	059
第 24 図	D-4号陥穴跡	031	第 71 図	E区出土遺物(1)	060
第 25 図	E-5号陥穴跡	031	第 72 図	E区出土遺物(2)	061
第 26 図	E-6号陥穴跡	032	第 73 図	F区出土遺物(1)	062
第 27 図	E-7号陥穴跡	032	第 74 図	F区出土遺物(2)	063
第 28 図	E-8号陥穴跡	033	第 75 図	F区出土遺物(3)	064
第 29 図	E-9号陥穴跡	033	第 76 図	F区出土遺物(4)	065
第 30 図	F-10号陥穴跡	034	第 77 図	F区出土遺物(5)	066
第 31 図	F-11号陥穴跡	034	第 78 図	G区出土遺物(1)	067
第 32 図	A <sub>1</sub> -19号土坑・出土遺物	035	第 79 図	G区出土遺物(2)	068
第 33 図	A <sub>2</sub> -280号土坑	035	第 80 図	G区出土遺物(3)	069
第 34 図	A <sub>3</sub> -281号土坑・出土遺物	036	第 81 図	A区谷地出土遺物(1)	071
第 35 図	A <sub>3</sub> -283号土坑・出土遺物	036	第 82 図	A区谷地出土遺物(2)	072
第 36 図	A <sub>3</sub> -284号土坑・出土遺物(1)	037	第 83 図	A区谷地出土遺物(3)	073
第 37 図	A <sub>3</sub> -284号土坑出土遺物(2)	038	第 84 図	A区谷地出土遺物(4)	074
第 38 図	A <sub>3</sub> -284号土坑出土遺物(3)	039	第 85 図	A区谷地出土遺物(5)	075
第 39 図	D <sub>3</sub> -174号土坑	040	第 86 図	A区谷地出土遺物(6)	076
第 40 図	E <sub>2</sub> -359号土坑・出土遺物	040	第 87 図	A区谷地出土遺物(7)	077
第 41 図	F-161号土坑・出土遺物	041	第 88 図	A区谷地出土遺物(8)	078
第 42 図	F-164号土坑	041	第 89 図	舞台遺跡出土石器(1)	081
第 43 図	F-167号土坑・出土遺物	042	第 90 図	舞台遺跡出土石器(2)	082
第 44 図	F-178号土坑	042	第 91 図	舞台遺跡出土石器(3)	083
第 45 図	F-180号土坑	043	第 92 図	舞台遺跡出土石器(4)	084
第 46 図	F-181号土坑	043	第 93 図	舞台遺跡出土石器(5)	085
第 47 図	F-185号土坑	043	第 94 図	舞台遺跡出土石器(6)	086

第95回	舞台遺跡出土石器(7).....	087	第146回	E区石器接合資料分布図(6).....	142
第96回	舞台遺跡出土石器(8).....	088	第147回	E区石器接合資料分布図(7).....	143
第97回	舞台遺跡出土石器(9).....	089	第148回	E区石器接合資料分布図(8).....	144
第98回	舞台遺跡出土石器(10).....	090	第149回	E区石器接合資料(1).....	145
第99回	舞台遺跡出土石器(11).....	091	第150回	E区石器接合資料(2).....	146
第100回	舞台遺跡出土石器(12).....	092	第151回	E区石器接合資料分布図(9).....	147
第101回	舞台遺跡出土石器(13).....	093	第152回	E区石器接合資料.....	148
第102回	舞台遺跡出土石器(14).....	094	第153回	E区石器接合資料分布図(10).....	149
第103回	舞台遺跡出土石器(15).....	095	第154回	E区石器接合資料.....	150
第104回	舞台遺跡出土石器(16).....	096	第155回	E区石器接合資料分布図(11).....	151
第105回	舞台遺跡出土石器(17).....	097	第156回	E区石器接合資料.....	152
第106回	舞台遺跡出土石器(18).....	098	第157回	E区石器接合資料分布図(12).....	153
第107回	舞台遺跡出土石器(19).....	099	第158回	E区石器接合資料分布図(13).....	154
第108回	舞台遺跡出土石器(20).....	100	第159回	E区石器接合資料.....	155
第109回	舞台遺跡出土石器(21).....	101	第160回	A区出土石器.....	156
第110回	遺跡周辺地形図(1).....	104	第161回	F区出土石器(1).....	157
第111回	遺跡周辺地形図(2).....	104	第162回	F区出土石器(2).....	158
第112回	赤城南麓田石器遺跡分布図.....	107	第163回	F区出土石器(3).....	159
第113回	舞台遺跡旧石器基本土層.....	109	第164回	F区出土石器(4).....	160
第114回	旧石器出土地点・試掘溝配置図.....	110	第165回	F区出土土層分布図.....	161
第115回	E区旧石器出土地点・試掘溝配置・土層図.....	111	第166回	G区出土石器(1).....	162
第116回	E区旧石器分布図.....	112	第167回	G区出土石器(2).....	163
第117回	E区旧石器種類別分布図.....	113	第168回	G区出土石器(3).....	164
第118回	E区旧石器石材別分布図.....	114	その他.....	165	
第119回	E区第1群旧石器分布図.....	115	A・D区遺跡.....	169	
第120回	E区第2群旧石器分布図.....	116	D区遺跡.....	170	
第121回	E区出土石器(1).....	117	第172回	大井戸遺跡遺跡.....	170
第122回	E区出土石器(2).....	118	第173回	F区遺跡.....	171
第123回	E区出土石器(3).....	119	第174回	舞台遺跡掲載遺れ出土遺物(1).....	172
第124回	E区出土石器(4).....	120	第175回	舞台遺跡掲載遺れ出土遺物(2).....	173
第125回	E区出土石器(5).....	121	第176回	舞台遺跡掲載遺れ出土遺物(3).....	174
第126回	E区出土石器(6).....	122	第177回	舞台遺跡掲載遺れ出土遺物(4).....	175
第127回	E区出土石器(7).....	123	第178回	舞台遺跡掲載遺れ出土遺物(5).....	176
第128回	E区出土石器(8).....	124	第179回	舞台遺跡掲載遺れ出土遺物(6).....	177
第129回	E区出土石器(9).....	125	第180回	大井戸遺跡及び周辺城図.....	182
第130回	E区出土石器(10).....	126	第181回	大井戸遺跡土層.....	184
第131回	E区出土石器(11).....	127	第182回	大井戸(舞台G区)遺跡全体図.....	186
第132回	E区石器接合資料分布図(1).....	128	第183回	大井戸遺跡全体図.....	187
第133回	E区石器接合資料(1).....	129	第184回	大井戸(舞台G区)遺跡溜井(湧水).....	188
第134回	E区石器接合資料(2).....	130	第185回	大井戸(舞台G区)遺跡溜井(湧水)土層図.....	189
第135回	E区石器接合資料分布図(2).....	131	第186回	大井戸(舞台G区)遺跡溜井(湧水)湧土層図.....	190
第136回	E区石器接合資料.....	132	第187回	大井戸(舞台G区)遺跡湧土層図.....	191
第137回	E区石器接合資料分布図(3).....	133	第188回	舞台F・G区遺跡遺跡.....	192
第138回	E区石器接合資料(1).....	134	第189回	大井戸遺跡遺跡.....	193
第139回	E区石器接合資料(2).....	135	第190回	大井戸遺跡配石状遺跡.....	194
第140回	E区石器接合資料(3).....	136	第191回	大井戸遺跡出土遺物(1).....	195
第141回	E区石器接合資料分布図(4).....	137	第192回	大井戸遺跡出土遺物(2).....	196
第142回	E区石器接合資料.....	138			
第143回	E区石器接合資料分布図(5).....	139			
第144回	E区石器接合資料(1).....	140			
第145回	E区石器接合資料(2).....	141			

## 写真図版目次

- P L.1 B区全景(上が北)  
A区全景(上が東)
- P L.2 A区全景(上が北)  
F区全景(上が北)
- P L.3 F区全景(上が東)  
F区全景(上が南)
- P L.4 F区全景(上が南)  
F区全景(上が北)
- P L.5 C区全景(上が東)  
C区全景(上が北)
- P L.6 D・E<sub>1</sub>区全景(上が北)
- P L.7 E<sub>1</sub>区全景・E<sub>1</sub>区全景(上が北)
- P L.8 D-210号住居跡(南西から)  
D-210号住居跡出土遺物  
E<sub>2</sub>-190号住居跡(西から)  
E<sub>2</sub>-202号住居跡(西から)  
E<sub>2</sub>-202号住居跡掘形(西から)  
E<sub>2</sub>-202号住居跡埋塞  
F-62号住居跡(東から)  
F-62号住居3号炉跡
- P L.9 F-86号住居跡(西から)  
F-86号住居炉跡  
D-2(左)・D-3号(右)陥穴(南から)  
D-2号陥穴(北から)  
D-4号陥穴(東から)  
D-5号陥穴(南から)  
D-5号陥穴土層(西から)
- P L.10 E-6号陥穴(南から)  
E-7号陥穴(北から)  
E-8号陥穴(北から)  
E-9号陥穴(南から)  
E-9号陥穴土層(南から)
- P L.11 F-10号陥穴(北から)  
A<sub>3</sub>-280号土坑(西から)  
A<sub>3</sub>-280号土坑土層(西から)  
A<sub>3</sub>-281号土坑(南から)  
A<sub>3</sub>-281号土坑土層(南から)  
A<sub>3</sub>-283号土坑(南から)  
A<sub>3</sub>-283号土坑土層(南から)
- P L.12 A<sub>3</sub>-284号土坑(東から)  
A<sub>3</sub>-284号土坑遺物出土状況  
E<sub>2</sub>-359号土坑(南から)  
F-161号土坑(西から)  
F-164号土坑(北西から)  
F-164号土坑土層(西から)  
F-167号土坑(西から)
- P L.13 F-178号土坑(南から)  
F-178号土坑土層(南から)  
F-181号土坑(西から)  
F-188号土坑(南から)  
F-190号土坑(西から)  
F-191号土坑(南から)  
F-192号土坑(北から)  
F-202号土坑(東から)
- P L.14 F-204号土坑(南から)  
F-205号土坑(南から)  
F-207号土坑(東から)  
F-207号土坑土層(南から)  
F-208号土坑(南から)  
F-208号土坑土層(南から)  
F-213号土坑(南から)  
F-217号土坑(南から)
- P L.15 F-202号土坑(南から)  
E-302号埋塞  
E-302号埋塞跡土層(南から)  
E-302号埋塞掘形  
E-377号埋塞  
F区谷地部縁辺  
F区作業風景  
F区作業風景
- P L.16 D-210号住居跡出土遺物(浅鉢)
- P L.17 D-210号・E<sub>2</sub>-190号・E<sub>2</sub>-202号住居跡出土遺物
- P L.18 E<sub>2</sub>-202号住居跡出土遺物
- P L.19 F-62号住居跡出土遺物
- P L.20 F-86号住居跡出土遺物
- P L.21 F-86号住居跡・A<sub>3</sub>-19号・A<sub>3</sub>-281・283号土坑出土遺物
- P L.22 A<sub>3</sub>-284号土坑出土遺物
- P L.23 A<sub>3</sub>-284号・E<sub>2</sub>-359号・F-161・167・190号土坑出土遺物
- P L.24 F-202号土坑出土遺物
- P L.25 F-204号土坑・E-302・377号埋塞跡出土遺物
- P L.26 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(1)
- P L.27 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(2)
- P L.28 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(3)
- P L.29 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(4)
- P L.30 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(5)
- P L.31 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(6)
- P L.32 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(7)
- P L.33 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(8)
- P L.34 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(9)
- P L.35 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(10)
- P L.36 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(11)
- P L.37 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(12)

- P L.38 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(13)
- P L.39 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(14)
- P L.40 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(15)
- P L.41 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(16)
- P L.42 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(17)
- P L.43 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(18)
- P L.44 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(19)
- P L.45 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(20)
- P L.46 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(21)
- P L.47 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(1)
- P L.48 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(2)
- P L.49 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(3)
- P L.50 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(4)
- P L.51 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(5)
- P L.52 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(6)
- P L.53 舞台遺跡遺構外出土縄文土器(7)
- P L.54 E区第1群・第2群旧石器出土状況  
E区第1群旧石器出土状況
- P L.55 E区第1群旧石器出土状況  
E区第2群旧石器出土状況
- P L.56 F区旧石器出土状況  
F区旧石器出土状況
- P L.57 E区出土旧石器(1)
- P L.58 E区出土旧石器(2)
- P L.59 E区出土旧石器(3)
- P L.60 E区出土旧石器(4)
- P L.61 E区出土旧石器(5)
- P L.62 E区出土旧石器(6)
- P L.63 E区出土旧石器(7)
- P L.64 E区出土旧石器(8)
- P L.65 E区出土旧石器(9)
- P L.66 E区出土旧石器(10)
- P L.67 E区出土旧石器(11)
- P L.68 E区出土旧石器(12)
- P L.69 E区出土旧石器(13)
- P L.70 E区出土旧石器(14)
- P L.71 E・A・F区出土旧石器
- P L.72 F区出土旧石器
- P L.73 F・G区出土旧石器
- P L.74 G区・その他出土旧石器
- P L.75 F区古墳時代前期島路(南西から)  
大井戸遺跡古墳時代前期島路
- P L.76 古墳時代前期土器(1)
- P L.77 古墳時代前期土器(2)・平安～中世土器他
- P L.78 平安・中世瓦石
- P L.79 舞台遺跡出土骨磁器
- P L.80 舞台遺跡出土石造物・石臼
- P L.81 舞台遺跡G区全景(北から)  
舞台遺跡G区溜井全景(南から)
- P L.82 大井戸遺跡As-B下面  
4・5号溝(南から)  
4・5号溝土層(北面)  
9号溝(東から)
- P L.83 1号溜井(西から)  
2号溜井(西から)
- P L.84 3号溜井(南から)  
3・4・5号溜井(南から)
- P L.85 4号溜井(南から)  
5号溜井(南から)
- P L.86 6号溜井(南東から)  
13号溝(南から)
- P L.87 14号溝(西から)  
15号溝(西から)
- P L.88 16・17号溝(南から)  
18号溝(南東から)
- P L.89 19号溝(南東から)  
20号溝(南から)
- P L.90 22号溝(西から)  
13号溝土層  
18・22号溝土層  
19号溝土層  
22号溝土層
- P L.91 G区自然標層確認面  
木器出土状況  
出土木器(双穀俵)



## 報告書抄録

書名ふりがな	ぶたいいいせき
書名	舞台遺跡(3)
副書名	北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第30集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第345集
編著者名	中東耕志・飯塚卓二・麻生敏隆・須田正久・綿貫邦男
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2005.2.21
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	ぶたいいいせき
遺跡名	舞台遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんいせきさきしざんわまち
遺跡所在地	群馬県伊勢崎市三和町
市町村コード	
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362105
東経(日本測地系)	1391333
北緯(世界測地系)	362118
東経(世界測地系)	139139
調査期間	1995.4.1～2000.3.31
調査面積	60893m <sup>2</sup>
調査原因	北関東自動車道建設
種別	集落跡・生産跡
主な時代	旧石器時代、縄文時代
遺跡概要	環状ブロック／前期竪穴・陥穴・土坑／包含層
特記事項	局部磨製／諸磯期浅鉢・石器製作関連土坑・砂岩製垂飾／縄文早期～後期

## 報 告 書 抄 録

書名ふりがな	ぶたいいせき
書名	舞台遺跡(3)
副書名	北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	第30集
シリーズ名	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書
シリーズ番号	第345集
編著者名	中東耕志・飯塚卓二・麻生敏隆・須田正久・綿貫邦男
編集機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行機関	財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団
発行年月日	2005.2.21
作成法人ID	21005
郵便番号	377-8555
電話番号	0279-52-2511
住所	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
遺跡名ふりがな	おおいといせき
遺跡名	大井戸遺跡
所在地ふりがな	ぐんまけんいせきさきしさんわまち
遺跡所在地	群馬県伊勢崎市三和町
市町村コード	
遺跡番号	
北緯(日本測地系)	362105
東経(日本測地系)	1391333
北緯(世界測地系)	362116
東経(世界測地系)	1391322
調査期間	1999.9.1～2000.3.31
調査面積	4287m <sup>2</sup>
調査原因	北関東自動車道建設
種別	生産跡
主な時代	縄文時代・古墳時代・歴史時代・中世
遺跡概要	包含層/畝跡・溝跡/湧水点・溝跡
特記事項	磨製石斧/木製二股鍬/石櫃・板碑

# 第1部 舞台遺跡



# 第1章 発掘調査の概要

## 第1節 調査に至る経緯

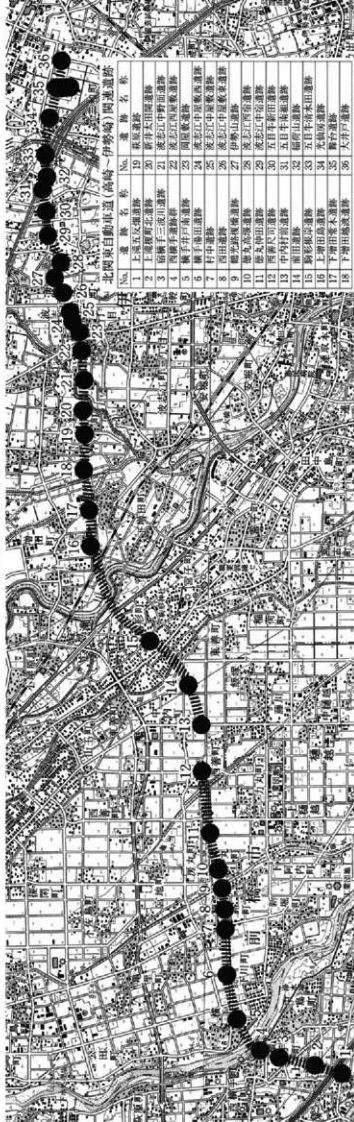
舞台遺跡は北関東自動車道建設に伴う事前の埋蔵文化財発掘調査として、高崎市上滝板町北遺跡に次いで着手した2番目の遺跡である。本遺跡の周辺部は県企業局が実施していた三和工業団地建設予定地であり、「三和工業団地遺跡」として伊勢崎市教育委員会と当事業団が発掘調査を実施した。また、北関東自動車道と一般国道17号(上武道路)とを結ぶ地点については、建設省(現国土交通省)の委託により、当事業団が「下種木老町田遺跡」として発掘調査を実施していた。さらに、高崎伊勢崎間で比較的用地買収の進んでいた本遺跡の発掘調査に着手することになった。

本遺跡は北関東自動車道高崎起点 STA 142.85～148.05の間、伊勢崎 Interchange 建設予定地部分に該当している。東西方向の本線部分約520mと、南北方向は北側の環状部、及び南には進入部と料金所敷地約420mにおよぶ範囲が調査の対象になった。なお、本遺跡の周辺部に調査が及んでいたため、試掘調査は実施せず、本調査に着手することとなった。推定として表面積約60,000m<sup>2</sup>が遺跡範囲と判断された。

日本道路公団、県土木部道路建設課高速道路対策室、県教育委員会文化財保護課と当事業団による「北関東自動車道文化財調査に関する調整会議」を、平成7年11月20日と平成8年1月30日に開催し、本遺跡の調査を実施することになった。また、同年2月22日には県教育委員会文化財保護課主催による「第1回北関東自動車道地域埋蔵文化財発掘調査に関する沿線市町村連絡調整会議」が開催された。

これらの調整会議を受け、同年2月に本線内に調査事務所を設置し、用地杭の確認、及び調査区周辺に安全フェンスを設置した。同月にA-1区の表土除去作業から着手した。3月には新規発掘作業員を募集し、3月11日から本調査を実施した。本年度の調査は、A-1区の遺構確認作業を行った。

第1図 北関東自動車道調査遺跡位置図



## 第2節 調査の方法と経過

調査にあたっての方眼設定には、国家座標第Ⅸ系を用い10mを基準とした。各方眼の名称は、南東端の座標値で表し、X=389980・Y=-547740のように表記した。本遺跡の調査は、複数年次に渡ることが予想されたため、対象地区を便宜的にA～G区に分けて実施した。さらに、農道や用地買収状況等により調査区が分断される場合には、A-1区・A-2区等と適宜細分した（第3図）。遺構名称は基本的には、区名にあたるAlphabetを冠し、遺構の種類別に算用数字を用いて通番とした。A-1号住居跡・B-1号井戸跡等である。なお、遺物注記は、遺跡略号であるKT-320を使用した。

### 1. 平成7年度（平成8年3月11日～3月31日）

本線内に調査事務所を設置、及びA-1区の表土除去作業を実施した。

### 2. 平成8年度（平成8年4月1日～平成9年1月24日）以降、調査は一時中断する

通念の調査計画で開始したが、前橋南部地区の工事計画との調整で、平成9年1月をもって調査を一時中断した。A-1区の調査では古墳時代から平安時代の住居跡の調査と、A-3区では古墳時代から平安時代の住居跡と須恵器窯跡の調査を実施した。さらに、B区とC区の古墳時代の調査を実施した。

一方、A-3区は8月中旬に調査を一時中断し、光仙房遺跡の排土置き場を確保するため、B区の調査を優先させた。また、11月に須恵器窯跡を中心として、新聞記者発表を行った。特に、西側の谷部分に延びる灰原より多量の須恵器が出土したため、12月に本部分の調査期間について関連機関と再調整の上、平成9年度へ継続して調査を実施することに変更した。

### 3. 平成9年度（平成9年4月1日～平成10年3月31日）

本年度の調査は、前年度に終了したA-1区・C区を除き、A-2・3区、B区・D-1・2区、E-1～3区、F-2区、G-2区を実施した。A区では須恵器窯跡関連の調査を終了させるとともに、7月には調査事務所の一部を移動し、A-2区の調査に着手した。本区では古墳時代から平安時代の住居跡の調査を実施した。D-1区では古墳時代の方形周溝墓群と、古墳時代から平安時代の住居跡の調査を実施した。D-2区では旧石器と縄文時代の住居跡、土坑、及び古墳時代の住居跡を調査した。また、5月にA区からG区北側の工業団地との境界に水路建設の計画が提示され、日本道路公団、県企業局、文化財保護課と当事業団により協議のうえ、F区とG区の一部を調査した。F-2区・G-2区ともに旧石器2面と、古墳時代の住居跡の調査を実施した。一方、同年6月から旧石器の確認調査などに関して「表土掘削と排土及び関連土木作業工事」請負業務として土木作業員を導入し、E-1～3区では旧石器と奈良・平安時代の住居跡の調査を実施した。さらに、10月の日本道路公団、県教育委員会文化財保護課との調整会議では、当面共用に必要な範囲（A・B・D-1・D-2・E区）を確認し、調査体制を補強した。特に、本年度の調査に関して、D-1区で検出された方形周溝墓群は注目をあびたので、9月13日に現地説明会を実施し遺跡の公開を行った。見学者数は408人であった。

### 4. 平成10年度（平成10年4月1日～同年8月31日と平成11年2月1日～同年3月31日）

本年度の調査は、昨年度の継続であるD-1区の調査と、新たに用地買収が終了したD-3区の調査に着手した。旧石器と縄文時代の土坑、古墳時代の住居跡と掘立柱建物跡、方形周溝墓、畚跡等の調査を実施した。また、同年8月に調査の終了していたA区全体と、B区・D区の一部を道路公団へ用地の引き渡しを行った。さらに、伊勢崎市波志江地区の工事計画が切迫してきたため、本遺跡の調査は一時中断した。

一方、本年度より整理作業に着手し、平成8年度に調査した須恵器窯跡の資料を整理した。

## 5. 平成11年度（平成11年4月1日～平成14年12月11日 平成12年3月31日）

D-3区・F-1区・G-1区の調査をおこなった。D-3区は古墳時代の住居跡と方形周溝墓、畠跡、F-1区は旧石器と縄文時代の住居跡と土坑、古墳時代の住居跡と掘立柱建物跡、及び奈良・平安時代の住居跡等である。G-1区は古墳時代の住居跡と掘立柱建物跡と畠跡等の調査を実施した。

また、日本道路公団へ引き渡しを終了した地点の工事計画との兼ね合いにより、10月よりA-3区北側の隣接地を借地し排土置き場とするとともに、平成12年2月に書上遺跡の隣接地に調査事務所を移動した。同月に舞台遺跡・大井戸遺跡の調査終了に伴い、関連機関との最終協議をおこない同年3月末日をもって本遺跡の調査を終了した。

一方、整理2年次は昨年度から継続した平安時代須恵器窯跡関連の資料と、平成7～10年度に調査した古墳時代から中世にかけての住居跡、掘立柱建物跡、方形周溝墓、溝等の整理をおこなった。

## 6. 平成12年度（平成12年4月1日～平成13年3月31日）

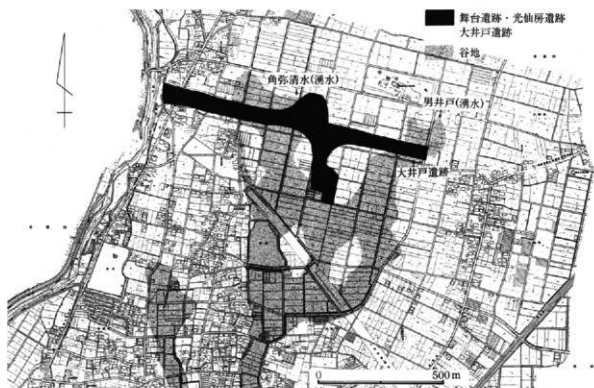
整理3年次は須恵器窯跡と、奈良・平安時代から中世の住居跡、館跡、掘立柱建物跡等に関する資料を、第1分冊として報告書を刊行した。

## 7. 平成13年度～平成15年度（平成13年4月1日～平成16年3月31日）

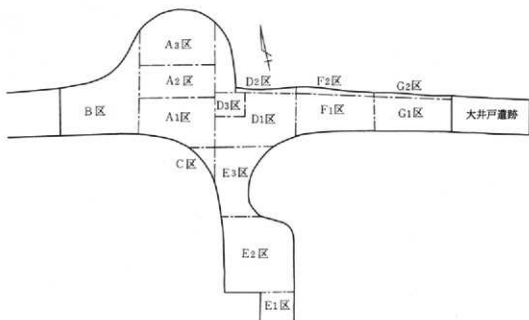
整理4年次から6年次にかけては古墳時代前期から後期にわたる住居跡、及び方形周溝墓を中心とした資料整理作業を行い、舞台遺跡の第2分冊として報告書を刊行した。

調査区No	A 区				B 区		D 区			
	表面積				9,663	568	9,333			
内 容 (面数)	A-1 (5,748)	A-2 (4,017)	A-3 (7,613)				D-1 (4,625)	D-1 (1,692)	D-2 (468)	D-2 (440)
	古墳～平安 集落	古墳～平安 集落	古墳～平安 集落・遺跡	古墳～平安 集落	古墳～平安 集落	縄文～平安 集落・方形周溝墓	縄文～平安 集落・方形周溝墓		工業団地被褥 旧石器～平安 集落	
延べ面積	5,748	4,017	7,613	9,663	568	9,250	3,554	2,724		
第1面	古墳～平安:住居 H 8.3/11～ 7/31	古墳～平安:住居 H 9.7/11～ H10.1/31	古墳～平安:住居 H 8.5/11～ H 9.7/31	古墳～平安:住居 H 8.4/11～ H 9.8/31	古墳～平安:住居 H 8.7/11～ 9/30	古墳～平安:住居 H 9.4/5～ H10.3/25	古墳:住居 H10.4/10～ 8/10	古墳:住居 H 9.11/11～ 11/30	古墳:住居 H 9.12/11～ 11/30	
第2面						縄文 H10.4/5～ 5/11	縄文 H10.8/6～ 8/31	縄文 H 9.12/11～ 12/15		
第3面							旧石器(170㎡) H11.10/14～ 12/13	旧石器(170) H 9.12/15～ 12/25		

調査区No	E 区				F 区		G 区	
	表面積				5,298	4,779		
内 容 (面数)	D-1 (4,625)	E-1 (1,716)	E-2 (7,246)	E-3 (4,912)	F-1 (4,748)	F-2 (560)	G-1 (4,246)	G-2 (533)
	本願 旧石器～近世 集落・方形周 溝墓	奈良・平安 集落	旧石器～平安 集落	奈良・平安 集落	旧石器～古墳 集落	旧石器～古墳 集落	旧石器～古墳 集落・畠	旧石器～古墳 集落
延べ面積	4,426	1,716	9,291	4,912	11,771	1,650	9,817	1,599
第1面	中・近世・館 H11.2/8～ 2/26	奈良・平安:住居 H 9.7/11～ 12/25	奈良・平安:住居 H 9.5/11～ 12/25	平安・古墳:住居 H 9.5/11～ H10.3/25	古墳:住居 H11.6/11～ 11/30	古墳:住居 H 9.11/11～ 11/30	古墳:住居・畠 H11.6/11～ 11/30	古墳:住居 H 9.11/11～ 11/30
第2面	古墳:住居 H11.3/11～ 10/13		旧石器(2,945) H11.10/14～ H12.1/31		縄文 H11.12/11～ H12.1/17	旧石器 H 9.12/11～ 12/10	縄文 H11.12/11～ H12.1/31	旧石器 H 9.12/11～ 12/10
第3面	旧石器(210) H11.10/14～ H12.1/31				旧石器(2,275) H12.1/17～ 2/29	旧石器 H 9.12/11～ 12/25	旧石器(1,325) H12.2/11～ 2/29	旧石器 H 9.12/11～ 12/25



第2図 舞台遺跡・大井戸遺跡位置図



第3図 舞台遺跡・大井戸遺跡区割図



## 第2章 遺跡の立地と歴史環境

### 第1節 遺跡の立地

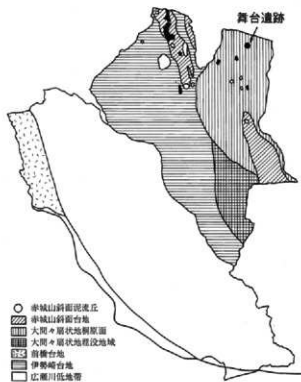
舞台遺跡は、群馬県伊勢崎市三和町に所在する。群馬県の南部に位置する伊勢崎市は、その南を埼玉県本庄市と利根川を介して県境とする。市域の地形構成は通常、赤城火山斜面・大間々扇状地・前橋台地・伊勢崎台地・広瀬川低地帯に分けられる。市域の大半は平坦地形を成し、北東部には赤城山山頂の小沼を水源とする粕川が南流する。中央部には広瀬川が南東流し、地質的にはこの広瀬川を境に左岸が洪積台地に、右岸は沖積台地に大別されている。(第3図)

舞台遺跡の位置する三和町は、伊勢崎市の東北方最端部にあたり、西は粕川に区切られ、東は佐波郡東村に、北は赤堀町に接する。粕川を境にしてその西方は、赤城山南麓の開析された低台地が樹枝状に発達する。東方は、足尾山地に源を発する渡瀬川によって形成された古期大間々扇状地樹原面の広大な低台地が広がる。三和町は、この大間々扇状地の西南端部にあたり、洪積台地縁には「あまが池」・「男井戸」・「角弥清水」・「谷地清水」など多くの湧水地が点在したとされ、湧水流による開析作用で扇状地端部から南方は広く低地帯となる。現在は水田耕植化による埋め立てでその面影を知れるのは整備保存された湧水点「あまが池」のみである。舞台遺跡は、発掘調査によって姿を現した湧水地「男井戸」の谷地形縁に東で接し、西は「角弥清水」の谷地を取り込み、両者に挟まれたLoam台地を中心とした地域に展開する。このLoam台地は両湧水流路が合流することによって舌状地形を成し、比較的平坦な地勢となっている。標高87.50mから85.00mの北から南へ緩く傾斜する台地で、低地部との比高差はおよそ3mである。遺跡地は台地基部から中央にかけての範囲に位置している。(第4図)

舞台遺跡の成り立ち・構成は、旧石器時代より始まり中世に至る複合遺跡であるが、周辺では国道17号線(上武道路)の上植木光仙房遺跡や当遺跡に連なる光仙房遺跡そして、三和工業団地遺跡など広範囲に調査が実施されている。これらは舞台遺跡に連続する同一遺跡として認識できるものであり、本遺跡への歴史的理解・位置づけはそれらの成果を踏まえた上での検討が必要である。

### 第2節 歴史環境

舞台遺跡は、旧石器時代から中世に至る複合遺跡である。したがって検出された遺構は住居跡・生産跡・墓跡など種々にわたり、これらに伴う遺物もまた豊富で様々である。周辺域の可



第4図 伊勢崎市域地形区分図

視的な遺跡分布では、当遺跡の南・西域には大間々層状地形の開析谷や低地の耕地化を背景に展開したと考えられる幾多の古墳群が知られている。近年、当遺跡以西では同事業の北関東自動車道建設地域やこれの北側を伴走する国道17号（上武道）建設に伴って発掘調査された諸遺跡の報告書刊行によって歴史的環境は充実の度を増している。

#### 旧石器時代

旧石器時代における赤城山南麓は、岩宿遺跡の発見に象徴されるように日本旧石器研究にとって重要な地域である。旧石器時代の遺跡は宮城村辨形遺跡のような高標高地帯から、麓端の低平なLoam台地に多く分布するが、伊勢崎市豊城町にある独立丘陵権現山台地に発見された権現山遺跡では岩宿遺跡より遅る石器が出土したことで著名である。この石器は関東Loam層の八崎軽石層（Hr-Hp）下で検出され、現在のところ赤城山南麓地帯で最も古く中期旧石器時代に位置付けられている。また、石器の形態についても、洋ナシ形・心臓形掘りなど全国的にも未だ類似する資料をみない形状のものである。大間々層状地帯より南には権現山台地の他、新田町木崎台地・太田市由良台地など層状地より古い洪積台地が点在しており、同時代の資料の発見が期待される。当舞台遺跡を含め周辺地域では、現在のところAs-YP含有のLoam層からAT含有の暗褐色帯及び最下位暗色帯層での後期旧石器時代の発見に止まる。

舞台遺跡の北に接する三和工業団地I遺跡ではAs-Y含有Loam層以下暗AT下暗色帯の間に4つの文化層が層位的に確認されている。両極剥離度のある石器（ピエス・エスキュー）・尖頭器・大型礫・局部磨製石斧及び台形様石器などが検出されている。広範に分布する石器群から、環状分布・帯状分布を抽出するが、単層的文化面との見通しから剥片生産、ピエス・エスキュー、石材など各種石器分布の分析から遺跡構造解明に迫っている。また、周辺地域では昭和49年から63年にかけて調査された上武道路（国道17号）関連では8遺跡、その他合わせて11ヶ所の旧石器時代遺跡が発見されており旧石器時代人の濃密な活動状況が窺われる。

#### 縄文時代

赤城山南麓の縁部に位置する伊勢崎市の縄文時代遺跡は、広範な広瀬川の低地帯を挟み、主にはその東側に色濃く、西側に若干の分布がみられる。広瀬川西側の前橋台地上には遺跡の数こそ少ないが、縄文後期後半の時期のものが希薄ながら点在する。赤城山斜面・大間々層状地・伊勢崎台地などの東側地帯では、遺跡の実体は不明ながら草創期の遺物が発見された間之山遺跡がある。早期の遺跡には波志江六反田・山崎・波志江権現山・高山・書上本山・八寸B等の諸遺跡があり、小丘陵上やその裾部に立地する。

縄文時代前期に至り遺跡は、湧水に近い台地の縁部に立地する傾向が見られるようになる。この時期の遺跡には波志江天神山・書上浄水場・尼ヶ池周辺・天ヶ堤・下吉祥寺遺跡などが知られる。集落は数軒の単位で比較的小規模なものがほとんどであるが、三和工業団地II・III・IV遺跡では前期を中心とした草創期から後期にいたる130軒あまりの竪穴住居跡が調査されている。

縄文中期前半にはやや減少傾向となるが、後半から後期前半には遺跡数・集落規模とも最盛期に達し、それに伴って遺跡の立地も湧水や小河川を臨む広い台地上に占地するようになる。この時期には、渡瀬川扇状地の西端縁にある赤堀可曲沢遺跡では、住居跡100軒を上回る集落を形成し、赤城山南麓有数の遺跡となっている。なお、伊勢崎市域での遺跡には豊沼東・下海老・ネタンブチ・宮柴遺跡などがある。

縄文後期から晩期にかけての遺跡は前代に比べてかなり減少するが、荒砥川左岸の八坂遺跡・粕川左岸の大西遺跡など広瀬川低地帯を臨む伊勢崎台地西縁の河川や湧水に恵まれた地帯に立地し、より低地化した平地へ占地する。八坂遺跡では遺物散布の範囲が2haにもおよび獣骨・炭化物・土製耳飾り・配石遺構等の

発見があり当該期の文化様相を示す遺跡として注目されている。また、断絶をもちつつも八坂遺跡周辺に集中する弥生遺跡の存在に、その類似する立地条件からして先駆的な農耕の芽生えもあったと考えられている。舞台遺跡での縄文時代はその前期を中心としている。堅穴住居跡5軒、狭深な形状を成す陥穴等が検出されているが集落構造としては散在した分布状況を示し、周辺遺跡と同様であり方とすることができよう。

#### 弥生時代

従来、関東地方における弥生文化の開始はその中期からとされていたが、群馬県においては渋川市南大塚遺跡・藤岡市沖Ⅱ遺跡・安中市注連引原遺跡・子持村押手遺跡など、水神平系・遠賀川系など弥生時代初期の土器の発見によってその成立の時期が前期に遡る可能性が高まった。

内陸部に位置する群馬県の弥生文化の進行は土器の面からは複数の系譜として認められ、県域ではおおよそ西部山間部および利根川西の平野部と、利根川東の赤城山南麓から渡良瀬川流域の地域に大別反映される。弥生時代前期末から中期前半までは、前者が縄文的要素の強い岩櫃山式が、後者は長野県を中心とする栗林式土器の影響を主として受けているようである。

赤城山南麓および大間々扇状地帯での弥生時代遺跡は希薄な状況にある。近年、低地帯を控えた山麓の末端地域では徐々にではあるがその事例が増加しているようであるが、なお、集落遺跡としての十分な展開を見せるに至ってはいない。伊勢崎市域での弥生時代遺跡の主分布は古利根川低地帯を流れる広瀬川の北側微高地に立地している。遺跡の形成は中期から知られるが、西太田遺跡・中組遺跡では中期後半から後期前半にかけての当地域には数少ない堅穴住居跡が検出されている。後期に属する遺跡には、大道西遺跡・合同庁舎北遺跡などがあり、樽式土器を中心にすると北関東に形成される土器文化の摂取も見られ、前者からは茨城県の十王台式系が、後者には栃木県の二軒屋式系の土器を検出している。この時期には大集落の形成は見られず、後の水田開発地域への先進的な遺跡としての性格が考えられている。

赤城山南麓地域には後期後半になって縄文系の赤井戸式土器が県内では主体的土器形式である樽式土器と混在し始める。赤井戸式土器は壺・甕形土器の口頸部に残す輪積み痕と縄文の施文を特徴とする土器群である。この土器は従来、赤城山南麓を主として限定的な分布圏を持つとされていたが、近年では鍋川流域をはじめ県内各地に分布することが知られている。また、その形成については、平地よりは山地寄りの土器文化として捉えられていた。近年の研究成果では、埼玉県比企地域に中心のある吉ヶ谷式土器文化と関連するとの指摘もある。

伊勢崎地域では弥生時代中期広範に至って漸く水田農耕の兆しが感じられる。しかし、農耕適地を求めて様々な異系統土器文化が進出・交錯しながらも、なお、遺跡として当該地に弥生農耕が確乎した根付きと発展の姿を認めることはできない。利根川流域の広大な湿潤地帯が開発の対象となるには、社会的な加えて技術的な成熟の高まりは古墳時代前期を待たなければならなかった。一方、赤井戸式土器に対しては古墳時代前期に発展的であると位置づける考えもある。この観点からすれば、古墳時代初期に現れ、S字口縁台付き甕に代表される他地域文化流入に際しては、迅速にかつ広範にそれを摂取したのは樽式・赤井戸式土器文化の人々であり、進歩した農業技術を会得した彼らが赤城山南麓の開発主体者であったとの考え方もできよう。しかし、舞台遺跡での弥生時代文化は現在のところ積極的な痕跡を見出すことはできず、なお稲作農耕には未開な地域であった。

#### 古墳時代

県内における稲作農耕が飛躍的な展開を見せるのは古墳時代になってからのことである。その前半期には中小の河川流域の沖積地を背景に多くの集落遺跡が形成される。群馬県を中心とした北関東の初期古墳文化

は東海地方特に伊勢湾を中心とした他地域系土器文化圏に強い影響を受けて発展したと考えられている。県内におけるその代表的土器はS字口縁台付き甕とされる。この東海地方を中心とする他地域系土器文化の求心的な地点として県内では群馬郡から高崎市にかけての地域が有力視されている。

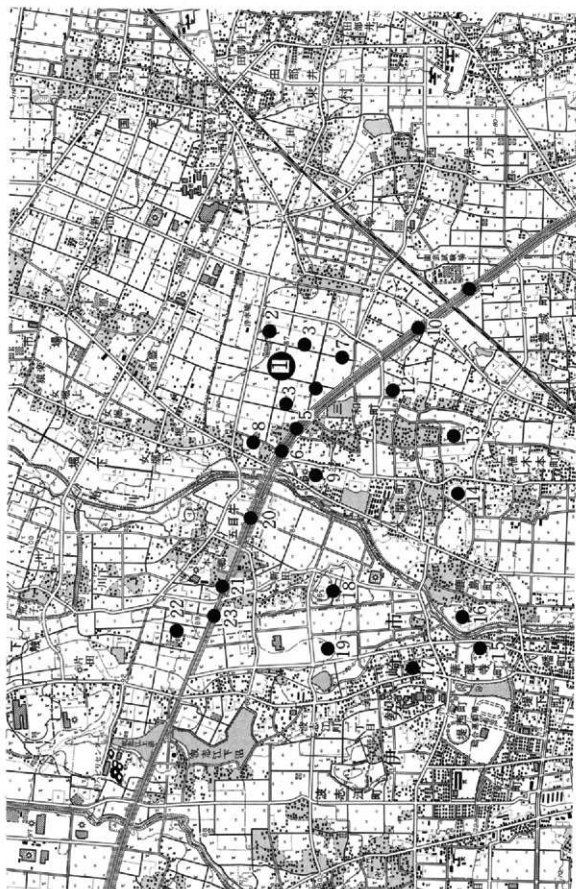
伊勢崎市域での初期古墳文化の足跡は、粕川・広瀬川に画された伊勢崎台地上喜多町遺跡に残され、両河川によって形成された沖積地平坦面にある。直接の遺構確認は成されていないが、粘土層中から検出された土器群の一部はいわゆる宮廷式壺・S字口縁甕・大型器台など東海系のもので弥生土器から土師器への過渡的様相をもつとされている。その後の展開は、伊勢崎市域のみならず県内でも最古の古墳の一つに上げられる華藏寺裏山古墳の築造が、利根川東岸の広範な平坦地を背景にした階層的社会を創出されたことを示している。さらに5世紀半ば頃には主体部に長持形石棺を蔵したとされる御富士山古墳が、全長125m前方後円墳として出現するにいたり、赤城山南麓一帯の頂点に達した勢力が誕生したと考えることができる。

舞台遺跡での古墳時代前期は150軒に達する堅穴住居群と前方後方型2基を含む10基（三和工業団地遺跡とあわせ27基）の周溝墓が検出されている。周溝墓出土の土器には二段口縁甕が多数供献されるが、施文様は赤井戸系土器の意匠を思わせるような縄文帯が飾る。また、住居跡出土遺物ではS字口縁台付き甕に圧倒して単口縁甕が目立つ。墓域及び集落運営集団の出自・系譜について示唆的な事項にならうか。いずれにしても隣接三和工業団地遺跡を乗しての遺跡内容は、集落規模・周溝墓の数とも県内有数である。当該地域における古墳時代前期の社会構造・変遷究明に欠くことのできない存在であろう。また、古墳時代中期を空白期を隔てて後期に再現する集落は、西方の粕川左岸間近な関山古墳群の形成に有機的な関わりが予想される。

#### 歴史時代

多くは広瀬川の東方に遺跡分布のある伊勢崎市域で、その東北部はとくに豊富な遺跡数が知られている。舞台遺跡はその版図に入り、上武国道の建設に伴う発掘調査によってますます濃密さをましている。当遺跡北方約400m指呼の間に推定東山道が東西走し、南南西方約1.3kmには著名な上植木廃寺が位置する。当寺は七堂伽藍を具備し、前橋市山王廃寺・太田市寺井廃寺とともに古代上野国の秀逸した初期寺院跡である。このことをとつても、舞台遺跡周辺は伊勢崎市域でも十分中心的な地域としての位置づけは容易である。

歴史時代を構成する舞台遺跡の遺構内容は、9世紀から10世紀にかけての堅穴住居跡51軒・須恵器窯跡11基（隣接光仙房遺跡12基・三和工業団地遺跡2基）のほか掘立柱建物跡などからなる。集落規模としては、隣接して同一遺跡として考えられる三和工業団地遺跡・光仙房遺跡・上植木光仙房遺跡の一角にすぎない。しかし、上記の遺跡を含む総体が遺跡としての本質であり、集落遺跡としては古墳時代前期同様、県内屈指の様相を呈している。なお、当該期の集落の形成はやや唐突に出現する感があり、いわゆる計画村落的な視点からの究明も必要とならう。また、平野部での須恵器生産については築造技術や工人構成や需要供給関係、窯業生産体制の変遷など多くの興味深い問題が提起されよう。いずれにしても、古代後半期における地域開発に係わる実体の解明に大きく寄与するものとならう。



(国土地理院 1/25000 「大町」)

第5図 周辺遺跡位置図

周辺の遺跡一覧表

番号	遺跡名	遺跡の概要	備考
1	舞台遺跡	旧石器、縄文前期住居跡・竈穴、古墳前期周溝墓・住居、後期住居、奈良・平安住居、平安須恵器窯跡	本報告・「年報15」～「年報19」群埋文 1996～2000
2	三和工業団地I遺跡	古墳前期～後期住居、平安時代住居他	「三和工業団地I遺跡」(1)・(2)群埋文 1999
3	三和工業団地II～IV	旧石器、縄文前期住居、古墳前期住居・周溝墓、古墳後期住居、奈良・平安住居・須恵器窯跡、中世馬房他	「年報15」・「年報16」・「年報17」群埋文 1996～1998
4	下植木屯町田遺跡	旧石器、古墳前期・後期住居、奈良・平安住居、中世館跡・遺構群、平安水田	「下植木屯町田遺跡」群埋文 1999
5	上植木屯町田遺跡	縄文中期～平安住居、中世戸畑	「書上吉祥寺遺跡・書上上之原城遺跡・上植木屯町田遺跡」群埋文 1988
6	上植木光仙房遺跡	古墳・平安時代住居	「上植木光仙房遺跡」群埋文 1989
7	蟹沼東遺跡	古墳～平安住居他	「蟹沼東遺跡・舞台遺跡」伊勢崎市教育委員会 1977
8	光仙房遺跡	旧石器、古墳前期・後期住居、古墳、古墳後期粘土採掘坑、平安住居・須恵器窯跡、水路他	「光仙房遺跡」群埋文 2003
9	本岡古墳群	和川左岸に立地。6～7世紀代の古墳群、上植木光仙房遺跡・光仙房遺跡でもその一部分が調査された。	「岡山古墳群」【伊勢崎市史 通史編】 1997
10	書上本山遺跡	旧石器、古墳時代住居、平安住居・掘立柱建物跡他、瓦葺片出土。	「書上本山遺跡」群埋文 1985
11	書上上之原城遺跡	平安住居・掘立柱建物跡他	「書上上吉祥寺遺跡・書上上之原城遺跡・上植木屯町田遺跡・下植木屯町田遺跡」群埋文 1988
12	高山古墳群	7世紀代の古墳群。竪穴式・横穴式石室をもつ	「高山遺跡・天ヶ地遺跡・天野沼遺跡・下書上遺跡」伊勢崎市教育委員会 1977
13	丸塚山古墳	全長81mの帆立貝式前方後円墳。後円部に箱式棺状の竪穴式石室を3基設ける。5世紀後半。	「丸塚山古墳」【伊勢崎市史 通史編】伊勢崎市教育委員会 1997
14	上植木庵寺	7世紀後半の創建で、県内初期寺院の一つ。寺域内で瓦器跡が調査されている。	「上植木庵寺発掘調査概報Ⅰ」伊勢崎市 1984 「上植木庵寺発掘調査概報Ⅱ」伊勢崎市 1985 「上植木庵寺」一昭和59年度発掘調査概報一伊勢崎市教育委員会 1985
15	華藏寺裏山古墳	全長40m前後の前方後円墳と考えられ、5世紀初頭頃の築造と考えられている。2段口縁壺が出土。	「華藏寺裏山古墳」【伊勢崎市史 通史編Ⅰ】伊勢崎市 1987
16	上西根遺跡	古墳前期周溝墓、古墳、奈良住居	「上西根遺跡」伊勢崎市教育委員会 1985
17	台所山古墳群	「総覧」では7基が確認。調査では箱式石棺の主体部をもつ1基がある。	「台所山古墳」【伊勢崎市史 通史編Ⅰ】伊勢崎市 1987、「上毛古墳総覧」群馬史跡名勝天然記念物報告第5号 群馬県 1938
18	地蔵山古墳群	5世紀～8世紀代の古墳55基からなる古墳群	松村一昭「赤堀村地蔵山古墳Ⅰ」1978、「赤堀地蔵山古墳Ⅱ」1979 赤堀村教育委員会
19	蟹沼東古墳群	6世紀末～7世紀の10基以上の古墳群。縄文時代住居、古墳前期住居・周溝墓検出。	「宮貝戸古墳群・蟹沼東古墳群」伊勢崎市教育委員会 1983、「蟹沼東古墳群・宮貝戸下遺跡」伊勢崎市教育委員会 1978、「蟹沼東古墳群」伊勢崎市教育委員会 1988
20	五日牛清水田遺跡	縄文前期住居、古墳前期住居、前方後円墳、奈良住居、水田他	「五日牛清水田遺跡」群埋文 1993
21	五日牛南組遺跡	縄文前期住居、古墳、近世屋敷跡他	「五日牛南組遺跡」群埋文 1992
22	八幡林古墳群	縄文前期住居、6世紀～7世紀代の古墳4基	「八幡林古墳群及び縄文住居調査概報」赤堀村教育委員会 1982
23	瀬下八幡遺跡	旧石器、縄文前期住居、奈良～平安住居他	「瀬下八幡遺跡」群埋文 1990

## 第3章 縄文時代の遺構と遺物

### 第1節 縄文時代の遺跡概要

舞台遺跡の立地要件は、湧水地によって開析された谷地形の低湿地帯とLoam低台地上という二相を占めている。調査によって明らかにされた縄文時代の遺構には、竪穴住居跡5軒、陥穴11基の他、土坑状遺構がある。また、遺物類に関しては谷地部を含めた包含層より数多くの土器・石器の出土がある。

住居跡はその出土遺物から縄文時代前期諸磯b式及びc式期に属するものと判断できよう。竪穴住居跡は遺跡調査域の北部で3軒が南部に2軒の単位でそれぞれ検出されているが、両地点は約150～200mの距離がある。北部のそれは、遺跡地西側を南北に縦断する谷地と、東側に湧水する「男井戸」によって開析された低地帯との間に形成されたLoam低台地上に形成されている。また南部の2軒は既に埋没化していたであろう谷地形の谷頭縁辺に営まれている。本遺跡に北接し、同一台地上に存在する三和工業団地Ⅰ遺跡や南接する三和工業団地Ⅱ遺跡の調査結果においても本遺跡と同様に住居跡が散在する分布状況を示しており、縄文前期集落の典型的なあり方として認識できるものだろう。しかし、「男井戸」の東に存在する湧水地「あまが池」周辺の台地上に立地する三和工業団地Ⅲ遺跡や天ヶ堤遺跡では中期から後期にかけての集落が確認されており、本遺跡で検出されているごとくの前期に属する遺構は少ない。また西側に隣接する光仙房遺跡でも前期に属する遺構・遺物はなく、ほとんどが後期を主とする遺物の出土である。このように湧水の浸食で形成された低湿地帯を挟んだそれぞれの台地上では、時期を異にする集落の占拠状況を窺うことができる。

陥穴跡は11基検出され、中央域の低台地上に位置している。陥穴跡とした土坑は狭深な溝状の形状を呈するもので、深さは確認深で1m前後を計測する。各陥穴跡の長軸方位は同一ではないが、等高線に直行するものが多い。また、ほぼ同じ等高線に2基から3基が纏まって配置される傾向が特徴的に認められる。伴出遺物が検出されていないため、時期を明確に特定することはできないが、埋土の状態や隣接する三和工業団地Ⅰ遺跡で検出されている陥穴跡との比較から縄文時代前期に属するものであると考えておきたい。

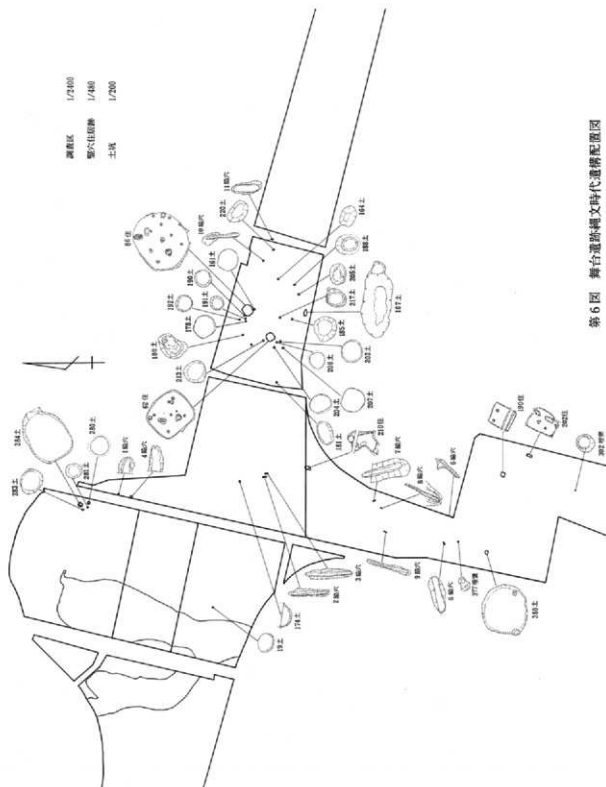
土坑跡は調査区全域に多数検出されるが、上面遺構との重複によって形状が不定形になっているものも多い。そのほとんどが出土遺物を伴わず、縄文時代という時期認定の情報が乏しく特定するに至っていない。出土遺物を伴わない土坑跡については埋土などを周辺住居跡などと比較し、その共通性などから縄文時代に属する土坑跡であると判断し掲載した。これらの土坑跡は谷地東側や台地中央部の住居跡周辺に散在している。なお、時期の特定できる土坑跡はA区から4基、F区から4基検出されている。特にA3区から検出された284号土坑跡やF区から検出された202号土坑跡からは数多くの土器片や石器類が出土している。特に202号土坑跡からは牛伏砂岩製の垂飾とともに多量のチャートや頁岩質の極小剥片が多数出土しており葛城または石器製作関連遺構などが考えられ、その性格については一考に値する注目すべきものである。

埋壙としては2基を検出している。単独遺構として調査されているものの、竪穴住居跡等の内部施設が削平・重複等によって結果的に単独の形態を取っている場合もあり、確証的な遺構ではない。

調査区西部を縦断する谷地部の調査を実施したが、この部分は縄文時代において生活水として利用された湧水池と近接することから、関連遺構の発見が期待されその存在も想定された。しかし、包含層中から数多くの土器片が出土したものの、遺構は認められなかった。これらの遺物類は台地上の遺構と同時期のものも若干は検出されたが、時期が異なる縄文後期の遺物が圧倒的に多い。この垂離が周辺域を含めた集落の形成過程

第3章 縄文時代の遺構と遺物

や分布状況の検討課題を提示している。また、時期的に古い段階の早期熱糸文系土器なども僅かながら出土している。



第6図 舞台遺跡縄文時代遺構配置図



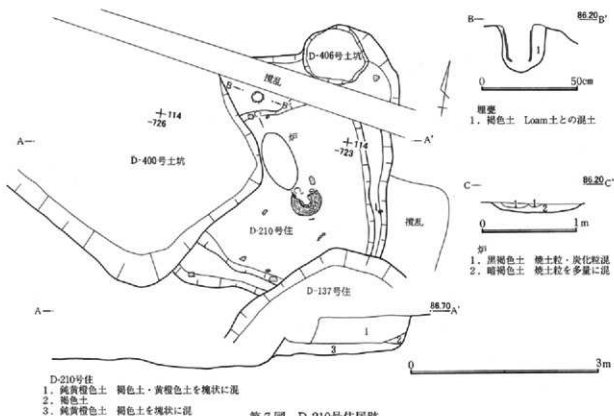
## 第2節 縄文時代の遺構と遺物

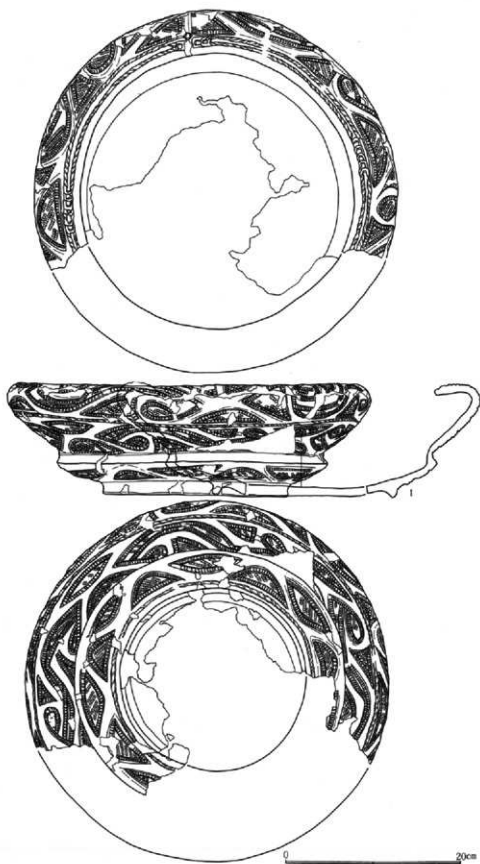
## 1. 竪穴住居跡

## D-210号住居跡 (第7~9図、P.L.8・16・17)

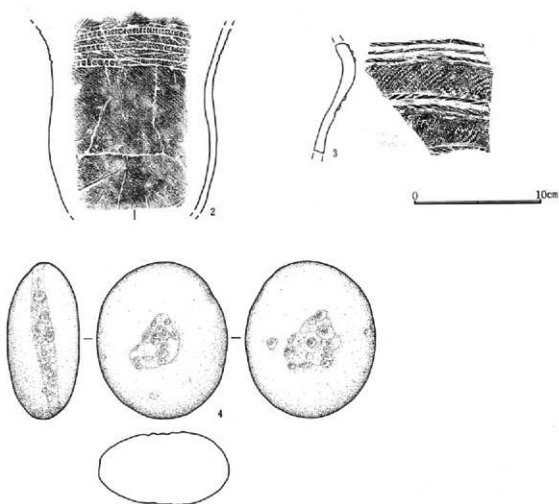
調査区座標値X=111~114・Y=-722~-725の範囲に位置する。他遺構との重複関係はD-137号住居跡、D-400号土坑、D-406号土坑跡など複数の遺構跡と重複する。新旧関係は本住居跡がこれらいずれより古い。平面形状及び規模は、残存状態が良好でないため明確にはできないが、壁高は東壁残存部で50cmを測り、垂直に近い傾斜で立ち上がる。埋土はLoam塊を多量に混入する黄橙色土を主体とし、基盤層との識別が困難であった。床面は僅かながら住居跡中央部に向かい傾斜し、炉跡周辺でやや踏み跡まりが強くなるが、全体的には軟弱で不安定である。床土は暗褐色粘質土を主体とする。

内部施設は炉跡と埋甕跡が検出されている。炉跡は住居跡ほぼ中央部と考えられる場所で検出され、規模は長軸98cm・短軸46cm・深さ9cmを測る。埋土は焼土を多量に混入する暗褐色土である。炉跡南側に近接して諸磯b式有孔浅鉢形土器が伏せた状態で出土している。この浅鉢が炉跡に付随するものか、廃棄されたものかは検出状態からは明確にはできないが完形度は高い。炉跡北側の壁際からは深鉢を口縁部方向を上にした正位で埋設された埋甕跡が検出されている。この甕が埋設されていた場所は床面より15~17cm程高く、幅15~80cm程の壇状部分である。これが住居跡の施設的なものか、重複する他の遺構であるかは明確にはできない。しかし、埋甕跡の深鉢形土器と住居跡床面出土の浅鉢形土器との時期差が見られないことから、ここでは埋甕跡を住居跡内施設として取り扱った。本住居跡の時期は出土遺物から前期諸磯b式期と考えられる。





第8図 D-210号住居跡出土遺物(1)



第9図 D-210号住居跡出土遺物(2)

## D-210号住居跡出土遺物

1は如跡と考えられる焼土面の南側床面で伏せ状態で出土した浅鉢形土器である。口縁部は鉤の手状に強く屈し、胴部に段を有する。底部は膨らみをもち不安定で、外縁には高台状の凸帯が巡る。口縁部には焼成前穿孔の1孔が見える。最大径42cm・器高13cm・底径34cmで口径は31cmを測る諸磯b式である。口縁端部に2条・胴部・底縁に各1条の浮線を巡らせて矢羽状刻目を施す。全体は刻目を施す半截竹管の平行沈線と、「C」の字状刻突で半月状および曲線文を構成し、地文にはRLの縄文を充填する。底部及び内面は丁寧な磨き調整がなされる。

2・3も諸磯b式の深鉢形土器である。2はやや北に寄った位置に検出された埋壺で口縁部と下半部が欠損する。地文はRLの縄文で、胴部に半截竹管で3条の平行沈線文を施す。3はLRの縄文を地文とし、2ないし3条単位の矢羽状刻目の浮線文を施す。

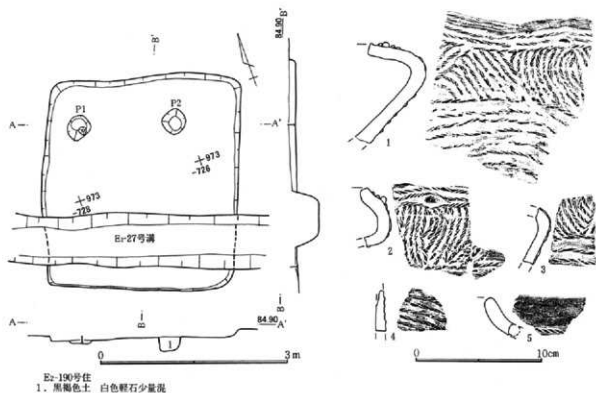
4は凹石で粗粒輝石安山岩、両面ともに若干の窪みを、側面は敷石および磨石として使用されている。

## D-210号住居跡石器計測表

No	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
4	凹石	粗粒輝石安山岩	12.2	10.3	5.7	850

E-190号住居跡 (第10図、P.L.8・17)

調査区座標値X=971~974・Y=-725~-728の範囲にある。平面形状は北東~南西方向に長軸をもつ長方形を呈する。重複関係は本住居南側で27号溝が東西に走断している。遺存状況は後世の削平が深く及んでおり、壁高の残存は僅かである。規模は長軸3.4m、短軸3.1m、壁高は10cmを測り、床面積は10.54m<sup>2</sup>を有する。長軸方位はN-2'-Eを示す。埋土はLoam塊を多量に含む黄色褐色土を主体とする。北側で小穴2穴が検出されており、規模は確認面でP1が径20cm・深さ3cm、P2が径20cm・深さ11cmを測る。穴間はP1~P2間1.55mを測る。炉跡は確認されていない。遺物は埋土中より少量検出され、前期諸磯b式期と考えられる深鉢形土器口縁部片が数点出土している。



第10図 E-190号住居跡出土遺物

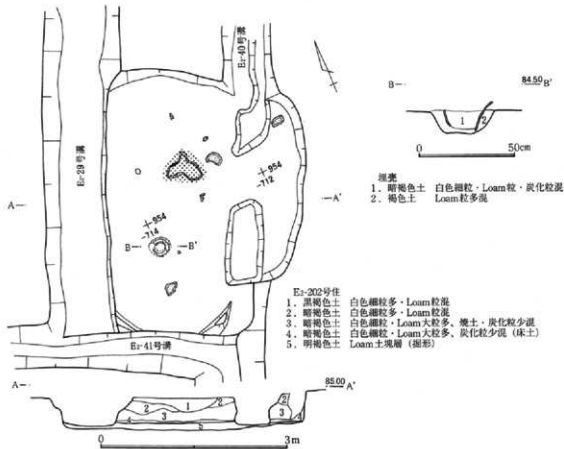
E-190号住居跡出土遺物

1~3は同一個体の可能性のある諸磯b式である。キャリアー状に強く内湾し、緩やかな波状口縁形態の深鉢形土器である。口唇から口縁部にかけて2~3条単位で、矢羽状刻目を施した横位の浮線文が巡り、2個の粘土瘤が貼付される。屈曲部は矢羽状刻目を施した弧状ないし曲線状の浮線文を構成する。以下、頸部から胴部にかけては、矢羽状刻目を施した横位多段の浮線文を連続させる。口縁部の曲線状の浮線文は、一部頸部まで連続している。諸磯b式新段階に位置付けられよう。

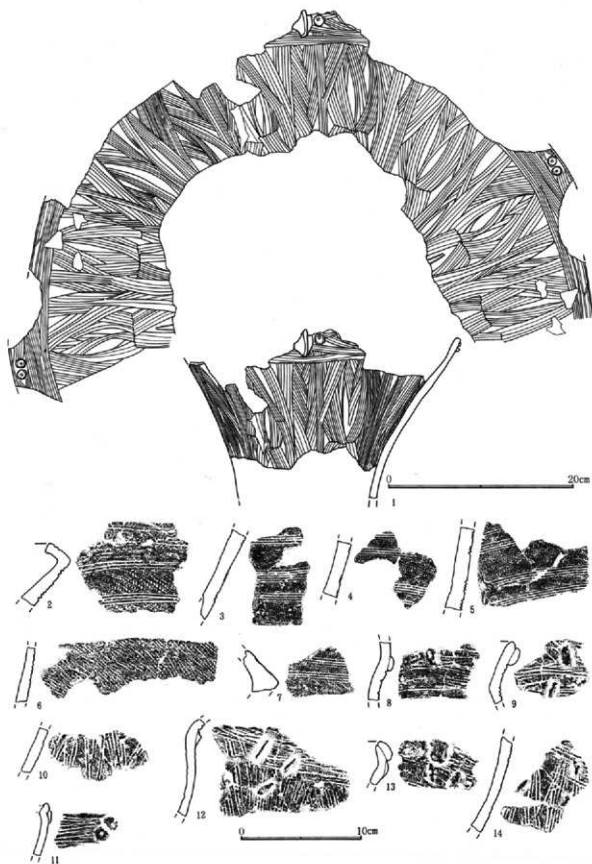
4は矢羽状刻目を施した、平行浮線文の諸磯b式である。5は有孔浅鉢形土器の口縁部破片の可能性がある。諸磯b式である。口唇部は表裏面ともに無文部となっている。屈曲部には右下がり斜位の刻目を施した、横位の浮線文が貼付される。焼成前の穿孔が、1孔確認できる。

E<sub>r</sub>-202号住居跡 (第11~13図、P.L.8・17・18)

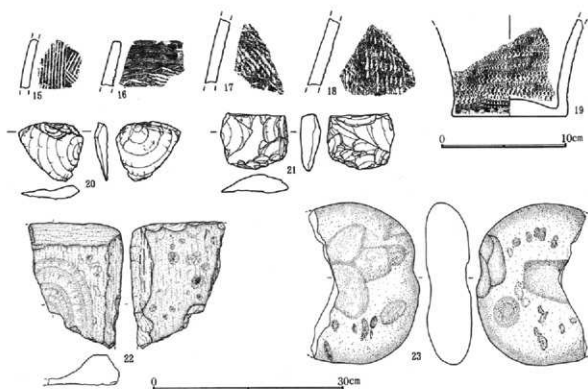
調査区座標値X=952~956・Y=-711~-715の範囲にある。平面形状は北東~南西方向に長軸をもつ長方形を呈する。重複関係は住居西壁で29号溝跡、北東隅で40号溝跡、南壁で41号溝跡と重複する。新旧関係は本住居跡がこれらいずれより古い。規模は長軸4.2m・短軸3.85m、壁高は53~66cmを測る。長軸方位はN-30°-Eを示す。埋土はLoam粒を多量に混入する暗褐色土を主体とする。内部施設は住居跡中央南寄りに埋壘が、中央北寄りに炉跡が検出されている。埋壘は深鉢を口縁部方向を上にして正位で埋設されている。埋壘掘形は長径34cm・短径30cm・深さ11cmを測る。炉跡は調査過程での床面認識がおくれ焼土残存範囲を不定形なものにしてしまったために規模は明確にはできないが、長径で50cm程を測る。掘り込みは10~12cmほどで締まりのない焼土粒の分布として確認された。周辺には数点の礫が出土しているが、これらの礫が炉材の一部として用いられていたかどうかは検出状態からは明確にはできない。床土面はほぼ平坦であり、全体に踏み締まりが弱く不安定である。出土遺物には埋壘の他雲母石英片岩裂石皿片がある。本跡の時期は埋壘や出土遺物から前期諸磯c式期と考えられる。

第11図 E<sub>r</sub>-202号住居跡E<sub>r</sub>-202号住居跡出土遺物

1は諸磯c式である。口縁部が大きく開き、胴部は締まる深鉢形土器である。口縁部は横位集合条線の上にて、胴部の粘土瘤と両側に刺突を加えたボタン状貼付文と、2個一對の刺突を加えたボタン状貼付文を配置している。6ないし8単位と思われる。口縁部から胴部にかけての集合条線文は、胴部から口縁部の順に施



第12図 E2-202号住居跡出土遺物(1)



第13図 E-202号住居跡出土遺物(2)

文される。胴部の鋸歯状と「8」の字状集合条線文を最初に施す。次に、縦位の集合条線で区画している。口縁部の集合条線文は、横位から山形状に施し、ボタン状貼付文を加飾している。2～5・7は半載竹管による横位多条の沈線を施す。諸磯b式新段階である。2は逆「く」の字状に内湾する口縁部破片である。平行する沈線のみで文様である。地文はRL縄文である。6は撚り戻しの縄文で諸磯式である。8～15は諸磯c式である。8は頸部から胴上半部にかけての破片である。粘土瘤を貼付し、半載竹管による横位の浅い沈線が施される。9は口縁部から頸部にかけての破片である。縦位ないしは斜位の細長い粘土瘤が貼付される。10・14は半載竹管による縦位ないし斜位の沈線を施す。11は口縁部破片である。口縁に沿って半載竹管による横位の沈線を施す。さらに、刺突を加えたボタン状貼付文を加飾する。12は口縁部から胴上半部にかけての破片である。口縁部には半載竹管による横位の沈線が施される。胴部には半載竹管による縦位ないし斜位の沈線が施される。さらに、細長い斜位の粘土瘤が連続して貼付される。13は口縁部破片である。口縁に沿って半載竹管による横位の沈線を施す。沈線上には口唇部からための粘土瘤を貼付する。さらに、下位には細めの粘土瘤を貼付する。15は縦位の集合条線で区画する。区画内には鋸歯状ないしは幾何学系の集合条線を施す。19は底径9cmの深鉢形土器である。貝殻刺突文の浮島式である。

21は薄身の打製石斧刃部の欠損品である。両面ともに摩耗痕が認められる。20は小型半月形の削器である。22は雲母石英片岩製で方形石皿の欠損品である。裏面は凹石として使用されている。23は変質安山岩製凹石の欠損品である。

E-202号住居跡計測表

No	部種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g
20	削片石器	黒色頁岩	欠5.6	欠4.6	1.0	18.7
21	打製石斧	黒色頁岩	欠5.4	欠4.3	欠1.6	38.7
No	部種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g
22	石皿	雲母石英片岩	28.6	17.0	7.0	1,789.9
23	凹石	変質安山岩	19.7	14.5	5.5	4,500.0

## F-62号住居跡（第14～16 図、P.L.8・19）

調査区座標値  $X=135\sim 142$ ・ $Y=-626\sim -632$ の範囲にある。平面形状は北西～南東方向に長軸をもつ長方形を呈する。北西壁と南西壁一部で58号住居跡と重複し、新旧関係は本住居跡が古い。規模は長軸6.35m・短軸5.72m・床面積36.32 $\text{m}^2$ である。壁高は60cm前後を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位はN-45°-Eを示す。埋土はLoam粒を混入する褐色粘質土を主体とする。内部施設は炉跡が3基検出されている。1号炉跡は北西壁寄りに付設され、規模は長軸1.2m・短軸70cm・深さ28cmを測る。炉跡内からは数点の礫が検出されている。これら礫の並びには規則性は見られず、炉跡を構成する礎であるかどうかは不明である。2号炉跡は南東部やや壁寄りに付設される。規模は長軸35cm・短軸30cm・深さ5cmを測る。埋土は焼土を混入する灰褐色砂質土を主体とする。3号炉跡は南西隅部に付設する。規模は長軸1.1m・短軸85cm・深さ10cmを測る。3号炉跡は最終段階のものと考えられ、他の炉跡より焼土残存範囲が広く、南端には深鉢が正位に埋設されている。南西隅部に不定な円形を呈する土坑跡が検出されている。規模は長軸50cm・短軸45cm・深さ15cmを測る。土坑内からは遺物の検出はない。小穴は7穴検出されている。その内、柱穴跡と考えられるものはP1～P4の4穴であり、規模はP1が長径35cm・短径30cm・深さ40cm、P2が径38cm・深さ65cm、P3が長径40cm・短径30cm・深さ25cm、P4が長径50cm・短径40cm・深さ65cmを測る。穴間はそれぞれP1～P2間3.15m、P2～P3間3.35m、P3～P4間3.1m、P1～P4間3.6mを測り、ほぼ均等な間隔で配置されている。床面はほぼ平坦であり、4柱穴内側はやや踏み締まりが強く安定している。時期は出土遺物から前期諸磯b式期と考えられる。

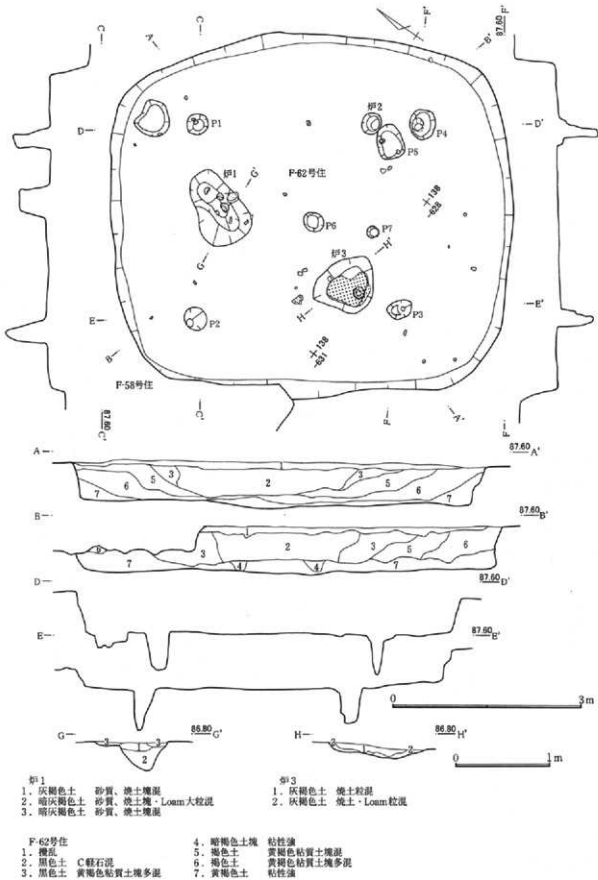
## F-62号住居跡出土遺物

1・2・9は同一個体である。キャリバー型液状口線の諸磯b式深鉢形土器である。口唇直下には押圧を施した大きな粘土瘤を貼付している。口縁部には半截竹管による横位沈線文を施している。頸部にも同種の沈線文を施すとともに、沈線文間には波状ないしは対向する弧状の沈線文を挿入している。部分的には「ㄱ」状沈線文様で連結している。3は横位多条に浮線文を巡らしている。浮線が段違いで輪状になっていない部分が認められることより、螺旋状に貼付されている可能性もあろう。また、器本体部分の色調は赤褐色を帯びているが、浮線の色調は橙白色を呈している。このことより、本体部分と加飾した浮線は異なる生地を使用していたものと判断される。同様に胎土に含まれた夾雑物も異なる。地文は附加条原体の可能性もあるが、単節RLの縄文と判断した。4は矢羽状刻目を施した浮線文の諸磯b式である。5・7・8・10～14も諸磯b式の破片である。5は半截竹管により横位と縦位、及び「X」の字状沈線文を施している。地文はLR縄文である。諸磯b式新段階に位置付けられよう。6は無文のやや外反する口縁部破片である。諸磯式であろう。7・12は半截竹管により横位多条の沈線文を描き、地文はRL縄文である。8・10は同一個体と思われる。半截竹管により横位と対向位置に弧線状の沈線文を施している。8は渦巻きないしは横位「蕨手」状沈線文を挿入している。10は鋸歯状ないしは菱形状沈線文を挿入している。両破片とも部分的に沈線の脇に、半截竹管による刺突文を施している。11は斜位の刻目を施した横位と縦位の浮線文で、地文はRL縄文である。13・14は矢羽状刻目を施した浮線文である。15はRL縄文である。

F-62号住居石器計測表

No	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	No	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
16	甗形	チャート	4.6	3.7		16.3	21	甗形	粗粒輝石安山岩	4.3	8.1	0.8	42.4
17	石皿	黒曜石	1.8	1.2	0.3	0.6	22	磨石	粗粒輝石安山岩	10.6	8.1	5.1	600.4
18	石皿	チャート	3.7	1.3	0.6	2.0	23	棒状磨石	安山岩	20.5	5.5	3.3	661.4
19	石皿	チャート	2.8	1.0	0.6	1.1	24	凹・磨石	粗粒輝石安山岩	23.5	19.2	10.2	5,630
20	磨片	黒曜石	2.0	0.8		0.3							

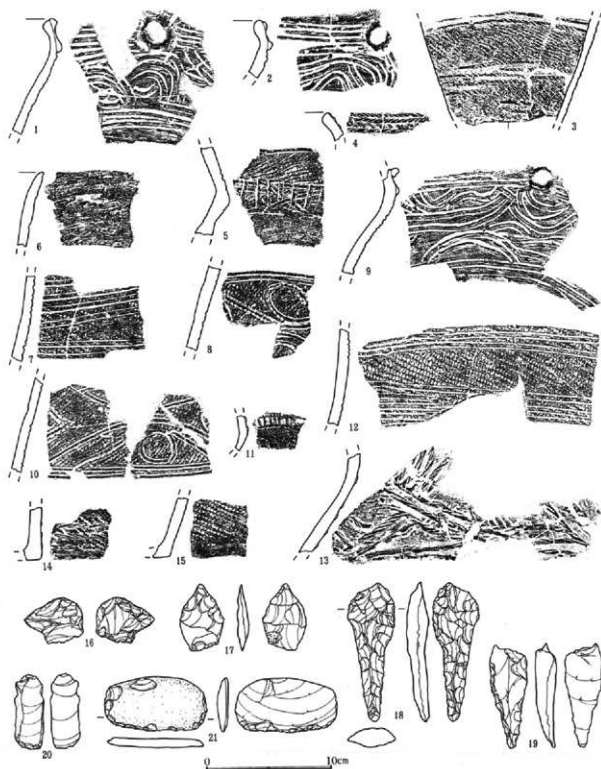




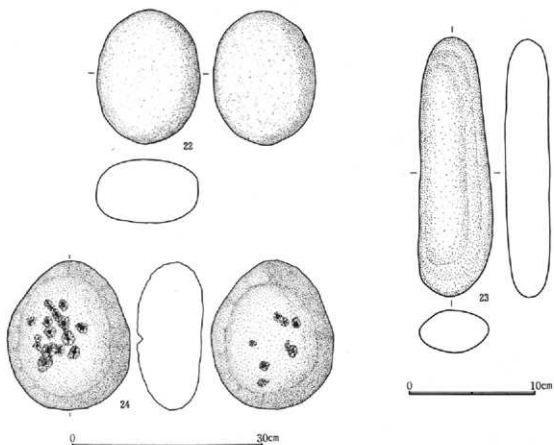
第14図 F-62号住居跡

第3章 縄文時代の遺構と遺物

16は削器、17は基部に自然面を残している石鏃の未製品と思われる。18・19は石鏃であり、19の刃部は断面三角形である。20はナイフ型、21は半月状の削器、22は磨石、23は棒状河原石を素材とする磨石、24は凹石・磨石である。



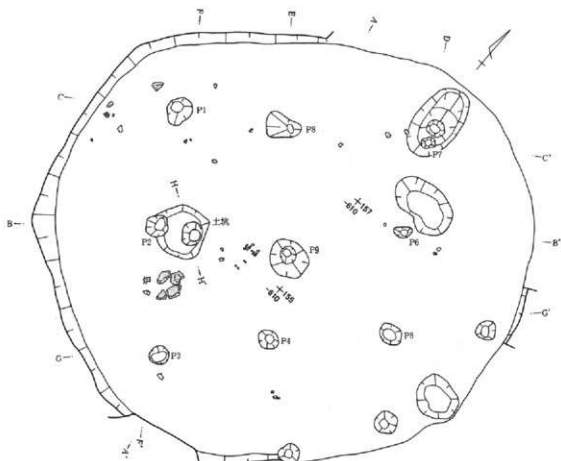
第15図 F-62号住居跡出土遺物(1)



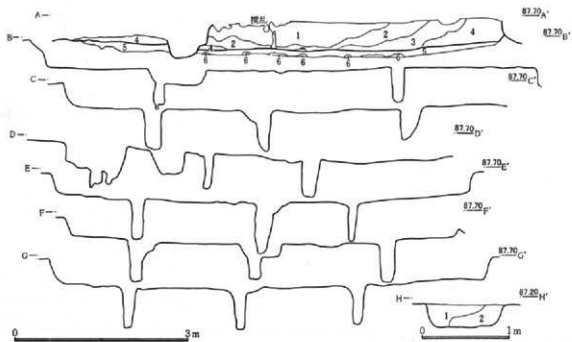
第16図 F-62号住居跡出土遺物(2)

## F-86号住居跡 (第17～20図、P L. 9・20・21)

調査区座標値  $X=151\sim 159$ ・ $Y=-606\sim -614$ の範囲にある。平面形状は北東～南西方向に長軸をもつ楕円形を呈する。東側で65号住居跡、北側で隣接する三和工業団地I遺跡127号住居跡と重複し、新旧関係は本住居跡がこれらより古い。規模は残存部の長軸で8.45m・短軸7.22m・床面積61.0m<sup>2</sup>を有する比較的大型な住居跡である。壁高は50cm前後を測り、壁面はほぼ垂直に立ち上がる。長軸方位は $N-50^{\circ}-E$ を示す。埋土は褐色土を主体とし、全体に白色軽石とLoam粒を混入する。内部施設は南西隅に炉跡が検出され、炉跡内からは4点の礫が規則的に配され石組炉としてよいであろう。規模は長軸67cm・短軸45cm・深さ10～15cmを測る。炉跡内埋土は焼土を少量混入する暗褐色土を主体とする。小穴は多く検出されているが、支柱穴に相当するものはP1～P8の8穴と考えられる。各柱穴は楕円形の掘形形状で規模は、P1は径50×40cm・深さ68cm、P2は径30cm・先細りで深さ70cm、P3は径30cm・深さ70cm、P4は径35cm・深さ65cm、P5は径40×30cm・深さ65cm、P6は径20×30cm・深さ60cm、P7は径20cm・深さ50cm、P8は径55×40cm・深さ54cmを測る。柱間はそれぞれP1～P2が2.0m、P2～P3は2.3m、P3～P4・P4～P5が2.0m、P5～P6が1.8m、P6～P7が1.6m、P7～P8は2.4m、P8～P1は2.0mを測る。床面は中央部付近でやや締まりが強いが、全体は締まりが弱く安定しない。床土はLoam粒を混入する黄褐色粘質土で貼床を施す。遺物は埋土中から諸磯b式と考えられる深鉢形土器片が数点出土している。



- F-86号住
- 1. 黒色土 黄色粒多・白色粒少混
  - 2. 黒褐色土 黄色粒多・白色粒少混、褐色土塊点状に混
  - 3. 暗褐色土 黄色粒多・白色粒少混、褐色土多量点状に混
  - 4. 黄褐色土 黄色粒多・白色粒少混、Loam大粒多量に混
  - 5. 灰褐色土 黄褐色粘質土塊混（貼床）
  - 6. 黄褐色土 塊状

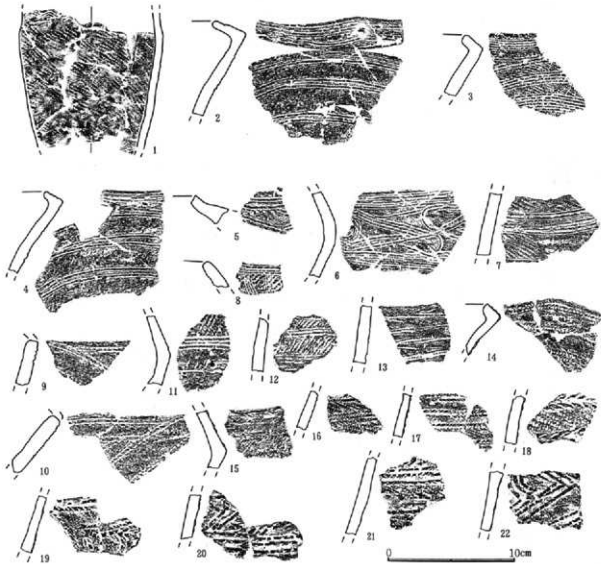


第17図 F-86号住居跡

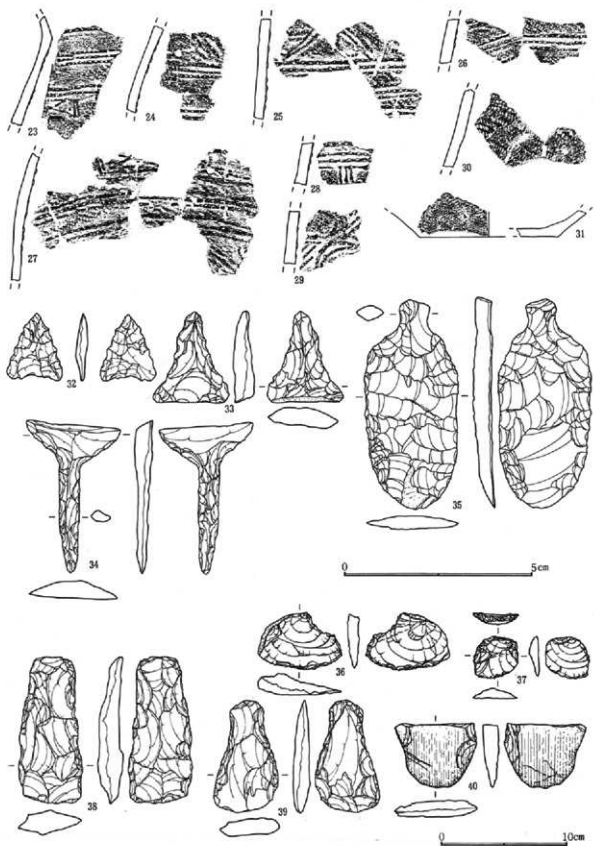
- 土坑
- 1. 黒褐色土 粘質土
  - 2. 黄褐色土 Loam粒少混

## F-86号住居跡出土遺物

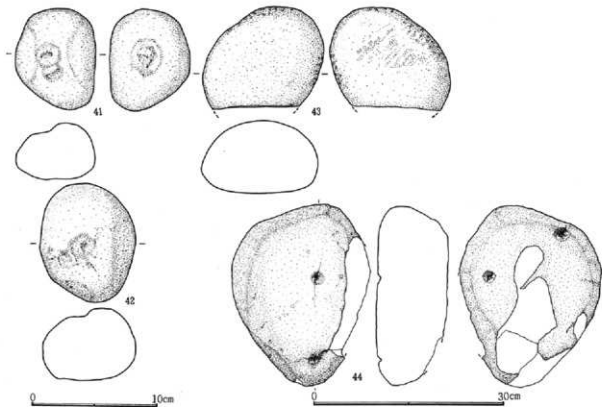
1～31は諸磯b式である。1は半載竹管で波状沈線文を施し、地文はR L縄文である。2～4・6・7は集合条線文である。2は口唇直下に粘土瘤を貼付し、地文はR L縄文である。4は地文L Rの縄文である。6は平行沈線間に、半載竹管による曲線状の沈線文を挿入している。8は半載竹管による横位と縦位、および弧状の沈線文で、地文にはL R縄文が施される。9・10は同一個体と思われる、矢羽状刻目と半載竹管による2条の横位と斜位の列点文で、地文は無文である。12は半載竹管による平行沈線を施し、地文は摺り戻しの縄文である。13は半載竹管による平行沈線文で、地文には文様は認められない。14・17は波状口縁部破片である。矢羽状刻目を施した浮線に列点文を付加している。16は横位と斜位の矢羽状刻目を施した浮線の間に、「C」の字状刺突を挿入する。18は矢羽状刻目を施した横位の浮線文で、地文はR L縄文である。19は横位と斜位の矢羽状刻目を施した浮線文で、地文は無文である。20は同種の文様構成であるが、地文はL R縄文である。21は一部斜位の浮線文であり、地文はR L縄文である。22は斜位および弧状ないしは曲線状の浮線で、菱形文様を構成している。地文には浅くR Lの縄文が施されている。23～28は同一個体の破片と



第18図 F-86号住居跡出土遺物(1)



第19図 F-86号住居跡出土遺物(2)



第20図 F-86号住居跡出土遺物(3)

思われる。横位と斜位の3条単位の浮線に列点文を施し、地文はR L縄文である。23は浮線文間に縦位と「X」の字状浮線文を挿入している。28は横位浮線文間に縦位の浮線文を挿入している。29は横位多段の浮線文間に対向する弧線状浮線文を施している。30は胴下半部の破片で、R Lの縄文である。31は胴下半部から底部にかけての破片で、多条原体で熱り戻しの縄文であると判断される。

32はやや挟りを入れた無柄の小型石鏃である。33は鏃、34は石鏃である。35は硬型石匙で、正面先端部に自然面を残している。34・35ともに本遺跡で出土した最も良好な資料である。36は本遺跡でも数多く出土した典型的な半月形の削器である。正面基部から側面にかけて自然面を残す。横長剥片を素材とし、主要剥離面と打面をそのまま留めている。先端部および片側の側縁部に刃部加工を施している。三角形ないしは半月形の平面形態をした削器である。37は円形に近い形状の削器、38は短冊形の打製石斧で刃部両面ともに摩耗している。39は楕形打製石斧、40は薄身の打製石斧欠損品で両面とも摩耗している。41・42は凹石・磨石である。44は凹石で火を受けているので表面が剥落している。

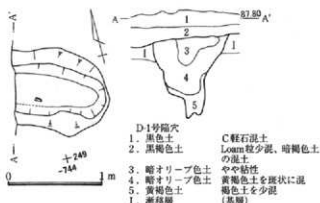
F-86号住居石器計測表

No	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	No	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
32	石鏃	黒曜石	1.8	1.5	0.3	0.6	39	打斧	黒色頁岩	8.9	5.1	1.4	60.3
33	石鏃	チャート	2.4	2.0	0.6	2.6	40	打斧	楕形輝石安山岩	欠5.1	欠6.4	1.3	49.3
34	石鏃	黒色頁岩	4.0	2.5	0.5	1.9	41	凹石	楕形輝石安山岩	8.0	6.4	4.5	265.4
35	石匙	黒色頁岩	5.6	2.5	0.5	6.8	42	凹石	楕形輝石安山岩	9.5	7.6	5.7	446.3
36	削器	黒色安山岩	欠6.5	欠4.5	1.6	32.2	43	磨石	砂岩	欠8.2	9.4	5.7	691.6
37	削器	黒色頁岩	欠3.5	欠3.1	0.8	8.2	44	凹石	楕形輝石安山岩	28.8	欠21.5	欠11.0	9,500.0
38	打斧	黒色頁岩	11.6	5.0	2.0	115.2							

2. 陥穴跡

D-1号陥穴跡 (第21図)

調査区座標値  $X=249 \sim 250 \cdot Y=-743 \sim -744$  の範囲に位置する。西部が調査区域外のため全形は不明である。平面形状は東西方向に長軸をもち開口部はやや開き気味で楕円形を呈するが、底部は狭小になろう。

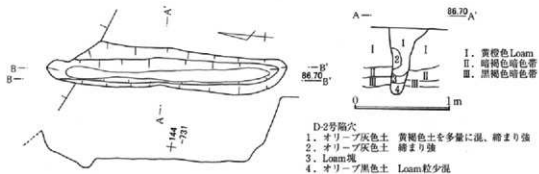


第21図 D-1号陥穴跡

検出規模は長軸(1.0m)・短軸80cm・深さ86+  
 a cmを測り、長軸方位は  $N-76^{\circ}-W$  を示す。  
 断面形は開口部から底部にかけて緩やかに傾斜し、  
 底部付近で垂直気味に落ち込む形状を呈する。  
 底面はほぼ平坦であるが中央に向かいやや  
 深く傾斜している。底部施設は検出されなかつた。  
 埋土は黄褐色土を斑状に混入するオリーブ  
 灰色土を主体とする。出土遺物は検出されなかつた。

D-2号陥穴跡 (第22図、PL.9)

調査区座標値  $X=141 \sim 145 \cdot Y=-730$  の範囲に位置する。重複関係は北端部で1号周溝墓と重複する。平面形状は南北方向に長軸をもち開口部、底部ともに長狭である。規模は長軸上縁長2.5m・短軸上縁幅30cm・深さ70cmを測り、壁面下位での挟れは認められない。主軸方位は  $N-8^{\circ}-W$  を示す。断面形は東壁開口部付近で緩やかな傾斜をなすが、中央部から底部にかけては両壁ともほぼ垂直に落ち込む形状を呈する。底面はほぼ平坦であるが、北端部が僅かに落ち込む。底部施設は検出されなかつた。埋土は黄褐色土を多量に含むオリーブ灰色土を主体とする。出土遺物は検出されなかつた。

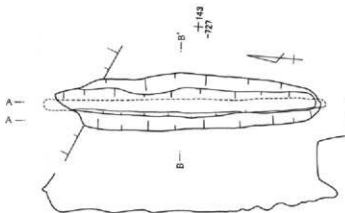


第22図 D-2号陥穴跡

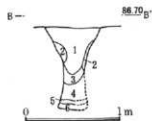
D-3号陥穴跡 (第23図、P.L.9)

調査区座標値  $X=141 \sim 144 \cdot Y=-727 \sim -728$  の範囲に位置する。北端部で1号周溝墓と重複し、D-2号陥穴に間近く並列して配される。平面形状は南北方向に長軸をもち開口部、底部ともに長狭である。規模は長軸上縁長2.5m・下縁長3.00m、短軸上縁幅60cm・下縁幅30cm・深さ70cmを測り、主軸方位は  $N-4^{\circ}-W$  を示す。断面形は長軸壁面が上半直立で下半の挟れが顕著である。短軸の上縁は緩やかな開口をなし、中位で20cmほどに狭まるが、底部近くに至り小さく挟れを有する形状を呈す。底面は緩やかな凹凸が全体に見られる。底部施設は検出されなかつた。埋土は黄褐色土を多量に含むがオリーブ灰色土を主体とする。出土遺物は検出されなかつた。





第23図 D-3号陥穴跡

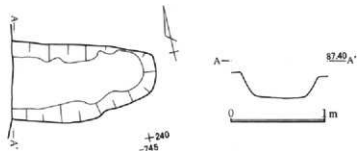


## D-3号陥穴

- |            |               |
|------------|---------------|
| 1. オリーブ灰色土 | 黄褐色土混、締まり強    |
| 2. 黄褐色土    | Loam粒多混、締まり強  |
| 3. オリーブ黒色土 | Loam粒混        |
| 4. 暗褐色土    | Loam粒・塊混、締まり弱 |
| 5. 暗褐色土    | Loam粒多混、締まり弱  |
| 6. Loam積層層 |               |

## D-4号陥穴 (第24図、P.L.9)

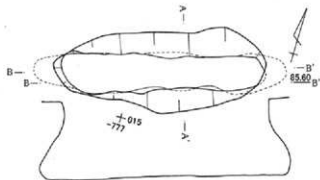
調査区座標値  $X=240\sim 241$ ・ $Y=-744\sim -746$ の範囲に位置する。西部が調査区域外のため全形は不明である。平面形状はほぼ東西方向に長軸をもつ長狭な形態を呈すと考えられる。検出範囲は長軸方向が1.5mまで、上幅は約80cmを測る。深さに関しては25cm足らずの浅さで陥穴とするには妥当性にかける。出土遺物はない。



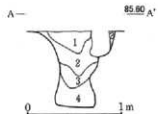
第24図 D-4号陥穴跡

## E-5号陥穴跡 (第25図、P.L.9)

調査区座標値  $X=015\sim 016$ ・ $Y=-775\sim -777$ の範囲に位置する。平面形状は北東～南西方向に長軸をもち開口部、底部ともに長狭な形状である。規模は長軸上縁長2.25m・下縁長2.7m、短軸上縁幅85cm・下縁幅40cm、深さ80cmを測り、主軸方位は  $N-78^{\circ}-W$  を示す。断面形は長軸壁線は直立から下半部が顕著に挟れる。短軸壁面上縁は緩やかに開き中央付近で強く30cmほどに狭まり、底部にかけては小さく挟れる形状を呈す。底面はほぼ平坦で、小穴などの施設は検出されなかった。埋土はLoam粒・塊を混入する暗褐色土を主体とする。出土遺物は検出されなかった。



第25図 E-5号陥穴跡

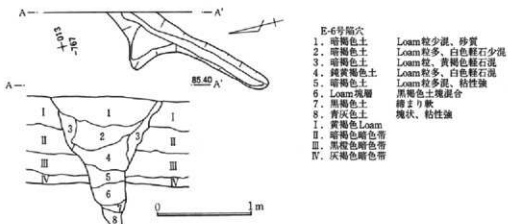


## E-5号陥穴

- |          |            |
|----------|------------|
| 1. 黒色土   | Loam粒少混、砂質 |
| 2. 暗褐色土  | Loam大粒混    |
| 3. 暗褐色土  | Loam細粒混、粘性 |
| 4. Loam土 | 暗褐色土少混     |

E-6号陥穴跡 (第26図、P L.10)

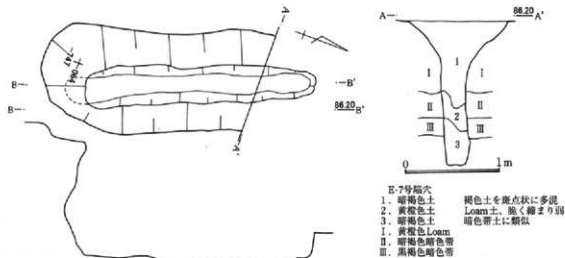
調査区座標値  $X=011\sim012$ ・ $Y=-766\sim-767$ の範囲に位置する。西縁が調査区域外にかかり全容は不明である。平面形状は北東～南西方向に長軸をもち、土層断面観察では深いV字形の掘り込みをなす。規模は長軸(1.6m)・短軸上幅1.2mで大きく開き、底縁幅は10cmに満たないほどに狭まる。深さ1.36mを測り、長軸方位は $N-42^{\circ}-W$ を示す。底面はほぼ平坦を成すが、小穴などの施設は確認されていない。埋土はLoam粒を多量に混入する暗褐色土を主体とする。出土遺物は検出されなかった。



第26図 E-6号陥穴跡

E-7号陥穴跡 (第27図、P L.10)

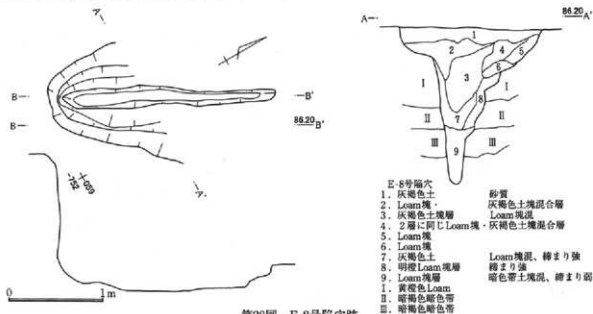
調査区座標値  $X=063\sim065$ ・ $Y=-746\sim-747$ の範囲に位置する。本跡は旧石器試掘溝調査途上で検出され、わずかに北端部上端を欠する。平面形状は北西～南東に長軸をもつ長狭な形状である。長軸上縁で約3m以上・下縁長2.3m、短軸上縁幅1.1m・下縁幅20cm、深さ1.52mを測る。長軸方位は $N-15^{\circ}-W$ を示す。短軸断面形状は上縁がやや大きく開き、下半部が狭く垂直に落ち込む漏斗状を呈し底面幅は極狭になる。下縁での挟れは見られない。底面には小さな凹凸が見られるが小穴などの施設は認められない。埋土は多量のLoam粒を斑点状に混ざる暗褐色土を主体とする。出土遺物は検出されなかった。



第27図 E-7号陥穴跡

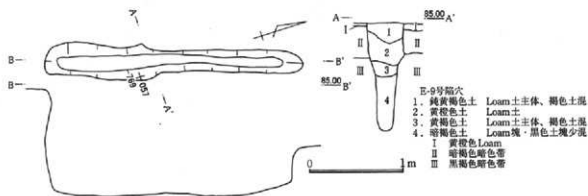
## E-8号陥穴跡 (第28図, P L.10)

調査区座標値  $X=059-061 \cdot Y=-751-753$  の範囲に位置する。本跡は旧石器試掘溝の調査時に検出された。そのため北側上縁が欠損しており全形は不明である。平面形状は北東～南西方向に長軸をもち長狭な形状である。規模は長軸上縁長2.5m以上・下縁長2.0m、短軸上縁幅1.45m・下縁幅約10cm、深さ1.63mを測り、主軸方位は  $N-29^{\circ}-W$  を示す。短軸断面形は上縁が大きく開き、20～30cmほどまでは緩やかに傾斜するが、そこから底部までは垂直気味に落ち込みV字形状を呈し、底面幅は極狭になる。底面は長軸両端から中央に向かいやや傾斜している。底部施設は検出されなかった。埋土は多量な Loam塊を壑状に混入する暗褐色土を主体とする。出土遺物は検出されなかった。



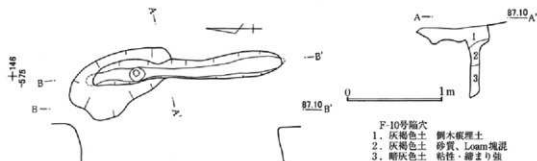
## E-9号陥穴跡 (第29図, P L.10)

調査区座標値  $X=056-058 \cdot Y=-768-769$  の範囲に位置する。平面形状は北東～南西方向に長軸をもち、長狭な溝形状を呈する。規模は長軸2.7m・短軸20cm・深さ1.14mを測り、主軸方位は  $N-17^{\circ}-W$  を示す。短軸断面形は上縁は本来さらに上位にあったものと考えられ大きく開く形状となろう。中央部付近までは壁幅がやや広いが、下半は底部までは垂直気味に落ち込み形状を呈し底面幅は極狭である。底面施設は検出されなかった。埋土はLoam粒・塊を混入する暗褐色土を主体とする。出土遺物は検出されなかった。



F-10号陥穴跡 (第30図, P L.11)

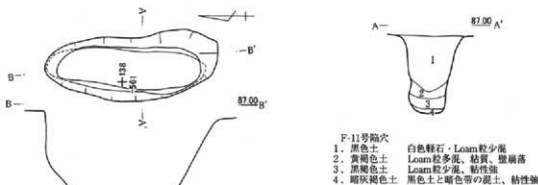
調査区座標値  $X=143\sim 145$ ・ $Y=-574\sim -575$ の範囲に位置する。北部で風倒木跡と重複し、新旧関係は本陥穴跡のほうが古い。平面形態は南北方向に長軸をもち長狭な溝形状を呈する。規模は長軸2.0m・短軸20cm・深さ74cmを測り、主軸方位は $N-10^{\circ}-W$ を示す。短軸断面形は上縁が風倒木跡の影響で明確ではないが中央部付近からは垂直に落ち込む形状を呈する。上縁は本来大きく開口する形態であろう。底面は北端に向かい緩やかに傾斜をする。北端部で円形の窪みが検出されたが、掘り込みが僅かなことから掘り込み時にできたものか底部施設として掘り込んだものかという断定には至らなかった。埋土はLoamを混入する暗褐色土を主体とする。出土遺物は検出されなかった。



第30図 F-10号陥穴跡

F-11号陥穴跡 (第31図)

調査区座標値  $X=137\sim 138$ ・ $Y=-560\sim -561$ の範囲に位置する。平面形は南北方向に長軸をもち開口部、底部ともやや長狭な楕円形を呈する。規模は長軸1.8m・短軸70cm・深さ90cmを測り、長軸方位は $N-0^{\circ}-W$ を示す。短軸断面形は開口部から中央部付近までは緩やかに広がるが、中央部付近から底部まではほぼ垂直気味に落ち込む形状を呈する。底部施設は検出されなかった。埋土はLoam塊を混入する黒色土を主体とする。出土遺物は検出されなかった。

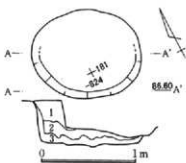


第31図 F-11号陥穴跡

## 3. 土坑

A<sub>1</sub>-19号土坑 (第32図)

調査区座標値X=180~181・Y=-823~-824の範囲に位置する。古墳前期A<sub>1</sub>-10号住居跡と重複し北半の上縁は消失する。平面形状は略円形を呈し、規模は径115×98cm、深さ48cmを測る。埋土は3層からなり、上位黒褐色土や褐色土の堆積・混入土質状況から自然埋没と考えられる。遺物は埋土中下位からチャート製石匙が出土している。



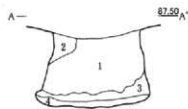
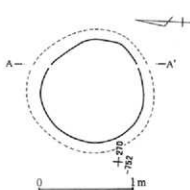
- A<sub>1</sub>-19号土坑  
 1. 黒褐色土 Loam粒少混、締まり弱  
 2. 褐色土 締まり弱  
 3. 黄褐色土 Loam主体

A<sub>1</sub>-19号土坑石器計測表

No	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g
1	石匙	チャート	3.3	4.2	0.6	7.7

第32図 A<sub>1</sub>-19号土坑・出土遺物A<sub>3</sub>-280号土坑 (第33図、P L.11)

調査区座標値X=269~270・Y=-750~-751の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈するが、上縁径より下縁径が大きく、壁線は底面より内傾して立ち上がる所謂袋状土坑であろう。上縁径1.1m・下縁径1.35m、深さ75cmを測る。埋土は大略3層からなり下位層の水平堆積に続き、大方を占める上位の埋土はLoam粒を多量に混ざる暗褐色土であり、人為的な充填の可能性もある。

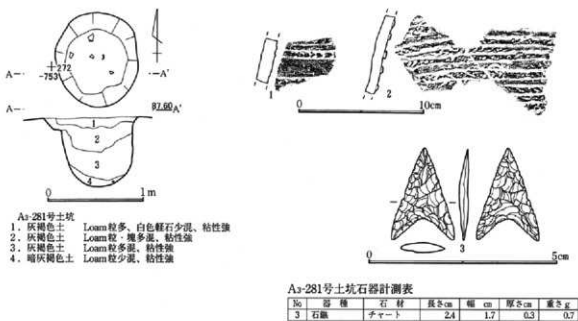


- A<sub>3</sub>-280号土坑  
 1. 暗褐色土 Loam粒多、炭化物少混、粘性あり  
 2. Loam土塊 壁面剥落  
 3. 黒褐色土 Loam粒多、炭化物少混、粘性あり  
 4. 灰褐色土 Loam粒多、炭化物少混、粘性あり

第33図 A<sub>3</sub>-280号土坑A<sub>3</sub>-281号土坑 (第34図、PL.11)

調査区座標値X=271~272・Y=-752の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈し、規模は径100×90cm、深さ73cmを測る。断面形状は底面縁部の変換が弱く緩直みをなす。埋土は4層からなり、上半に遺物の混入とともにLoam粒の混じる土壌の投入段階が考えられる。遺物は諸磯b式期の深鉢形土器片数点とチャート製石鏃が出土している。

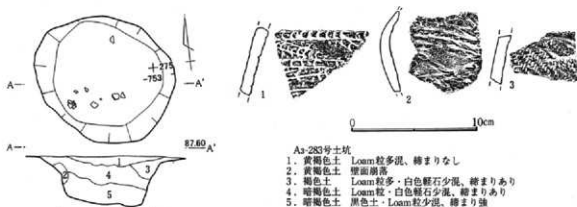
第3章 縄文時代の遺構と遺物



第34図 A3-281号土坑・出土遺物

A3-283号土坑 (第35図、P.L.11)

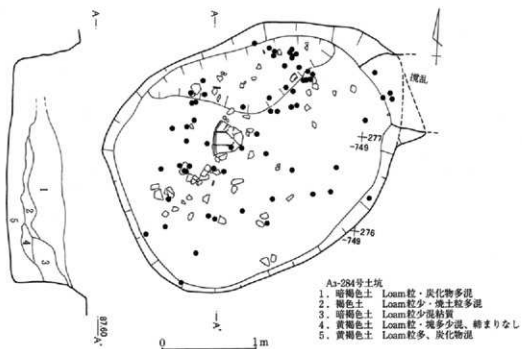
調査区座標値  $X = 274 \sim 275$ ・ $Y = -752 \sim -754$ の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈す。規模は径  $1.5\text{m} \times 1.29\text{m}$ ・深さ  $50\text{cm}$ を測り、長軸方位は  $N-50^{\circ}-W$ を示す。埋土は大別3層からなり、攪乱の混入物もなく自然埋没であろう。遺物は諸磯b式期の深鉢形土器片が数点出土している。



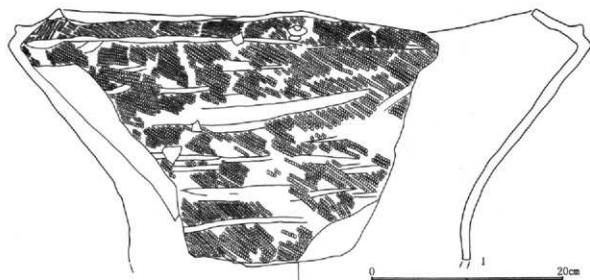
第35図 A3-283号土坑・出土遺物

A3-284号土坑 (第36～38図、P.L.12・22)

調査区座標値  $X = 275 \sim 278$ ・ $Y = -748 \sim -751$ の範囲に位置する。平面形状は北東～南西方向に長軸を持つ楕円形を呈する。規模は長軸  $3.4\text{m}$ ・短軸  $2.45\text{m}$ ・深さ  $82\text{cm}$ を測り、長軸方位は  $N-60^{\circ}-E$ を示す。遺物は諸磯b式期の深鉢形土器や小片、石鏃や剥片などの石器類が数多く出土している。他の土坑跡に比べ出土遺物が多いため祭祀的な施設である可能性も考えられるが、明確な根拠が無いためここでは土坑跡として取り上げた。



1～23は諸磯b式である。1は逆「く」の字状に屈曲した波状口縁深鉢形土器で、諸磯b式新段階に位置付けられる。波頂部には粘土瘤を貼付し、粘土瘤上にも縄文が施されている。地文はRL縄文である。2も同種の口縁部破片である。波頂部の表面には、矢羽状刻目を施した山形状浮線文区内に曲線状の浮線文を加える。本文様に対向する器の内側へ大きく屈曲した口縁部には、3本単位の弧状浮線文を施す。以下、頸部には3本単位の縦位の浮線文を施す。胴部には矢羽状刻目を施した横位の浮線文を巡らす。3・4・7～9・15・16は浮線を貼付した後に縄文を施している。3・4は波状口縁部破片で、口縁部には弧状ないしは斜位の浮線文を施している。地文はRLの縄文である。5は波状口縁で波頂部に刻目を施し、矢羽状刻目の



第36図 A3-284号土坑・出土遺物(1)



第37図 A3-284号土坑出土遺物(2)





第38図 A3-284号土坑出土遺物(3)

曲線状浮線文を構成する。13は浮線上一部に矢羽状刻目を施している。10は曲線状の浮線文と、半截竹管による波状の沈線文を施している。11は半截竹管による「C」の字状刺突文である。17・18は半截竹管による横位および斜位の沈線文である。17には補修孔がある。20・21はR L縄文である。23は底部付近の破片であり、円形竹管による「C」の字状刺突文である。26は石鏃、27は石錐、28・32は刮片、29は刮器である。30・31は両側縁部を使用した刮器である。

A3-284号土坑石器計測表

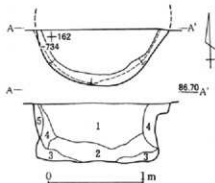
No	部種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
26	石鏃	チャート	1.9	1.5	0.3	0.6
27	石錐	チャート	欠2.7	1.1	0.7	1.3
28	刮片	チャート	1.8	0.8	0.3	0.3
29	刮器	黒色頁岩	2.7	6.2	2.6	132.0

No	部種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
30	刮器	黒色頁岩	欠4.3	4.9	1.1	23.5
31	刮器	黒色頁岩	欠5.1	欠5.7	欠1.2	50.6
32	刮片	黒色安山岩	5.3	3.1	1.2	12.1

D<sub>3</sub>-174号土坑 (第39図)

調査区座標値  $X=163 \cdot Y=-733$  の範囲に位置する。旧石器試掘調査によって検出され、北半は消失している。平面形状は径約1.4mの略円形を呈すと考えられる。深さ60cmを測る。断面形状は、底面縁辺が挟れて壁面の立ち上がりは緩く内傾する袋状土坑に類しよう。埋土は大別2層で黒褐色土を主体とし、底面及び上半部壁際には崩落土が見られる。出土遺物はない。



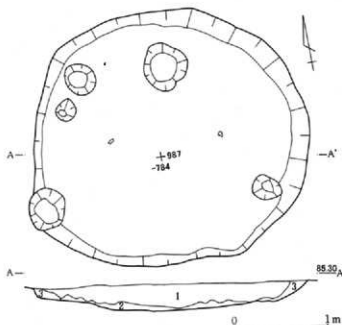
第39図 D<sub>3</sub>-174号土坑

D<sub>3</sub>-174号土坑

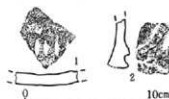
1. 黒褐色土 白色軽石多、褐色土・Loam斑点状に混
2. 暗褐色土 白色軽石少、褐色土・Loam斑点状に多混
3. 明褐色土 暗褐色土とLoam土の混合
4. 褐色土 黄褐色土とLoam土の混合
5. 黄褐色土 Loam土に黒褐色土少量

E<sub>2</sub>-359号土坑 (第40図、P L.12)

調査区座標値  $X=985 \sim 988 \cdot Y=-782 \sim -785$  の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈するが規模・掘形形態から堅穴状とすべき遺構である。径2.7×3.0m・深さ30cmで壁面の立ち上がりは緩く断面形状は皿形を呈する。数個の小穴が検出されているが当跡に付随するかは不明である。埋土は大別2層で腐食の進まないLoam漸移層的な堆積土である。出土遺物は少量の土器片である。



第40図 E<sub>2</sub>-359号土坑・出土遺物

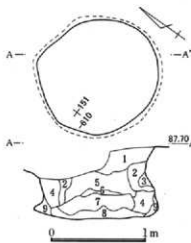


E<sub>2</sub>-359号土坑

1. 暗褐色土 Loam粒・塊混
2. 褐色土 Loam粒・塊混
3. 暗褐色土 Loam粒・塊混

F-161号土坑 (第41図、P L.12)

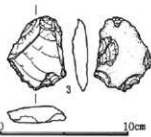
調査区座標値  $X=150 \sim 151 \cdot Y=-608 \sim -610$  の範囲に位置する。平面形状はほぼ円形を呈し、上縁径より底面下縁の径が勝る。断面形状から、壁面はやや内傾気味に立ち上がり所謂袋状土坑にならうか。規模は上縁径1.25m・下縁径1.35m・深さ74cmを測る。埋土は大略9層になりほぼ水平堆積を示すが、壁際では垂直方向または塊状の堆積が観察され壁面の崩落が考えられる。遺物には少量の出土ながら諸磯b式期深鉢形土器片や石鏃がある。



第41図 F-161号土坑・出土遺物

- F-161号土坑  
 1. 明黄褐色土  
 2. 明灰褐色土  
 3. 明灰褐色土  
 4. 明褐色土  
 5. 明褐色土  
 6. 暗褐色土  
 7. 黒色土  
 8. 明褐色土  
 9. 黄色土

- Loam粒・白色軽石多混  
 Loam粒・塊少混  
 Loam塊・白色軽石多混  
 Loam粒・塊少混  
 Loam粒・白色・青色軽石多混  
 Loam粒・白色・黄色軽石混  
 Loam塊・黄色軽石混  
 Loam塊多・黄色軽石混  
 Loam土に明灰褐色土混、下位壁崩落

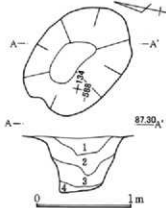


F-161号土坑石器計測表

品	器種	石材	長さcm	幅 cm	厚さcm	重さg
2	石鏃	チャート	1.8	1.9	0.3	0.8
3	石鏃	黒色頁岩	欠 5.6	欠 4.6	1.3	37.3

F-164号土坑 (第42図、P L.12)

調査区座標値X=133~134・Y=-587~-588の範囲で古墳前期F-77号住居跡内に位置する。平面形状は東西に長軸をもつ楕円形を呈する。長径1.3m・短径90cm・深さ60cmを測る。長軸方位はN-60°-Wを示す。埋土は大別3層よりなるが上位層中にC軽石粒の混入がある。出土遺物はない。



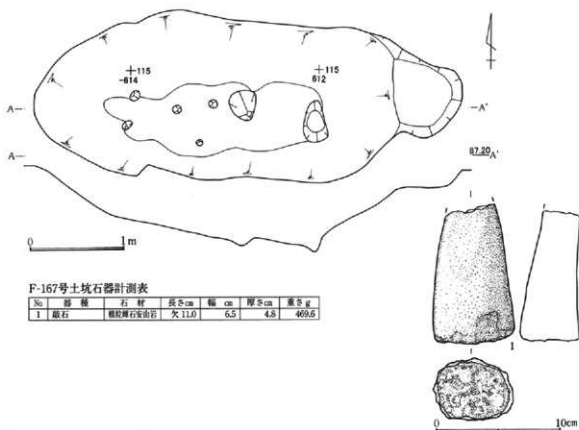
第42図 F-164号土坑

- F-164号土坑  
 1. 暗灰褐色土 砂質、C軽石混  
 2. 灰褐色土 やや粘性  
 3. 灰褐色土 やや粘性  
 4. 赤褐色土 粘性強

F-167号土坑 (第43図、P L.12)

調査区座標値X=113~115・Y=-610~-614の範囲に位置する。平面形状は東西方向に長軸をもつ楕円形を呈する。規模は長軸4.6m・短軸1.75m・深さ94cmを測る。長軸方位はN-88°-Eを示す。底面はすり鉢状に窪んで不安定な形状をなし人為的遺構としての認定に遑巡する面もある。出土遺物は埋土中よりスタンプ状敲石がある。

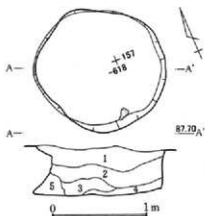
第3章 縄文時代の遺構と遺物



第43図 F-167号土坑・出土遺物

F-178号土坑 (第44図、P.L.13)

調査区座標値  $X = 165 \sim 157 \cdot Y = -617 \sim -618$  の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈する。径1.36 m・深さ50cmを測る。埋土は底面近くに崩落と考えられるLoam土塊があり、上位はほぼ水平堆積になる。出土遺物はない。



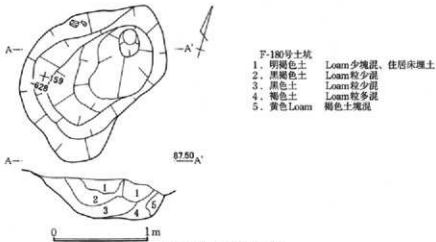
第44図 F-178号土坑

F-178号土坑

1. 明灰褐色土 Loam大粒多・白色軽石少混
2. 灰褐色土 Loam大粒多・白色軽石少混
3. 暗灰褐色土 Loam大粒少・白色軽石少混
4. 灰褐色土 Loam大粒少・黄色軽石少混
5. 暗褐色土 Loam大粒少・黄色軽石少混

F-180号土坑 (第45図)

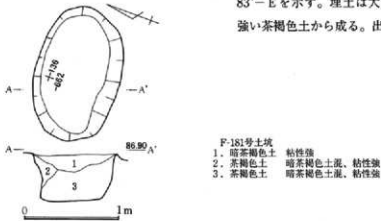
調査区座標値  $X = 158 \sim 159 \cdot Y = -626 \sim -628$  の範囲にあり、古墳時代前期F-61号住居跡に重複する。平面形状は不整楕円形を呈し、長軸1.9m・短軸1.2m・深さ40cmを測る。長軸方位は  $N - 8^\circ - W$  を示す。埋土は大別3層からなり、Loam粒・塊の混入が多い。東縁底部には壁面崩落を思わせるLoam大塊が見られる。出土遺物はない。



第45図 F-180号土坑

F-181号土坑 (第46図, P.L.13)

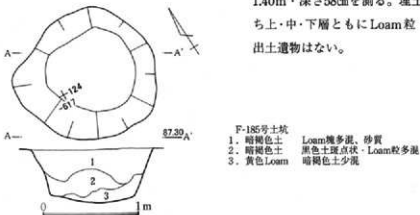
調査区座標値  $X=135\sim136 \cdot Y=-661\sim-662$  の範囲にあり、古墳時代前期F-91号住居跡に重複する。平面形状は東西方向に長軸をもつ楕円形を呈する。長軸1.45m・短軸90cm・深さ50cmを測る。長軸方位は  $N-83^{\circ}-E$  を示す。埋土は大別2層に分ち粘性の強い茶褐色土から成る。出土遺物はない。



第46図 F-181号土坑

F-185号土坑 (第47図)

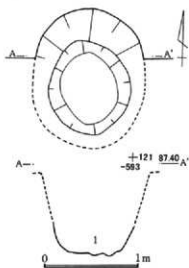
調査区座標値  $X=123\sim124 \cdot Y=-616\sim-617$  の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈し、径1.52×1.40m・深さ58cmを測る。埋土は大別3層に分ち上・中・下層ともにLoam粒・塊の混入が多い。出土遺物はない。



第47図 F-185号土坑

F-188号土坑 (第48図、P L.13)

調査区座標値  $X=121\sim 122$ ・ $Y=-592\sim -594$ の範囲に位置する。旧石器試掘溝の調査で判明したもので南側の上部大半は削平されている。平面形状は略円形を呈し、復元上縁径 $1.5\times 1.2$ m・深さ約70cmになろう。埋土は最下層のみ観察され、やや粘性のある褐色土が堆積する。出土遺物はない。

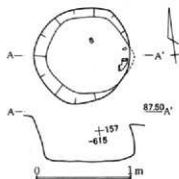


F-188号土坑  
1. 暗褐色土 やや粘性、白色軽石混

第48図 F-188号土坑

F-190号土坑 (第49図、P L.13)

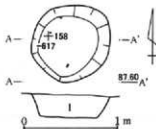
調査区座標値  $X=157\sim 158$ ・ $Y=-614\sim -615$ の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈し、径1.0m・深さ52cmを測る。底面は平坦で東縁はやや抉れ、壁面は内湾気味に立ち上がる。出土遺物は前期諸磯b式期土器片が数点ある。



第49図 F-190号土坑・出土遺物

F-191号土坑 (第50図、P L.13)

調査区座標値  $X=157\sim 158$ ・ $Y=-616\sim -617$ の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈し、径 $82\times 85$ cm・深さ24cmを測るが、上面面での削平は著しいと思われる。埋土はLoam塊の混入する褐灰色砂質土単層である。出土遺物には小さな石片と縄文土器片がある。

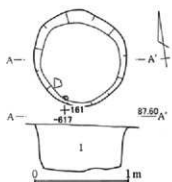


F-191号土坑  
1. 褐灰色土 砂質、Loam粒混

第50図 F-191号土坑

## F-192号土坑 (第51図、P.L.13)

調査区座標値  $X=161\sim 162$ ・ $Y=-616\sim -617$ の範囲に位置する。平面形状は円形を呈し、径 $1.04\times 0.92$  m・深さ50cmを測る。埋土はF-191号に同じくLoam塊の混入する砂質土の単層である。出土遺物は縄文土器片と石片がある。



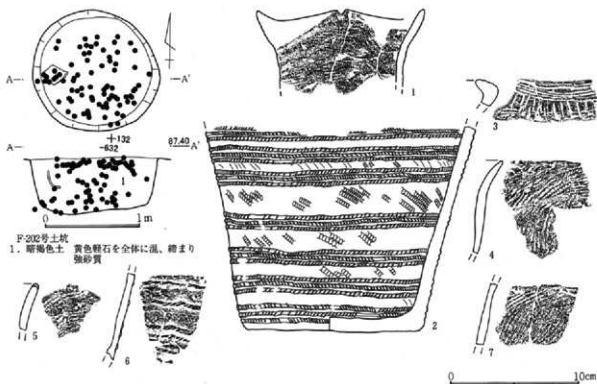
F-192号土坑

1. 褐色色土・Loam粒・白色軽石混

第51図 F-192号土坑

## F-202号土坑 (第52・53図、P.L.13・15・24)

調査区座標値  $X=132\sim 133$ ・ $Y=-631\sim -632$ の範囲に位置する。平面形状は円形を呈する。規模は径1.3m・深さ56cmを測る。埋土は暗褐色砂質土主体で全体に黄色軽石を均一に含み、締まりが強い。遺物は諸磯b式期深鉢形土器片、石器類が出土しているが注目されるものには群馬県西部の鍋川流域に産する牛伏砂岩製涙滴形垂飾がある。石器類は土坑底面から上面にいたる埋土全体から出土している。また、採取した土坑埋土の洗い出しによってチャートや黒曜石、頁岩などの剥片及び極小剥離片が多量に検出された。これらのことから土坑の性格については石器製作に関わる廃棄坑の要素が強い。しかし、土器や装飾的石製品の内容は墓跡や祭祀的施設である可能性も捨てきれない。

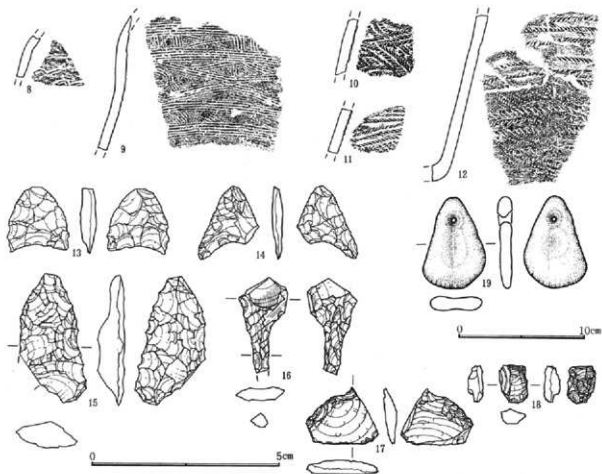


F-202号土坑

1. 暗褐色土・黄色軽石を全体に混、締まり強砂質

第52図 F-202号土坑・出土遺物(1)

第3章 縄文時代の遺構と遺物



第53図 F-202号土坑出土遺物(2)

F-202号土坑出土遺物 (第52・53図、P.L.24)

1～3・5・6・8～12は諸磯b式である。1は波頂部に刻目を施した波状口縁部の破片である。浅いR Lの縄文が施されている。2は3条単位の矢羽状刻目を施した平行浮線文で、地文はR Lの縄文である。3は半載竹管による横位と縦位の沈線文である。4・7は同一個体の破片の可能性があろう。4は波頂部に刻目を施した波状口縁部の破片である。無筋Lの縄文である。5も波頂部に刻目を施した山形状の口縁部破片である。無筋Lの縄文である。6は左下がり斜位の刻目を施した平行浮線文である。9は頸部から胴部にかけての破片で、諸磯b式新段階の資料である。頸部には半載竹管による縦位と「X」の字状沈線文を施している。以下、胴部には横位多段の沈線文間に、横位蕨手状沈線文と変形状沈線文を挿入している。また、変形状文内には縦位の沈線文を施している。一部、矢羽状刻目を施した浮線文となっている。地文はR Lの縄文である。12は胴下半部から底部にかけての破片である。地文はR Lの縄文である。

13～15は石鏃であり、14は正面右脚を欠損している。15は正面左脚を欠損している。調整加工が粗く、未製品の可能性があろう。16は先端部を欠損した石錐である。17は両面から刃部加工を施した刮器の欠損品である。18は小型の両端剥離石器である。19は中央部を砥石として使用され、穿孔を施した垂飾りである。

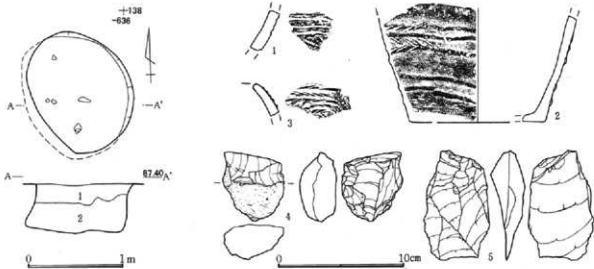
F-202号土坑石器計測表

No	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
13	石鏃	チャート	1.7	1.6	0.4	1.4
14	石鏃	チャート	1.9	1.6	0.3	0.7
15	石鏃	チャート	3.5	1.8	0.7	3.7
16	石錐	黒曜石	2.6	1.3	0.4	1.0
17	刮器	黒色頁岩	5.7	4.4	1.1	24.3
18	両端剥離石器	チャート	2.9	2.2	1.2	7.4
19	垂飾	牛伏砂岩	7.3	5.0	1.2	38.9



## F-204号土坑 (第54図、P.L.14・25)

調査区座標値  $X=136\sim 137$ ・ $Y=-635\sim -637$ の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈し、規模は径  $1.25\times 1.05\text{m}$ ・深さ  $50\text{cm}$ を測る。底縁の西半に小さく抉れを生じ、壁面の立ち上がりは緩く内傾するが袋状土坑には属さないであろう。堀土は大別2層で水平堆積をなす。遺物は諸磯b式期深鉢形土器片、石器類が数点出土している。



## F-204号土坑

1. 灰褐色土 白色軽石少混、砂質  
2. 暗灰褐色土 白色軽石少混、砂質粘まり強

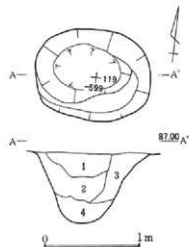
## F-204号土坑石器計測表

No	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
4	土器片	黒色頁岩	5.5	4.8	2.9	78.6
5	土器片	チャート	2.9	1.7	0.9	3.3

第54図 F-204号土坑・出土遺物

## F-205号土坑 (第55図、P.L.14)

調査区座標値  $X=118\sim 119$ ・ $Y=-598\sim -599$ の範囲に位置する。平面形状は東西方向に長軸をもつ楕円形を呈する。長軸  $1.2\text{m}$ ・短軸  $96\text{cm}$ ・深さ約  $70\text{cm}$ を測り、断面形状は底縁が曲線的で深いすり鉢状になる。長軸方位は  $N-84^{\circ}-E$ を示す。堀土は大別4層からなり、最下層以外はLoam粒・塊の混入がなく自然堆積と考えられる。出土遺物はない。



## F-205号土坑

1. 暗灰褐色土 白色軽石混  
2. 暗灰褐色土 白色軽石多混  
3. 灰褐色土 白色軽石混  
4. 灰褐色土 白色軽石混、やや粘性

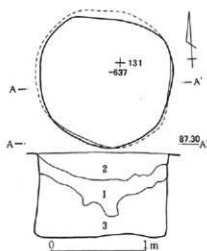
第55図 F-205号土坑

第3章 縄文時代の遺構と遺物

F-207号土坑 (第56図、P.L.14)

調査区座標値  $X = 130 \sim 131 \cdot Y = -636 \sim -637$  の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈し、径1.4m・深さ90cmを測る。底縁は小さく抉れを生じる箇所もあり袋状土坑を思わせるが、壁面の立ち上がりは総じて垂直に近い。埋土は大別3層に分かつが、すり鉢状堆積である。出土遺物はない。

- F-207号土坑  
 1. 灰褐色土 白色軽石混、砂質  
 2. 暗灰褐色土 白色軽石混、砂質  
 3. 灰褐色土 白色軽石混、砂質

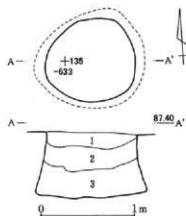


第56図 F-207号土坑

F-208号土坑 (第57図、P.L.14)

調査区座標値  $X = 134 \sim 135 \cdot Y = -632 \sim -633$  の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈し、底縁近くが大きく抉れて壁面が内傾して立ち上がる袋状土坑の形態に似る。上縁径95×90cm・底縁径1.2×1.0m・深さ70cmを測る。埋土は大別3層からなり、水平堆積を見せる。出土遺物はない。

- F-208号土坑  
 1. 灰褐色土 白色軽石少量、砂質  
 2. 暗灰褐色土 白色軽石少量、砂質  
 3. 暗灰褐色土 砂質

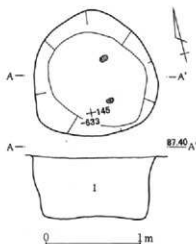


第57図 F-208号土坑

F-213号土坑 (第58図、P.L.14)

調査区座標値  $X = 144 \sim 146 \cdot Y = -632 \sim -633$  の範囲に位置する。平面形状は略円形を呈し、径1.4m・深さ66cmを測る。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。埋土はほぼ単層からなり比較的締まった暗灰褐色土である。出土遺物は小剥離石片数点である。

- F-213号土坑  
 1. 暗灰褐色土 砂質

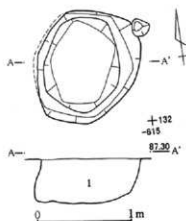


第58図 F-213号土坑

## F-217号土坑 (第59図、P.L.14)

調査区座標値  $X=132 \sim 133$ ・ $Y=-615 \sim -616$ の範囲に位置する。平面形状は不定円形を呈し、径 $1.34 \times 1.02$  m・深さ約50cmを測る。埋土は大別1層である。出土遺物はない。

F-217号土坑  
1. 暗灰褐色土 As-YP混

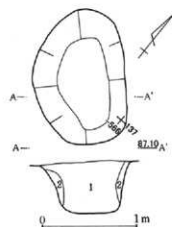


第59図 F-217号土坑

## F-220号土坑 (第60図)

調査区座標値  $X=136 \sim 137$ ・ $Y=-565 \sim -567$ の範囲に位置する。平面形状は楕円形を呈し、長軸 $1.41$  m・短軸 $98$  cm・深さ $52$  cmを測る。長軸方位は $N-41^{\circ}-W$ を示す。断面形状はややU字形に近い。埋土は大別1層でやや砂質の黒褐色土である。出土遺物はない。

F-220号土坑  
1. 黒褐色土 Loam粒・白色軽石 (As-YP) 少混  
2. 暗褐色土 Loam粒多混、礫土



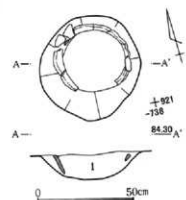
第60図 F-220号土坑

## 4. 埋甕

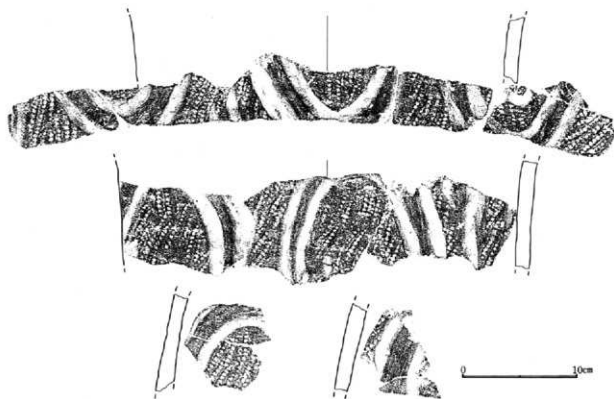
## E-302号埋甕跡 (第61・62図、P.L.15・25)

調査区座標値  $X=920$ ・ $Y=-738$ の範囲に位置する。遺跡地内では最も南部域で埋没谷地形の東縁辺にある。同域には縄文前期E-202号住居跡がある。埋設土器は縄文中期加曾利E期のもと考えられる深鉢形土器である。検出時は口縁部から僅か下位の胴部分幅約10cmがほぼ全周するタガ状で埋設されていたが、上位部の削平による依存部とも考えられる。埋設掘り込みは径50cm・深さ15cmほどの小すり鉢形状である。依存する埋甕内の土中には炭・焼土などは含まれていない。

E-302号埋甕跡  
1. 暗褐色土 黒色土・Loam粒多混



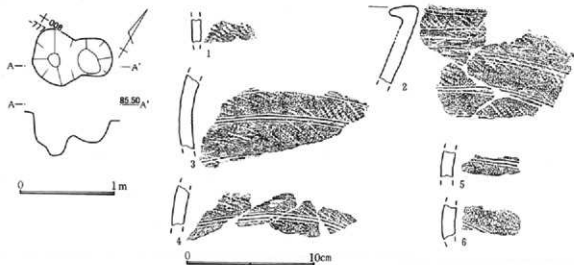
第61図 E-302号埋甕跡



第62図 E-302号埋藏跡出土遺物

E-377号埋藏跡 (第63図、P.L.15・25)

調査区座標値X=007・Y=-776の範囲に位置する。掘形平面形状は連結する小穴で各径40~60cm・深さ30~50cmほどである。埋設されていたと考えられる土器は縄文前期諸磯期の浅鉢形土器の破片を主にしてゐる。ただし、調査の不手際で埋設状況を証する図・写真等は残されていない。



第63図 E-377号埋藏跡・出土遺物

A<sub>1</sub>-19号土坑出土遺物 (第32図、P L.21)

1は乳白色からやや黄色味を帯びたチャート製横長剥片を素材とした横型石匙である。握み部上端には自然面を残している。刃部両面から刃部加工を施している。

A<sub>2</sub>-281号土坑出土遺物 (第34図、P L.21)

1は半截竹管による沈線文と、「C」の字状刺突文を施した諸磯b式である。沈線文間は無文となる。2は胴部破片である。平行多段の浮線文を巡らし、浮線には縄文を施す。地文にはRLの縄文を施す。諸磯b式である。

3は石鏃である。

A<sub>2</sub>-283号土坑出土遺物 (第35図、P L.21)

1は半截竹管により横位と斜位の沈線を施し、「C」の字状刺突文を付加した諸磯b式である。2も同時期の破片である。口縁部は矢羽状刻目を施した横位と斜位、ないしは曲線状の浮線文を施す。頸部には同種の施文方法で、斜位の刻目を施した「X」の字状浮線文を挿入している。3は特殊な原体とも思われるが、単節のRL縄文と判断した。諸磯式であろう。

E<sub>2</sub>-359号土坑出土遺物 (第40図、P L.23)

1・2ともに胎土に雲母を含んだ阿玉台式である。1は爪形刺突文、2は断面三角形の隆起線で「Y」の字状文を構成している。

## F-161号土坑出土遺物 (第41図、P L.23)

1は半截竹管による沈線文で、地文はRL縄文の諸磯b式である。2は小型の石鏃である。3は交互剥離の削器で破損品と思われる。

## F-167号土坑出土遺物 (第43図、P L.23)

1は河原石を使用したスタンプ状燧石である。基部は欠損している。底面には敲打痕が認められるが、中央部が凸状になり、磨石として使用された痕跡は確認できない。また、底面から側面にかけて、使用によると思われる破損がある。

## F-190号土坑出土遺物 (第49図、P L.23)

1は波状口縁の小型深鉢形土器で、諸磯b式である。口縁部は逆「く」の字状に屈曲する。口縁に沿って矢羽状と、右下がり斜位の刻目を施した2条の横位浮線文を巡らす。上下の浮線文間には弧状の浮線文を挿入する。さらに、頸部以下には矢羽状刻目を施した横位の浮線文を巡らす。地文はRLの縄文である。

## F-204号土坑出土遺物 (第54図、P L.25)

1は半截竹管による沈線文で地文はRL縄文である。2は矢羽状刻目を施した平行浮線文の諸磯b式である。4は調整剥片の破損品である。5は剥片である。

## E-302号埋壘跡出土遺物 (第62図、P L.25)

曲線状の沈線文で区画された磨消縄文の加曾利E4式深鉢形土器である。地文はLR縄文である。

## E-377号埋壘跡出土遺物 (第63図、P L.25)

1～6は同一個体の破片と思われる。半截竹管により横位多段の沈線文を施し、地文は附加条の縄文で諸磯b式である。

## 第3節 縄文時代の遺物

## 遺構外の出土遺物（土器・石器）

## 1. 土器（第65～88図、P.L.26～46）

舞台遺跡からは縄文時代の遺構に直接かかわらない遺構外から多量の土器片が出土している。その総数は4700点以上を数える。数量はあるものの、その帰属する時期は早期から後期までの長期間に渡って確認されている。

時期的に見ると古い段階の土器である早期熱系文系土器がG区谷地縁辺部で少量ではあるが比較的まとまって出土が認められている。しかし、土器片の多くは摩滅が著しく残存状態は良好ではない。

前期に属すると考えられる土器は遺跡地内全体からの出土が認められ、その数量は全時期を通じてもっとも多い。これら前期に属する土器のほとんどは諸磯b式期に属するものと考えられる。この傾向は本遺跡や隣接する三和工業団地I遺跡が前期諸磯b式期の集落跡を中心に展開していることと深く関係していると考えられる。ただし、当該期の土器は谷地内からの出土は極めて少ない。

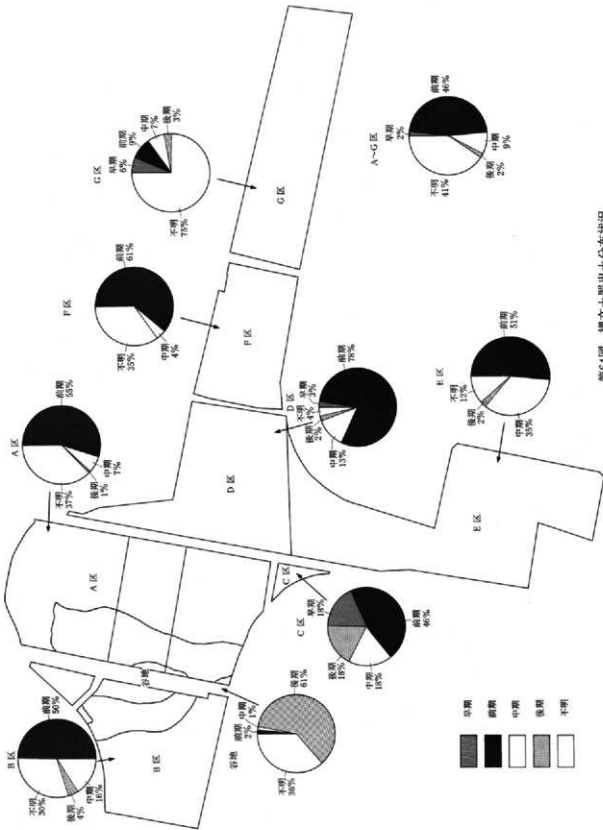
舞台遺跡の北東方に位置する「あまが池」の周辺部には天ヶ堤遺跡など中期の集落が大規模に展開する様相を呈する。しかし、本遺跡では中期に属する遺構は極めて少なく、居住域としての遺構は希薄である。土器そのものも調査区全体でも数量は少なく、周辺の遺跡分布状況とは対照的である。

本遺跡から出土した後期に属する土器の総数は1500点以上になる。このうち9割以上がA・B両区を分け、遺跡地の西半を南北方向に縦断する谷地部からの出土である。この傾向は、台地上や谷地地形の形成時期自体には時間差が無いと考えられるG区谷地部でも確認された当該期土器は僅かな量である。これら出土土器の器面状態を見ると、その多くには流動・転移などによる摩滅があまり認められない。このことから、本遺跡より以北の近接地帯に縄文後期集落跡が存在する可能性が高いと考えられる。

ここでは、土器を時期別に分け、各区からの出土数を示し、出土した土器のうち比較的残存状況の良好なものを区毎に掲載する。

縄文土器時期別遺構外出土数

調査区	早期	前期	中期	後期	不明	合計
A1～A3区	0	195	24	0	0	219
B区	0	62	20	5	38	125
C区	2	5	2	2	0	11
D区	5	157	25	4	7	198
E区	0	88	59	4	20	171
F区	0	504	59	1	285	849
G区	37	51	42	17	443	590
谷地部	2	42	30	1483	881	2438
合計	46	1104	261	1516	1674	4601

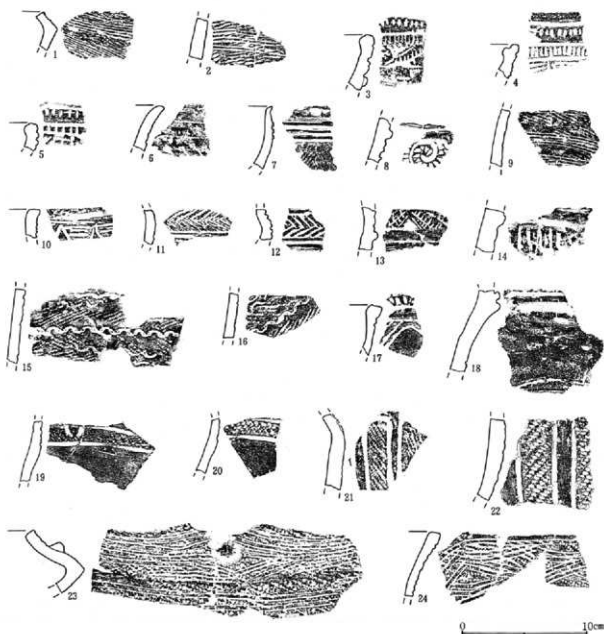


第64図 縄文土器出土分布状況

A区遺構外出土土器 (第65・66図、P L.26・27)

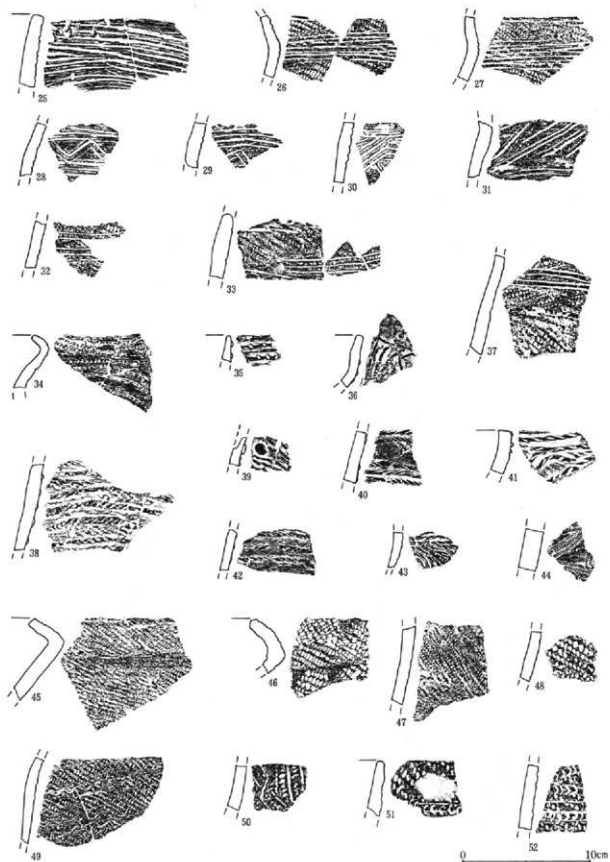
第65図1・9は地文縄文の集合条線文の諸磯b式である。2は半載竹管沈線の諸磯b式である。3・4・5・8・10は口唇上に刻目を施し、口縁部には曲線や山形状沈線及び刻目を施した五領ヶ台式である。さらに3・13は三角除刻文を施している。11・12は矢羽状沈線の五領ヶ台式である。14は勝板式である。15・16は縦線文の五領ヶ台式である。17は阿玉台式、18は堀之内2式、19・20は加曾利B 2式、21・22は加曾利E 3式である。23は粘土瘤の貼付と集合条線文で幾何学系文様を施した、諸磯b式の口縁部破片である。24は小波状口縁部破片で、波頂部の口唇上には円形の凹みを施した諸磯b式である。

第66図25・44は諸磯b式である。25は半載竹管平行沈線、26・27・32・33は同種の文様で地文はR L縄文である。28・29は半載竹管で平行沈線間に波状ないしは鋸歯状の沈線文を施す。30・31は半載竹管で斜位の



第65図 A区出土遺物(1)





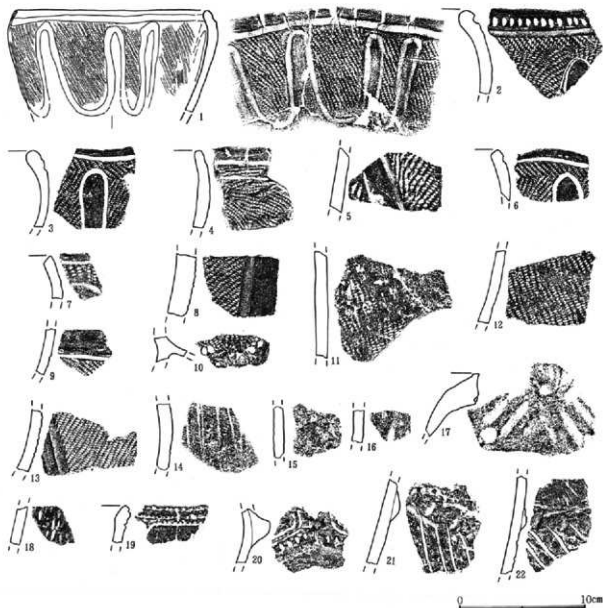
第66図 A区出土遺物(2)

第3章 縄文時代の遺構と遺物

沈線文を構成する。34は内湾した波状口縁部破片で、半載竹管で刺突を施す。36は山形状の波状口縁部破片で、浮線文と縄文を施す。37は半載竹管平行沈線文で、地文はL RとR L縄文である。38は浮線上に縄文を施している。39は粘土瘤を貼付し、浮線上に矢羽状の刻目を施している。41は地文R Lの縄文である。44は矢羽状刻目の浮線文に、列点文を施している。45・47・49はR L縄文の諸礎式である。50は附加条の縄文である。

B・C区遺構外出土土器 (第67図、P.L.27・28)

第67図1～4・6・7は曲線状沈線により区画された磨消縄文の加曾利E 4式である。2は口縁部に沿って刺突文を施す。5・8は垂下する沈線区画の磨消縄文の加曾利E 3式である。11・12はR L縄文で後期段階の胴部破片である。13は断面三角形の微隆起線線で区画し、地文L R縄文の加曾利E 4式である。14は後期



第67図 B・C区出土遺物

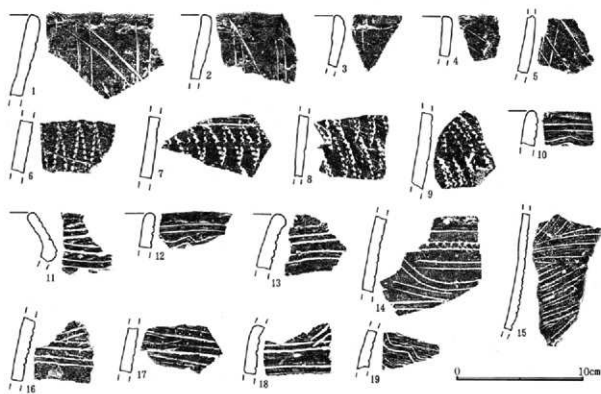
段階の沈線文である。17は突起をもち、両端の刺突と斜位の沈線文堀之内1式の口縁部破片で、内面にも弧状の沈線を施す。口唇上は一部剥落している。18は節の粗い燃糸文土器破片である。19・20は阿玉台2式である。21・22は押圧を加えた隆帯と斜位沈線文を施した後期の胴部破片である。

#### D区遺構外出土土器（第68～70図、P.L.28・29）

第68図1・2・4・5は半載竹管で縦位と斜位の沈線で格子目文を施した後期の資料である。3は無文である。6～9は貝殻交互刺突文の浮島2式である。10～19は半載竹管横位と波状ないしは斜位の沈線を施した諸磯b式である。特に、14は「C」字状刺突を施している。

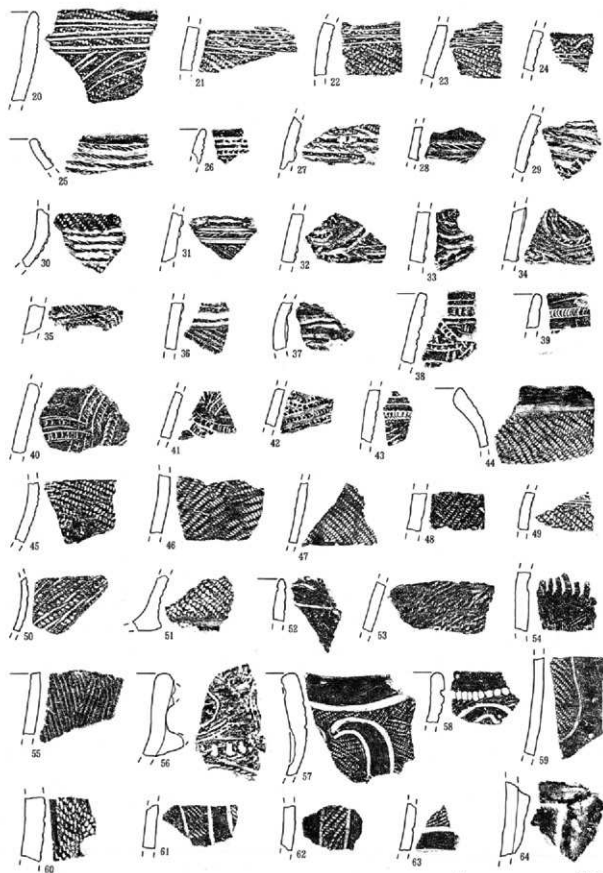
第69図20～42は諸磯b式である。20～24は地文R Lの縄文で、半載竹管による横位ないしは斜位の沈線文である。24は縄文本体の半環状縄目が認められる。25・30は横位の浮線上へ右下りの刻目を、27は浮線上に縄文を施し、28・29は矢羽状刻目の平行浮線文、32～34は曲線状の浮線に刻目を、35は地文R L縄文で、矢羽状刻目を加えた浮線文に列点を施す。38～41は半載竹管による沈線に、「C」字状刺突を施す。43は「C」字状刺突と貝殻交互刺突文を施した浮島式との混合文様である。44は加曾利E 4式である。45・47・49はR L縄文の諸磯式である。46はL R縄文、50は附加条の縄文で後期段階の資料と思われる。51はR L縄文で胴下半部から底部にかけての破片である。52は加曾利B式、54は阿玉台2式である。56は橋状把手で刺突を施す阿玉台2式である。57・59は波状口縁部破片で、曲線状磨消縄文を構成する称名寺1式である。60～62は加曾利E 3式、64は断面三角形隆起線を貼付した阿玉台2式である。

第70図65・66は断面三角形隆起線を貼付した阿玉台2式、68・69は円形竹管で2条の角押文の阿玉台2式である。70・71は燃糸文土器の底部付近ないしは底部の破片である。72は磨消縄文の加曾利B式である。74

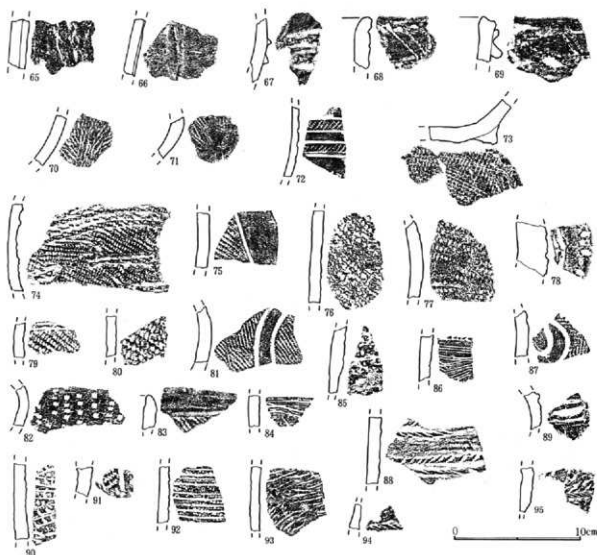


第68図 D区出土遺物(1)

第3章 縄文時代の遺構と遺物



第69図 D区出土遺物(2)

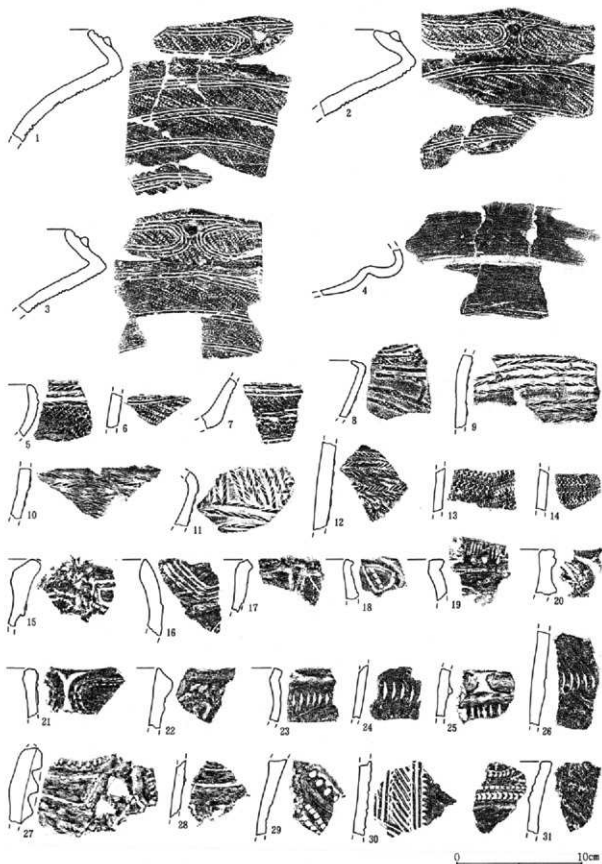


第70図 D区出土遺物(3)

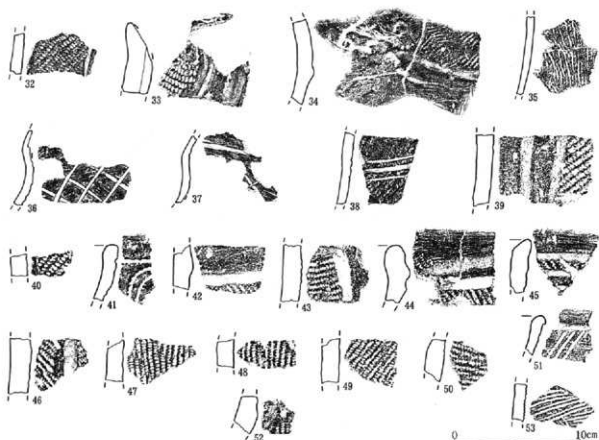
は平行浮線にR L縄文を施した諸磯b式である。75・81・87は曲線状磨消縄文の称名寺1式である。78は朝顔形突起破片に刻目を施した阿玉台2式である。82は方形棒状工具による刺突文で浮島式類似資料と思われる。88・95は矢羽状刻目を施した浮線文、90は半截竹管沈線と「C」字状刺突を施した諸磯b式である。

#### E区遺構外出土土器(第71・72図、P L.30・31)

第71図1～3は同一個体であろう。逆「く」の字状に屈曲した波状口縁部から胴部にかけての大形破片である。波頂部に円形粘土層を貼付し、口縁部には半截竹管沈線による楕円区画の諸磯b式である。地文はR L縄文である。4は無文の浅鉢で諸磯式である。5・9～12は矢羽状刻目を施した浮線で諸磯b式である。5はL R縄文で末端結束である。6・7は半截竹管沈線で地文R L縄文、8は浮線上にR L縄文を施した諸磯b式である。13・14は貝殻刺突文で浮島式である。15～18は阿玉台2式、16・17は隆帯文で、19は口唇上に刻目を施し、口縁部に沿って刺突を加えた五領ヶ台式である。21は窓枠区画で2条の刺突列を施し、23・24・26は横位爪形文、25は「X」の字状区画で、以下爪形区画を施した阿玉台式である。27は口唇上に刻目、隆線部に1条の角押文を施した阿玉台1式、29は波状口縁で刻目と2条の角押文の阿玉台2式である。30は



第71図 E区出土遺物(1)



第72図 E区出土遺物(2)

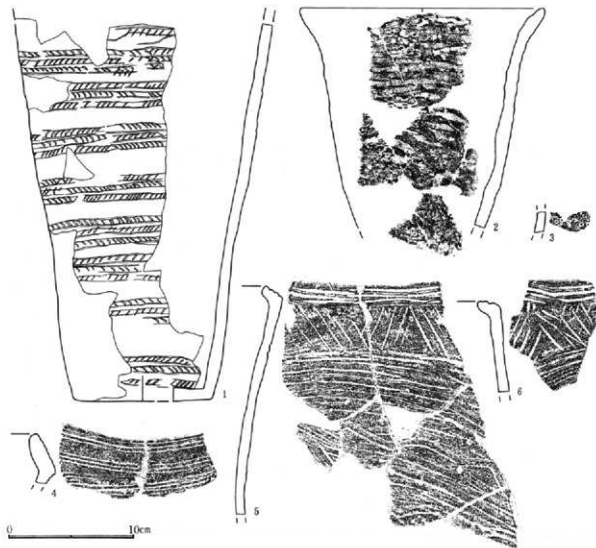
縦位と横位の沈線で区画し、斜位沈線を施す。さらに、沈線の脇に刺突を施し五領ヶ台式である。31は内面に角押文を施した阿玉台1式の浅鉢である。

第72図32・33は加曾利E3式、34は橋状把手口縁部破片である。微隆起線で区画し、L R縄文を施した加曾利E4式である。35は熱糸文土器と思われる。36・37は同一個体で、格子目沈線文で加曾利B1式である。39・40・42・44・46は加曾利E3式、41・51は2～3条の角押文の阿玉台2式、53は半載竹管沈線の諸磯b式である。

#### F区遺構外出土土器(第73～77図、P.L.31～36)

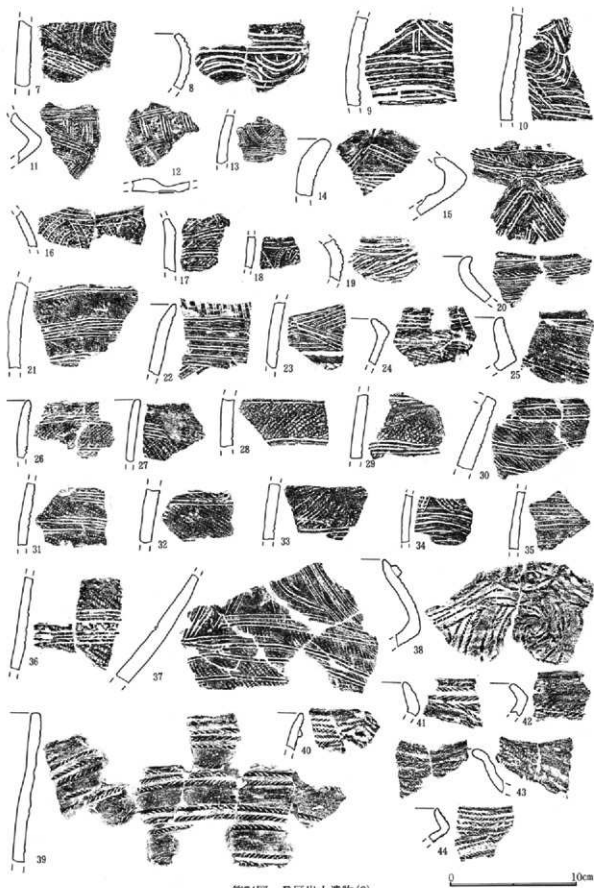
第73図1は矢羽状刻目を施した3条単位の平行浮線文の諸磯b式である。2は無文の諸磯式である。3は円形竹管刺突文の諸磯a式である。4～6は半載竹管沈線の諸磯b式であり、5・6は口縁部に罌菌状文様を加えている。第74図7～10・14・15・19・22・23は半載竹管で平行沈線や菱形、曲線文を施した諸磯b式である。22は口唇直下に縦位の沈線を施している。12は半載竹管多条の沈線間に縦位の沈線を施した諸磯b式である。16・18・34は半載竹管で横位や曲線状の沈線を描き、「C」の字状刺突文を施した諸磯b式である。20・21・26・31・32・36は地文に縄文を施し、集合条線文の諸磯b式である。37は半載竹管で横位ないしは罌菌状の沈線、地文にR L縄文を施している。38は波状口縁の波頂部に粘土瘤を貼付している。口縁部には矢羽状刻目を施した浮線で幾何学系の文様を構成している諸磯b式である。40も粘土瘤を貼付している。39・41・44は矢羽状刻目を施している。第75図45・46・48・50・51～58・60～68・70・73は、矢羽状刻目多

条浮線文の諸磯b式である。51は円形浮線文が施されている。65も曲線状の浮線文が認められる。60・63は刻目を施さない浮線文部分がある。50・51・54・55・57・60・63・73は地文がR Lの縄文である。47は半載竹管による「C」の字状刺突文、49は粘土瘤を貼付した諸磯b式である。59は左下り斜位の刻目を施した浮線文、71・72は同一個体であり、横位と縦位の浮線文に列点を施した諸磯b式である。第76図75～81は矢羽状刻目を施した横位多条浮線文である。83・85・86・88は逆「く」の字状に屈曲した口縁部破片で、R L縄文を施した諸磯b式である。85は剥落しているが、波頂部に粘土瘤を貼付し、84も同様である。89は2条の列点文を施している。94～96は胴下半部から底部にかけての破片で諸磯式である。99・100は口縁部に凹凸文を施し、101～103は貝殻交互刺突文で、108は棒状工具で刺突文を施した浮島式である。111・113～115は半載竹管押し文の諸磯b式である。第77図117・119は後期の無文口縁部破片である。118・121・122・132・144は楕円磨消縄文区面の加曾利E 4式である。120・125は加曾利E 3式である。126・137・143は矢羽状刻目を施した平行浮線文、127～129・133・135・141は半載竹管で横位ないしは斜位沈線文の諸磯b式である。134は貝殻交互刺突文の浮島式である。151は矢羽状刻目を施した平行浮線文と縦位の浮線に列点文を加えた諸磯b式である。

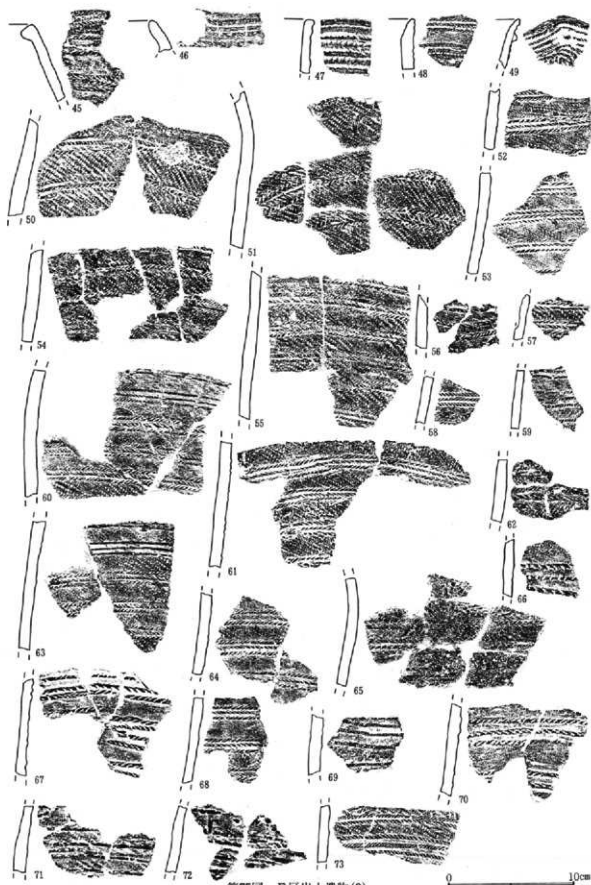


第73図 F区出土遺物(1)

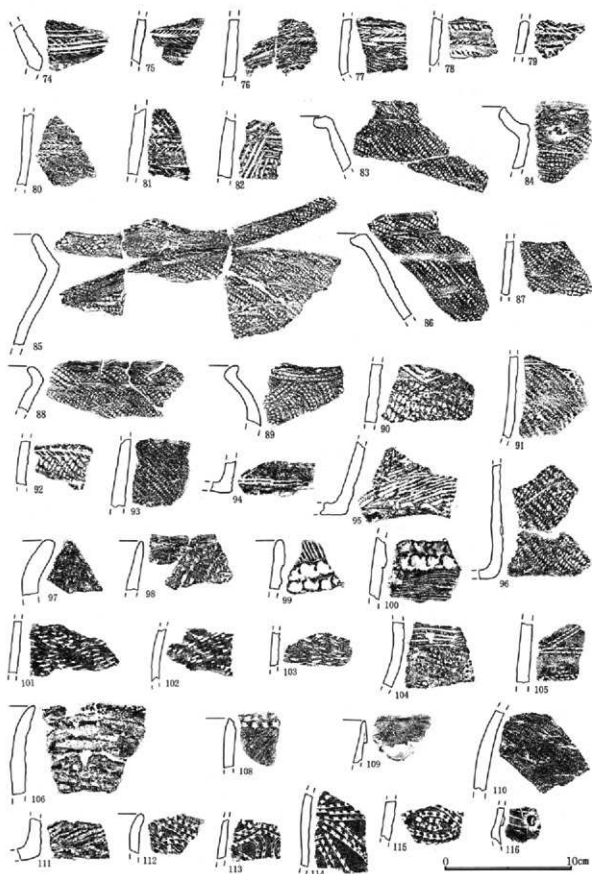




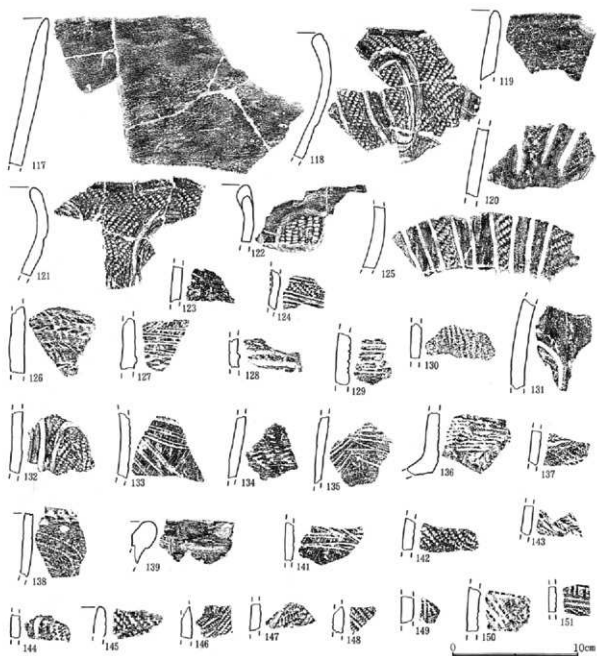
第74図 F区出土遺物(2)



第75図 F区出土遺物(3)



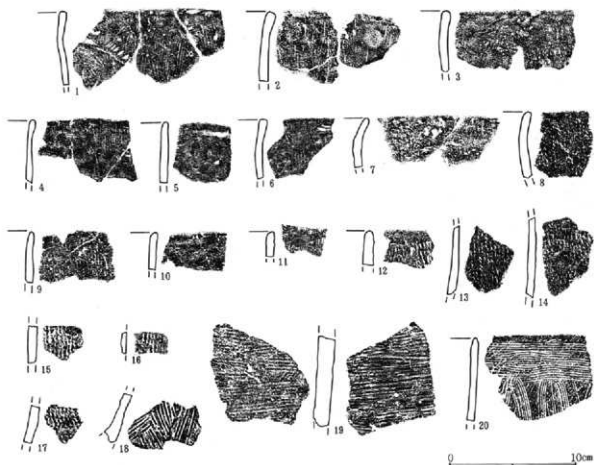
第76図 F区出土遺物(4)



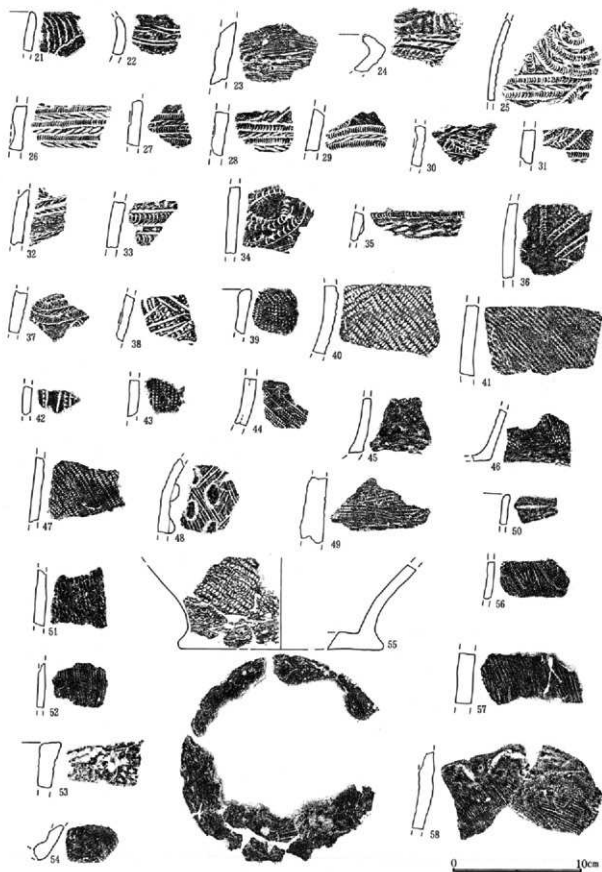
第77図 F区出土遺物(5)

## G区遺構外出土土器（第78～80図、P.L.36～38）

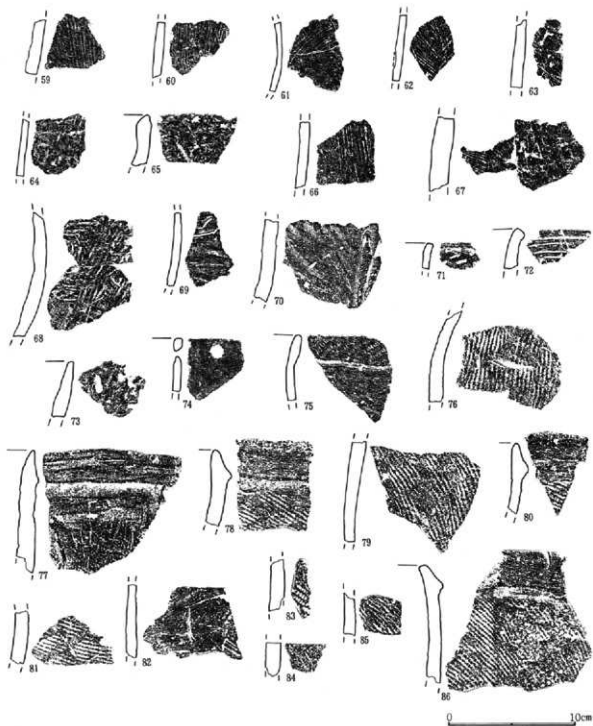
第78図1～17は燃糸文土器破片である。18・20は集合条線により、鋸歯状ないしは弧状文様を構成する諸磯c式である。19は胎土に繊維を含み、表裏面ともに条痕文の茅山下層式である。第79図21は貝殻交互刺突文の浮島式、22は半截竹管沈線文の諸磯b式、23・49は胎土に繊維を含んだ条痕文の茅山下層式である。24・32は矢羽状刻目を施した浮線文、25～29・31は半截竹管による「C」の字状刺突列間に矢羽状刻目を施し、30・33・34・36・37・42は半截竹管で曲線状の沈線を描き、「C」の字状刺突文を加えた諸磯b式である。39・51・52は燃糸文土器である。45・46・55は諸磯式の胴下半部から底部にかけての破片である。53は胎土に繊維を含んだ黒浜式である。第80図59・65・67・68・73は胎土に繊維を含んだ茅山下層式である。60・62・66・74は燃糸文土器である。74は無文で、補修孔がある。77は微隆起線を巡らし、地文R L縄文の加曾利E 4式である。



第78図 G区出土遺物(1)



第79図 G区出土遺物(2)



第80図 G区出土遺物(3)

A区谷地出土土器（第81～88図、P.L.38～46）

1・2・3・4・5・6・7・8・9・10・11は諸磯式土器破片である。5は波状口縁部の破片で、横位平行沈線と波状沈線文と縦位の刺突文の諸磯a式、1・2は円形竹管刺突文の諸磯a式である。6・7・8は浮線に矢羽状の刻みを施す諸磯b式である。10は円形の粘土瘤を貼付した諸磯c式である。12は三角押文の浮島式、13は波状口縁部で半載竹管による交互刺突の興津式である。（第81図）

14・15は勝坂式である。15は縦位の隆起線と円形刺突、その脇には半載竹管による縦位の沈線が平行する。（第81図）

16・17・18・19は加曾利E式である。17は縦位の磨消縄文の加曾利E3式、19は口縁部破片の加曾利E4式である。（第81図）

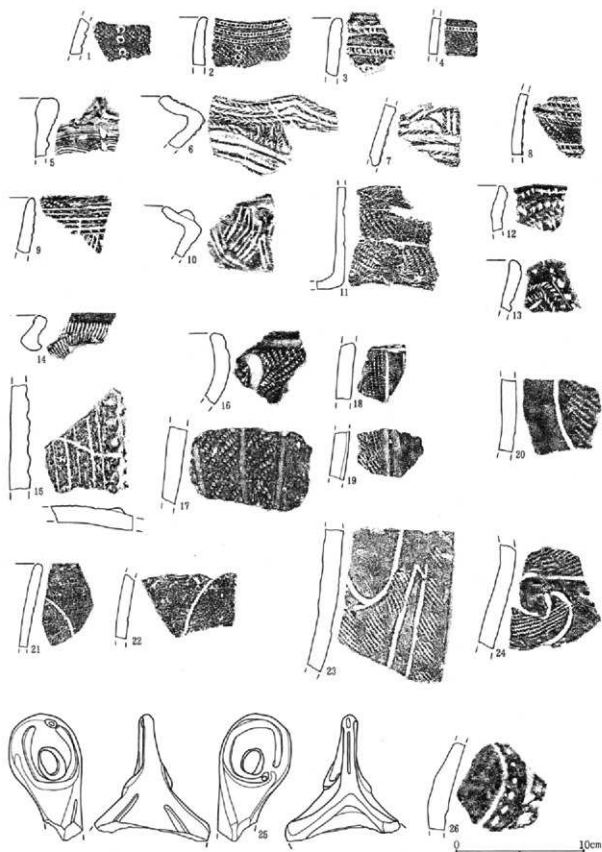
20・21・22・23・24は称名寺1式である。20・23・24は曲線状の沈線で区画した磨消縄文であり、21・22は曲線状の沈線で区画する。25・26は称名寺2式である。25は橋状突起の口縁部破片であり、刺突と沈線で「C」の字状文を構成する。26は曲線状の沈線内に列点状の刺突を施す。（第81図）

27・28・29・30・31・32・33・34・35・36・37・38・39・40は堀之内1式である。27は口縁部破片で、円形の薄い粘土板を貼付し、円形刺突を施す。28・29・30は半円状ないし弧状の沈線区画を施し、列点ないしは横位沈線を施す。31は口唇部直下に列点状刺突を施す。32・33・34・35は地文に縄文を施した上に、曲線状の沈線を施す。36・37・38・39・40は波状ないしは三角形沈線を描く。41・42は上下の沈線の間に、縦位の刻み目を施す。本段階の東北南部系統の影響を伺わせる文様である。（第82図）

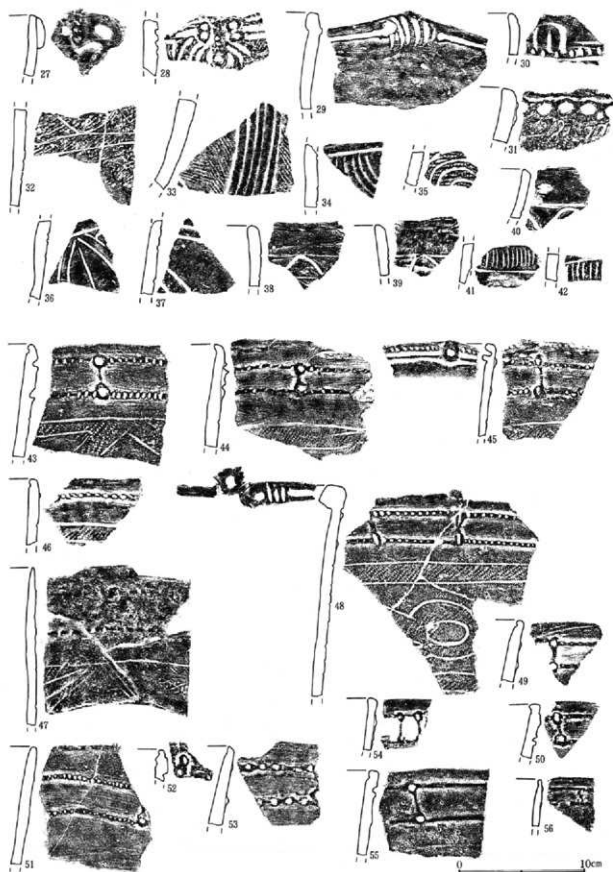
43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56・57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71・72・73・74・75・76・77・78・79・80・81・82・83・84・85・86・87・88・89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・100・101・102・103・104・105・106・107・108・109・110・111・112・113・114・115・116・117・118・119・120は堀之内2式である。43・44・45・46・47・48・49・50・51・52・53・54・55・56は「8」の字状の文様を施している。特に、43は「8」の字状の貼付文で、胴部には幾何学系磨消縄文を施している。45と48は内面に刺突を加えた円形貼付文、ないしは2個連続した「8」の字状貼付文を施す。さらに、48は胴部に曲線状の磨消縄文を施し、54は縦位一対の「8」の字状貼付文である。55は隆起線のみで列点文は認められない。57・58・59・60・61・62・63・64・65・66・67・68・69・70・71は、隆起線と列点文、横位平行ないしは方形の沈線区画を施す。72・73・74・75・76・77・78・79・80は胴部破片で、曲線状沈線で磨消縄文である。81・82・83・84・85・86・87・88・89・90・91・92・93・94・95・96・97・98・99・100も、幾何学系沈線の磨消縄文である。101・102は48と同様な胴部曲線状沈線の文様であるが、磨消縄文にはなっていない。106・107・108・109・110・111は平行沈線による磨消縄文であり、110は縦位の列点を施している。113は幾何学系に隆起線を貼付し、縄文を施した注口土器破片である。116は曲線的な条線文であり、本段階の北陸系統の文様であろう。（第82～85図）

121・122・123・124・125・126・127・128・129・130・131・132・133・134・135・136・137・138・139・140・141・142・143・144・145・146・147・148は加曾利B1式である。121・124は表面には縦に区切りのある沈線文と縄文を施し、内面には口唇直下に列点と平行沈線を施す。また、124は口唇状に刻目を施している。122・123も同様な文様を施すが、表面文様は平行沈線文になっている。125は内面の平行沈線間に刻目を施している。128・130・131・132・134は内面施文の無い破片である。141・143・144は列点ないしは刻目を施す。139・140は縄文を施した後に平行沈線を引いている。145・146・147は縦区切り沈線ないしは幾何学系沈線区画の磨消縄文である。（第85図）

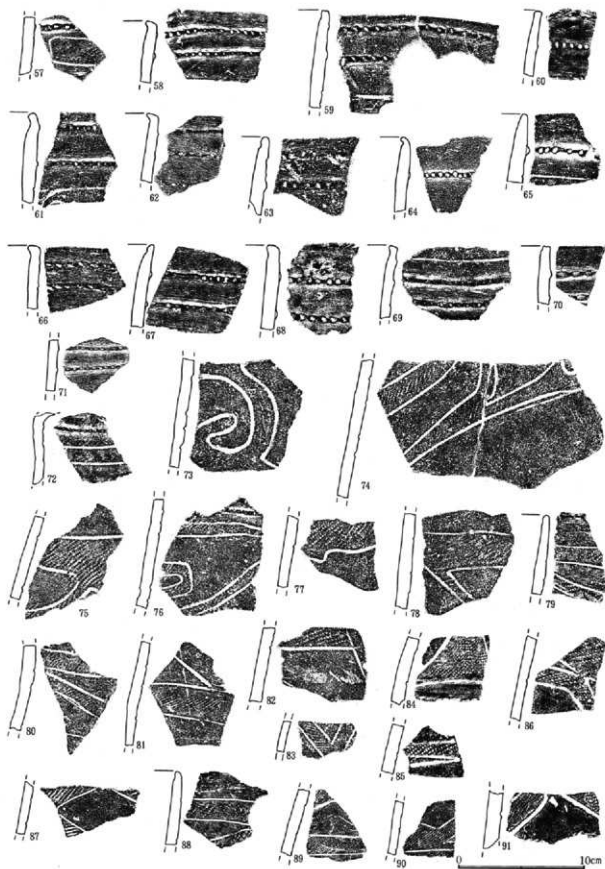




第81図 A区谷地出土遺物(1)

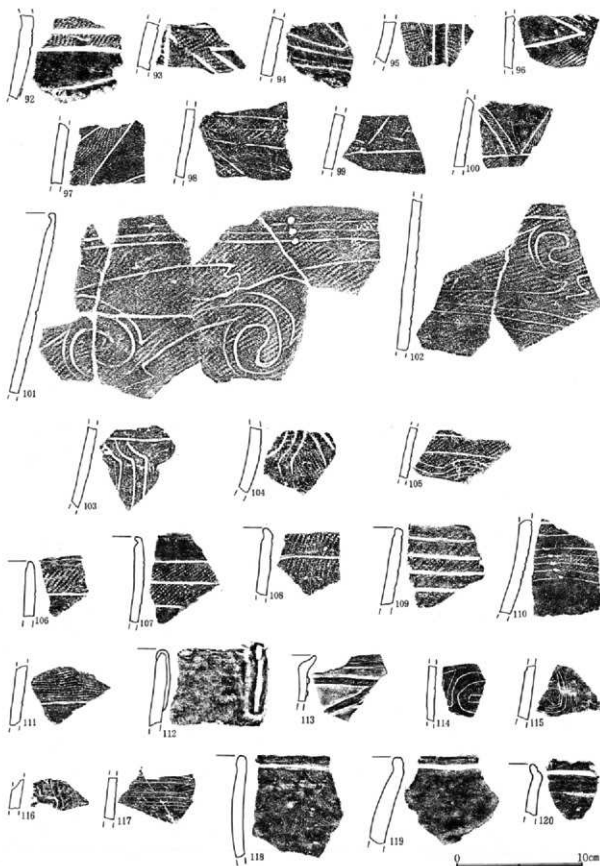


第82図 A区谷地出土遺物(2)

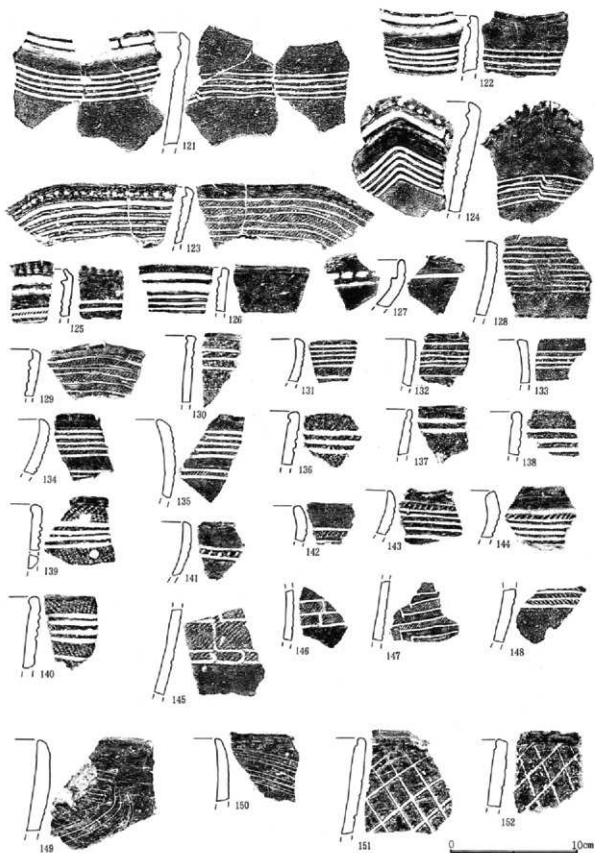


第83図 A区谷地出土遺物(3)

第3章 縄文時代の遺構と遺物

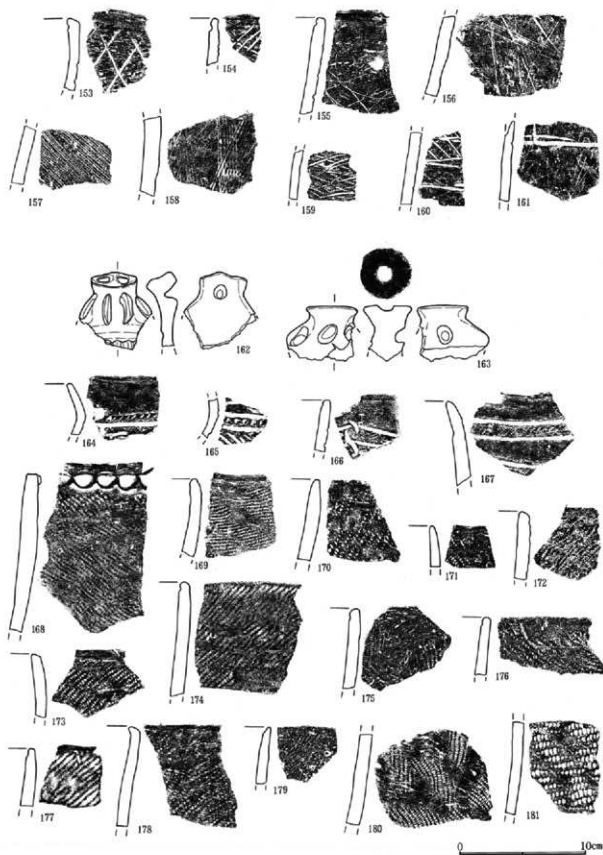


第84図 A区谷地出土遺物(4)

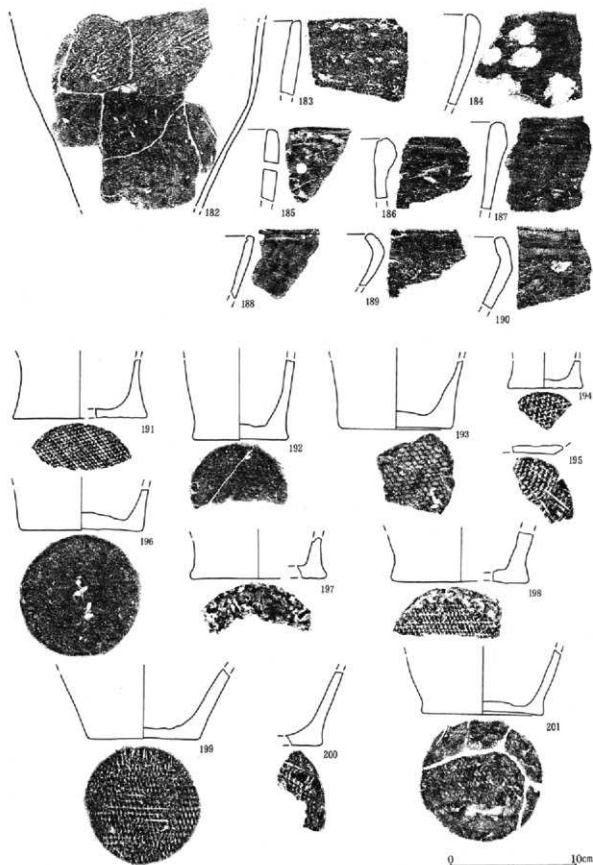


第85図 A区谷地出土遺物(5)

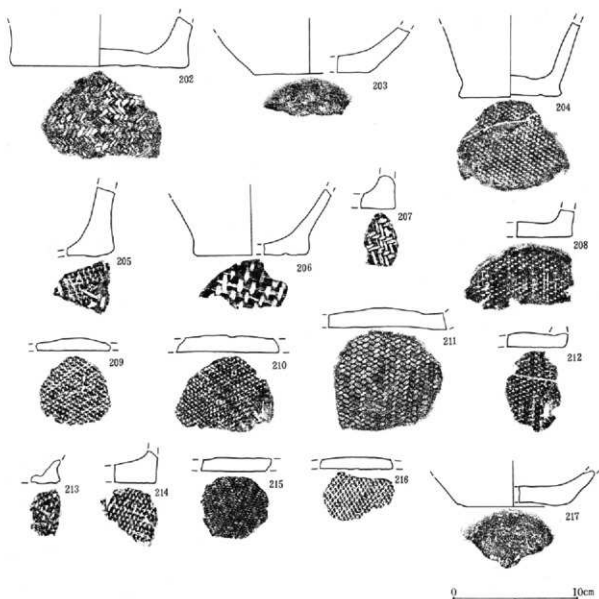
第3章 縄文時代の遺構と遺物



第86图 A区谷地出土遺物(6)



第87図 A区谷地出土遺物(7)



第88図 A区谷地出土遺物(8)

151・152・153・159は斜格子目状沈線文であり、加曾利B1式段階に位置付けられよう。162・163・164・165・166・167は加曾利B2式である。162・163は口縁部突起破片であり、内面に円形利突を施す。166は縦線り状の沈線と斜位沈線を施している。165は胴下半部に斜位沈線を施している。(第85・86図)

168・169・170・171・173・174・175・176・177・178・179・181・182は、後期の縄文施文の粗製土器である。(第86・87図)

183・184・185・186・187・188・189・190は、後期の無文土器である。(第87図)

191・192・193・194・195・196・197・198・199・201・202・203・204・205・206・207・208・209・210・211・212・213・214・215・217は、後期の底部破片である。(第87・88図)



## 2. 石器 (第89~109図、P.L.47~53)

本遺跡では遺構外からの多量な土器片とともに約270点余りの石器類が出土しているが、石器として認識できる他にさらに多量な石片が検出されている。ここに掲載する石器は比較的形手の明らかなものに限ったため本来ならば、さらに倍する石器の存在も想定される。主な石器種には石鏃・石錐・削器・打製石斧・三角錐石斧・磨製石斧・剥片石器・磨石・凹石・多孔石・石皿などがある。なお、剥片石器として一括した石器類はさらに石器種として分類されるべきものがあるであろうか。また、石器種によって利用される石材には当然の事ながら、かなりの選定的規範があったと考えられる。

第89図1~16・18~20は無柄の石鏃である。2は前期の小形で、先端部と正面右脚部の一部を欠損している。4は正面右脚先端部に破損がある。6・17は粗い調整加工であり、未製品と思われる。7は基部を欠損しているが、草創期の可能性もあろう。9は二等辺三角形の大形の鏃である。13・15・18は前期の小形の鏃である。21は舌部を欠損している有柄の鏃である。22も有柄石鏃である。

第90図23~42は無柄の石鏃である。25は左右非対称である。32は背面に自然面を残す。30は先端部と脚部を欠損している大形の鏃である。38は器体中央部にやや凹みをもつ大形の鏃である。27・30・32・39・40・42はいずれも先端部を欠損している。

第91図1は上部部を背面から、下部部は正面から半載している植刃である。同図3の舌部は逆三角形状を呈し、やや逆を作出した有舌尖頭器である。正面先端の左側縁の一部を欠損している。2は有柄の石鏃であるが、やや大形であり有舌尖頭器の可能性があろう。4・5・6は石錐である。6は基部に打面を残している。7は正面右先端の一部を欠損した横型の石匙である。8は正面の右側縁部と下部部に刃部加工を施した削器である。9・10・11も下部部に刃部加工を施した削器である。

第92図1・9・10は正面に自然面を残し、下部部に刃部加工を施した削器である。2・5・7は半月形を呈する剥片の下部部に刃部加工を施した削器である。第91図11に類似する形態である。3は円形に近い削器である。8は方形に近い削器であり、左右両側縁に抉入りがある。12は正面左側縁部に自然面を残す調整剥片である。

第93図1・2・13は片面に自然面を残し、刃部の摩耗した短冊形打製石斧である。3・6~8・15も自然面を残した撥形の打製石斧である。4は磨製石斧の破損品を、小形の石斧として再生利用した資料である。片面は自然面を残し刃部には摩耗痕が認められる。5は両側縁に刃部加工を施した削器である。10は基部の破損後再生し、両面とも摩耗痕が認められる短冊形の打製石斧である。11は薄身の短冊形の打製石斧で、刃部は両面とも摩耗している。12・14は打製石斧の未製品と思われる。

第94図16・17は打製石斧の欠損品である。18・20・21は短冊形打製石斧の欠損品であり、20・21は両面とも刃部が摩耗している。19はスタンプ状石器の基部欠損品の可能性があろう。22は削器の欠損品である。26・29は分銅形石斧の欠損品である。28は基部を欠損した削器である。30は打製石斧の調整剥片の可能性があろう。31は半月形を呈する削器の未製品と思われる。

第95図32~37・39は撥形打製石斧である。32は基部を欠損し、刃部は摩耗している。36は刃部両面が摩耗している。38・40は分銅形打製石斧である。38は基部を欠損している。41は半月形の削器未製品と思われる。

第96図1~3・5・6はスタンプ状石器である。2は基部を欠損している。6は河原石の自然面を残している。4は礫器の可能性があろう。7・8は石核である。

第97図9は磨石・敲石・凹石の欠損品である。10は敲石である。11は棒状礫を素材とした、両刃打製石斧

第3章 縄文時代の遺構と遺物

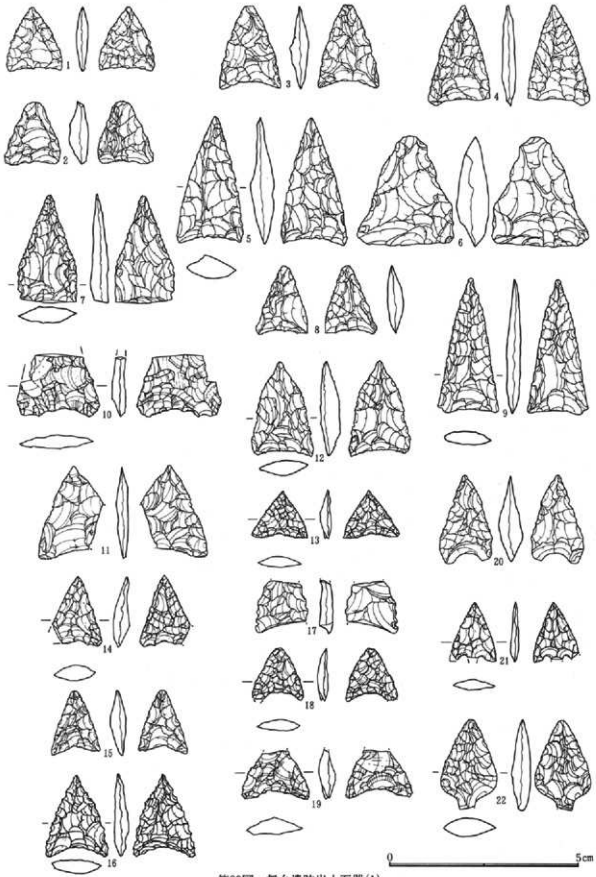
である。12～15は磨製石斧である。12は刃部を再生加工している。14は基部破片である。15は基部を欠損している。

第98図1・2・6～9・13・14・20は剥片である。9は両面の側縁部に調整加工が施されている。3・4・15は石核である。また、5は両端離離石器である。11・12・21は削器である。10は打製石斧の欠損品であり、刃部に摩耗痕が認められる。16～18は調整剥片である。第99図24は横型の石匙である。25・28・32～34・39は削器である。28は横長剥片を素材とした半月形削器である。27は横長剥片である。29は縦長剥片を素材とする石錐である。35は縦長調整剥片である。36～38は剥片である。40は横長剥片を素材とする削器の未製品である。第100図43・45は石核である。44・46・49は調整剥片である。48は削器である。53はスタンプ状石器の欠損品の可能性がある。第101図55・56は削器である。57は半月形の削器である。58・60は縦長剥片を素材とする削器である。59は削器の欠損品である。62・63は扁平な河原石を素材とした礫器の未製品であろう。第102図64は打製石斧の欠損品である。65は半月形削器の未製品である。67～69は礫器である。70は打製石斧と思われる。71は削器の未製品である。72は剥片である。73は礫器の未製品である。74は扁平な礫器である。第103図75・79は剥片である。76はスタンプ状石器の未製品である。77は大型礫の剥片である。80・83は礫器の可能性があろう。81は湾曲した削器である。85は石錐ないしは石錐の未製品である。86は石錐の未製品であろう。

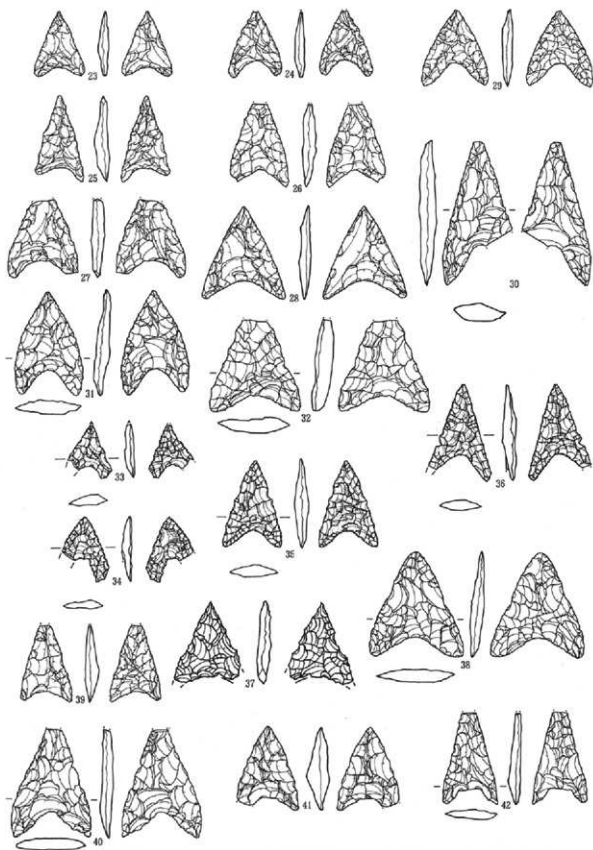
第104図1・2は磨石である。3～5・8・10・11は凹石・蔽石である。3・4は火を受けている。6は蔽石・磨石である。7・12は凹石・磨石である。7は火を受け、表面が剥落している。9は凹石・蔽石・磨石である。第105図13・14・18は凹石・蔽石・磨石である。15は凹石で火を受けている。16・19は凹石・蔽石である。17は凹石・磨石である。第106図20は凹石・蔽石・磨石である。21は凹石・蔽石である。22・24は凹石・磨石である。25は凹石である。第107図26・27は凹石・蔽石である。28・30・31は蔽石・磨石である。32は凹石・蔽石・磨石である。第108図33は棒状の磨石である。34は扁平の河原石を素材とした棒状石製品で、一部欠損している。35は扁平な長楕円形の砥石である。36・37は磨石の欠損品である。38は円形に近い形状の磨石である。41は大型の河原石の欠損品である。第109図42・43・45・46は石皿の破片である。43は火を受けている。44は凹石の破片で石皿の転用と思われる。

舞台遺跡出土石器計測表  
(第89・90図)

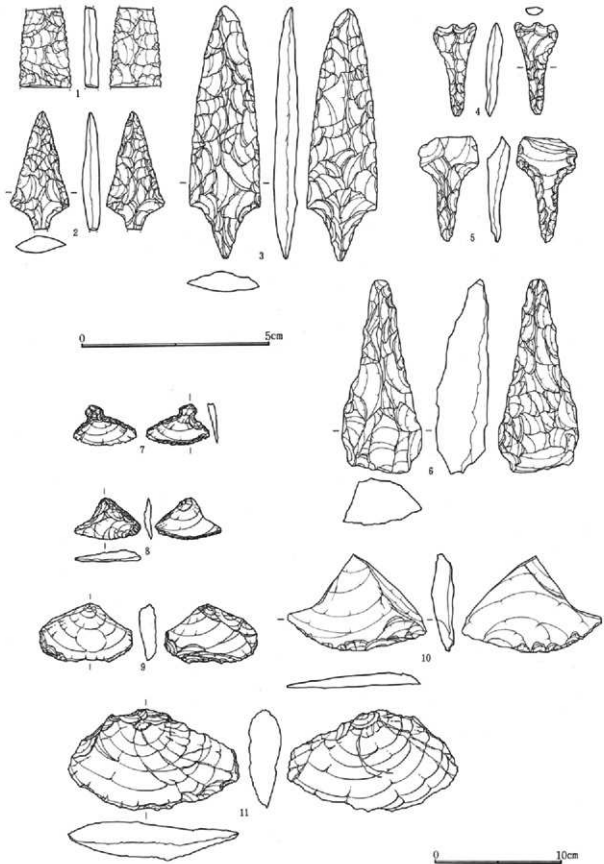
No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
1	D	石鏃	チャート	1.7	1.5	0.3	0.8	22	E	石鏃	チャート	2.4	1.5	0.5	1.4
2	F	石鏃	チャート	1.7	1.5	0.5	1.3	23	B	石鏃	チャート	1.7	1.3	0.3	0.5
3	D	石鏃	チャート	2.2	1.6	0.5	1.2	24	F	石鏃	チャート	欠1.8	欠1.4	0.3	0.5
4	E	石鏃	チャート	2.7	1.6	0.4	1.6	25	F	石鏃	チャート	2.3	欠1.3	0.4	0.8
5	A1	石鏃	チャート	3.4	1.8	0.6	2.5	26	D	石鏃	チャート	欠2.2	欠1.6	0.4	1.1
6	A1	石鏃	チャート	2.9	2.6	0.9	4.9	27	E	石鏃	チャート	欠2.1	欠1.8	欠0.4	1.4
7	B	石鏃	チャート	2.9	1.5	0.5	2.1	28	A1	石鏃	チャート	2.5	2.2	0.3	1
8	A1	石鏃	黒色安山岩	1.8	1.4	0.4	0.9	29	A1	石鏃	チャート	2	1.8	0.3	0.8
9	G	石鏃	珪質頁岩	3.6	欠1.6	0.4	1.7	30	D	石鏃	チャート	欠3.8	欠1.8	欠0.5	2
10	F	石鏃	黒曜石	欠1.6	欠2.2	欠0.4	1.3	31	A1	石鏃	チャート	2.8	1.8	0.4	1.5
11	E	石鏃	黒曜石	2.4	欠1.7	欠0.3	1.2	32	F	石鏃	チャート	欠2.4	2.4	0.5	2.1
12	G	石鏃	黒色安山岩	2.5	欠1.7	0.5	1.4	33	G	石鏃	黒曜石	欠1.5	欠1.2	欠0.3	0.3
13	F	石鏃	黒曜石	1.3	1.5	0.3	0.4	34	F	石鏃	黒曜石	欠1.7	欠1.3	0.3	0.5
14	F	石鏃	チャート	欠1.9	欠1.3	欠0.4	0.8	35	D	石鏃	黒曜石	2.4	1.6	0.4	0.8
15	G	石鏃	チャート	1.7	1.3	0.5	0.7	36	A3	石鏃	黒曜石	2.5	欠1.7	0.4	0.7
16	E	石鏃	チャート	2.2	1.7	0.4	0.9	37	表採	石鏃	黒曜石	欠2.2	欠1.7	0.3	1
17	A1	石鏃	黒曜石	欠1.4	欠1.4	欠0.4	0.8	38	A1	石鏃	黒曜石	2.8	2.5	0.3	1.6
18	A表	石鏃	黒曜石	欠1.4	欠1.4	0.3	0.4	39	F	石鏃	黒色安山岩	欠2	1.4	0.4	0.8
19	F	石鏃	黒曜石	2.2	欠1.8	欠0.4	0.8	40	A1	石鏃	黒色安山岩	欠2.9	2.1	0.3	1.8
20	A1	石鏃	珪質頁岩	2.3	1.4	0.6	1.5	41	D	石鏃	黒曜石	2.2	1.6	0.6	1.4
21	A1岩	石鏃	珪質頁岩	欠1.6	欠1.2	0.2	0.3	42	A2	石鏃	黒色頁岩	欠2.4	1.4	0.3	0.9



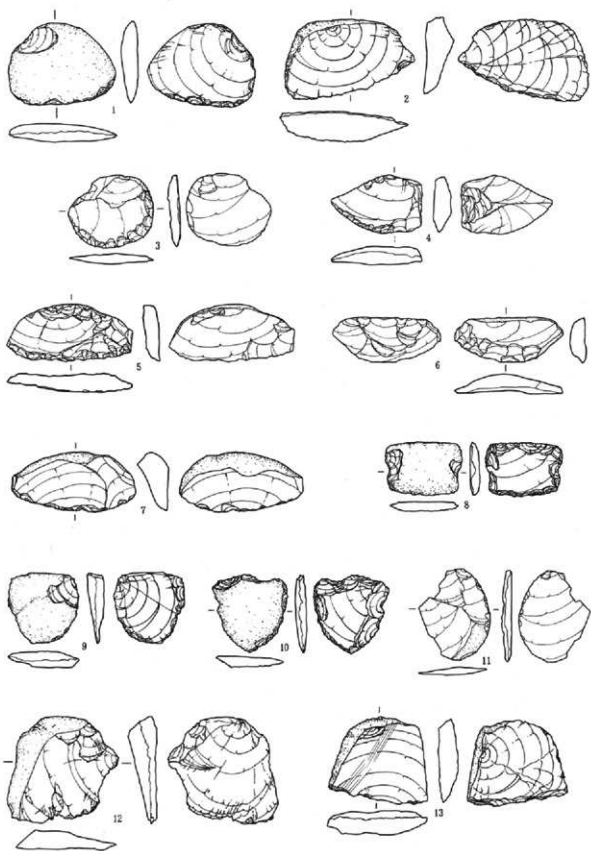
第89図 舞台遺跡出土石器(1)



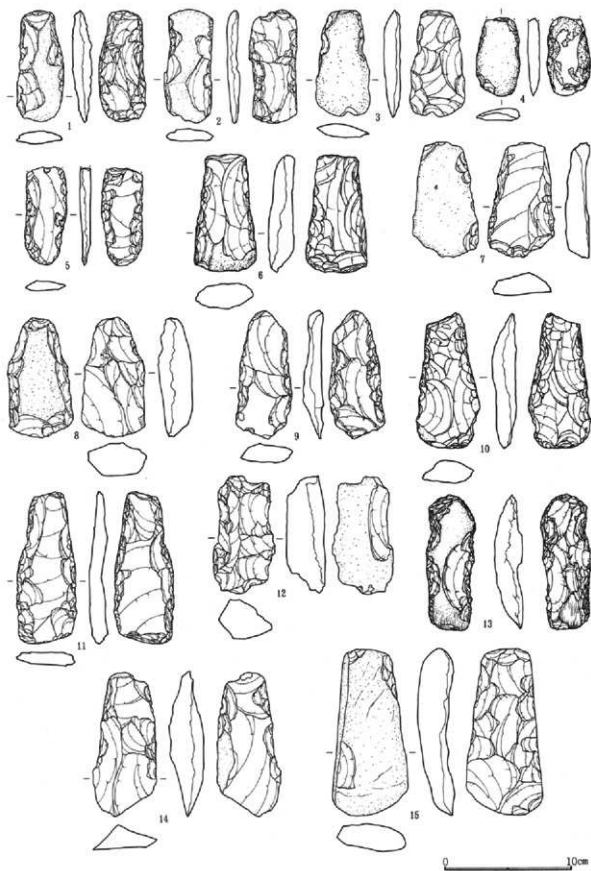
第90図 舞台遺跡出土石器(2)



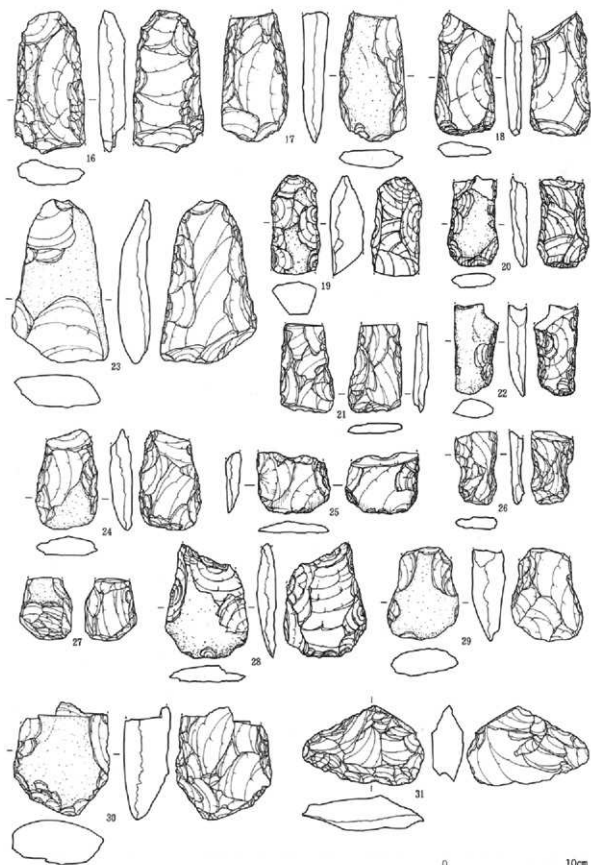
第91図 舞台遺跡出土石器(3)



第92図 舞台遺跡出土石器(4)

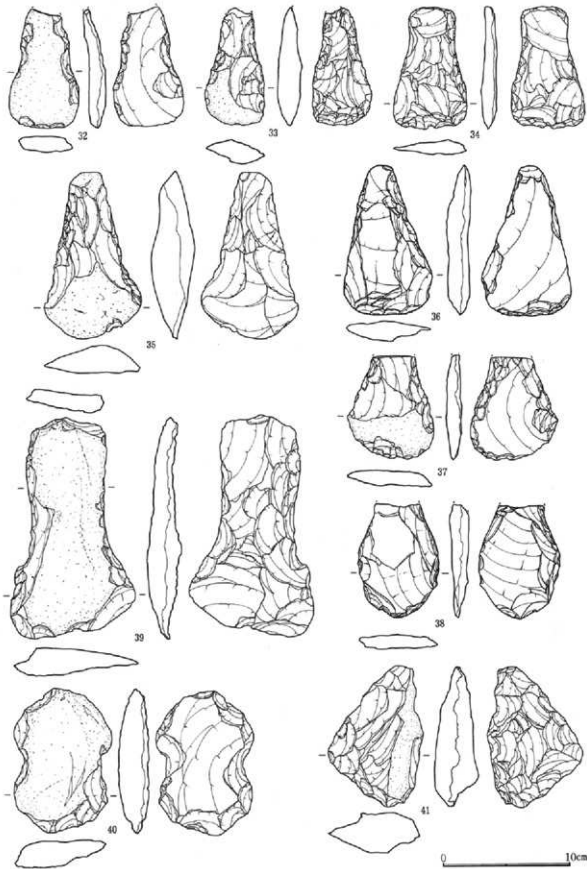


第93図 舞台遺跡出土石器(5)

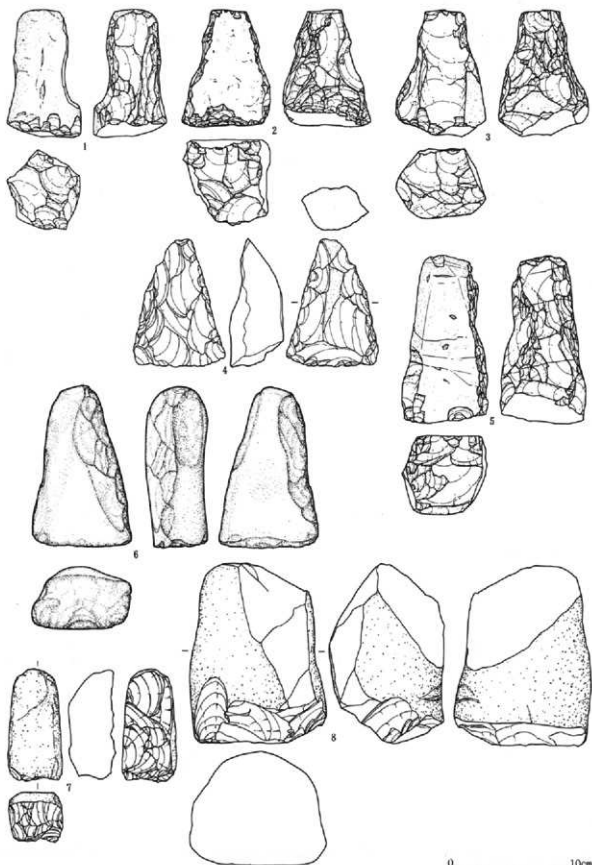


第94図 舞台遺跡出土石器(6)

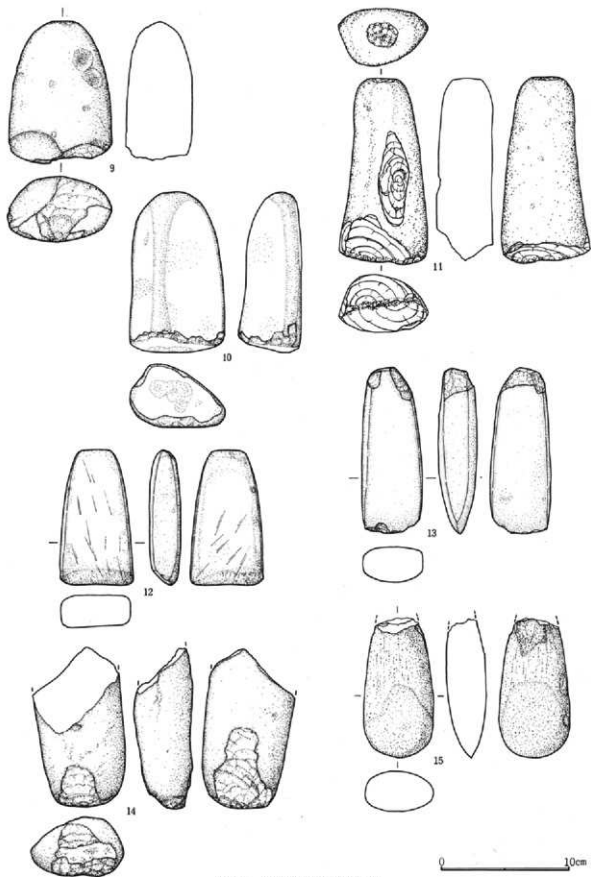




第95図 舞台遺跡出土石器(7)



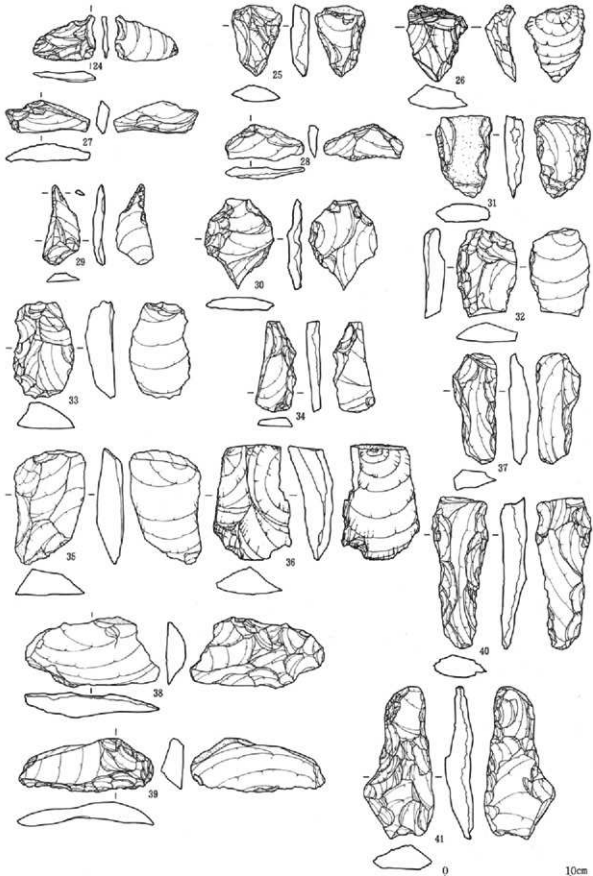
第96図 舞台遺跡出土石器(8)



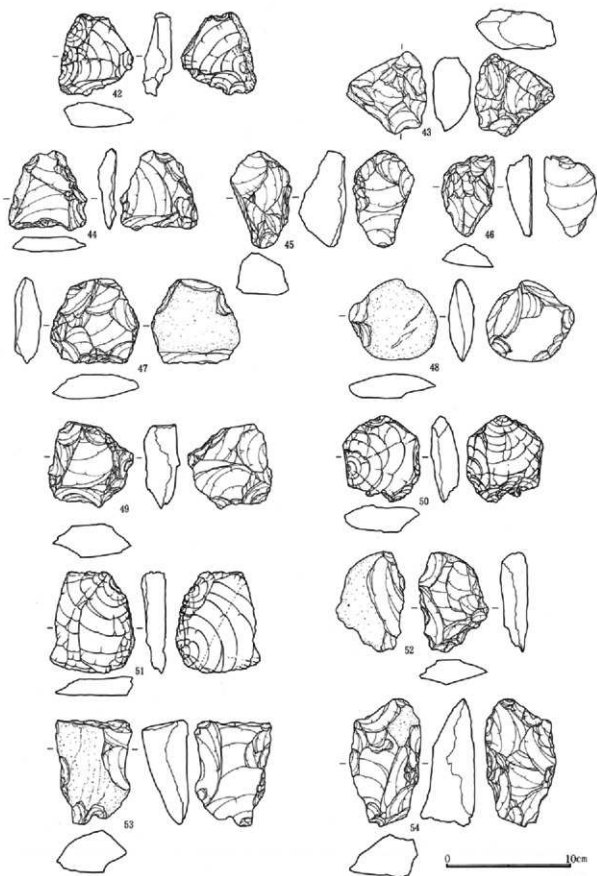
第97図 舞台遺跡出土石器(9)



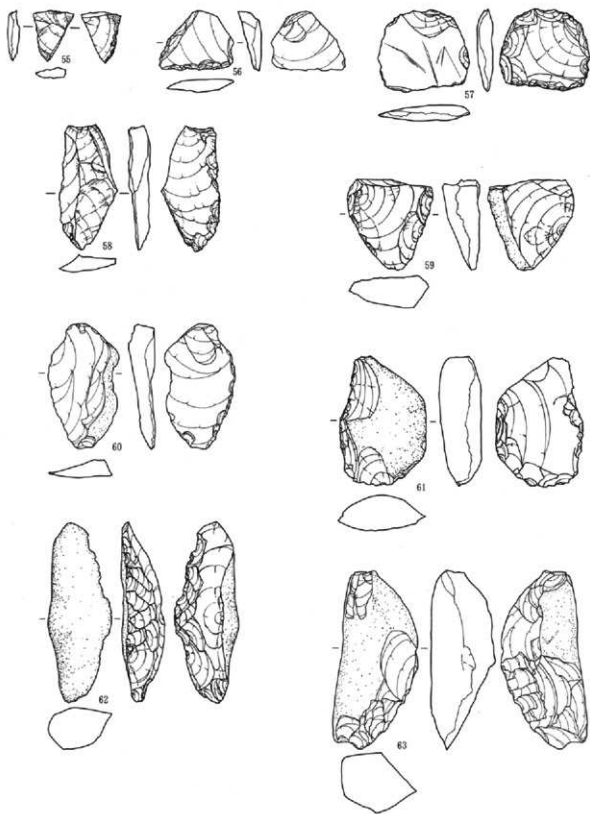
第98図 舞台遺跡出土石器(10)



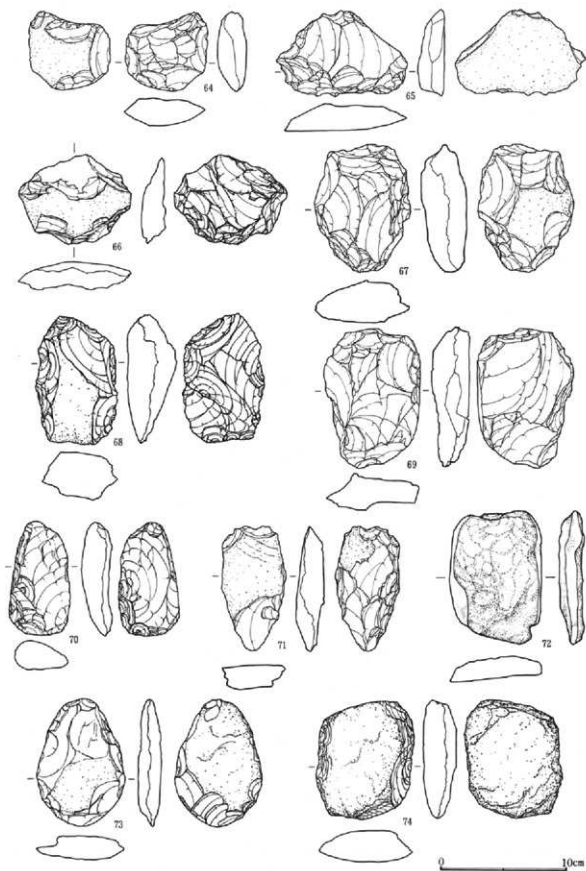
第99図 舞台遺跡出土石器(11)



第100图 舞台遺跡出土石器(12)

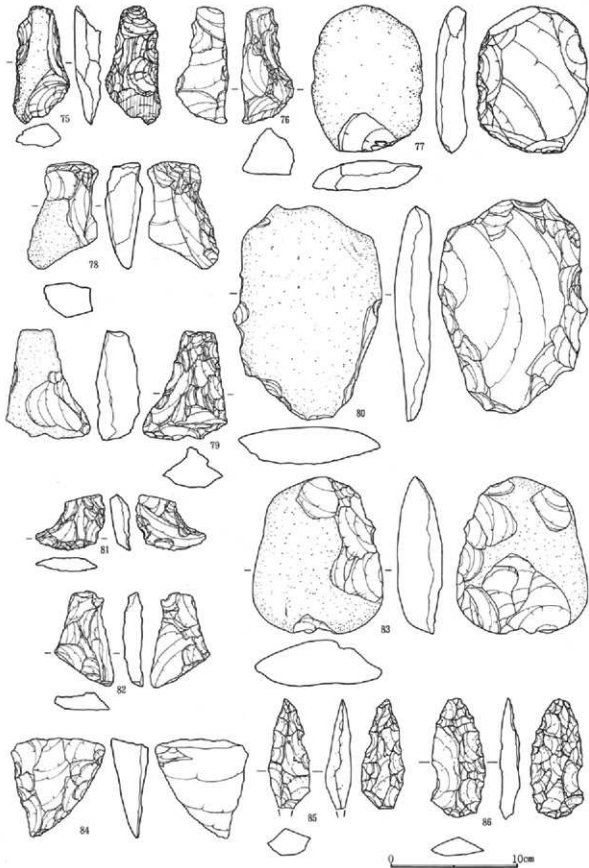


第101図 舞台遺跡出土石器(13)

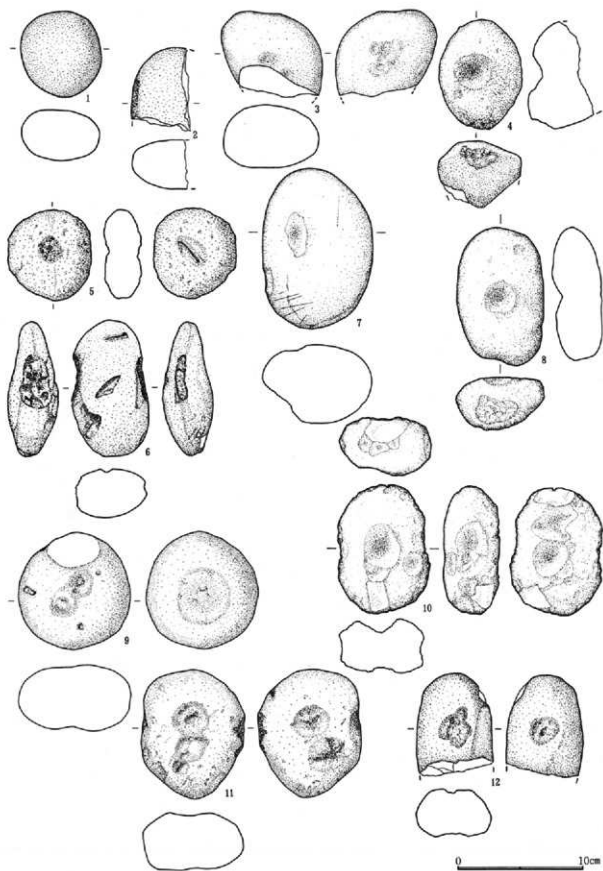


第102図 舞台遺跡出土石器(14)

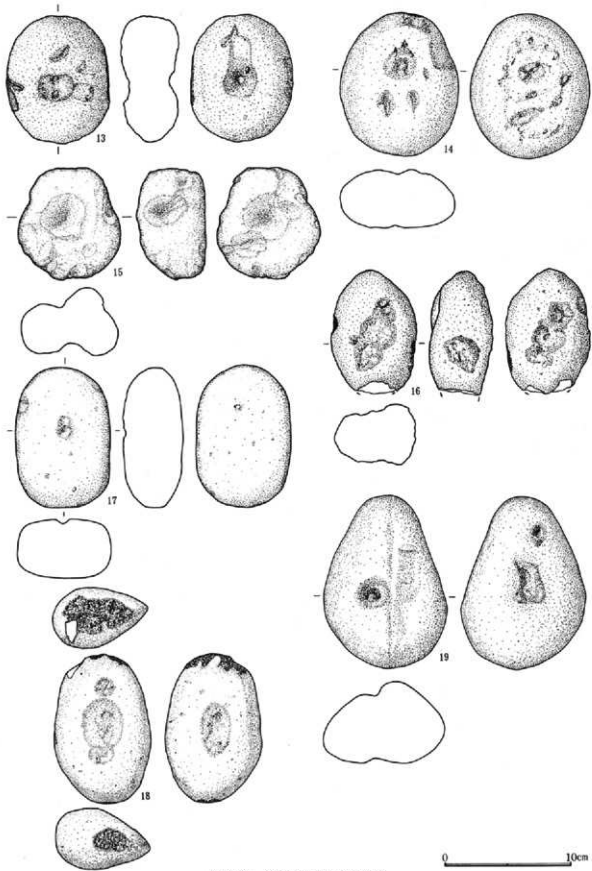




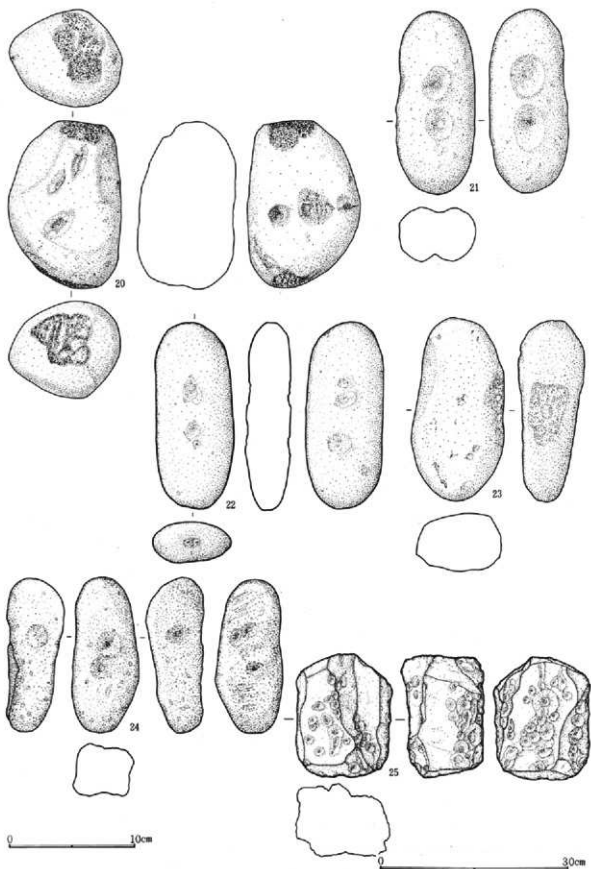
第103図 舞台遺跡出土石器(15)



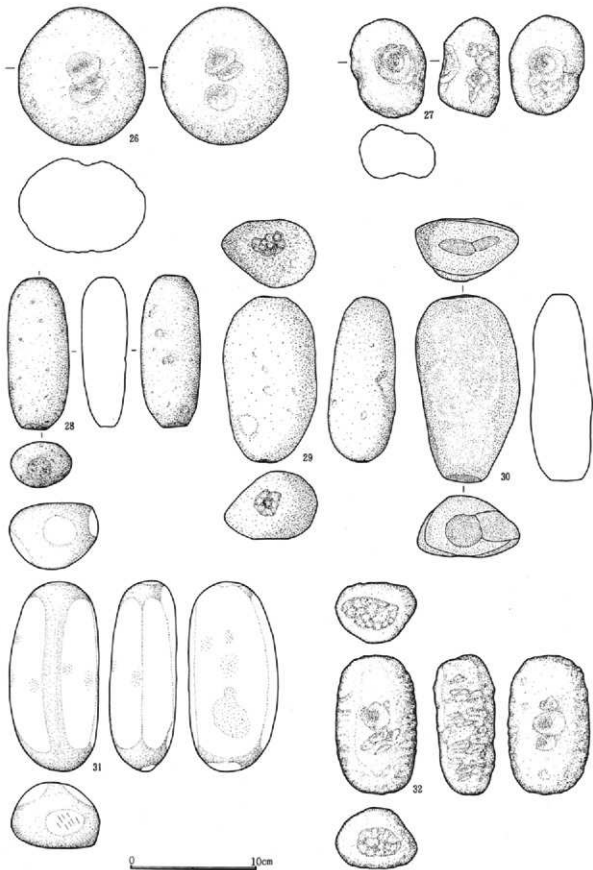
第104図 舞台遺跡出土石器(16)



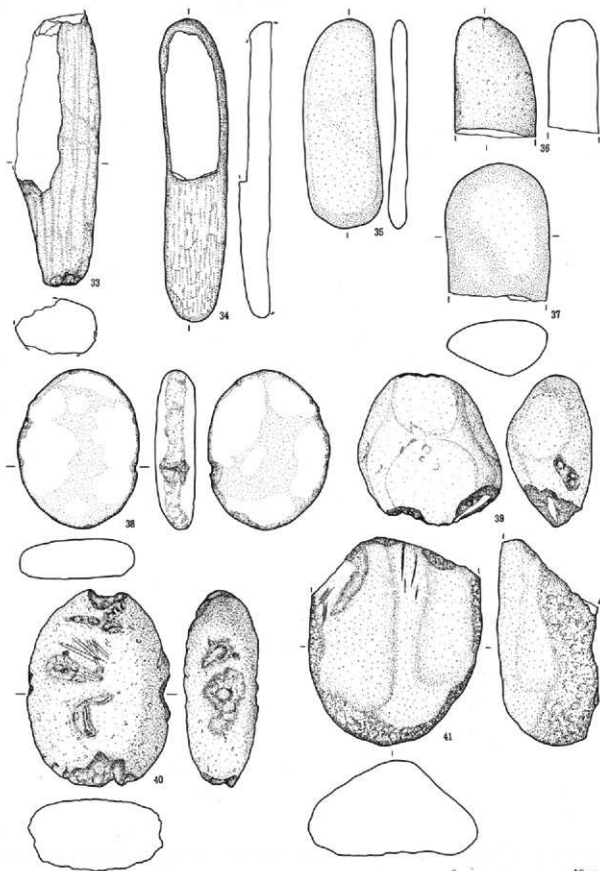
第105図 舞台遺跡出土石器(17)



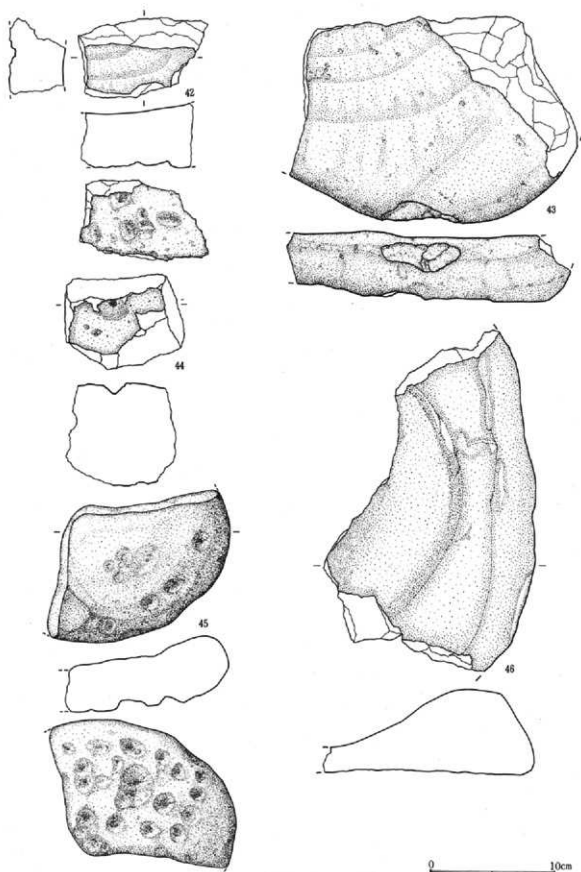
第106図 舞台遺跡出土石器(18)



第107図 舞台遺跡出土石器(19)



第108図 舞台遺跡出土石器(20)



第109図 舞台遺跡出土石器(21)

第3章 縄文時代の遺構と遺物

(第91図)

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
1	B	鎌刀	チャート	欠2.1	欠1.4	欠0.4	1.8
2	E	有舌尖頭器?	黒色安山岩	3.1	1.5	0.5	1.6

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
4	F	石鏃	黒色頁岩	2.5	1.1	0.4	0.6
5	表層	石鏃	黒色頁岩	2.8	1.6	0.6	1.6

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
7	F	石鏃	黒色安山岩	4.9	3.2	0.5	6.2
8	G	網鏃	黒色頁岩	5.2	3.3	0.9	8.7
9	D	網鏃	黒色頁岩	7.3	4.6	1.3	44.4

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
3	F	有舌尖頭器	黒色安山岩	6.6	1.9	0.6	7.3

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
6	F	石鏃	チャート	5.1	2.1	1.4	12.1

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
10	D	網鏃	黒色頁岩	7.6	11	2.8	94
11	G	網鏃	ホソノフェルス	13.4	8	2.7	284.3

(第92図)

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
1	B	網鏃	黒色頁岩	欠8.5	欠6.4	1.4	96.4
2	A	網鏃	黒色頁岩	欠10	欠6	2.3	146
3	E	網鏃	黒色頁岩	6.7	5.8	0.8	36.1
4	A	網鏃	黒色頁岩	4.5	7.2	1.4	48.8
5	G	網鏃	黒色頁岩	9.9	4.6	1.5	69.7
6	A1	網鏃	黒色頁岩	3.5	8.5	1.5	47.7
7	D	網鏃	黒色頁岩	欠9.8	欠4.7	欠2.2	107.2

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
8	G	網鏃	黒色頁岩	6	4.2	0.8	29.6
9	D	網鏃	黒色頁岩	5.6	5.6	1.3	40.5
10	D	網鏃	黒色頁岩	6.2	6	0.9	35.8
11	E	網鏃	黒色頁岩	7.3	5.5	0.8	23.2
12	A1	網鏃	黒色頁岩	欠8.7	欠8.4	2.2	122.2
13	A	網鏃	黒色頁岩	欠7.9	欠6.5	1.9	117.6

(第93～95図)

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
1	D	打製石斧	黒色頁岩	8.9	3.7	1.6	60.7
2	E	打製石斧	黒色頁岩	8.9	3.8	0.9	43.3
3	B	打製石斧	黒色頁岩	8.5	4.3	1.3	56
4	F	打製石斧	実質玄武岩	6.2	3.4	1	30.4
5	F	打製石斧	黒色頁岩	7.2	3.3	0.9	36.6
6	F	打製石斧	黒色頁岩	9.2	4.8	2	107.8
7	G	打製石斧	黒色頁岩	9.3	3.2	1.8	102.1
8	G	打製石斧	黒色頁岩	9.4	5	2.6	148.6
9	A1	打製石斧	黒色頁岩	10.2	4.4	1.6	69.1
10	F	打製石斧	黒色頁岩	10.6	4.9	1.8	97.3
11	D	打製石斧	黒色頁岩	12.1	4.7	1.4	92
12	表	打製石斧	黒色頁岩	9.3	4.9	3	149.3
13	大溝戸	打製石斧	黒色頁岩	10.6	3.8	2.2	93
14	A	打製石斧	黒色頁岩	11.5	5	2.8	136
15	A	打製石斧	ホソノフェルス	13.1	6	2.8	252
16	F	打製石斧	網鏃石表面	11.2	5.5	2.1	155.4
17	A1	打製石斧	網鏃石表面	10.3	5.2	2.1	129
18	D	打製石斧	黒色頁岩	9.6	4.7	1.3	70.9
20	D	打製石斧	網鏃石表面	7.2	4	1.3	47
21	A3	打製石斧	網鏃石表面	7	4.2	1.2	40.8

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
22	A	打製石斧	黒色頁岩	7.1	3.5	1.5	40.7
23	A	打製石斧	黒色頁岩	12.9	7.6	2.5	259
24	F	石鏃	黒色頁岩	8	4.8	1.8	79.4
25	A1	打製石斧	網鏃石表面	欠4.8	5.7	1.2	35.8
26	D	打製石斧	黒色頁岩	5.7	3.3	1.1	26.2
27	G	打製石斧	黒色頁岩	5	4.1	4.3	320.8
28	G	打製石斧	黒色頁岩	9.1	6.5	1.5	86.9
29	D	石鏃	ホソノフェルス	7.3	5.6	2.6	117.9
30	C	打製石斧	性質不明	欠9	欠7.5	欠2.6	265.8
31	A3	網鏃	黒色頁岩	9.6	6.2	2.8	139
32	F	打製石斧	砂岩	9.5	5.5	1.4	84.7
33	D	打製石斧	黒色頁岩	9.3	4.7	2	74.3
34	A	打製石斧	黒色頁岩	9.6	5.7	1.2	64.4
35	A1	打製石斧	黒色頁岩	13.2	7.7	3.5	253.3
36	A1	打製石斧	ホソノフェルス	11.8	7	1.9	196
37	D	打製石斧	黒色頁岩	8.2	6.9	1.2	76
38	D	打製石斧	網鏃石表面	8.9	6.3	1.5	86
39	D	打製石斧	ホソノフェルス	17.5	9.8	2.7	336.1
40	D	打製石斧	ホソノフェルス	11.5	7.6	2.4	236.9
41	G	網鏃	黒色頁岩	11	7	3.4	222.4

(第96～97図)

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
1	G	三角石鏃	黒色頁岩	10.1	5.9	6.4	338.7
2	G	三角石鏃	黒色頁岩	9.2	7	6.8	517.3
3	G	三角石鏃	黒色頁岩	10	7.1	5.5	375.4
4	A1	網鏃	黒色頁岩	10.1	7.2	4.2	264.8
5	G	三角石鏃	黒色頁岩	13.2	6.8	6.2	584.8
6	大溝戸	三角石鏃	網鏃石表面	12.7	8	5	600

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
7	G	石鏃	黒色頁岩	8.9	4.3	3.9	217.5
8	A2	石鏃	黒色頁岩	14.2	10.8	9	1756.4
9	G	網石?	網鏃石表面	10.9	7.9	5	620
10	G	網石	網鏃石表面	12.6	7.5	5	698
11	E	打製石斧	実質玄武岩	14.5	7	4.5	689.4

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
12	B	磨製石斧	実質玄武岩	10.6	5.8	2.5	312.5
13	B	磨製石斧	実質玄武岩	13.1	4.8	3	345.6

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
14	B	磨製石斧	かんらん岩	12.6	7.3	4.8	497.4
15	A1	磨製石斧	実質玄武岩	欠11	5.5	3	306.6

(第98～103図)

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
1	A3	網片石鏃	黒色安山岩	3.9	3	1.2	116
2	A1	網片石鏃	チャート	欠2.8	欠3.5	1.2	10.8
3	A1	網片石鏃	チャート	欠4.4	欠3.9	1.6	28.3
4	A1	網片石鏃	黒色頁岩	4.1	4	2.5	41.5
5	D	網片石鏃	チャート	4.3	4.3	1.7	29.8
6	C	網片石鏃	黒色頁岩	4.9	4	2	37.6
7	D	網片石鏃	黒色頁岩	5	4.2	1.3	22.5
8	F	網片石鏃	黒色頁岩	5.3	3.2	1.3	36.3
9	E	網片石鏃	黒色頁岩	4.8	4.6	1.3	31
10	D	打製石斧	実質玄武岩	5.7	4.9	1.2	39.2
11	F	網片石鏃	珪質頁岩	5.4	4.4	1.2	32.4
12	D	網片石鏃	黒色頁岩	5.6	3.8	1.3	33.1
13	G	網片石鏃	黒色頁岩	5.9	4.3	1.6	51.8
14	C	網片石鏃	網鏃石表面	5.8	5.7	1.2	30.6
15	D	網片石鏃	黒色頁岩	6.4	4.6	2	69.2

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
16	A	網片石鏃	黒色頁岩	6.3	4.2	1.5	39.7
17	A1	網片石鏃	黒色頁岩	6.8	4	1.7	32.1
18	D	網片石鏃	黒色頁岩	6	5.6	1.4	58.3
19	大溝戸	網片石鏃	硬質泥岩	欠5.2	欠5.1	1.2	
20	A3	網片石鏃	黒色頁岩	6.4	5.6	1.7	56.3
21	D	網片石鏃	黒色頁岩	5.6	5.2	1.5	48.9
22	G	網片石鏃	黒色頁岩	6.1	5.9	3.2	106.8
23	G	網片石鏃	網鏃石表面	5.7	4.7	1.6	41.2
24	F	石鏃	頁岩	4.9	3.6	0.4	11.4
25	G	網片石鏃	黒色頁岩	5.6	3.9	1.5	30
26	A1	網片石鏃	黒色頁岩	6	4.7	1.9	43.5
27	D	網片石鏃	珪質頁岩	6.7	2.8	1.4	17.6
28	F	網片石鏃	黒色頁岩	6.2	2.9	1	12.2
29	F	石鏃	黒色頁岩	6.4	3	1	11.5
30	D	網片石鏃	黒色安山岩	7.2	5.4	1.1	41.8



## 第3節 縄文時代の遺物

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
31 F	網片石器	黒ソノフェルス		6.5	4.4	1.5	52.1	59	網片石器	硬質緑岩	欠6.8	欠6.5	2.9	138.5	
32 A	網片石器	黒色頁岩		7.1	4.7	1.6	61.1	60 G	網片石器	黒色頁岩	9.9	5.6	2.1	184.1	
33 A	網片石器	黒色頁岩		7.7	4.8	2.3	78.4	61 A1	網片石器	砂岩	10.2	6.9	3.2	248.9	
34 A	網片石器	黒色頁岩		7.9	3.2	1.1	27.3	62 E	網片石器	黒色頁岩	14.2	5	3.4	220	
35 A	網片石器	黒色安山岩		9.1	5.6	2.1	106.1	63 E	網片石器	黒色頁岩	14.1	6.8	5	488.2	
36 A1	網片石器	黒色頁岩		9	6.1	2.6	146	64 A1	打製石斧	黒色頁岩	6.5	6.2	2.3	106.5	
37 B	網片石器	黒色頁岩		8.8	3.5	1.6	46.3	65 A	網片石器	黒色頁岩	10.3	6.9	2.1	158.7	
38 E	網片石器	黒色頁岩		10.7	5.6	1.9	89.6	66 大井戸	網片石器	黒色頁岩	欠9.9	欠7.1	2.1	130	
39 A3	網片石器	黒色頁岩		10.7	4.2	1.9	81.5	67 G	網片石器	黒色頁岩	10.1	7.5	3.6	328.6	
40 G	網片石器	黒色頁岩		11.7	4.3	2	94.3	68	網片石器	黒色頁岩	10.1	6.4	3.8	258.7	
41 D	網片石器	黒色頁岩		12.1	5.6	2.2	117.4	69 E	網片石器	塊質緑板岩	11	7.6	3	240	
42 大井戸	網片石器	黒色頁岩	欠6.5	欠5.8	2.1			70 E	網片石器	黒ソノフェルス	8.9	4.8	2.2	127	
43 E	石槌	黒色頁岩		6.4	6.3	3.1	121.2	71 G	網片石器	黒ソノフェルス	9.8	5	2.3	128.6	
44 F	網片石器	黒色頁岩		6.4	6.1	1.4	50.9	72	網片石器	黒ソノフェルス	10.5	7.3	2	215.5	
45 E	石槌	黒色頁岩		7.7	4.8	3.7	115.4	73 A1	網片石器	黒ソノフェルス	10	6.9	1.6	154.5	
46 G	網片石器	黒色頁岩		6.5	4.2	2	42.6	74 G	網片石器	黒ソノフェルス	9.3	7.7	2.6	268.6	
47 A	網片石器	黒色頁岩		7	6.8	2.1	115.8	75	網片石器	黒色頁岩	9.3	4.5	2	73.5	
48 A	網片石器	黒色頁岩		6.9	6.5	2	91.3	76 D	三角石器	塊質緑岩	9.2	4.1	3.6	134.3	
49 D	網片石器	黒色頁岩		6.8	6.6	2.9	120	77 A1	網片石器	黒色頁岩	11.5	8.7	2.4	316.3	
50 F	網片石器	黒ソノフェルス	欠6.8	欠6	2.1	98	78 G	網片石器	黒色頁岩	8.4	5.6	2.9	132.9		
51 大井戸	網片石器	黒色頁岩	欠8.1	欠6.7	1.9	98	79 A1	網片石器	黒色頁岩	8.7	6.7	3.4	148.8		
52 F	網片石器	黒色頁岩		7.9	5.4	2.1	92.1	80 F	網片石器	細顆石炭岩	17	11.9	2.8	668.4	
53 F	三角石器	黒色頁岩		8.3	5.9	3.7	177.1	81 D	網片石器	黒色頁岩	5.4	4.5	1.6	30.8	
54 G	網片石器	黒色頁岩		10.2	5.6	4.3	199	82 E	網片石器	頁岩	7.5	4.7	1.6	42	
55 C	網片石器	黒色頁岩	欠4	欠3.1	0.9	8.3	83 A3	網片石器	黒色頁岩	12.4	10.3	3.5	567.8		
56 G	網片石器	黒色頁岩		5.8	4.6	1.8	33.6	84 D	網片石器	チャート	2.6	2.5	1	5.2	
57 F	網片石器	黒色頁岩	欠7.1	欠6.5	1.2	71.2	85 D45	井石	黒色頁岩	欠3.3	欠3.5	欠1.2	15.7		
58 A1	網片石器	黒色頁岩		9.8	4.6	1.2	73.7	86 F	石鏝?	?	欠4.5	欠3.6	欠1.2	18.8	

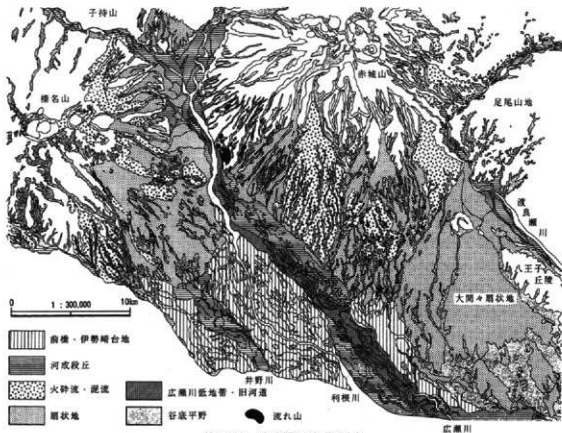
## (第104～109区)

No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	No.	出土区	器種	石材	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg
1 F	磨石	磨製輝石安山岩		6.7	6.3	4	257.8	24 F	凹石	磨製輝石安山岩		12.4	15.3	4.5	328.7
2 G	磨石	磨製輝石安山岩	欠6.3	欠4.5	欠3.8	151.7		25 E2-421	多孔石	磨製輝石安山岩		18.4	15	13	4410
3 A1	凹石	磨製輝石安山岩	欠6.9	8	5	291.9	26 F	凹石	磨製輝石安山岩		10.9	10	7.3	940.9	
4 E	凹石	磨製輝石安山岩	欠6.5	欠6.6	欠5.5	238.7	27 F	凹石	磨製輝石安山岩		7.8	5.9	4.8	246.8	
5 A3	凹石	磨製輝石安山岩	7.2	6.5	2.9	138.9	28 D	磨打器	磨製輝石安山岩		12	4.8	3.5	338	
6 A1	凹石	磨製輝石安山岩	10.8	6.2	3.8	265.6	29 大井戸	磨打器	磨製輝石安山岩		13	7.3	5.3	640	
7	凹石	磨製輝石安山岩	12.7	8.8	6.1	837.3	30 B	磨打器	実質玄武岩		34.8	8	5	867	
8 表	凹石	磨製輝石安山岩	10.9	7	4.1	325.2	31	磨打器	石英		15	7	5.3	830.9	
9 F	凹石	磨製輝石安山岩	9.2	8.9	5.3	964.7	32 F	凹石	磨製輝石安山岩		11	6.4	4.8	468.8	
10	凹石	磨製輝石安山岩	10.1	7.2	4.6	330.3	33 D	塊状石磨	緑色片岩	欠21.6	欠6.5	欠4.5	821.1		
11 A1	凹石	磨製輝石安山岩	10.3	8.2	4.6	444.5	34 A2	塊状石磨	雲母石英片岩		23.8	4.8	欠2.4	447.6	
12 D	凹石	磨製輝石安山岩	欠8	欠6	欠3.7	247.8	35 A	表	砂岩		16.6	6	1.4	254.5	
13 A1	凹石	磨製輝石安山岩	10	8	4.5	365.7	36 G	磨打器	磨製輝石安山岩	欠8.4	欠6.4	欠3.7	407.3		
14 G	凹石	磨製輝石安山岩	11.3	9.4	4.7	718.3	37 G	磨石	実質玄武岩	欠10.8	欠8	欠4	599.5		
15	凹石	磨製輝石安山岩	8.9	8.1	5.6	492	38 F	磨石	冷杉樹皮	12.6	9.6	3.2	584.3		
16 D	凹石	磨製輝石安山岩	欠8.8	6.8	5	312.4	39 大井戸	磨打器	磨製輝石安山岩		12	11.4	6.7	950	
17 D	凹石	磨製輝石安山岩	11	7.4	4.6	621.3	40 大井戸	石鏝	磨製輝石安山岩		15.5	11.3	5.8	1020	
18 F	凹石	磨製輝石安山岩	11.8	7.7	4.8	436.1	41 D	?	ヤナト	欠16	欠15	欠7.3	2000		
19 表	凹石	磨製輝石安山岩	13.8	9.8	6.5	889.7	42 D	石皿	磨製輝石安山岩	欠10.4	欠6	欠5	313		
20 A1	凹石	磨製輝石安山岩	13.2	8.8	7.7	114.9	43 D	石皿	磨製輝石安山岩	欠22.7	欠16.5	欠4.5	2100		
21 表	凹石	磨製輝石安山岩	14.5	6.2	4.3	583	44 D	石皿	磨製輝石安山岩	欠7	欠7	欠1	774.4		
22 D	凹石	磨製輝石安山岩	14.6	6.1	3.4	536.6	45 A1	石皿	磨製輝石安山岩	欠14.6	欠11.8	欠4.8	792.7		
23 E	凹石	磨製輝石安山岩	14.7	6.8	4.5	643.4	46 G	石皿	磨製輝石安山岩	欠27	欠16.5	欠6.6	3380		

第4章 旧石器時代の遺物群と遺物

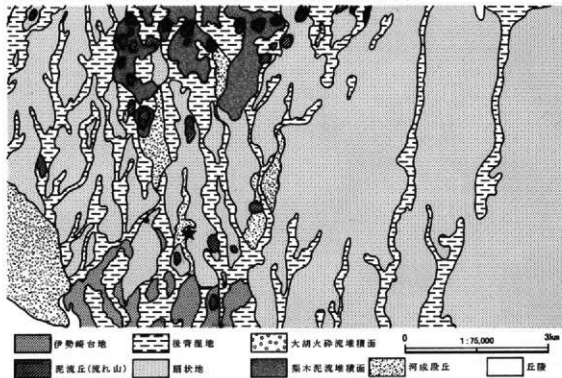
周辺 群馬県史通史編1付図2を簡略化

★印は波志江西前遺跡



第110図 遺跡周辺地形図(1)

中央部 (国土地理院1:50,000『前橋』・『新井及足利』)群馬県史通史編1付図2に加工



第111図 遺跡周辺地形図(2)

## 第4章 旧石器時代の遺物群と遺物

### 第1節 旧石器時代の遺跡概要

舞台遺跡の位置する伊勢崎市三和町は大間々扇状地形の西南端部にあたる。扇状地は形成時期の異なるⅠ・Ⅱ面の二つで構成されるとする。扇状地Ⅰ面（桐原面）は約5万年前に、Ⅱ面（藪塚）は2万数千年前にそれぞれ段丘化したと考えられている（『群馬県史 通史編Ⅰ』1990）。足尾山地に源を発する渡良瀬川によって形成された古期扇状地形である桐原面は広大な洪積低台地として広がり、西南端部には多くの湧水地が点在する。遺跡地は湧水によって開析された谷地地形の低湿地帯とLoam低台地からなっているが、遺構構成の主たる地点は台地上に展開している。遺構内容は旧石器時代から中・近世におよぶ重層の構成を見せるが、台地上での遺構検出面は遺跡地内のほとんどの地点でLoam漸移層か黄Loam層である。従って縄文時代前期から以降の各時代・各種の諸遺構は表土層ないしは現耕作土下での同一面での確認となり、面的調査としてはLoam層中の旧石器時代との2段階になる。

舞台遺跡は低地と台地によって形成されているため、その土層は大きく異なっている。台地上では大間々扇状地裸層を基盤に約5mのLoam層が堆積するが、層中にはAs-YP・As-OP1・As-BP・As-MP・Ag-KLP・Ag-KP・Hr-HPなど浅間山・榛名山・赤城山等諸山を給源とする多種のTephraが認められる。低地部では粘土層やSilt層を中心とした土層堆積からなるが、地点毎に見られる土層の表情は一様のものとはならずかなりの分層が可能である。旧石器時代以降の各種Tephraは一次堆積の状態で存在し、台地上では辛うじて遺構埋土の二次堆積として看取されるAs-B（浅間BTephra）をはじめHr-FA（榛名二ツ岳浅川Tephra）・As-C（浅間C軽石）なども一次堆積で検出されている。

舞台遺跡の旧石器は遺跡内においておおよそ南側と北側に偏在する。その時期はほぼ後期旧石器時代とすることができる。遺構構成は石器群及び石片の出土状況から、半環状Blockの体を成し、その状況は特に南側の地点で顕著に認めうる。この石器群は遺跡南端部に入り込む谷地地形低地帯縁辺部で、およそ2つのBlockを形成する半環状の石器分布として確認されている。Loam層中での高低差はあるものの、遺物の最も集中する層位はAT下の暗色帯層中であり総数600点余におよぶ。石器及び石片の主たる石材はチャートと頁岩である。一方、旧石器の分布は調査域の中央部ではほとんど認められていないが、三和工業団地Ⅰ遺跡に接する北側で文化面が確認され、石器の出土は同じく暗色帯層が多く約50点を数える。石器石材はやはりチャートと頁岩を主材料とする。舞台遺跡の旧石器の石器種には、hammer-stoon・台形煉石器・尖頭状石器・knife形石器・end-scraper・石刃・彫刻形石器などがある。

また、舞台遺跡には「掛矢清水」と呼ばれる湧水があり、昭和50年代初頭頃の農地整備まで存在していた。隣接する三和工業団地Ⅰ遺跡では「男井戸」と呼称された湧水が知られていた。これらの湧水は後期旧石器時代まで遡ることが確認されている（津島秀章『三和工業団地Ⅰ遺跡(1)―旧石器時代編―』1999（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団）。このような水の存在が、万年になんなんとする時間を経つても多種・多様な遺跡形成に大きく関与していることは想像に難くない。舞台遺跡から検出された旧石器時代の石器群もその一つとして位置づけられよう。

## 第2節 旧石器時代の歴史環境

本遺跡が位置する赤城山南麓は、多くの旧石器、縄文時代遺跡の分布する地域として知られている。特に、昭和21（1946）年の相沢忠洋氏による新田郡笠懸町の岩宿遺跡の発見をはじめとする一連の調査・研究や、昭和29（1954）年の明治大学による勢多郡新里村の武井遺跡の調査など、学史上著名な遺跡が発見されており、旧石器時代研究では、その初期段階において重要な地域であった。昭和40年代末以降、この赤城山南麓の末端部分では、上武道路や北関東自動車道の建設や三和工業団地の造成などの大規模な開発が次々と行われた。特にこれらの開発が集中した大間々扇状地Ⅰ面とその西側の赤城山斜面台地末端部では、小河川や湧水地点に隣接した地域から多数の遺跡が発見されている。

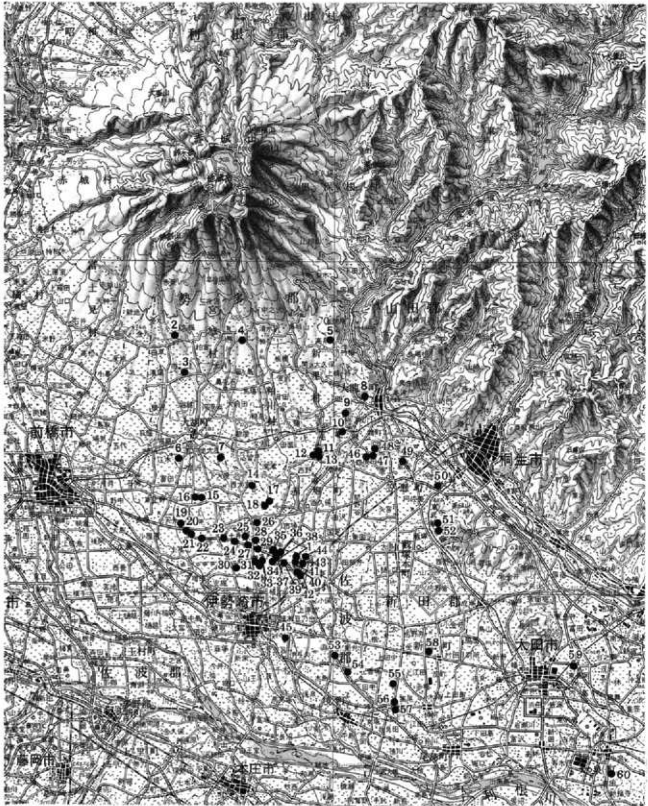
後期旧石器時代で最も古い段階はAT下位で検出された打製や局部磨製の石斧と、石刃素材の基部調整・二側縁調整・側縁調整の大形ナイフ形石器と、幅広剥片素材の斜刃・平刃・尖刃の小形ナイフ形石器を主体とする石器群（群馬編年Ⅰ期）の時期である。前述した岩宿遺跡、武井遺跡の他に和田遺跡・十二社遺跡・下触牛伏遺跡・書上本山遺跡・書上遺跡・堀下八幡遺跡・今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡・三和工業団地Ⅰ遺跡・波志江中宿遺跡・波志江西宿遺跡・富田下大日遺跡・熊の穴Ⅱ遺跡・内堀遺跡・堀越甲真木B地点遺跡など多数上げられる。特に20～50mの円形～楕円形の範囲で中央部が空白な石器出土状況から、「環状ブロック」と呼ばれる特徴的な分布が確認されている下触牛伏遺跡などは、石器を残した当時の集団が形成した「ムラ」の様子を示すものとして注目されている。

次の段階は、切出形ナイフ形石器と角錐状石器を主体とする石器群（群馬編年Ⅱ期）の時期であり、県内全体の遺跡数は極度に少ないが、武井遺跡・十二社遺跡・岩宿遺跡・波志江中宿遺跡・三和工業団地Ⅰ遺跡・今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡・見立溜井遺跡・多胡蛇黒遺跡などが上げられる。

さらに、槍先形尖頭器を中心とする石器群（群馬編年Ⅲ期）の時期で、武井遺跡・東長岡戸井口遺跡・御正作遺跡・岩宿Ⅱ遺跡・元宿遺跡・梨ノ木Ⅰ遺跡・新宮Ⅱ遺跡・広間地西遺跡・三和工業団地Ⅰ遺跡・下触牛伏遺跡・今井三騎堂遺跡・今井見切塚遺跡・三ッ屋遺跡・富田下大日遺跡・見立溜井遺跡などが挙げられる。特に武井遺跡は多量の槍先形破片機が出土した大規模な遺跡である。この時期は、礫屏の形成が顕著な時期でもあり、規模の大小はあるものの、武井遺跡・下触牛伏遺跡・東長岡戸井口遺跡・御正作遺跡などでも検出されている。

次の段階は細石刃と細石核の細石器を主体とする石器群（群馬編年Ⅳ期）の時期で、この時期も県内全体の遺跡数は少ないものの、当舞台遺跡や峰岸遺跡・市之岡前田遺跡・柏倉芳見沢遺跡・頭無遺跡・鳥取福蔵寺遺跡・下原遺跡などが挙げられる。特に、矢出川・休場系列の円柱形（柱状形）の細石核が本遺跡をはじめ峰岸遺跡・市之岡前田遺跡、削片系統の細石核が柏倉芳見沢遺跡・頭無遺跡・鳥取福蔵寺遺跡・下原遺跡・ハッ入遺跡から出土しており、日本列島内での南からと北からのそれぞれの文化の流れが窺える。

終末期は大形の尖頭器が主体となる時期で、石山遺跡・荒砥北三木堂遺跡などが挙げられる。この時期は日本における土器の出現期に相当し、荒砥北三木堂遺跡からは無文土器と有舌尖頭器が出土している。



第112図 赤城南麓旧石器遺跡分布図

国土院 1/200,000 [宇都宮]

第4章 旧石器時代の遺物群と遺物

周辺遺跡

1	舞台遺跡	本報告書
2	船倉芳見沢	細野 1991
3	市之岡前田	『市之岡前田遺跡Ⅰ』宮城村教育委員会 1991
4	樽形	『樽形遺跡調査報告書』宮城村教育委員会 1981
5	入ノ沢	無実?
6	三ノ屋	相沢・関矢 1988
7	熊の穴Ⅱ	『横田原遺跡群Ⅱ』前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1991
8	桐原	無実?
9	不二山	無実?
10	元宿	相沢・関矢 1988
11	武井	杉原・加部・小菅 1995
12	十二社	加部・大工原・町田 1992
13	峠岸	『群馬県史資料編Ⅰ』1991
14	内堀	『第22回前橋市文化財展』
15	須原	須原・関根 1988
16	柳久保	『柳久保遺跡群Ⅰ』前橋市埋蔵文化財調査団 1985
17	今井三輪堂	『今井三輪堂遺跡』群理文 2003、『年報18・19』群理文 1999・2000
18	今井足切塚	『年報17・18・20・21』群理文 1996・1999・2001・2002
19	荒砥北三木堂	『荒砥北三木堂遺跡Ⅱ』群理文 1992
20	今井遺上遺下	『今井遺上遺下遺跡』群理文 1995
21	二之宮谷地	『二之宮谷地遺跡』群理文 1994
22	二之宮千足	『二之宮千足遺跡』群理文 1992
23	飯土井中央	『飯土井中央遺跡』群理文 1991
24	飯土井二本松	『飯土井二本松遺跡』群理文 1991
25	下輪牛伏	『下輪牛伏遺跡』群理文 1986
26	石山遺跡	『考古学ジャーナル6月号』ニューサイエンス社 1967
27	流志江六反田	『流志江六反田遺跡』群理文 1992
28	吾妻	『吾妻遺跡』既立しらがね学園遺跡調査会 1968
29	堀下八幡	『堀下八幡遺跡』群理文 1990
30	岡屋敷	『年報19』岡屋敷遺跡Ⅰ』2000
31	伊勢山	『平成11年度埋蔵文化財発掘調査年報』伊勢崎市教育委員会 2001
32	伊勢山	『流志江西宿遺跡Ⅰ・伊勢山遺跡』群理文 2002
33	流志江西宿	『流志江西宿遺跡Ⅱ』群理文 2004
34	流志江中宿	『流志江中宿遺跡』群理文 2001
35	流志江天神山	『善上本山遺跡・流志江六反田遺跡・流志江天神山遺跡』群理文 1992
36	光仙房	『光仙房遺跡』群理文 2003
37	五日寺新田	『年報17～19』群理文 1998～2000
38	五日寺南植	『五日寺南植遺跡』群理文 1992
39	上植木光仙房	『上植木光仙房遺跡』群理文 1988
40	善上本山	『善上本山遺跡』群理文 1992
41	下植木巻丁田	『下植木巻丁田遺跡』
42	善上	『年報20・21』群理文 2001・2002『平成12年度埋蔵文化財調査年報』
43	三和工業団地	伊勢崎市教育委員会 2002『三和工業団地Ⅰ遺跡』群理文 1999
44	梅原山	相沢・関矢 1988
45	十三宝塚	無実?
46	和田	『笠懸村誌別巻Ⅰ』『和田遺跡』笠懸村 1983
47	神社裏	『笠懸町内遺跡Ⅱ』笠懸町教育委員会 1995
48	清水	萩谷 1995
49	岩宿	『群馬県史資料編Ⅰ』明治大学文学部研究報告考古学1981
50	笠懸北山	『群馬県史資料編Ⅰ』1990
51	萩原	須藤 1986
52	萩原台山地点	『萩原遺跡台山地点』萩原遺跡台山地点発掘調査団 1990
53	下瀧名塚跡	『下瀧名塚跡遺跡』群理文 1991
54	槲ノ木	『八寸長溝遺跡』群理文 2001
55	台	『台遺跡発掘調査概報』新田町教育委員会 1988
56	中江田AⅡ	『新田町誌第2巻』1987
57	中江田B	『新田町誌第2巻』1987
58	重蔵	『重蔵遺跡』早稲田?
59	東長岡戸井口	『東長岡戸井口遺跡』群理文 1999
60	御正作	『御正作遺跡』大泉町教育委員会 1984

## 第3節 旧石器時代の基本土層

本遺跡は赤城山南麓の裾野がほぼ終わろうとする地帯で、渡良瀬川によって形成された大間々扇状地の西縁に立地する。遺跡地は低地と台地によって構成されており、当然の事ながら両者の土層堆積は大きく異なっている。大間々扇状地の基層となっている礫層の上には厚くLoam層が堆積している。層中には広域火山灰のAT（始良丹沢火山灰）をはじめ浅間山・赤城山・榛名山等を給源とする多くのTephraが確認されている。TephraはAs-YP・As-OP1・As-BP・Ag-KLP・Ag-KP・Hr-HPなどであるが、一部を除いては一次堆積のものではなく層中に散在的であるとされる。遺跡周辺は土地改良等の地勢変化が進み大方の地点では表土下がLoam漸移層となっているが部分的にC軽石の混入する黒褐色土のいわゆるC混土と下位層の黒褐色土が残存する地点がある。基本土層中の2層はLoam漸移層でAs-YP（浅間板鼻黄色軽石）を含み、縄文時代前期の遺物包含層または遺構埋土との区別に苦慮する層相である。

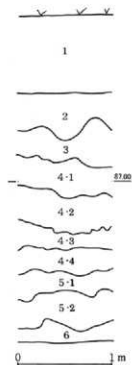
旧石器の遺物検出にかかわる直接的な土層は3層の明黄褐色Loam層からになるが、ここからの出土はなお散在的で安定した包含層位とはなっていない。As-OP1（浅間-大窪沢第1軽石）と考えられる白色軽石が少量混入する。4層は1～4に細分され、4(1)層の明黄褐色土・4(2)層の灰黄褐色土にはAs-BP群（浅間板鼻褐色軽石）が塊状に混入し、4(3)層の明黄褐色土・4(4)層の灰黄褐色土にはAs-MP（浅間室田軽石）と考えられる軽石の混入がある。5層は2分層するがともに暗色帯である。5(1)層は灰黄褐色、5(2)層は暗褐色で風化小礫が混入する。6層は粘性のある灰黄褐色土である。

## 群馬県における旧石器時代と関連するTephra

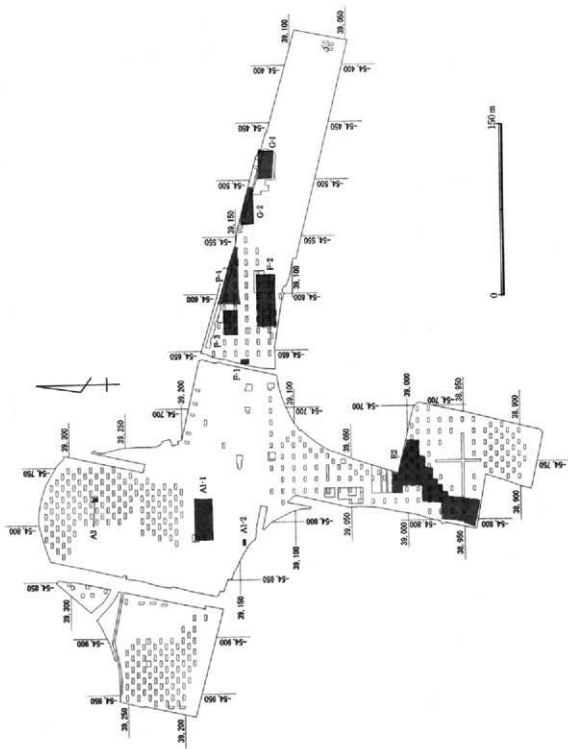
As-YP	浅間-板鼻黄色軽石
As-OP1	浅間-大窪沢第1軽石
As-SP	浅間-白糸軽石
As-BP	浅間-板鼻褐色軽石
As-MP	浅間-室田軽石
AT	始良Tu火山灰
Ag-KLP	赤城-小沼ラビリ

## 旧石器基本土層 (F区)

1	表土	As-B・As-Cまたは混土層介在
2	純黄色土	Loam漸移層 白色軽石少量含む As-YP混のLoam層介在
3	明黄褐色土	白色軽石 (As-OP1) 少量混
4(1)	明黄褐色土	As-BP?塊少混
4(2)	灰黄褐色土	As-BP?塊少混
4(3)	明黄褐色土	As-MP?混
4(4)	灰褐色土	As-MP?混
5(1)	灰黄褐色土	暗色帯
5(2)	暗褐色土	暗色帯小礫混
6	灰黄褐色土	

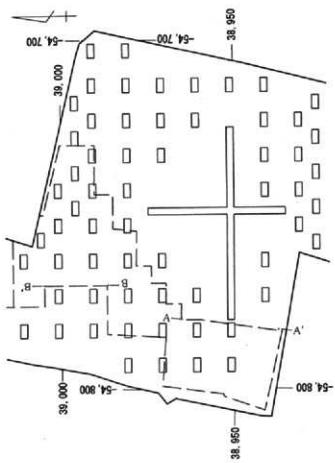


第113図 舞台遺跡旧石器基本土層

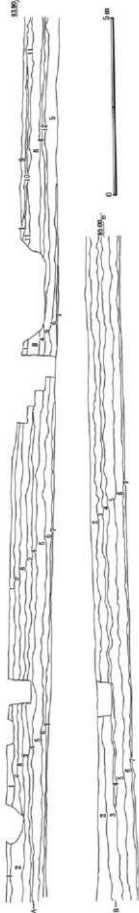


第114図 旧石器出土地点・試掘配置図



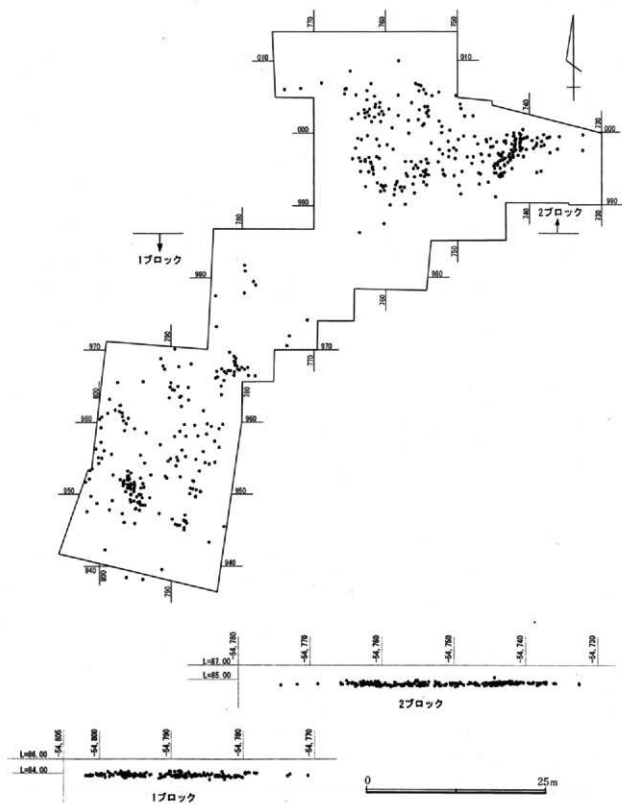


- |    |      |                |
|----|------|----------------|
| 1  | 黄褐色土 | 白色礫石(Op.)少混    |
| 2  | 黄褐色土 | 砂質頁礫石(Aa-BP)多混 |
| 3  | 黄褐色土 | AT少混           |
| 4  | 黄褐色土 | 砂質頁礫石(Aa-BP)多混 |
| 5  | 黄褐色土 | 砂質頁礫石(Aa-BP)多混 |
| 6  | 黄褐色土 | 砂質頁礫石(Aa-BP)多混 |
| 7  | 黄褐色土 | 砂質頁礫石(Aa-BP)多混 |
| 8  | 黄褐色土 | 砂質頁礫石(Aa-BP)多混 |
| 9  | 黄褐色土 | 砂質頁礫石(Aa-BP)多混 |
| 10 | 黄褐色土 | 砂質頁礫石(Aa-BP)多混 |
| 11 | 黄褐色土 | 砂質頁礫石(Aa-BP)多混 |
| 12 | 黄褐色土 | 砂質頁礫石(Aa-BP)多混 |



第115図 E区旧石器出土地点・試掘溝配置・土層図

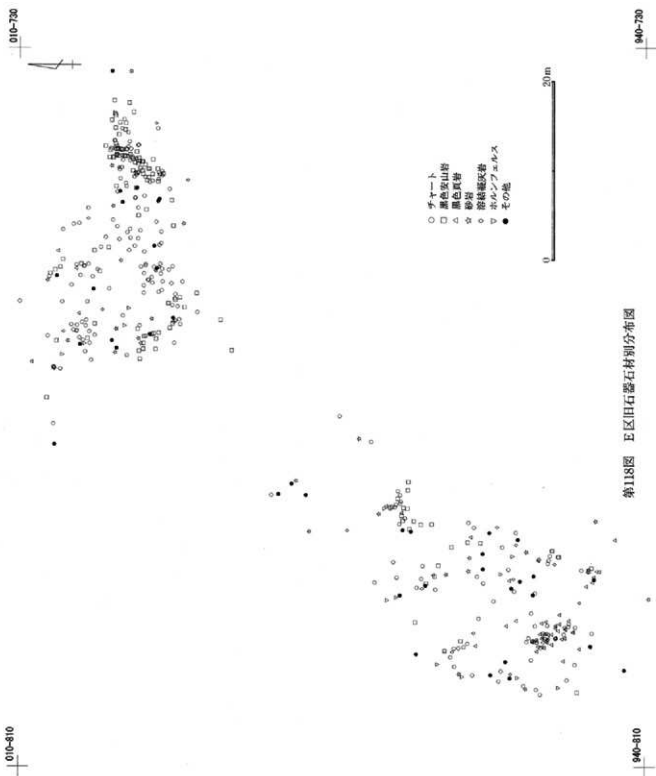
第4節 遺物群と遺物



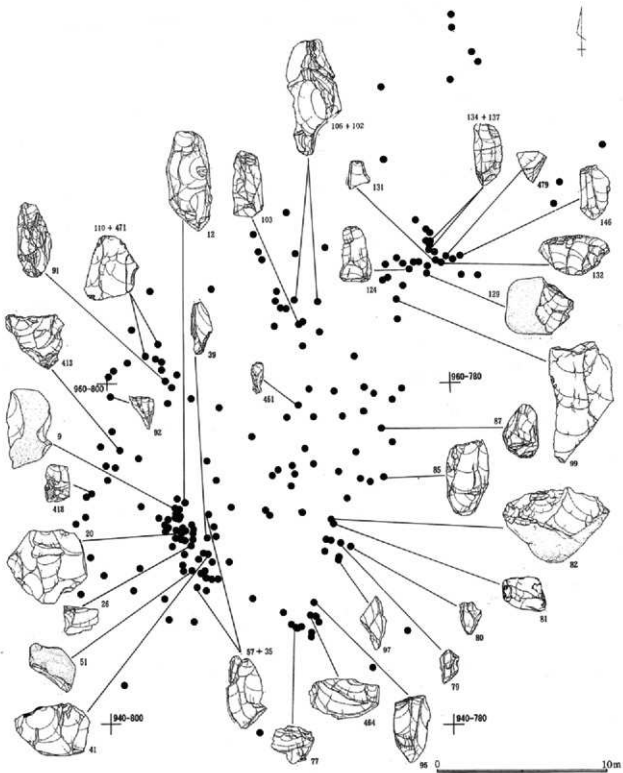
第116図 E区旧石器分布図



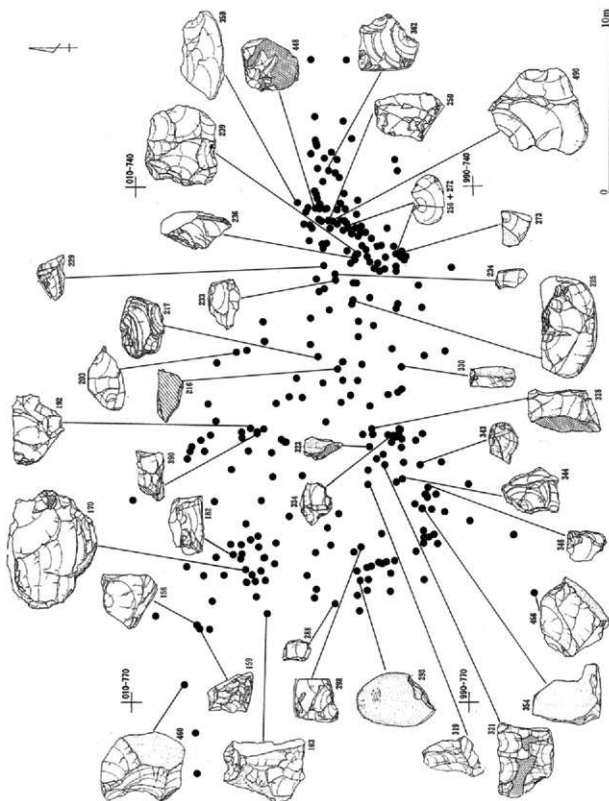
第117図 E区旧石器器種別分布図



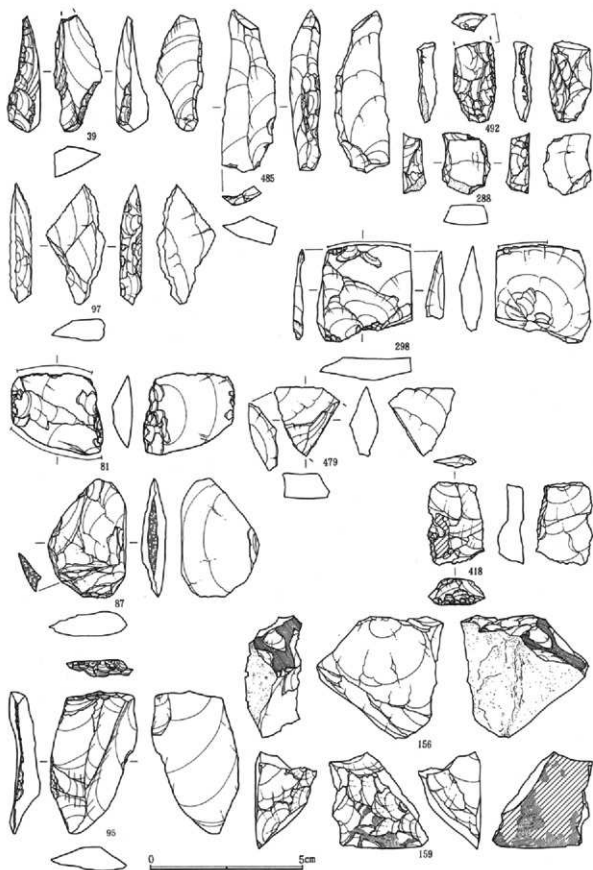
第118図 E区旧石器石村別分布図



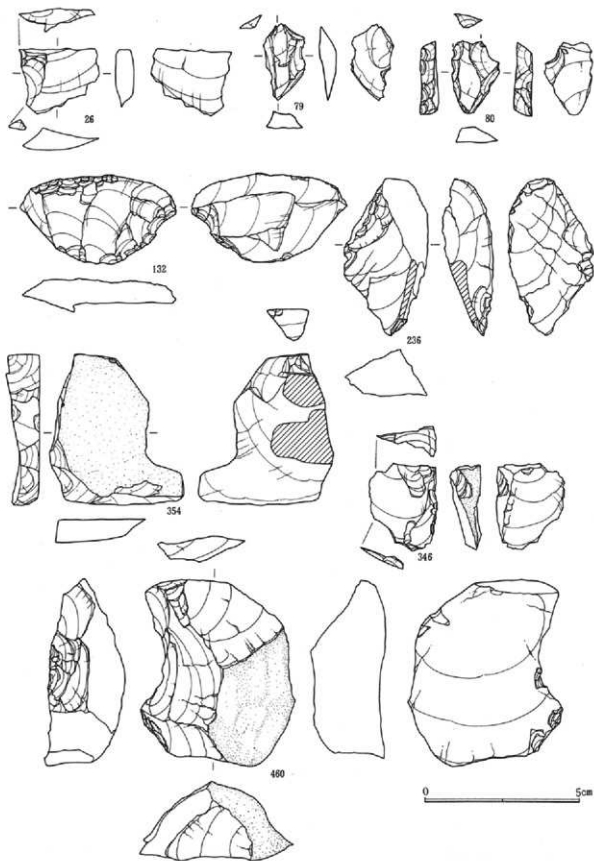
第119圖 E区第1群旧石器分布图



第120図 E区第2群旧石器分布図



第121图 E区出土石器(1)



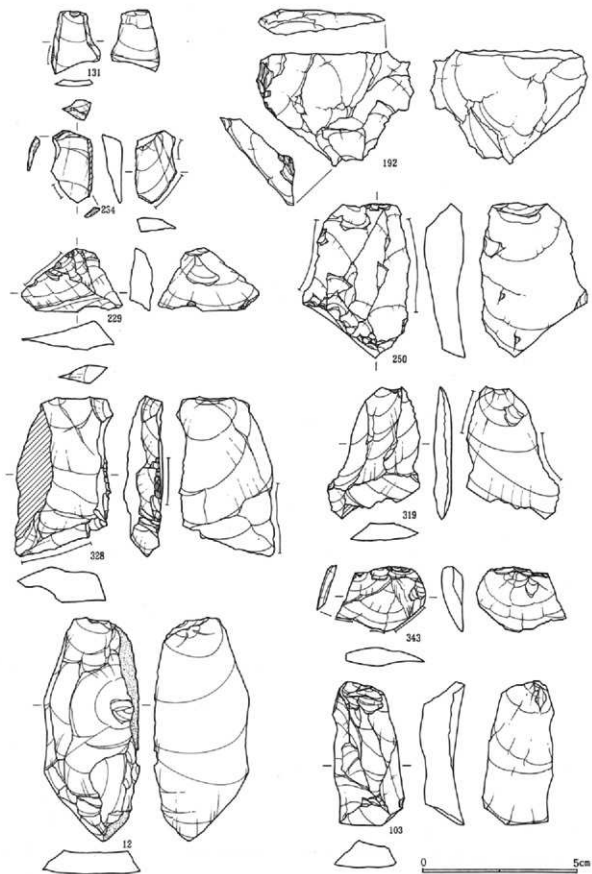
第122図 E区出土石器(2)



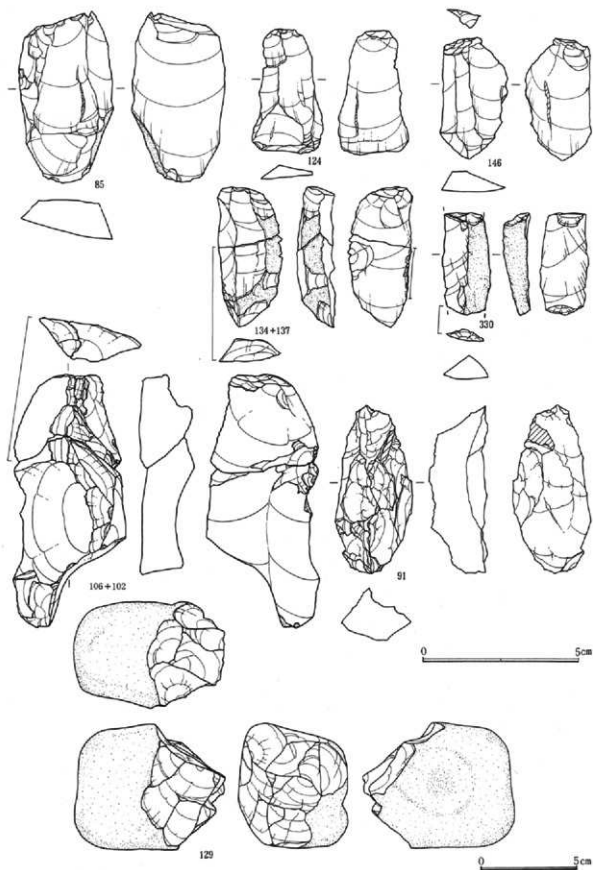


第123图 E区出土石器(3)

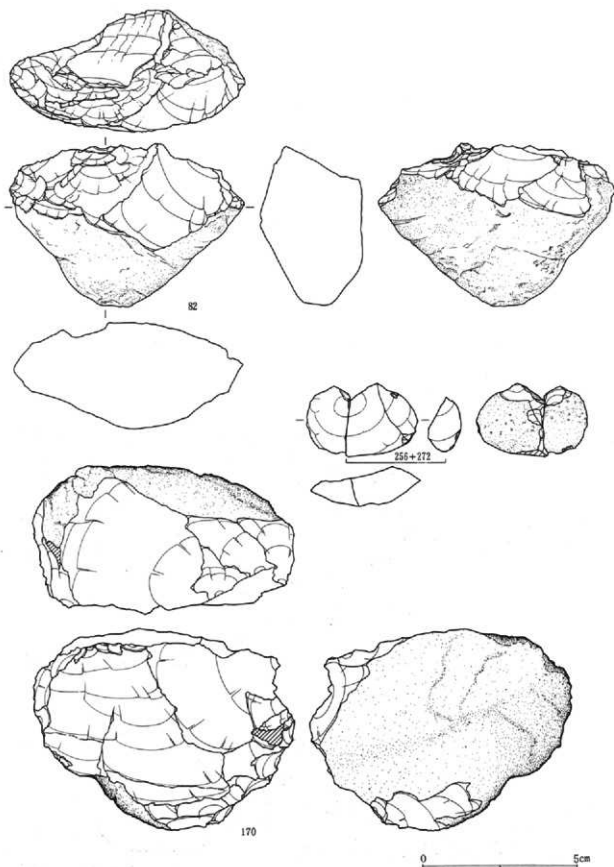
第4章 旧石器時代の遺物群と遺物



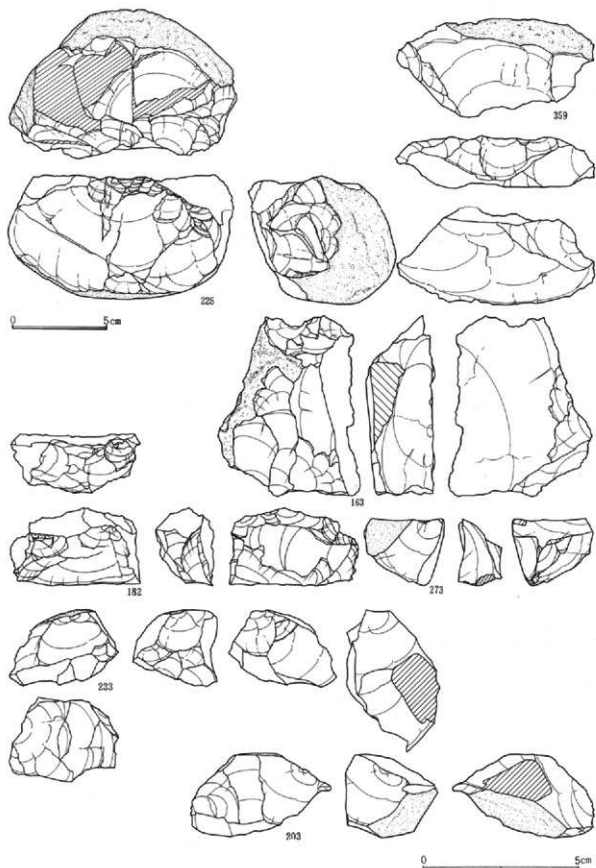
第124図 E区出土石器(4)



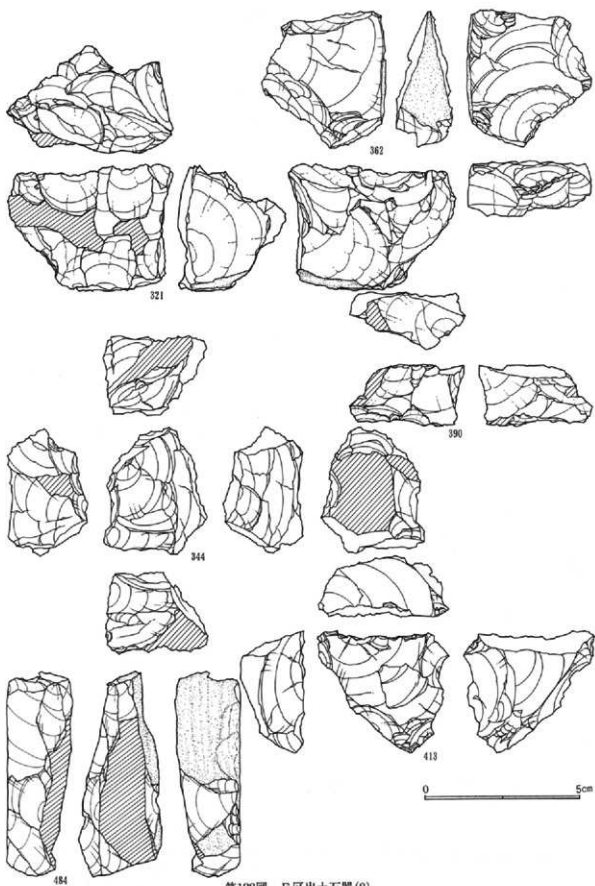
第125图 E区出土石器(5)



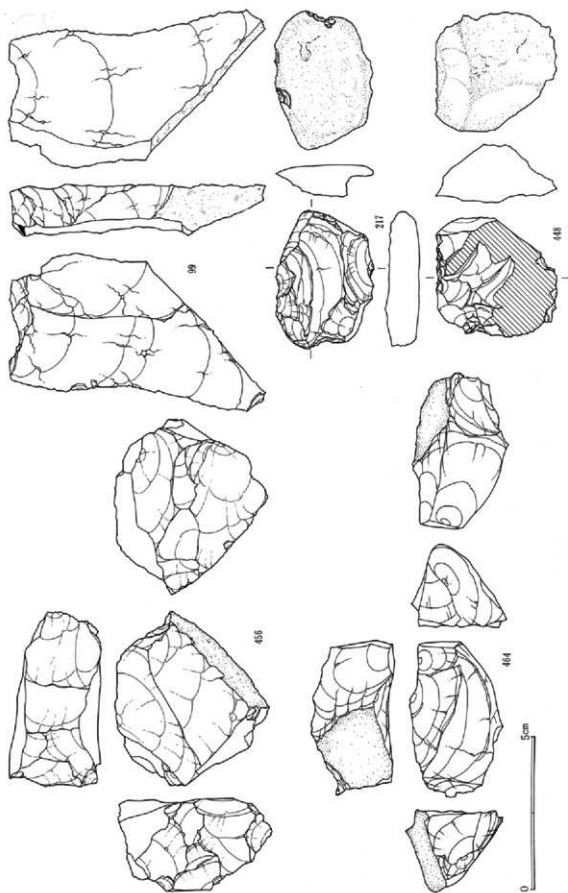
第126図 E区出土石器(6)



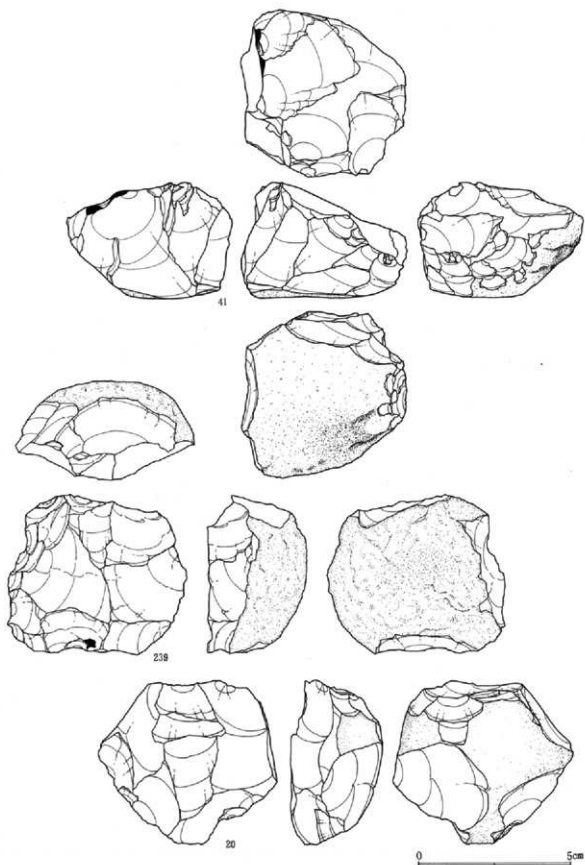
第127图 E区出土石器(7)



第128図 E区出土石器(8)

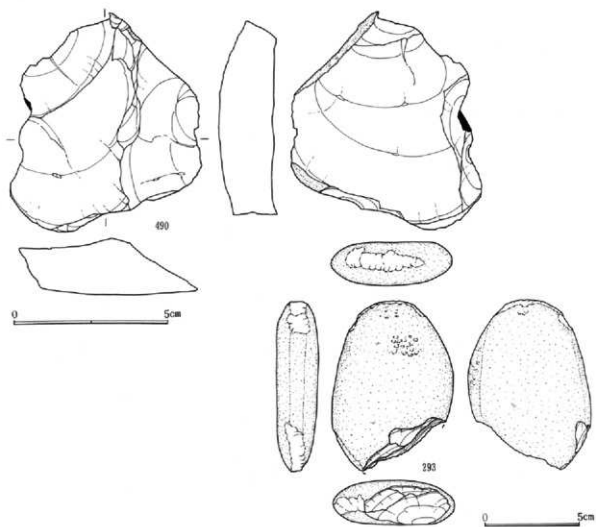


第129図 E区出土石器(9)

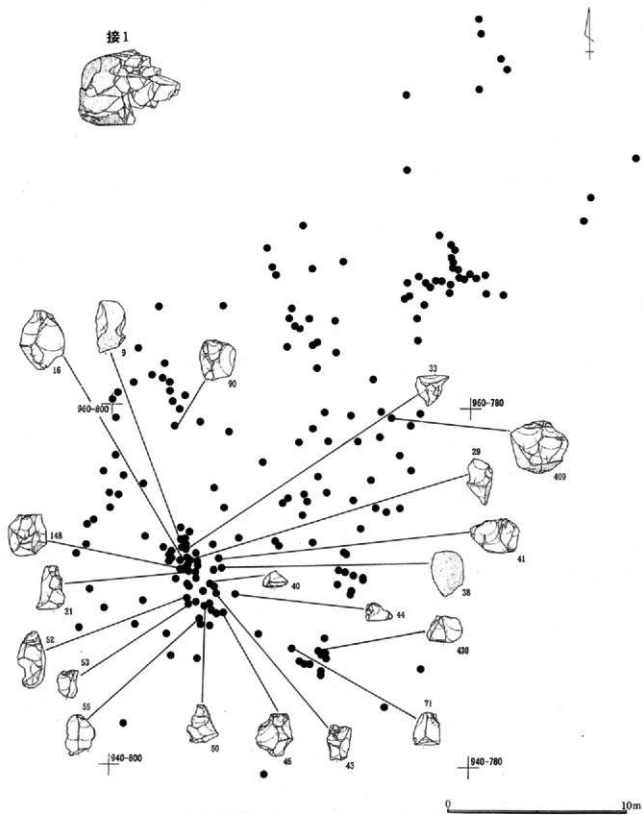


第130図 E区出土石器(10)

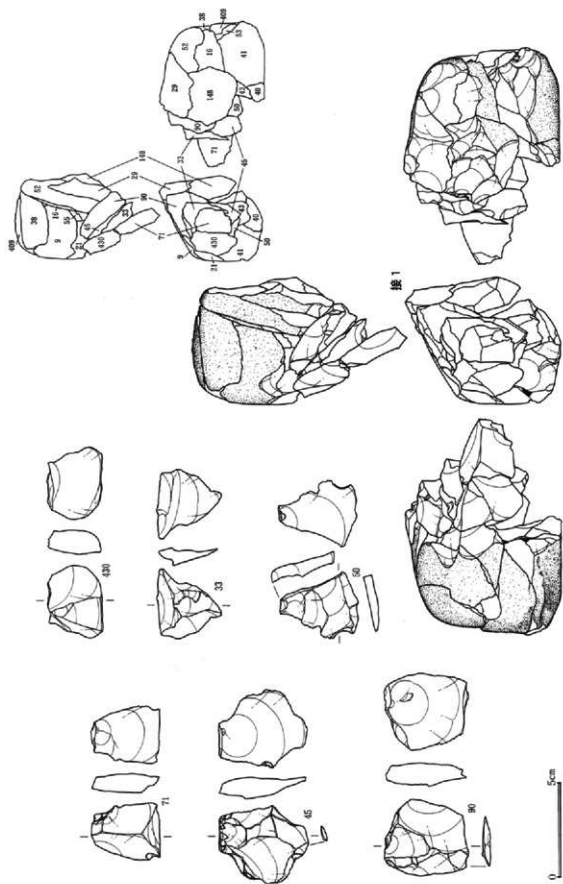




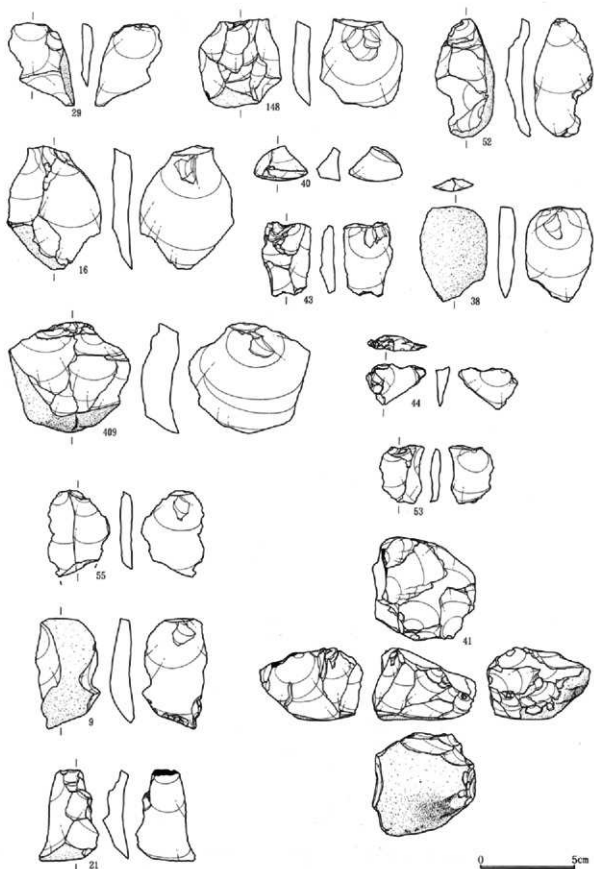
第131图 E区出土石器(11)



第132図 E区石器接合資料分布図(1)



第133図 E区石器接合資料(1)



第134図 E区石器接合資料(2)

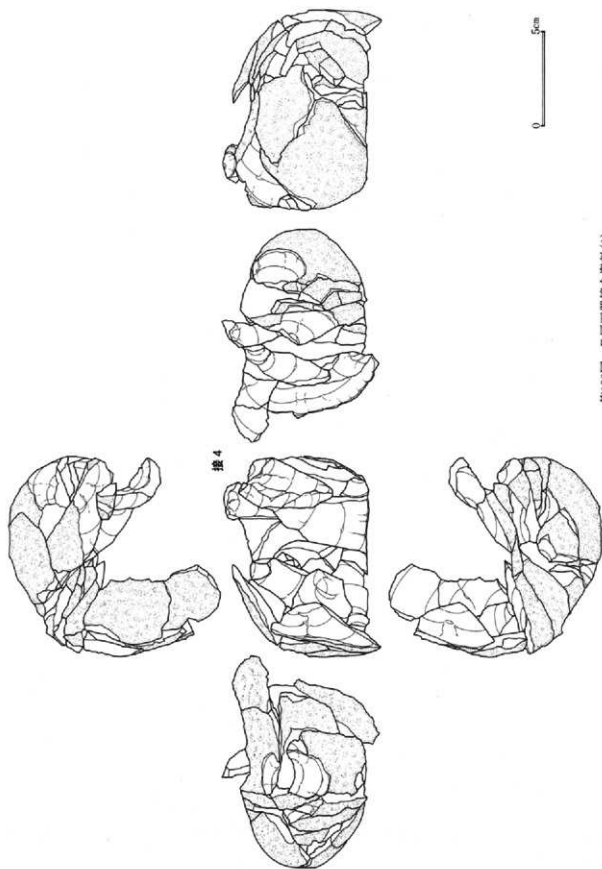


第135圖 E区石器接合資料分布圖(2)



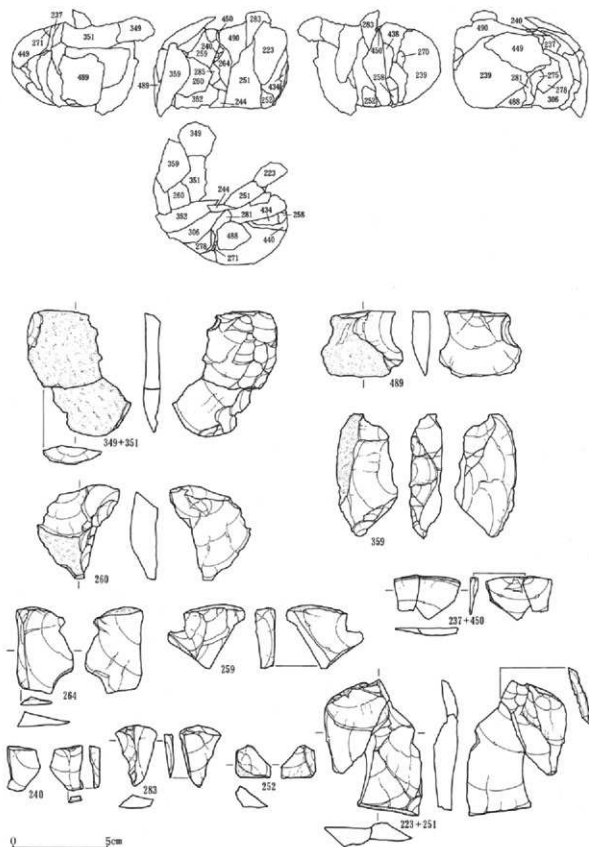
第136图 E区石器接合資料





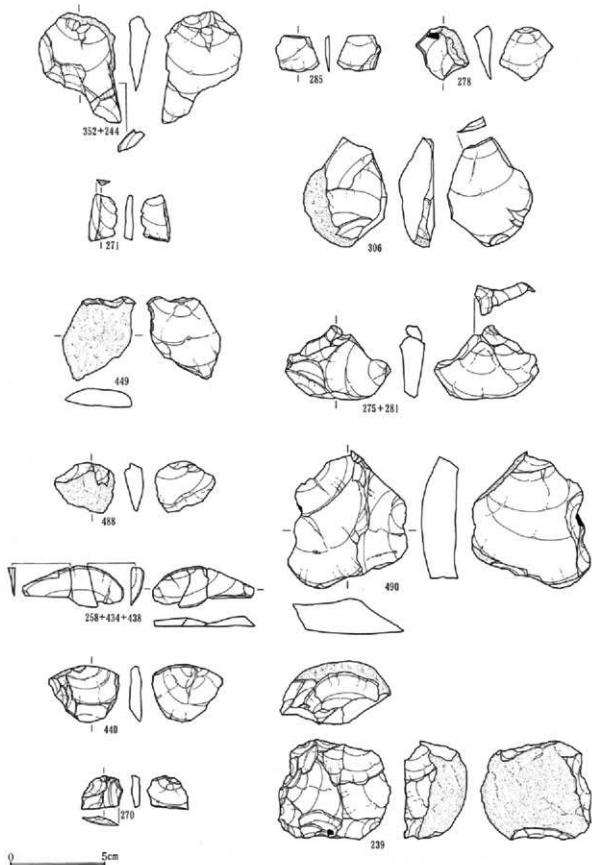
第138図 E区石器接合資料(1)



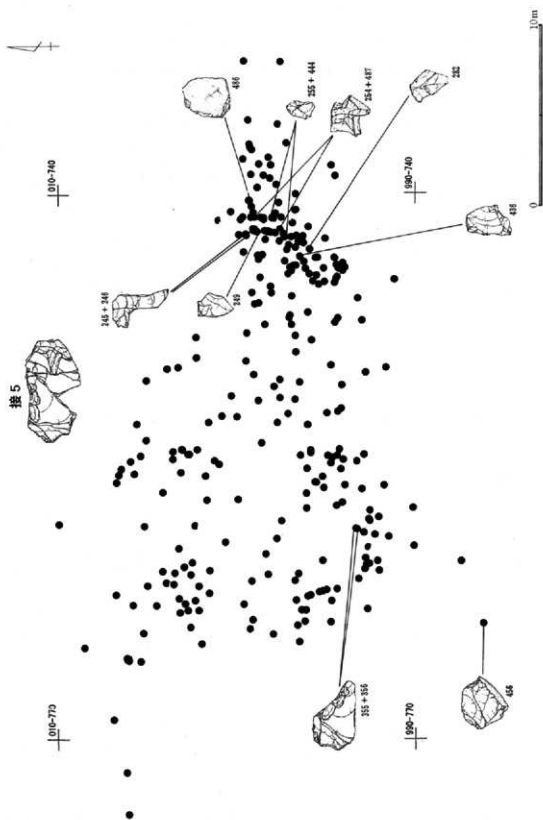


第139图 E区石器换合资料(2)

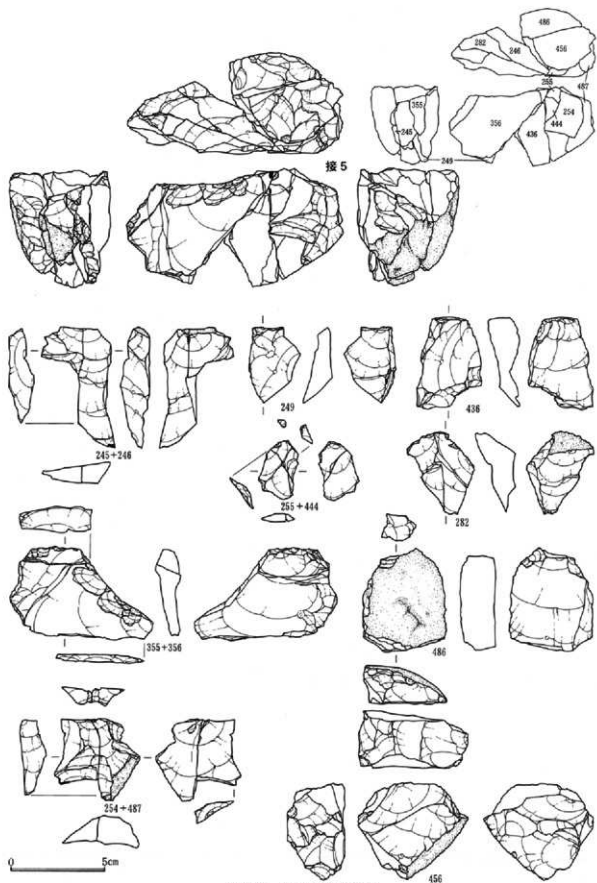
第4章 旧石器時代の遺物群と遺物



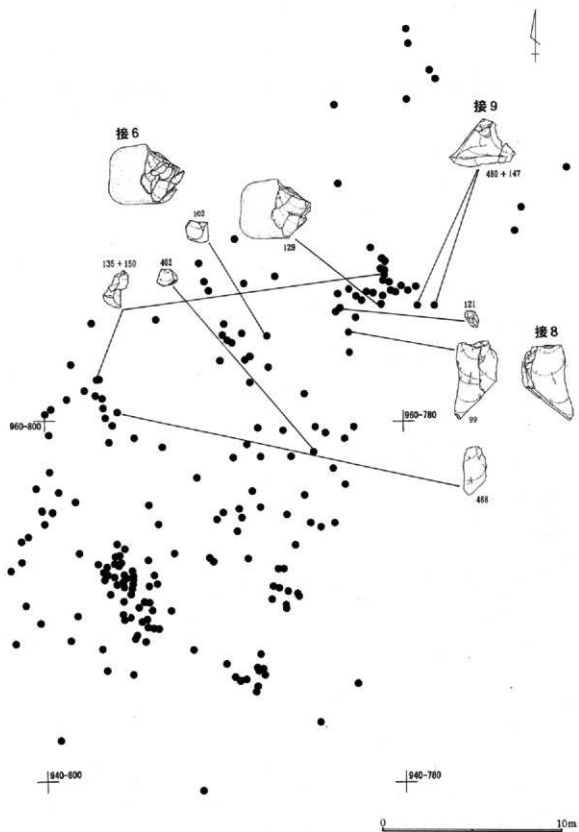
第140図 E区石器接合資料(3)



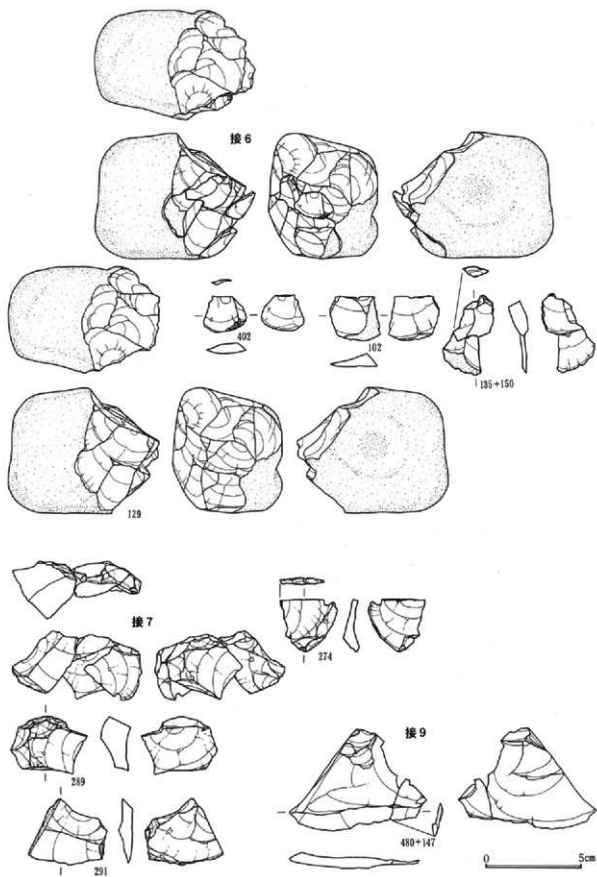
第141圖 E区石器接合資料分布図(4)



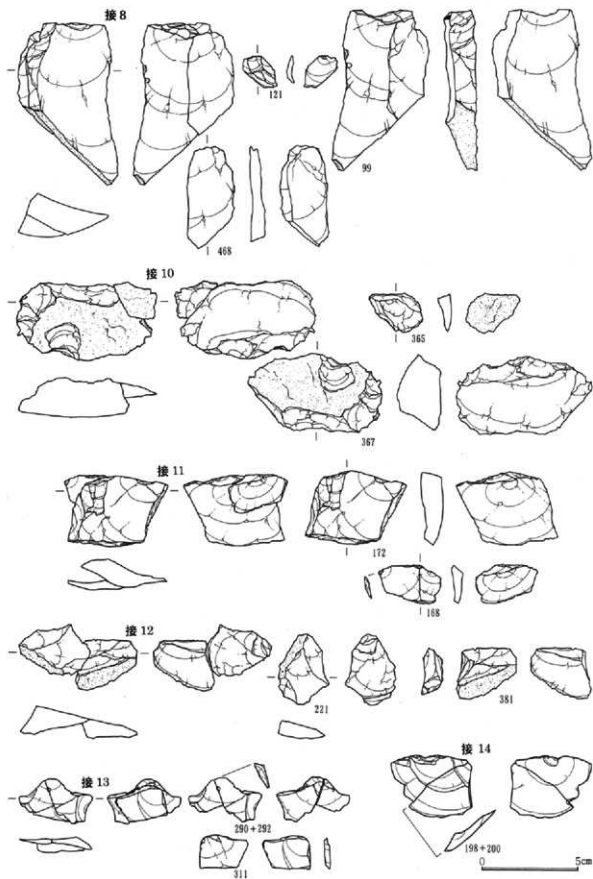
第142図 E区石器接合資料



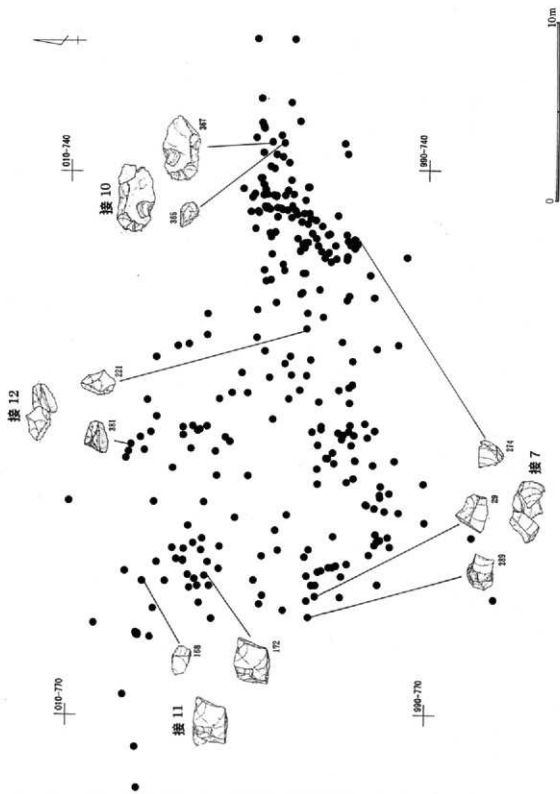
第143图 E区石器接合資料分布图(5)



第144図 E区石器接合資料(1)

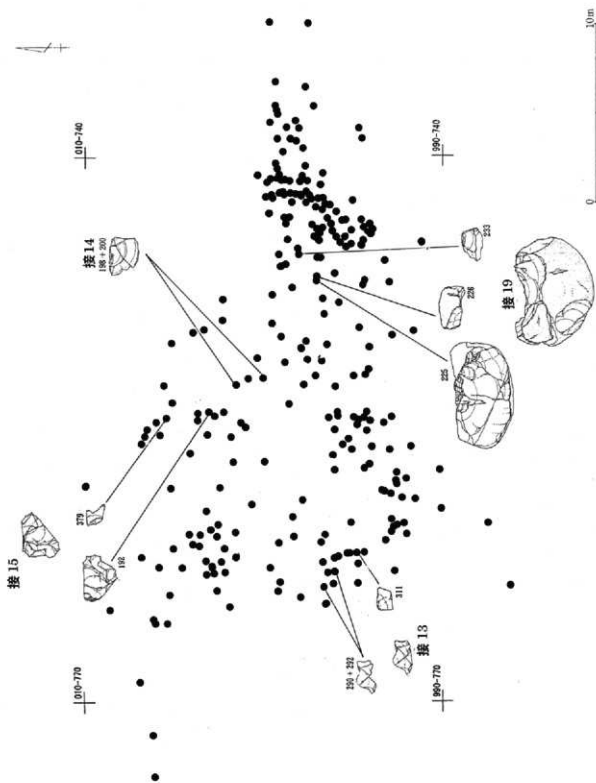


第145图 E区石器接合資料(2)

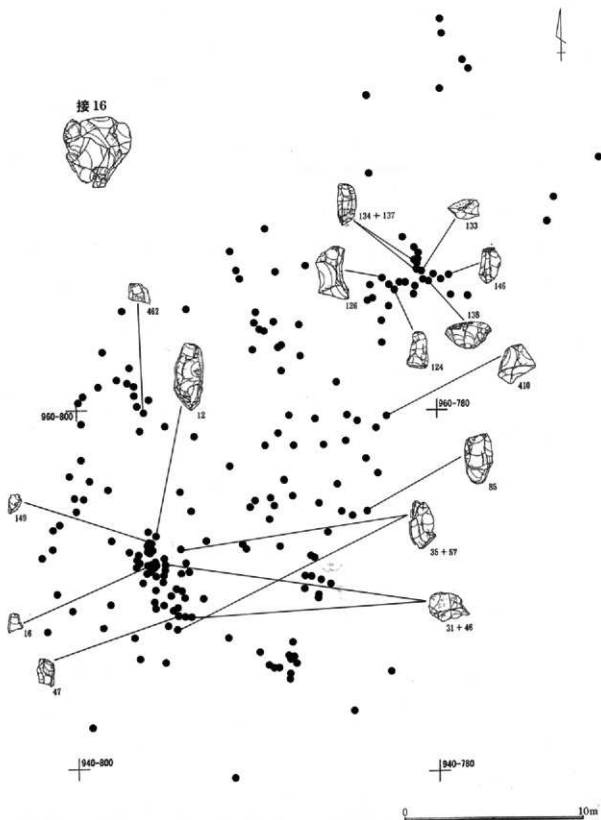


第146図 E区石器接合資料分布図(6)

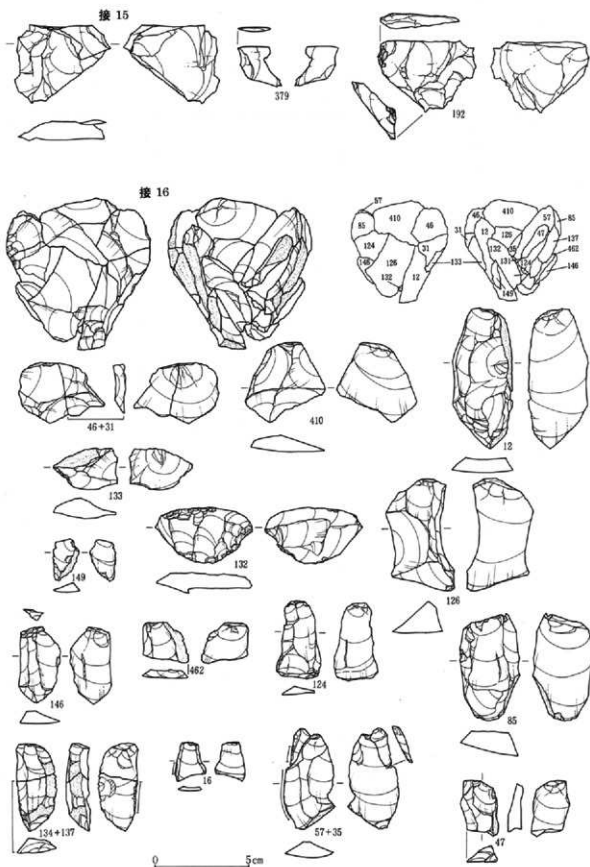




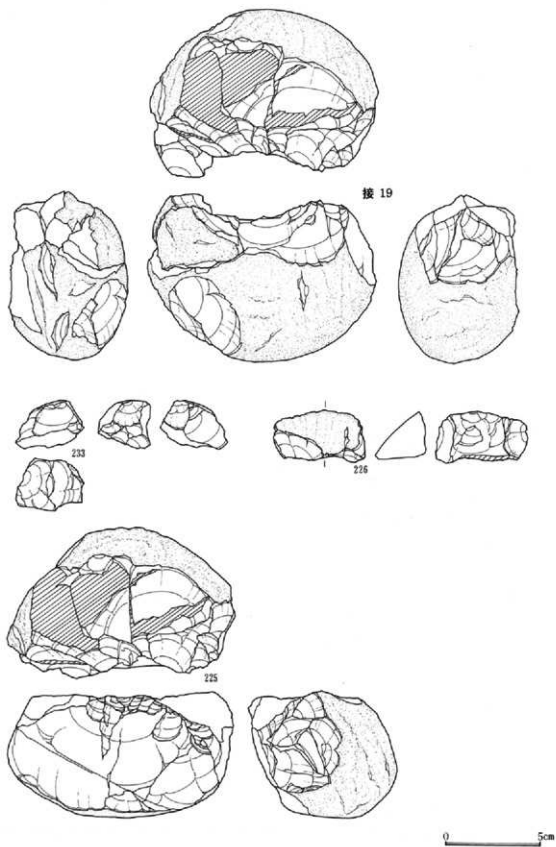
第147图 E区石器接合資料分布图(7)



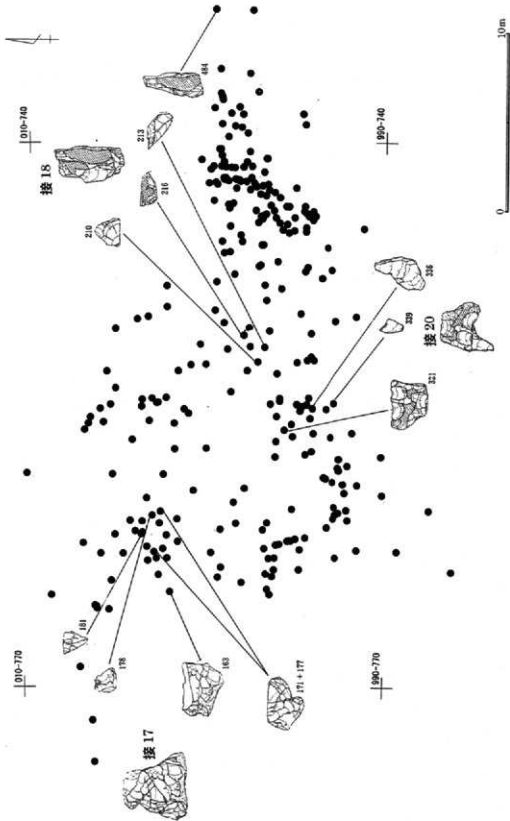
第148図 E区石器接合資料分布図(8)



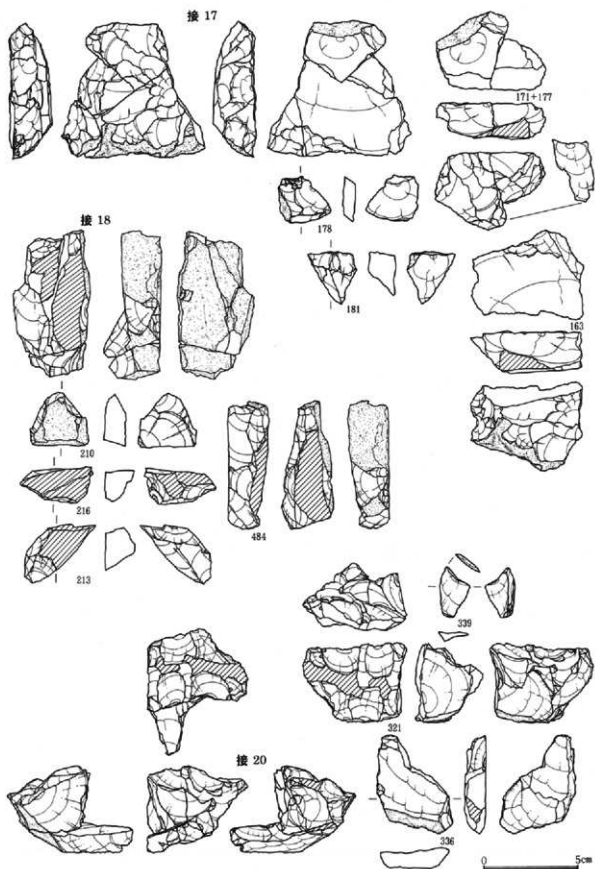
第149图 E区石器接合資料(1)



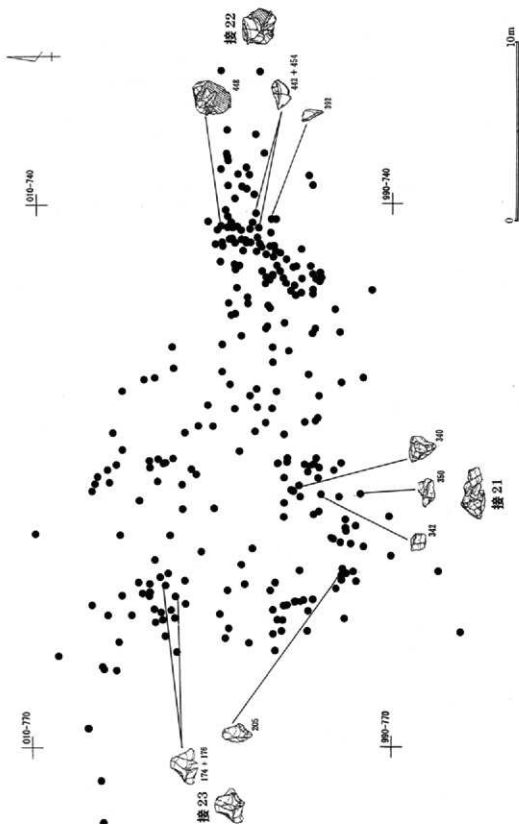
第150図 E区石器接合資料(2)



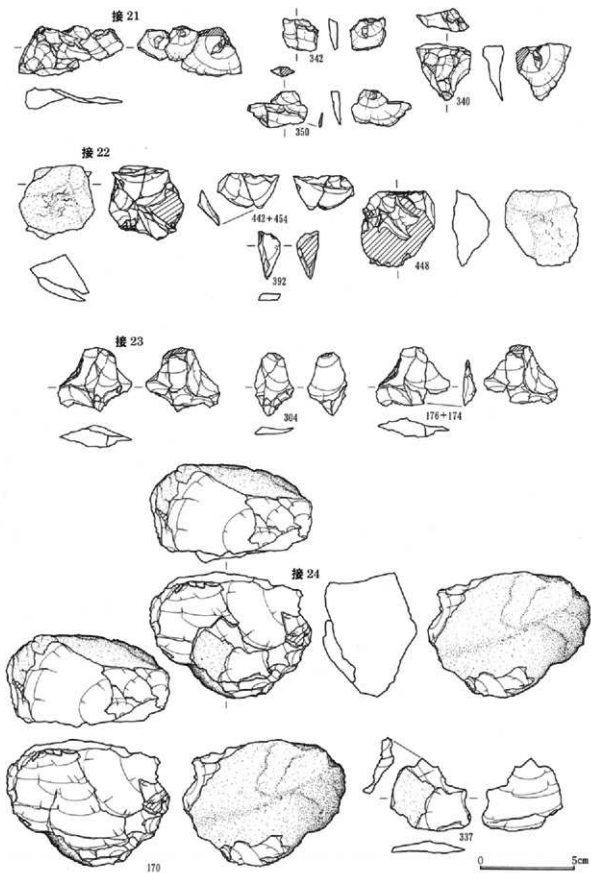
第151圖 E区石器接合資料分布圖(9)



第152図 E区石器接合資料

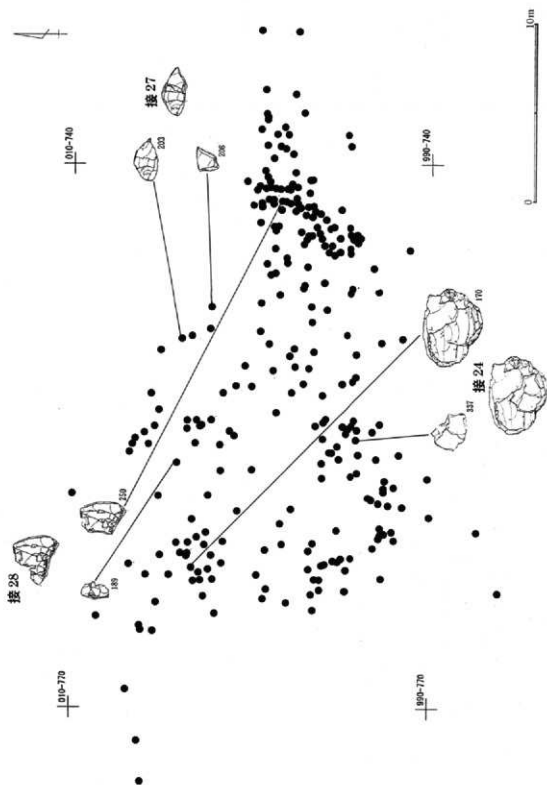


第153図 E区石器接合資料分布図(10)



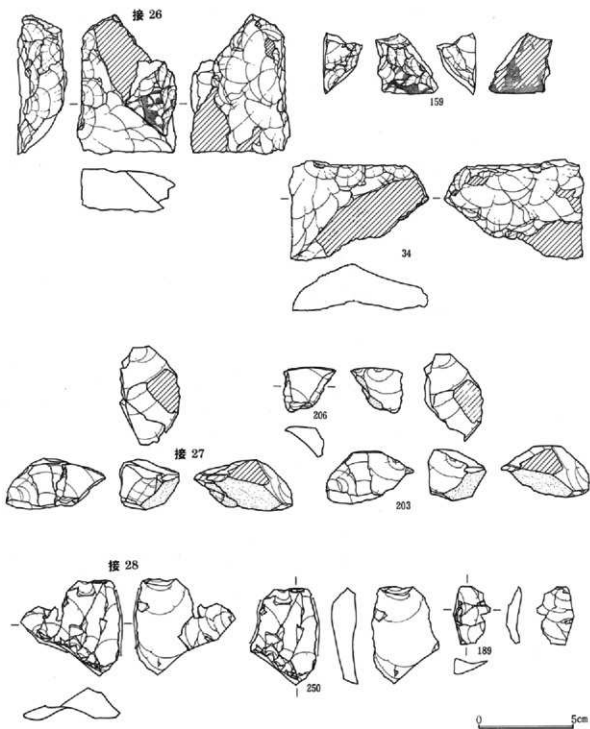
第154図 E区石器接合資料



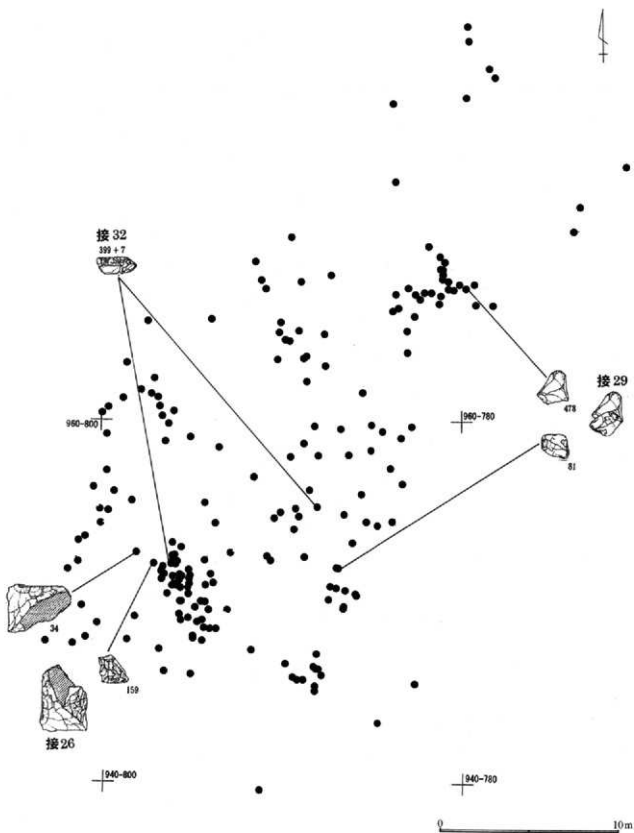


第155図 E区石器接合資料分布図(11)

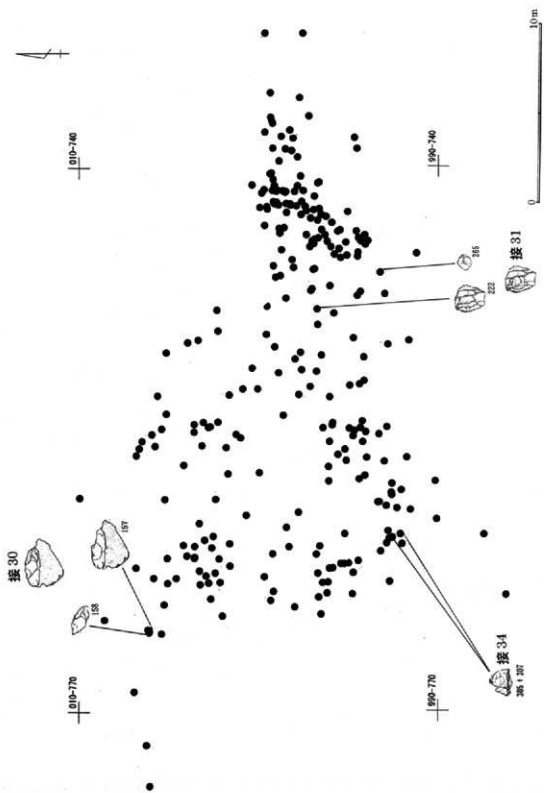
第4章 旧石器時代の遺物群と遺物



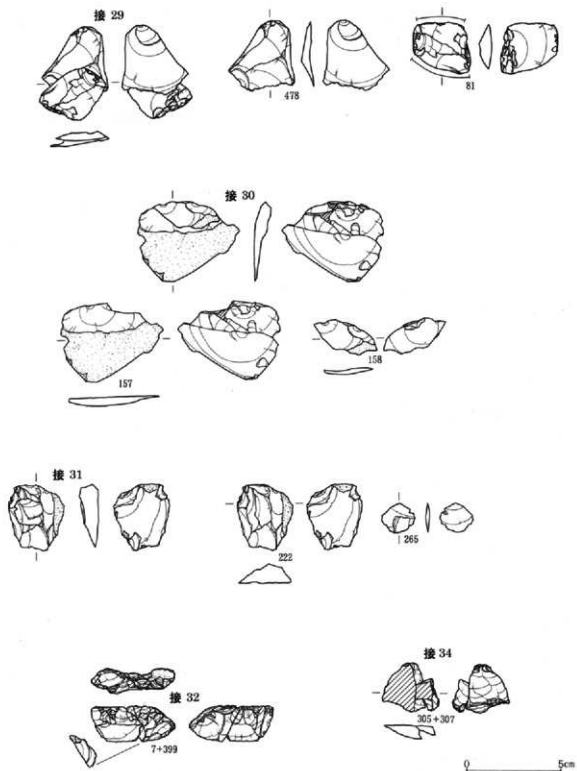
第156図 E区石器接合資料



第157图 E区石器接合資料分布图(12)

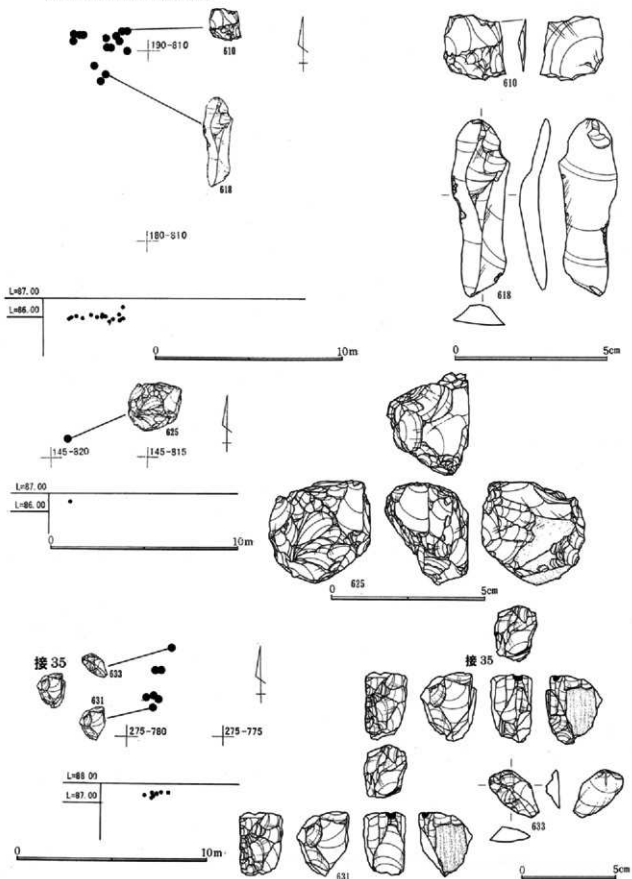


第158図 E区石器接合資料分布図(13)

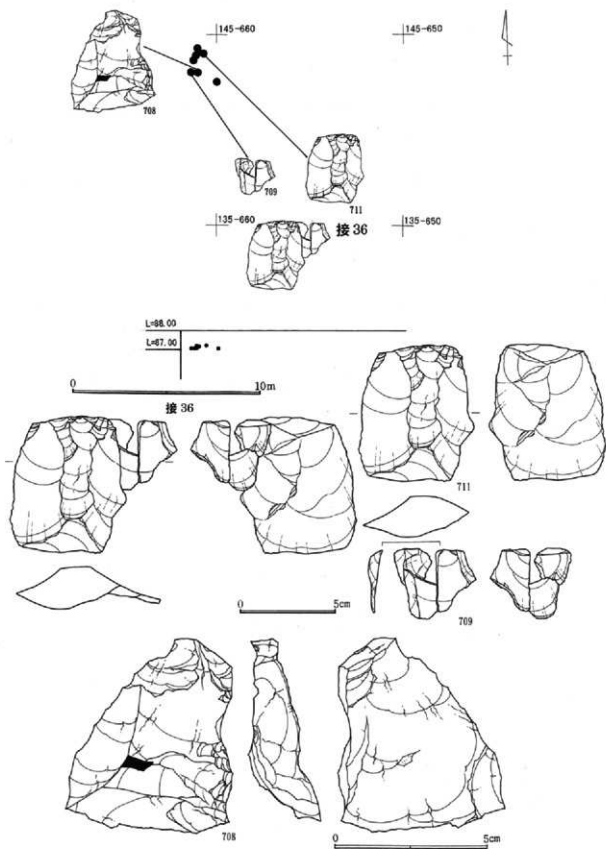


第159圖 E区石器接合資料

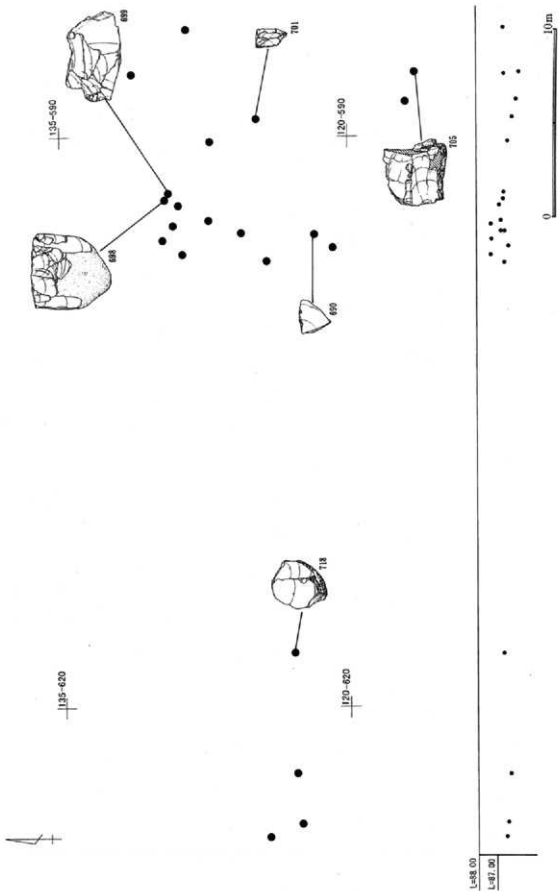
第4章 旧石器時代の遺物群と遺物



第160図 A区出土石器

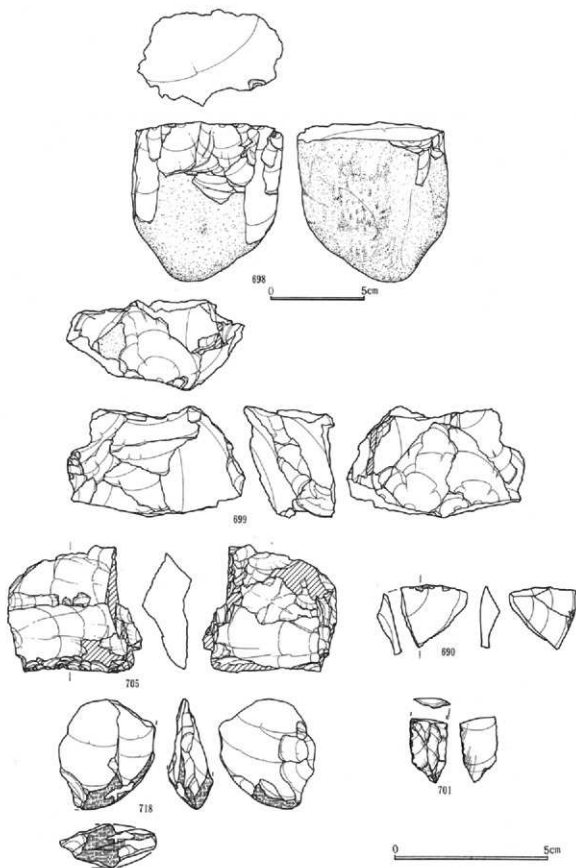


第161图 F区出土石器(1)

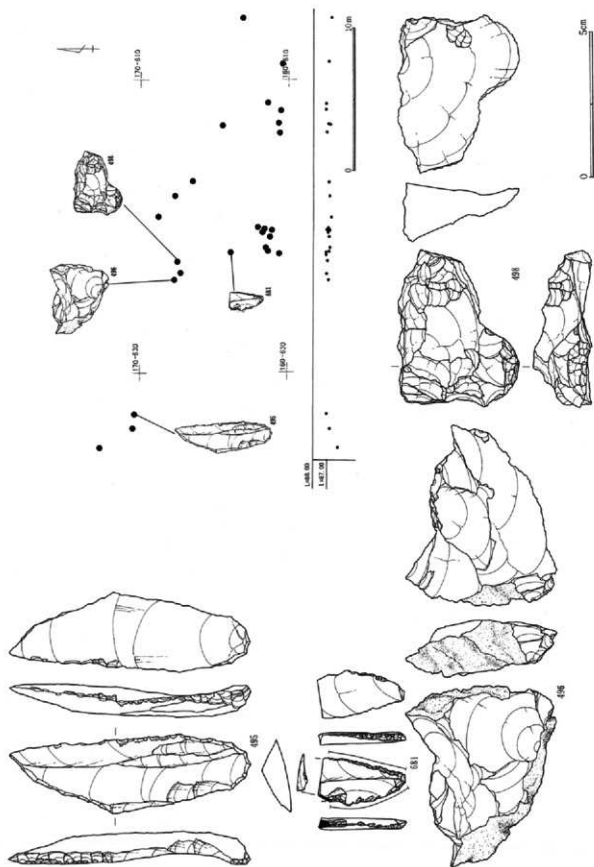


第162図 F区出土石器(2)

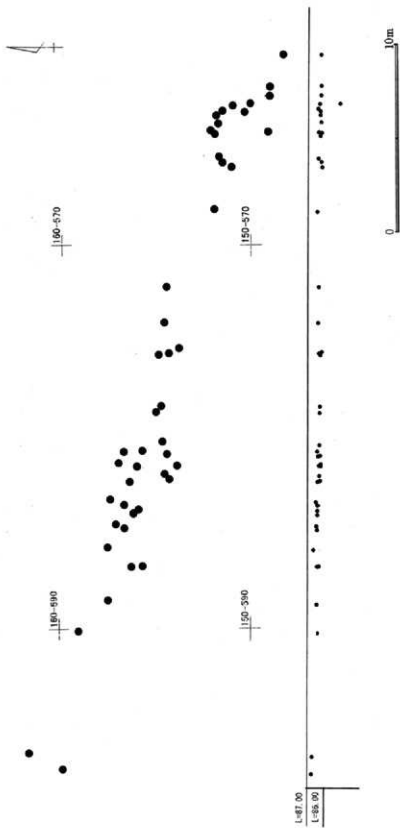




第163图 F区出土石器(3)

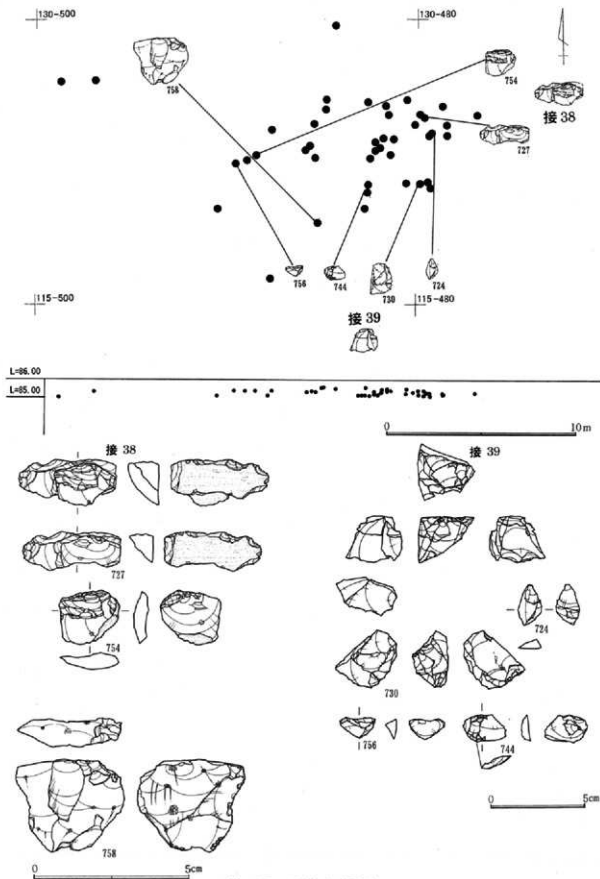


第164図 F区出土石器(4)

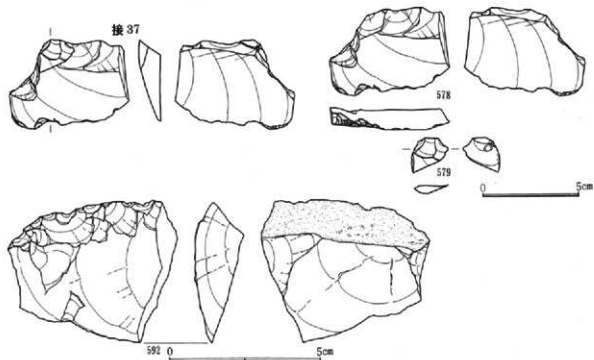
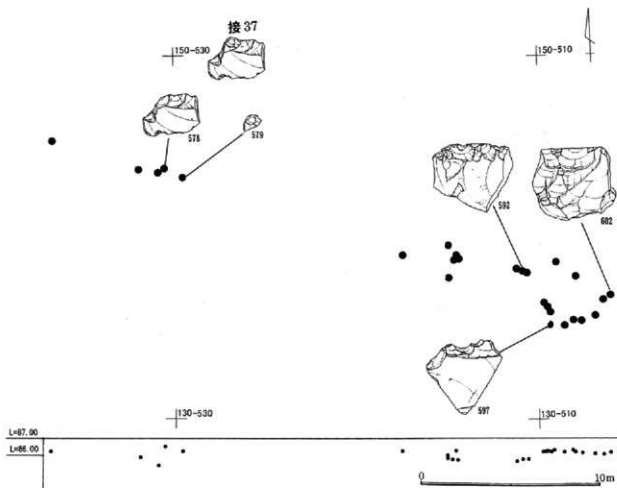


第165図 F区土群分布図

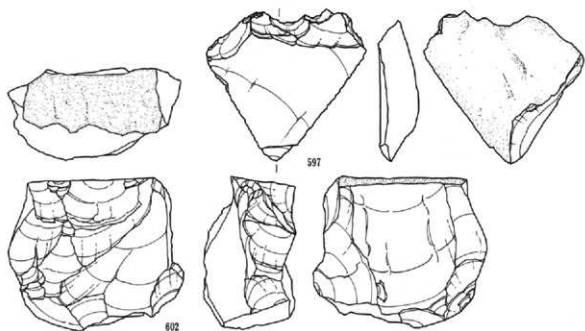
第4章 旧石器時代の遺物群と遺物



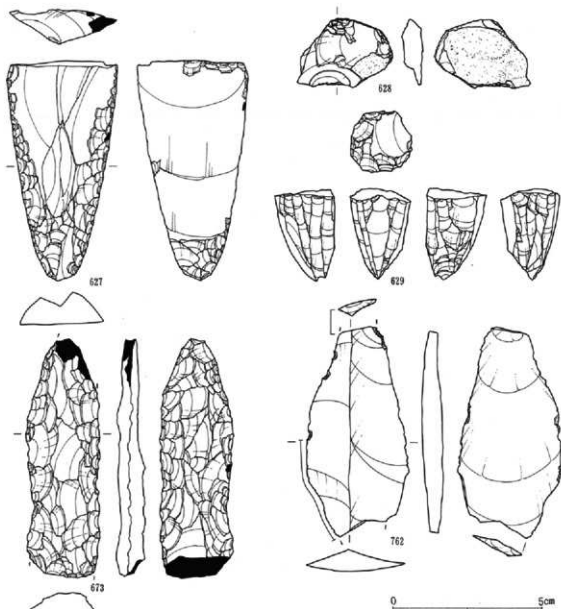
第166図 G区出土石器(1)



第167图 G区出土石器(2)



第168図 G区出土石器(3)



第169図 その他

舞台遺跡石器一覧

No.	区	尺	BL (cm)	幅 (cm)	厚 (cm)	重 (g)	器 種	石 材	接合 回数	PL	X	Y	Z	層	
39	E2	1	3.64	1.70	0.60	3.62	ナイフ形石斧	チャート	121	57	38950.87	-54794.23	83.72	5	
485	E2	1	5.28	1.88	0.80	7.92	ナイフ形石斧	黒色安山岩	121	57				6	
492	E2	2	2.70	1.40	0.60		ナイフ形石斧	チャート	121	57				6	
288	E2	2	1.95	1.70	0.60	3.55	ナイフ形石斧	チャート	121	57	38997.95	-54764.21	84.52	6	
97	E2	1	3.85	1.86	0.70	4.52	ナイフ形石斧	黒色安山岩	121	57	38949.62	-54786.60	83.67	5	
298	E2	2	4.02	3.53	0.70	8.95	ナイフ形石斧	チャート	121	57	38996.54	-54760.90	84.49	6	
81	E2	1	2.70	3.00	0.70	5.45	ナイフ形石斧	チャート	29	121	57	38951.82	-54786.86	83.64	5
479	E2	1	2.48	2.05	0.80	3.70	ナイフ形石斧	黒色安山岩	121	57	38967.59	-54780.12	83.48	5	
87	E2	1	3.87	2.67	1.25	10.81	磨製石斧	珪質頁岩	121	57	38957.36	-54783.92	83.58	7	
418	E2	1	2.76	1.86	0.70	3.89	投器	チャート	121	57	38953.52	-54800.96	83.76	5	
95	E2	1	4.95	2.79	0.80	10.13	彫刻刀形石斧	チャート	121	57	38947.09	-54788.08	83.52	5	
156	E2	2	4.10	4.15	1.50	25.99	研削痕ある副片	チャート	121	57	39006.15	-54765.48	84.38	6	
159	E2	2	3.20	3.30	2.00	17.33	研削痕ある副片	チャート	26	121	57	39006.06	-54765.65	84.38	6
26	E2	1	2.86	2.36	0.70	3.71	加工痕ある副片	珪質頁岩	122	57	38950.38	-54795.22	83.78	5	
79	E2	1	2.73	1.33	0.50	1.67	加工痕ある副片	チャート	122	57	38950.60	-54786.48	83.66	5	
80	E2	1	2.35	1.55	0.50	2.34	加工痕ある副片	黒色安山岩	122	57	38950.32	-54785.90	83.69	5	
132	E2	1	2.90	5.20	1.00	14.38	加工痕ある副片	チャート	16	122	57	38967.25	-54780.44	83.60	5
236	E2	2	5.17	2.85	1.40	16.63	加工痕ある副片	チャート	122	58	38996.92	-54744.18	84.27	7	

第4章 旧石器時代の遺物群と遺物

No.	区	Bl.	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	器 種	石 材	検出	国産	PL	X	Y	Z	層	
354	E2	2	5.00	4.50	1.00	20.27	加工痕ある断片	チャート	122	58	38952.88	-54758.64	84.16	6		
346	E2	2	6.77	3.96	1.00	4.53	加工痕ある断片	チャート	122	58	38952.54	-54757.42	84.33	5		
490	E2	2	6.87	5.56	2.60	86.73	加工痕ある断片	黒色安山岩	122	58	38006.90	-54758.51	84.44	6		
92	E2	1	2.77	1.82	0.90	4.44	加工痕ある断片	チャート	123	58	38959.22	-54759.76	84.00	5		
323	E2	2	2.89	1.92	1.20	4.51	加工痕ある断片	チャート	123	58	38969.05	-54755.11	84.20	6		
461	E2	1	2.27	0.86	0.10	1.06	加工痕ある断片	チャート	123	58	38968.72	-54758.78	83.96	5		
216	E2	2	1.60	3.60	1.50	12.58	加工痕ある断片	チャート	18	123	58	38967.93	-54750.55	84.55	4	
77	E2	1	3.02	3.00	0.70	4.90	加工痕ある断片	赤碧玉	123	58	38945.68	-54758.13	83.50	5		
334	E2	2	3.06	2.31	1.00	5.47	加工痕ある断片	褐色碧玉	123	58	38994.64	-54754.36	84.27	6		
9	E2	1	5.75	3.45	1.80	22.91	加工痕ある断片	黒色頁岩	1	123	58	38952.53	-54756.07	83.81	5	
51	E2	1	4.32	2.54	1.30	16.74	加工痕ある断片	チャート	123	58	38949.05	-54755.21	83.51	6		
35	E2	1	2.14	0.90	0.40	0.52	断片	チャート	16	123	59	38952.25	-54754.27	83.95	4	
57	E2	1	4.70	2.60	0.80	9.92	断片	チャート	16	123	59	38947.77	-54754.45	83.71	5	
110	E2	1	4.60	3.50	0.90	13.52	使用痕ある断片	チャート	40	123	59	38961.68	-54757.76	84.15	5	
471	E2	1	2.84	1.06	0.40	0.99	使用痕ある断片	チャート	40	123	59	38962.35	-54757.02	84.32	4	
131	E2	1	1.80	1.30	0.20	0.59	使用痕ある断片	チャート	16	124	59	38967.32	-54750.88	83.69	6	
234	E2	2	2.49	1.56	0.40	1.59	使用痕ある断片	チャート	124	59	38968.10	-54755.09	84.14	5		
182	E2	2	3.30	5.20	0.80	22.17	使用痕ある断片	黒色安山岩	15	124	59	39003.07	-54754.06	84.56	5	
229	E2	2	3.29	2.12	0.70	4.50	使用痕ある断片	チャート	15	124	59	38968.71	-54744.57	84.51	5	
250	E2	2	5.06	3.64	1.20	23.88	使用痕ある断片	チャート	28	124	59	38968.47	-54741.98	84.47	6	
326	E2	2	5.86	4.36	0.90	19.61	使用痕ある断片	チャート	124	59	38965.88	-54754.24	84.23	6		
319	E2	2	4.57	2.83	0.50	6.42	使用痕ある断片	チャート	124	59	38966.08	-54757.28	84.15	7		
343	E2	2	3.02	2.36	0.30	3.66	使用痕ある断片	チャート	124	59	38962.29	-54756.22	84.20	6		
12	E2	1	7.40	3.19	0.70	28.75	石刃	チャート	16	124	60	38952.96	-54755.61	83.84	5	
103	E2	1	4.37	2.78	0.90	12.53	石刃	黒色頁岩	124	59	38963.59	-54788.61	84.19	5		
85	E2	1	5.50	3.10	1.10	23.21	石刃	チャート	16	125	60	38964.42	-54783.89	83.74	5	
124	E2	1	4.03	1.70	0.40	7.00	石刃	チャート	16	125	60	38966.78	-54782.30	83.61	5	
146	E2	1	3.97	2.12	0.70	6.16	石刃	チャート	16	125	60	38967.57	-54779.28	84.18	4	
134	E2	1	2.00	2.00	0.70	4.03	石刃	チャート	16	125	60	38967.90	-54781.06	83.52	5	
137	E2	1	2.70	2.10	0.70	5.94	石刃	チャート	16	125	60	38968.44	-54781.20	83.54	5	
132	E2	2	3.16	1.97	0.70	4.59	石刃	チャート	125	60	38964.13	-54750.48	84.30	6		
100	E2	1	6.53	3.75	1.60	32.22	横切断片	チャート	25	125	60	38964.81	-54787.60	84.19	5	
106	E2	1	3.25	3.60	1.60	17.22	横切断片	チャート	25	125	60	38964.95	-54789.04	84.31	4	
91	E2	1	5.56	2.57	0.90	20.46	横切断片	チャート	25	125	60	38969.21	-54796.62	84.11	5	
129	E2	1	6.80	8.05	5.80	425.00	石槌	黒色安山岩	6	125	61	38966.50	-54781.22	83.55	5	
82	E2	1	7.76	6.01	3.90	159.25	石槌	黒色頁岩	6	126	61	38951.87	-54786.98	83.72	5	
296	E2	2	2.40	2.40	1.00	7.34	石槌	チャート	33	126	61	38967.63	-54742.55	84.66	5	
272	E2	2	2.30	1.45	1.00	3.16	石槌	チャート	33	126	61	38964.43	-54743.89	84.35	6	
170	E2	2	6.70	8.55	4.90	315.00	石槌	チャート	24	126	61	39003.28	-54762.24	84.45	5	
225	E2	2	7.20	11.60	6.40	775.00	石槌	チャート	19	127	61	38967.08	-54746.76	84.32	5	
339	E2	2	3.10	6.50	1.60	30.66	石槌	黒色安山岩	4	127	62	39000.38	-54740.94	84.60	6	
163	E2	2	2.30	5.90	4.70	68.67	石槌	チャート	17	127	62	39001.96	-54764.74	84.43	6	
182	E2	2	4.18	2.66	1.20	18.59	石槌	チャート	127	62	39003.94	-54761.38	84.55	5		
273	E2	2	2.20	2.70	1.40	7.45	石槌	チャート	127	62	39004.07	-54743.76	84.36	6		
233	E2	2	2.50	3.40	2.80	25.46	石槌	チャート	19	127	62	38998.04	-54745.43	84.30	7	
205	E2	2	3.10	4.70	3.05	34.39	石槌	チャート	27	127	62	39003.93	-54749.52	84.32	6	
321	E2	2	4.20	3.50	3.55	65.42	石槌	チャート	20	128	63	38995.60	-54755.83	84.17	6	
362	E2	2	4.79	4.50	1.50	31.29	石槌	チャート	128	63	38998.50	-54759.00	84.60	6		
390	E2	2	2.00	3.80	1.90	11.07	石槌	チャート	128	62	39002.78	-54754.30	84.45	不明		
344	E2	2	4.14	3.96	2.30	35.82	石槌	チャート	128	63	38994.08	-54756.99	84.20	6		
484	E2	1	6.80	2.50	2.10	39.63	石槌	チャート	18	128	63					
413	E2	1	5.02	3.63	2.00	26.47	石槌	チャート	128	63	38956.04	-54798.31	83.89	5		
456	E2	2	5.10	5.80	3.00	90.71	石槌	黒色安山岩	5	129	64	38986.24	-54763.66	84.06	6	
99	E2	1	8.40	5.30	1.30	64.70	石槌	黒色安山岩	8	129	63	38965.01	-54783.01	不明	5	
464	E2	1	5.21	3.72	2.00	37.35	石槌	黒色安山岩	129	64	38946.24	-54788.14	83.53	5		
217	E2	2	4.31	3.28	1.00	20.14	石槌	チャート	129	63	38999.06	-54749.89	84.32	5		
448	E2	2	4.00	3.90	1.90	27.96	石槌	チャート	22	129	63	38999.26	-54741.28	84.33	6	
41	E2	1	3.80	3.45	5.45	126.57	石槌	黒色頁岩	1	130	64	38949.93	-54794.25	83.64	5	
239	E2	2	5.00	5.87	3.20	109.10	石槌	黒色安山岩	4	130	64	38996.83	-54743.91	84.34	6	
31	E2	1	3.46	2.60	0.80	8.57	石槌	黒色頁岩	1	131	65	38960.38	-54750.50	83.60	5	
480	E2	2	6.60	5.90	1.90	21.00	石槌	黒色安山岩	4	131	65	38968.28	-54742.00	84.43	6	
280	E2	2	9.17	6.38	2.20	185.36	断石	砂岩	1	131	65	38966.38	-54752.87	84.35	6	
71	E2	1	3.65	3.05	1.10	11.94	断片	黒色頁岩	1	133	66	38946.53	-54789.87	83.61	5	
430	E2	1	2.90	3.85	1.25	15.62	断片	黒色頁岩	1	133	66	38946.39	-54788.26	83.51	5	
33	E2	1	3.40	3.70	0.90	7.16	断片	黒色頁岩	1	133	66	38952.00	-54735.92	83.71	6	
45	E2	1	4.78	4.15	1.15	16.73	断片	黒色頁岩	1	133	66	38948.47	-54733.68	83.54	5	
50	E2	1	4.19	3.50	1.00	8.74	断片	黒色頁岩	1	133	66	38948.84	-54734.87	83.77	4	
90	E2	1	4.45	4.05	1.25	22.57	断片	黒色頁岩	1	133	66	38958.83	-54736.48	83.92	5	
29	E2	1	4.35	3.50	0.60	9.90	断片	黒色頁岩	1	134	66	38960.96	-54736.14	83.84	5	
148	E2	1	4.65	4.35	0.95	22.29	断片	黒色頁岩	1	134	66	38960.84	-54736.85	83.64	5	
52	E2	1	6.24	3.16	1.30	20.32	断片	黒色頁岩	1	134	66	38949.25	-54735.72	83.78	5	
16	E2	1	6.59	4.98	1.05	30.64	断片	黒色頁岩	1	134	66	38961.35	-54736.08	83.81	5	
40	E2	1	1.30	2.85	1.20	4.90	断片	黒色頁岩	1	134	66	38949.68	-54734.49	83.71	5	
43	E2	1	4.86	2.60	0.80	8.57	断片	黒色頁岩	1	134	66	38949.50	-54734.06	83.60	5	
38	E2	1	5.02	3.55	0.90	18.62	断片	黒色頁岩	1	134	66	38959.99	-54733.81	83.77	5	
409	E2	1	5.80	6.45	2.00	63.24	断片	黒色頁岩	1	134	66	38959.40	-54734.38	83.85	6	
44	E2	1	2.15	3.15	0.70	3.37	断片	黒色頁岩	1	134	66	38949.50	-54733.02	83.77	4	



## 第 4 節 遺物群と遺物

No.	区	HL	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	器 種	石 材	接合 固焼 PL	X	Y	Z 編			
55	E2	1	4.60	3.36	0.65	8.56	濼片	黒色頁岩	1	134	66	38984.02	-54794.96	83.71	5
53	E2	1	3.10	2.35	0.55	1.89	濼片	黒色頁岩	1	134	66	38984.03	-54795.66	83.83	4
21	E2	1	4.85	3.15	1.40	12.56	濼片	黒色頁岩	1	134	66	38950.72	-54795.64	83.90	4
427	E2	1	7.10	3.80	0.90	38.18	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38945.34	-54788.20	83.49	5
426	E2	1	3.70	2.80	0.70	8.95	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38945.68	-54788.84	83.55	5
428	E2	1	3.55	2.30	0.65	4.32	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38945.68	-54788.22	83.51	5
138	E2	1	3.10	2.95	0.70	5.88	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38988.84	-54780.95	83.61	5
429	E2	1	6.45	4.10	1.30	36.89	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38945.28	-54787.98	83.47	5
14	E2	1	1.76	1.50	0.60	1.26	碎片	黒色頁岩	2	136	66	38950.86	-54796.11	83.90	4
18	E2	1	2.62	1.10	0.60	1.75	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38951.14	-54795.69	83.85	5
32	E2	1	1.96	2.30	0.35	1.16	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38951.67	-54795.18	83.62	6
30	E2	1	3.00	2.66	0.70	5.32	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38951.18	-54795.14	83.85	5
65	E2	1	4.45	4.30	1.00	17.61	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38954.32	-54793.69	83.96	5
17	E2	1	4.20	3.20	1.05	15.60	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38951.46	-54795.68	83.81	5
2	E2	1	3.70	4.40	0.80	15.07	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38951.20	-54796.70	83.77	5
42	E2	1	4.00	3.30	1.20	14.32	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38959.65	-54794.83	83.83	4
15	E2	1	2.35	2.09	0.27	2.47	濼片	ホソツヅメ	2	136	66	38988.82	-54791.41	83.45	6
13	E2	1	5.80	2.95	2.00	24.21	濼片	黒色頁岩	2	136	66	38952.13	-54795.82	83.90	5
349	E2	2	3.00	3.80	0.90	9.57	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38992.06	-54757.78	84.40	5
351	E2	2	4.10	3.90	0.80	21.29	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38990.16	-54757.30	84.26	5
489	E2	2	3.50	4.30	1.00	16.29	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38996.15	-54741.90	84.58	6
260	E2	2	4.60	3.20	1.30	22.07	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38996.55	-54742.61	84.72	5
264	E2	2	4.40	2.40	0.80	10.97	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38992.96	-54746.99	84.30	5
259	E2	2	3.30	3.30	1.10	11.07	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38996.72	-54742.91	84.67	5
237	E2	2	2.30	2.00	0.40	3.03	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38997.00	-54744.01	84.70	5
450	E2	2	1.80	1.20	0.30	0.90	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38996.70	-54741.23	84.51	6
240	E2	2	2.30	1.60	0.60	2.75	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38997.30	-54743.70	84.77	4
283	E2	2	3.27	1.80	0.70	4.25	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38996.06	-54742.46	84.68	4
252	E2	2	1.70	1.80	1.10	2.31	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38998.15	-54742.09	84.72	5
223	E2	2	4.30	2.90	1.00	15.09	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38995.80	-54748.02	84.40	5
251	E2	2	5.80	2.90	1.20	22.53	濼片	黒色安山岩	4	139	67	38998.26	-54742.07	84.30	6
344	E2	2	2.30	1.51	0.70	1.82	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38999.94	-54742.19	84.69	5
352	E2	2	4.50	3.90	1.00	19.29	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38991.52	-54738.86	84.20	6
285	E2	2	1.90	2.10	0.20	1.65	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38992.78	-54749.82	84.05	6
278	E2	2	2.86	2.58	0.90	6.17	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38995.73	-54744.77	84.61	5
271	E2	2	2.32	1.40	0.40	1.87	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38994.30	-54744.07	84.32	6
306	E2	2	5.74	4.50	1.80	36.66	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38992.84	-54760.68	84.10	6
449	E2	2	4.00	3.60	0.90	17.16	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38999.13	-54740.97	84.53	6
275	E2	2	1.00	1.30	0.70	1.53	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38995.12	-54744.09	84.42	6
281	E2	2	3.30	3.60	1.30	21.22	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38995.46	-54743.48	84.65	5
488	E2	2	2.60	2.20	0.90	6.81	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38995.59	-54743.50	84.65	5
258	E2	2	2.10	1.00	0.40	1.88	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38996.28	-54742.70	84.72	5
434	E2	2	1.80	1.80	0.40	2.32	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38999.18	-54745.42	84.53	6
438	E2	2	1.50	2.50	0.50	2.29	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38996.48	-54743.42	84.30	6
440	E2	2	2.60	3.70	0.60	8.79	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38996.64	-54762.28	84.63	5
270	E2	2	1.70	2.00	0.40	2.12	濼片	黒色安山岩	4	140	67	38993.93	-54744.05	84.25	6
245	E2	2	2.92	2.52	0.90	4.60	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38999.50	-54742.28	84.83	5
246	E2	2	6.91	3.58	1.55	17.43	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38999.54	-54742.16	84.41	6
249	E2	2	4.28	2.96	1.50	10.20	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38998.87	-54742.06	84.76	5
436	E2	2	5.00	3.59	1.70	22.34	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38996.26	-54743.70	84.54	6
256	E2	2	2.16	1.43	0.30	0.93	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38997.31	-54742.36	84.68	5
444	E2	2	2.68	1.63	0.45	1.59	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38988.04	-54741.31	84.75	5
282	E2	2	4.67	3.78	2.10	17.92	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38965.92	-54743.03	84.73	4
335	E2	2	1.55	3.75	1.20	6.94	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38963.27	-54738.45	84.18	4
356	E2	2	4.20	7.60	1.30	36.78	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38993.36	-54738.42	84.18	6
486	E2	2	5.63	4.88	1.90	60.37	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38998.68	-54741.29	84.50	6
254	E2	2	3.40	2.30	1.25	8.67	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38997.61	-54741.90	84.62	5
487	E2	2	4.38	2.55	1.90	14.97	濼片	黒色安山岩	5	142	68	38999.01	-54741.24	84.39	7
402	E2	1	1.80	2.30	0.50	2.53	濼片	黒色安山岩	6	144	68	38958.35	-54765.05	83.87	5
135	E2	2	2.30	3.20	0.80	3.98	濼片	黒色安山岩	6	144	68	38968.24	-54781.10	83.68	5
150	E2	2	2.10	2.00	0.20	2.74	濼片	黒色安山岩	6	144	68	38962.33	-54797.08	84.08	5
274	E2	2	2.70	3.00	0.85	4.73	濼片	黒色安山岩	7	144	68	38994.54	-54743.50	84.49	5
289	E2	2	3.00	4.00	1.55	16.03	濼片	黒色安山岩	7	144	68	38996.50	-54764.62	84.60	5
291	E2	2	3.50	4.10	0.70	10.16	濼片	黒色安山岩	7	144	68	38996.14	-54763.50	84.29	5
147	E2	1	2.28	1.57	0.20	1.51	濼片	黒色安山岩	9	144	68	38965.47	-54779.18	84.13	5
480	E2	1	5.40	5.80	0.60	29.08	濼片	黒色安山岩	9	144	68	38966.42	-54778.25	84.05	5
121	E2	1	1.70	1.80	0.20	0.94	濼片	黒色安山岩	8	145	68	38966.28	-54783.50	83.56	5
468	E2	1	5.44	2.61	0.70	13.20	濼片	黒色安山岩	8	145	68	38960.55	-54795.95	84.26	4
365	E2	2	2.10	2.80	0.60	4.19	濼片	黒色安山岩	10	145	69	38998.10	-54738.39	84.56	6
367	E2	2	4.70	7.20	2.30	71.48	濼片	黒色安山岩	10	145	69	38998.76	-54738.34	84.56	6
172	E2	2	3.85	5.35	1.20	24.56	濼片	黒色安山岩	11	145	69	39002.37	-54762.32	84.58	6
168	E2	2	2.00	3.20	0.60	3.28	濼片	黒色安山岩	11	145	69	39005.83	-54762.59	84.82	4
221	E2	2	3.87	2.82	1.40	10.31	濼片	黒色安山岩	12	145	69	38996.69	-54746.67	84.27	5
381	E2	2	2.70	3.20	0.80	3.79	濼片	黒色安山岩	12	145	69	39006.51	-54755.69	84.65	5
280	E2	2	2.40	2.55	0.50	2.01	濼片	黒色安山岩	13	145	69	38996.60	-54763.72	84.46	6
292	E2	2	1.70	1.80	0.50	0.85	碎片	黒色安山岩	13	145	69	38996.10	-54762.87	84.45	6
311	E2	2	1.80	2.50	0.40	2.18	濼片	黒色安山岩	13	145	69	38994.96	-54761.79	84.61	5

第4章 旧石器時代の遺物群と遺物

No.	区	BL	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重(g)	部 種	石 材	組合	国産	PL	X	Y	Z	層
198	E2	2	2.50	3.35	0.60	4.69	潤片	黒色安山岩	14	145	69	39002.56	-54752.56	84.42	6
200	E2	2	2.50	4.00	0.60	4.57	潤片	黒色安山岩	14	145	69	39003.02	-54752.22	84.44	5
579	E2	2	2.10	2.30	0.20	1.22	潤片	黒色安山岩	15	149	69	39005.41	-54754.39	84.66	6
371	E2	1	2.60	1.60	0.50	3.27	潤片	チャート	16	149	69	39061.35	-54796.10	83.73	5
46	E2	1	3.22	2.34	0.50	4.75	潤片	チャート	16	149	69	38948.48	-54794.03	83.66	5
410	E2	1	3.60	4.00	0.90	12.51	潤片	チャート	16	149	69	38959.70	-54782.79	83.92	5
133	E2	1	2.10	3.30	1.10	5.99	潤片	チャート	16	149	69	38967.78	-54780.78	83.64	5
149	E2	1	2.23	1.32	0.50	1.22	潤片	チャート	16	149	69	38952.50	-54795.94	83.76	5
126	E2	1	5.50	3.00	1.60	28.76	潤片	チャート	16	149	69	38974.40	-54782.94	83.55	5
462	E2	1	2.00	2.13	0.50	2.61	潤片	チャート	16	149	69	38959.80	-54796.25	84.11	5
47	E2	1	2.70	1.90	0.90	4.39	潤片	チャート	16	149	69	38948.53	-54794.35	83.65	5
226	E2	2	2.50	4.80	2.70	34.57	潤片	チャート	19	150	70	38997.02	-54746.68	84.28	5
171	E2	2	1.85	3.80	4.10	29.78	潤片	チャート	17	152	69	39002.88	-54762.52	84.53	5
177	E2	2	1.95	2.90	2.70	15.16	潤片	チャート	17	152	69	39002.52	-54760.29	84.55	5
178	E2	2	2.45	2.80	0.70	4.45	潤片	チャート	17	152	69	39002.88	-54760.32	84.78	4
181	E2	2	2.80	2.60	1.45	7.30	潤片	チャート	17	152	69	39003.55	-54761.45	84.71	4
210	E2	2	2.80	3.00	1.10	13.33	潤片	チャート	18	152	69	38997.10	-54752.07	84.61	4
213	E2	2	2.40	2.50	1.50	14.54	潤片	チャート	18	152	69	38996.73	-54751.24	84.32	5
339	E2	2	2.62	1.65	0.50	1.88	潤片	チャート	20	152	69	38992.86	-54754.34	84.34	5
336	E2	2	5.20	4.00	1.10	22.85	潤片	チャート	20	152	69	38994.04	-54754.62	84.35	6
342	E2	2	1.70	1.78	0.45	1.21	潤片	チャート	21	154	69	38993.98	-54756.01	84.48	5
350	E2	2	1.90	3.20	0.50	1.95	潤片	チャート	21	154	69	38991.76	-54756.02	84.22	6
340	E2	2	3.11	2.92	1.10	6.62	潤片	チャート	21	154	69	38995.20	-54755.54	84.50	5
442	E2	2	1.70	1.91	0.50	1.40	潤片	チャート	22	154	70	38997.53	-54741.28	84.60	6
454	E2	2	1.70	1.90	0.50	2.06	潤片	チャート	22	154	70	38997.68	-54740.46	84.63	6
392	E2	2	2.52	1.13	0.40	1.22	潤片	チャート	22	154	70	38996.74	-54740.86	84.59	不明
304	E2	2	3.24	2.11	0.40	2.91	潤片	チャート	23	154	70	38992.74	-54760.47	84.36	5
174	E2	2	1.93	1.49	0.90	1.02	潤片	チャート	23	154	70	39002.18	-54761.56	84.55	5
176	E2	2	3.50	2.82	0.90	6.54	潤片	チャート	23	154	70	39002.58	-54760.92	84.76	4
337	E2	2	1.85	4.25	1.10	11.18	潤片	チャート	24	154	70	38994.18	-54755.15	84.20	6
34	E2	1	5.50	7.40	2.50	88.10	潤片	チャート	26	156	70	38952.67	-54758.08	83.75	5
206	E2	2	2.35	2.80	1.50	9.07	潤片	チャート	27	156	70	39002.30	-54747.84	84.57	5
189	E2	2	3.00	1.90	0.80	3.88	潤片	チャート	28	156	71	39004.16	-54756.38	84.72	4
478	E2	1	3.70	3.55	0.70	5.06	潤片	チャート	29	159	71	38997.33	-54779.73	84.13	5
157	E2	2	4.15	5.40	0.65	11.31	潤片	チャート	30	159	71	39006.68	-54765.52	84.38	6
158	E2	2	1.85	3.40	0.65	1.57	潤片	チャート	30	159	71	39006.12	-54765.57	84.38	6
222	E2	2	3.70	2.96	1.00	10.45	潤片	チャート	31	159	71	38996.71	-54747.82	84.65	5
265	E2	2	1.00	1.20	0.20	0.37	砕片	チャート	31	159	71	38993.21	-54745.74	84.15	7
7	E2	1	1.90	2.75	1.35	5.52	潤片	チャート	32	159	71	38962.04	-54796.12	83.91	5
389	E2	1	1.80	2.60	1.10	4.07	潤片	チャート	32	159	71	38952.22	-54788.00	83.96	5
305	E2	2	1.70	1.42	0.50	0.78	砕片	チャート	34	159	71	38995.55	-54760.38	84.23	6
307	E2	2	2.52	2.50	0.75	3.57	潤片	チャート	34	159	71	38992.11	-54760.22	84.26	5
610	A1	2	2.10	2.10	0.70	2.84	使用痕ある潤片	黒曜石	160	71	39190.91	-54811.20	85.95		
618	A1	5.90	1.90	0.60	5.77	使用痕ある潤片	黒曜石	160	71	39188.59	-54812.18	86.13			
625	A1	3.30	3.80	2.90	27.48	石核	黒曜石	160	71	39145.92	-54819.21	86.57			
631	A3	3.40	2.70	2.20	22.29	礫石核	黒色頁岩	35	160	71					
633	A3	2.00	2.20	0.80	3.79	潤片	黒色頁岩	35	160	71					
711	F	7.20	6.20	2.00	97.94	潤片	ホルンフェルス	36	161	71					
709	F	3.30	2.20	0.60	2.79	潤片	ホルンフェルス	36	161	71					
708	F	6.40	5.50	2.00	81.09	打割調整潤片	ホルンフェルス	161	72						
698	F	8.30	7.80	5.80	542.00	石核	ホルンフェルス	163	72						
699	F	3.65	5.90	3.00	62.25	石核	チャート	163	72						
705	F	4.20	4.30	1.70	29.29	削器	チャート	163	72						
690	F	2.20	2.10	0.60	2.36	加工痕ある潤片	黒色頁岩	163	72						
718	F	3.60	3.20	1.50	13.81	磨削石筭	ホルンフェルス	163	72						
701	F	2.10	1.20	0.30	0.80	使用痕ある潤片	黒曜石	163	72						
495	F2	8.30	2.60	0.80	13.66	ナイフ形石器	硬質頁岩	164	73	39170.45	-54632.83	87.04			
681	F	3.05	1.70	0.40	1.88	ナイフ形石器	硬質頁岩	164	73						
496	F2	5.20	6.30	1.70	63.01	石核	チャート	164	73	39167.67	-54626.65	86.94			
638	F2	4.40	5.45	1.90	31.31	潤片	チャート	164	73	39167.52	-54622.33	86.99			
727	G	2.00	5.10	1.40	14.46	石核	黒曜石	38	166	73	39124.90	-54479.50	85.54		
754	G	2.80	3.10	0.80	7.74	潤片	黒曜石	38	166	73	39122.90	-54488.70	85.46		
758	G	3.00	3.60	0.95	12.34	石核	黒曜石	38	166	73	39119.40	-54487.50	85.34		
724	G	2.00	1.30	0.50	0.87	潤片	黒曜石	39	166	73	39124.00	-54479.20	85.37		
730	G	3.00	3.30	1.90	11.89	石核	黒曜石	39	166	73	39121.40	-54479.60	85.33		
756	G	1.00	1.90	0.50	0.78	潤片	黒曜石	39	166	73	39122.40	-54490.10	85.50		
744	G	0.90	2.20	0.40	1.40	潤片	黒曜石	39	166	73	39121.30	-54482.40	85.35		
578	G2	4.40	6.40	1.10	30.85	使用痕ある潤片	珪質実質岩	37	167	73	39143.70	-54529.60	86.62		
579	G2	1.40	2.10	0.40	1.07	潤片	珪質実質岩	37	167	73	39143.20	-54529.40	86.32		
582	G2	5.60	4.50	1.80	44.62	石核	黒色頁岩	167	73	39138.20	-54510.90	85.89			
597	G2	4.40	4.40	1.50	33.29	石核	黒色頁岩	168	74	39135.10	-54509.30	86.25			
602	G2	5.10	5.40	2.90	106.51	石核	黒色頁岩	168	74	39136.90	-54506.00				
627	A1	7.40	3.70	1.10	30.19	削器	頁岩	169	74						
628	A1	2.35	3.25	0.75	6.18	加工痕ある潤片	チャート	169	74						
629	A3	3.10	2.10	0.40	13.31	礫石核	黒色頁岩	169	74						
673	D	8.10	2.50	0.90	22.63	尖頭器	黒色頁岩	169	74						
792	G	7.10	3.50	0.75	15.22	使用痕ある潤片	硬質頁岩	169	74						8

## 第5章 その他の遺構と遺物(補遺)

本報告書は舞台遺跡調査報告書の第3分冊にあたる。ここでは、既刊の報告書に掲載できなかった遺構と遺物に関して補遺として掲載する。

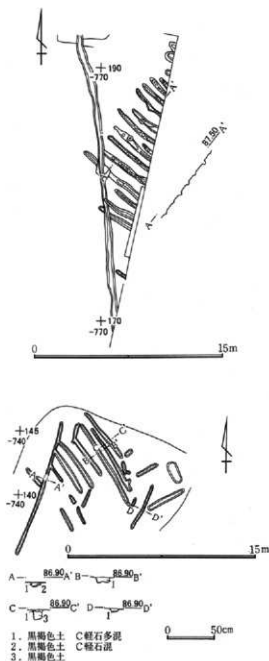
### 遺構

#### 畚跡 (第170～173図、P.L.75)

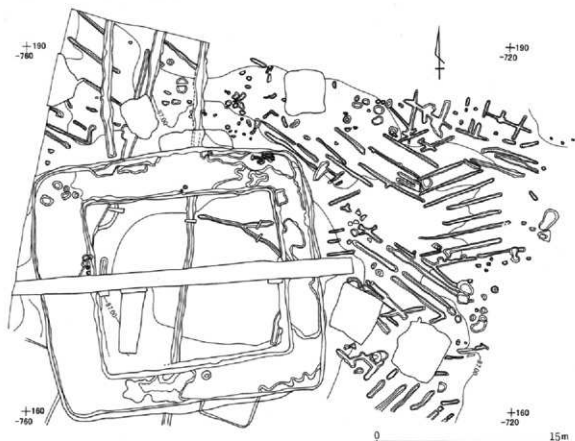
畚跡は舞台遺跡A・D・F区及び大井戸遺跡の一角に検出されている。当遺跡における畚跡は畦間のサク状細溝が並列する形状で検出される。サク内の埋土は浅間C軽石を多く混じえる黒褐色土で、いわゆるC混土と呼ばれる土質である。当遺跡地内における検出面では、浅間B軽石またはB軽石混泥土層とは明確に上下層位となり、畚跡の帰属する年代は古墳時代に遡る公算が大きい。畚跡は周溝墓群の南限を境にして、遺跡の北方域に主として検出されている。しかし、当該する地域は遺跡地でもっとも堅穴住居跡をはじめとする遺構検出量が多く、不鮮明な断片・不連続なものとして確認され、図化・写真記録等がままならなかった。サク状痕の幅はほぼ20cmを平均にするが、深さは総じて浅く痕跡程度である。

A区では調査区の北東隅で狭小な範囲に検出されている。サク状痕の走行は北西から南東方で、サク間は20～30cmである。A区では最も遺構の集中する区域となっており、西側への広がりには確認できていない。また、西側には南北方向に谷地地形が展開し、北方は比較的遺構の薄い広範な平坦域にもかかわらず畚跡の痕跡は確認されていない。元來耕作地としての利用が無かったか、または後世近代の土地改良による削平を受けた故かは不明である。

D区に検出された畚跡はサク状溝の走方が北西～南東と、北東～南西方の2群が存在する。古墳時代前期の堅穴住居跡や周溝墓との重複が見られ、舞台遺跡における景観変遷を考える上で重要な要点になるところである。しかしながら、畚跡そのものの遺存状態が不良なため明確な前後関係を提示できるような地点は少ない。調査所見からの前後関係は堅穴住居跡より新しく、周溝墓よりは旧い見解である。居住域から生産地へ、そして墓域へと単純な土地変遷を想定できるが、一期単独の形成段階



第170図 A・D区畚跡

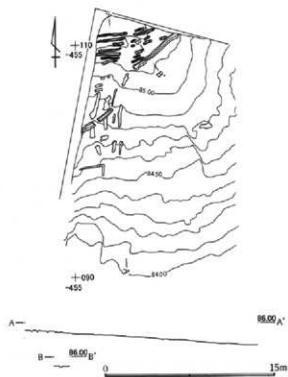


第171図 D区畠跡

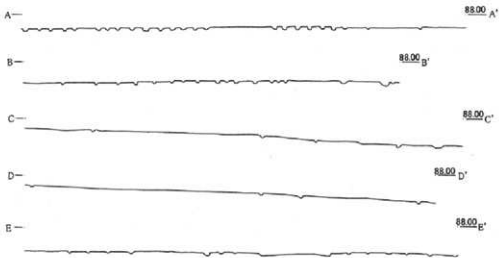
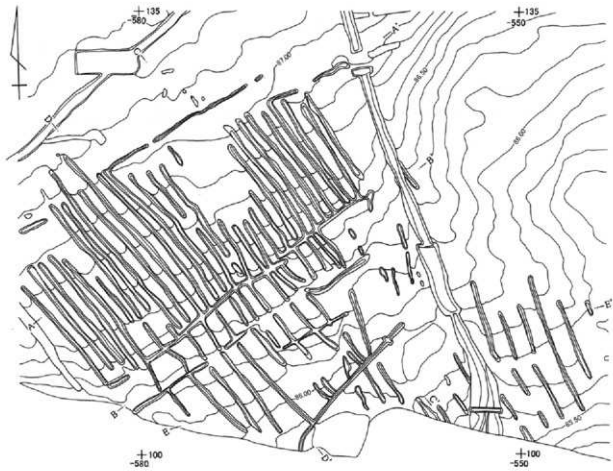
とは考えられない集落のあり方と走方向の異なる畠跡からは、古墳前期という時間幅の中で個々の堅穴住居に付随したような景観も想定されるのである。

F区検出の畠跡はG区との境で、微地形的には大井戸遺跡の主景観である谷地地形に面し、南方に開放する湧水谷の谷頭に近い西縁部の緩傾斜面にある。畦間のサク状痕の走方は北西から南東の向きで一定しており、谷地形縁辺の等高線にほぼ直交する。畠跡の確認できる範囲での占有面積は800㎡になろう。サク状痕の走向に対し、不等間隔で直交する1条毎の区割りのな細溝が設けられる。それによる区画幅には広・狭があり、およそ5区画になる。また、サク状痕間の幅は谷地地形の上位・下位に違いが生じ、下位のサク間隔は広がっている。栽培作物種の違いに由来するものであろうか。

畠跡は大井戸遺跡でも調査区北東隅に僅かに確認されているが、残存状態は悪く痕跡程度である。走方向はほぼ東西方になろうか。



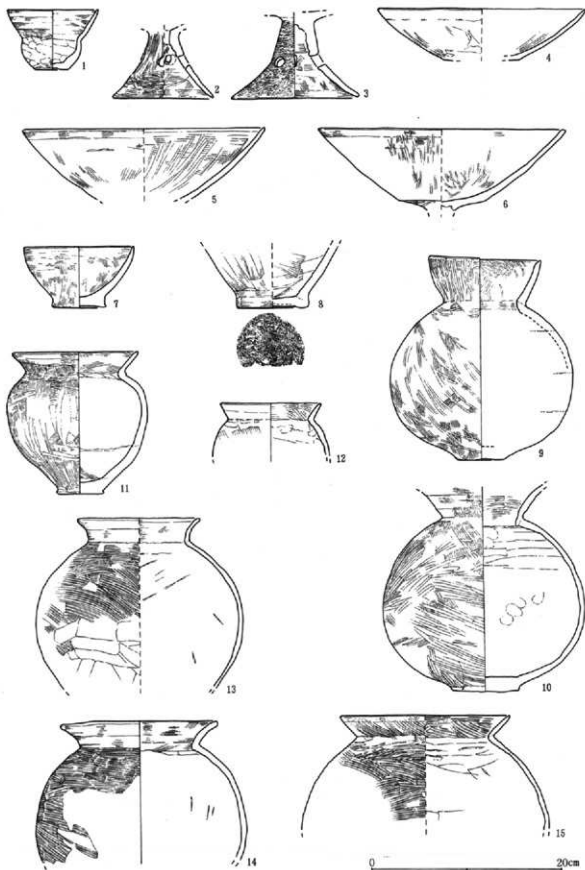
第172図 大井戸遺跡畠跡



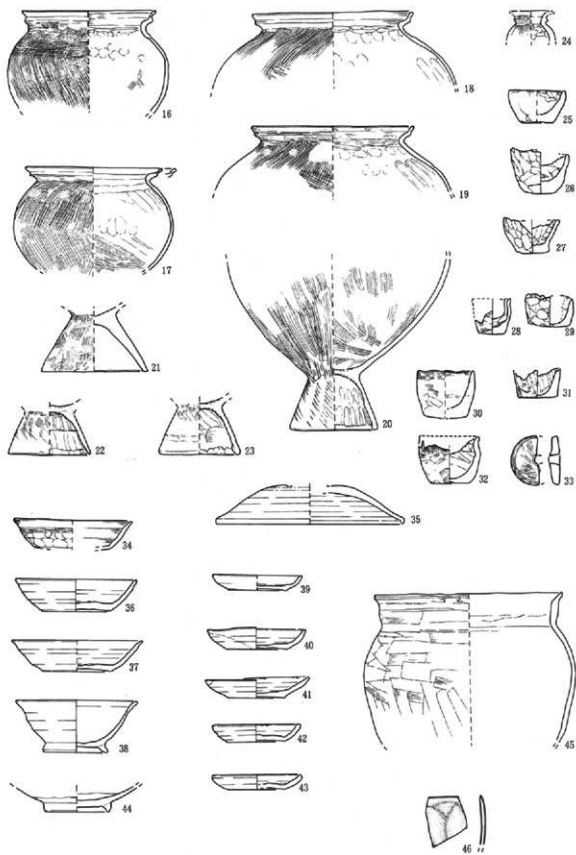
0 15m

第173図 F区畝跡

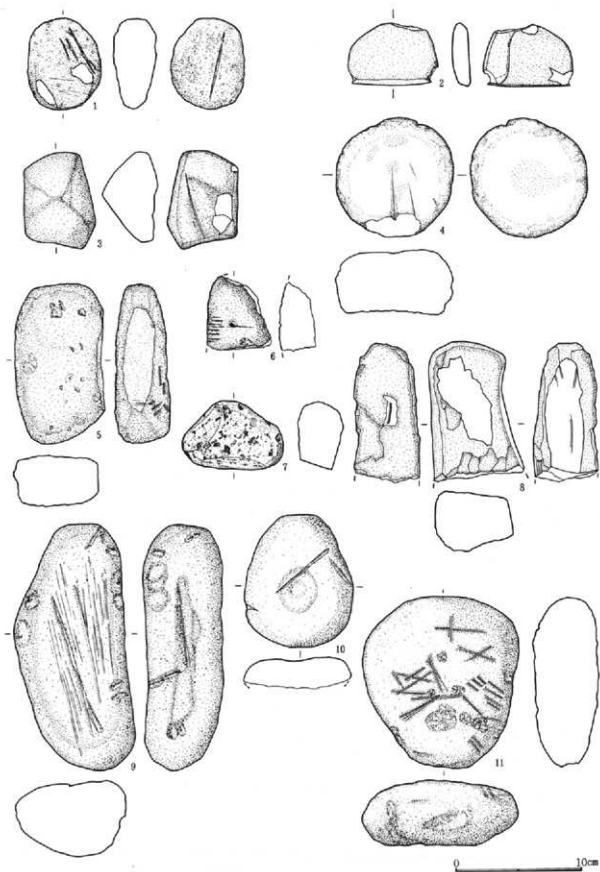
第5章 その他の遺構と遺物(補遺)



第174図 舞台遺跡掲載洩れ出土遺物(1)

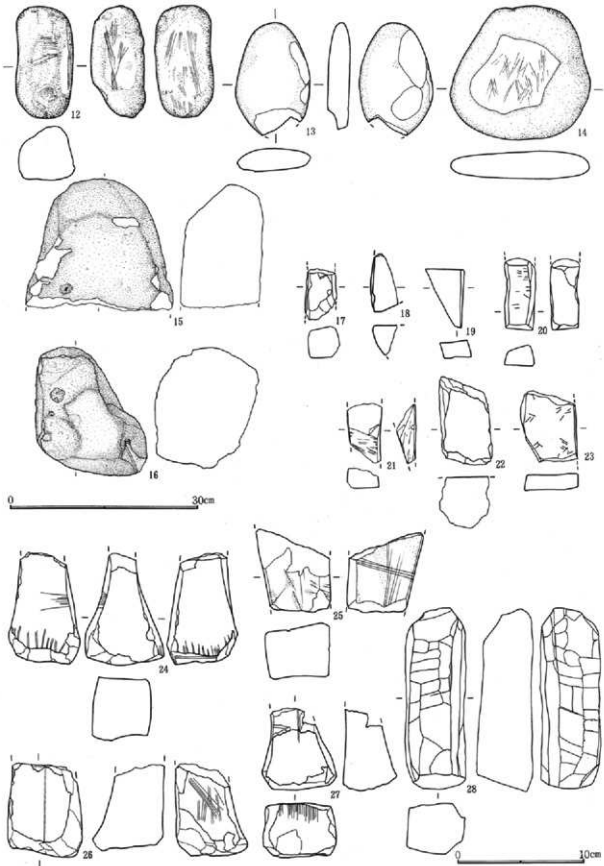


第175図 舞台遺跡掲載洩れ出土遺物(2)

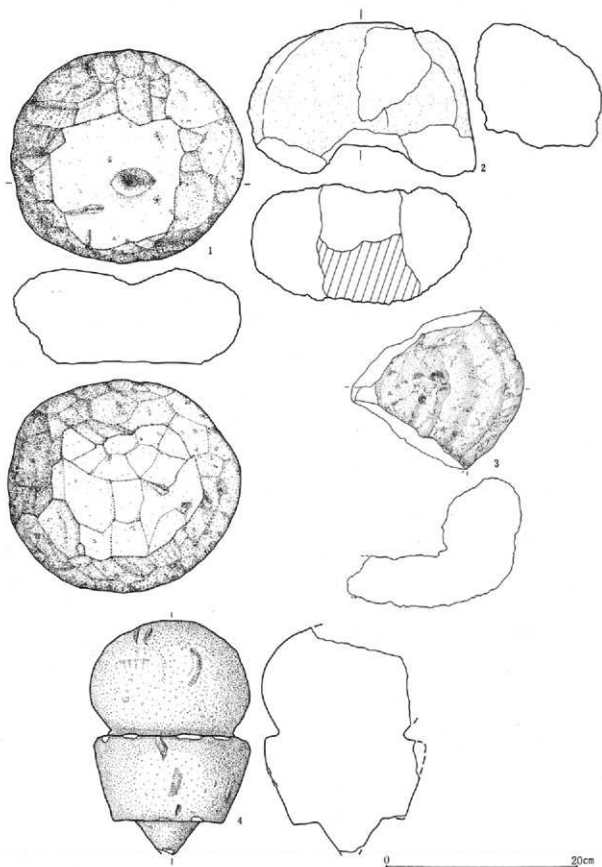


第176図 舞台遺跡掲載洩れ出土遺物(3)

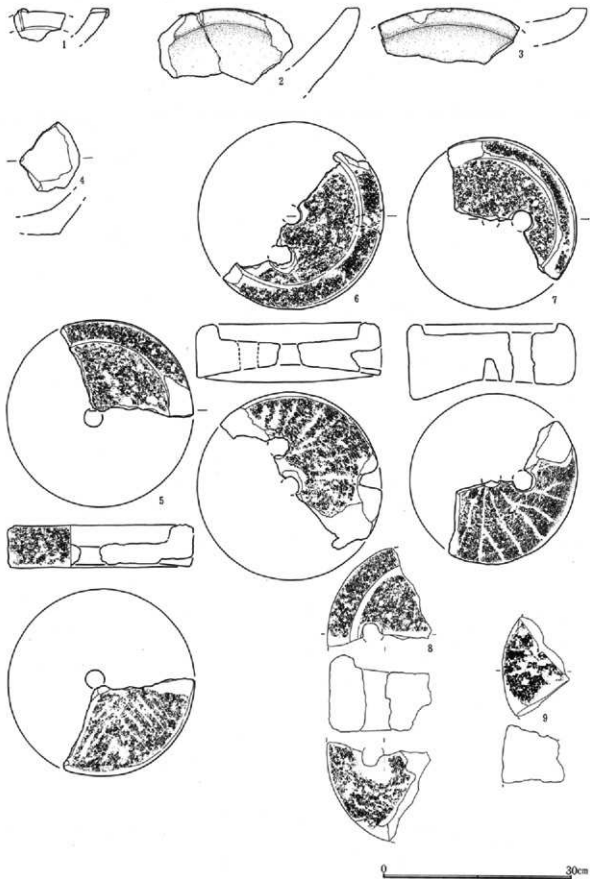




第177図 舞台遺跡掲載浅れ出土遺物(4)



第178図 舞台遺跡掲載浅れ出土遺物(5)



第179図 舞台遺跡掲載洩れ出土遺物(6)

第5章 その他の遺構と遺物(補遺)

土器観察表 (第174・175図 P.L.76・77)

番号	遺構	器種	口径cm	底径cm	器高cm	色調	番号	遺構	器種	口径cm	底径cm	器高cm	器高cm	口径cm	底径cm	器高cm	色調	
1	D-400土	埴	8.7	3.7	6.3	純黄緑	24	D3	模造土器				現高3.2				純黄緑	
2	D3	彩台		10.7	現高8	純赤褐	25	D3-7溝	模造土器	6	3.6	3.4					純赤	
3	F-14溝	高坏		13.5	現高9	純黄緑	26	F7	模造土器	6.1	3.1	4.3					純赤褐	
4	F-157土	高坏	22		現高5.5	赤	27	F	模造土器	6	3.5	3.5					灰黄	
5	A1	高坏	25.5		7.5	純褐色	28	D3	模造土器	4	2.7	3.5					灰黄	
6	大井戸	高坏	26		9	純褐色	29	F	模造土器	4.8	4.3	3.3					黄沢	
7	G	鉢	11.6	5.7	6.4	純褐	30	F	模造土器	6	5	5					黄沢	
8		鉢?		9	現高7	純褐	31	F	模造土器	4.5	4.2	3.1					純黄緑	
9	G	壺	11.8	5	21.5	19.2	純赤褐	32	D3	模造土器	6.2	3.9	4.9					純黄緑
10	D3-38土	壺	7	現高21.5	21.1	純黄緑	33	F	土製輪軸	165.2	厚1.2	孔160.8					純黄緑	
11	G	鉢	13.6	5	14.9	14.8	褐色	34	F	土師器坏	12.6	8	3					赤
12	百表	鉢	10.6		現高6		35	E2	須恵器坏	20		現高4.3						灰白
13	F-157土	壺	13		現高17.5	21.9	純粉	36	D3-12土	須恵器坏	12.8	7.1	3.4					灰白
14	F-157土	壺	16.7		現高15	23.5	純粉	37	F	須恵器坏	13.8	7.4	3.3					純粉
15	F-157土	壺	17.8		現高12.5	26	純粉	38	E3H1上1	須恵器坏	12.9	6.9	5.5					赤
16	D3-12土	S字口縁壺	14.1		現高10.5		39	E2	土師	9.5	6.2	1.6						赤
17	G	S字口縁壺	14.6		現高11	16.9	純黄緑	40	E2表	土師	10.4	6.4	2.3					純粉
18	G	S字口縁壺	17		現高6.3		灰黄	41	E2表	土師	11	6	2.3					純粉
19	G	S字口縁壺	17.2		現高7.5		純黄緑	42	E2表	土師	9.4	6.2	1.5					純黄緑
20	G	S字口縁白付壺		9.3	現高17.5		純黄緑	43	E2表	土師	9.4	6	1.5					純黄緑
21	1周溝塚	墓口縁壺台		11.4	現高6.8		純黄緑	44		灰輪軸器		7	現高2.5					
22	D3	S字口縁壺台		8.7	現高5.5		純粉	45	E2	コノ字口縁壺	19.6		現高16	22				純黄緑
23	G	S字口縁壺台		8.6	現高6		純褐	46		青磁碗								

石器観察表 (第176・177図 P.L.77・78)

番号	出土位置	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質	番号	出土位置	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質
1	A1	自然礫砥石	7.4	5.8	3.5	90.3	二ツ舌軒石	15	A3	自然礫砥石	21	23	12.5	6400	粗粒輝石安山岩
2	G	自然礫砥石	7	5	1.3	52.5	牛伏砂岩	16	A1	自然礫砥石	20.7	17	15	4500	粗粒輝石安山岩
3	D	自然礫砥石	7.5	5.5	4.3	157	粗粒輝石安山岩	17	A1	砥石	4	2.5	2.5	28.5	砥石
4	表	自然礫砥石	9.4	9.2	5.1	250	輝石	18	C	砥石	4.6	2.3	2.3	14	牛伏砂岩
5	E	自然礫砥石	12.8	5.8	4	557	砥石	19	A1	砥石	4.8	3	1.4	22	粗黄頁岩
6	E	自然礫砥石	5.8	5.3	2.8	78	粗粒輝石安山岩	20	A1	砥石	5.6	2.5	1.7	36.9	砥石
7	A1	自然礫砥石	7.9	5.5	3.5	107.1	二ツ舌軒石	21	大井戸	砥石	4.7	2.8	1.5	16	砥石
8	E	自然礫砥石	11	7	4.8	480.7	砥石	22	C	砥石	7	3.9	4	103	未固結凝灰岩
9	E	自然礫砥石	19.7	8.8	6	1341.8	粗粒輝石安山岩	23	A1	砥石	5.7	4.6	1.3	50	砥石
10	A1	自然礫砥石	10.5	8.6	2.6	282.6	粗粒輝石安山岩	24	E	砥石	8.8	6.2	5.2	323.6	砥石
11	C	自然礫砥石	13.5	12.3	5.2	1012	粗粒輝石安山岩	25	B	砥石	6.5	5.9	4.2	190	砥石
12	D	自然礫砥石	17.7	9.2	8.5	1850	粗粒輝石安山岩	26	E	砥石	6.8	6	5.5	322.9	砥石
13	D3	自然礫砥石	17.7	11.7	3.4	960	粗粒輝石安山岩	27	E	砥石	6.5	6	4.3	172.7	砥石
14	A1	自然礫砥石	22.1	21	4.3	3240	粗粒輝石安山岩	28	表	砥石	14.2	4.9	4	300.7	馬見岡凝灰岩

(第178図 P.L.79・80)

番号	出土位置	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質	番号	出土位置	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質
1	表探	骨織器身	24.8	22.3	10	4280	二ツ舌軒石	3	表探	骨織器身	18.2	16.5	13.6	2160	
2	表探	骨織器身	23.8	16	12.9	2910	二ツ舌軒石	4	表探	五輪器身・風	24.7	17	16.6	5220	馬見岡凝灰岩

(第179図 P.L.80)

番号	出土位置	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質	番号	出土位置	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質
1	表探	石鉢	径22	3	5	125	粗粒輝石安山岩	6	表探	石上白	径30	幅12-1	8.5	3100	粗粒輝石安山岩
2	表探	石鉢	径32	径42.2	4.5	1970	粗粒輝石安山岩	7	表探	石上白	径27	幅12-2	9.7	4050	粗粒輝石安山岩
3	表探	茶下臼受残部	径42.5	3.9	1000	粗粒輝石安山岩	8	表探	石上白	径28	幅12.8	11.9	2490	粗粒輝石安山岩	
4	表探	石鉢	径20		4	400	粗粒輝石安山岩	9	表探	石上白	径23		6.9	458.6	粗粒輝石安山岩
5	表探	石上白	径29.5	径47.2	6.6	1540	粗粒輝石安山岩								

## 第2部 大井戸遺跡



## 第1章 発掘調査と遺跡の概要

### 第1節 調査に至る経緯

本遺跡の発掘調査は、平成9年と平成11年4月1日付け県教育委員会と本事業団の間で締結された、「北関東自動車道（高崎～伊勢崎）地域埋蔵文化財発掘調査」についての委託契約に基づいて、高崎起点STA148+10からSTA149+00付近、約90mの間を調査対象地として実施することになった。また、本調査区以東と南側側道部分についての調査は、一部関連機関での調整をおこなった。

本遺跡の発掘調査対象面積は4,287㎡であり、古墳時代から平安時代にかけての水田跡を主体にした2面の調査を想定した。

第一次調査は、平成9年10月に三和工業団地造成工事の隣接部に関連して、平安時代の水田跡1面を想定し、調査面積550㎡の先行調査を実施した。さらに、平成11年度に第二次調査をおこなった。第二次調査は11年9月から平成12年3月まで計画し、表面積3,728㎡・延べ面積7,456㎡と、旧石器の確認調査を想定した。

本遺跡の調査は、西側の舞台遺跡の調査と連携して実施した。特に、舞台遺跡の一部区間の工事、及び北関東自動車道全体の asphalt plant 仮施設の設置に伴い、日本道路公団高崎工事局と群馬県教育委員会文化財保護課（現文化課）、本事業団の三者での工程会議にて協議のもと、平成11年8月から9月にかけて舞台遺跡と大井戸遺跡の調査事務所の移転を行った。本遺跡の調査は平成11年度で終了した。

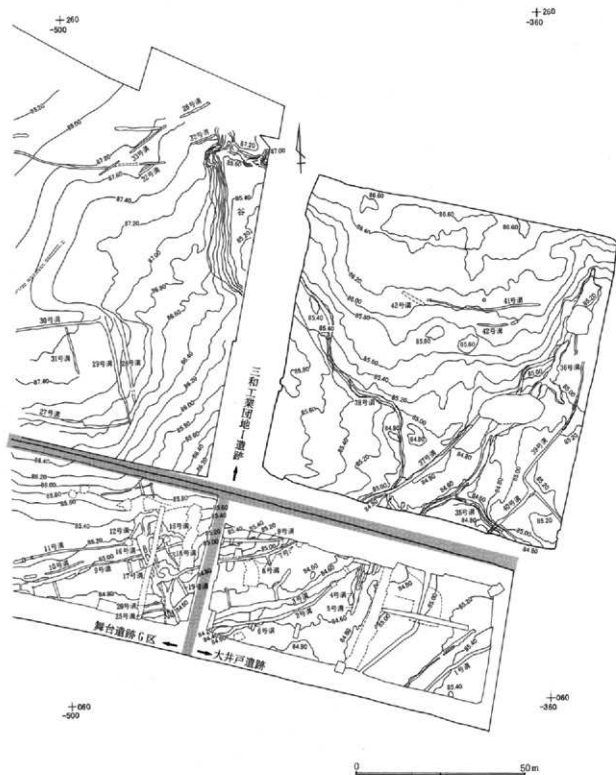
### 第2節 遺跡の立地と概要

本遺跡は伊勢崎市城北部の田園地帯を景観とする粕川左岸にあり、大間々原状地の棚田面に立地する。周囲には湧水が点在し、そのうちの一つである「男井戸」の南下手に遺跡はある。大井戸遺跡地そのものは東に広く展開するが、本時調査はその西端になる。舞台遺跡との境界部にあたり地形環境的には断絶すべきものは無く調査は一括して行われた。Loam低台地に挟まれた谷地形であり、西面と北面に続く舞台遺跡や三和工業団地遺跡の主立地となる台地上では旧石器・縄文・古墳・平安・中世に及ぶ多種多様な遺構群が展開している。

湧水起源の流水による浸食谷の埋没土層序はかなり複雑な様相を呈している。低地部そのものは昭和50年代に行われた土地改良による埋土で平坦化しており、現地表下は50cmを前後するLoam土が盛土される。調査区内で検出された湧水点は4～5地点であり、厳密には大井戸遺跡の域内ではなく舞台遺跡の東端（G区）になる。いずれも小さな窪み程度で、湧水量はさほど多いとは思わず、流水路の形成も小規模なものである。板碑など出土遺物からは古代末から中世をさほど遡らない時期に露呈していたものであろう。男井戸の湧水地名の一端に繋がるも考えられる痕跡は三和工業団地I遺跡において、古墳時代前期の谷頭掘削痕・導水施設・祭祀跡、古墳時代後期の谷頭掘削痕が検出されている。本報告になる調査地の東縁である大井戸遺跡としては、前記三和工業団地I遺跡（註）において「谷B」とされる谷地形の下方部に相当しその一端が覆われる程度のものであり、遺構としての形成は導水機能と考えられる数状の溝に止まる。

低地部からなる本遺跡で検出された遺構は上層より中世以降・平安時代・古墳時代の各時代に属するものである。中世以降及び平安時代に属するものではAs-Bの二次堆積とAs-Bそのものによって埋没した溝が

第1章 発掘調査と遺跡の概要



第180図 大井川遺跡及び周辺城図(三和工業団地I遺跡谷地部との合成図)



ある。溝は湧水による自然流水路を基本的にはなぞる状況で検出されるが、部分的に掘削を施し南下方へ通水しているようである。古墳前期に相当すると考えられる層より木器又鉄の出土がある。このことと合わせ、低地という地形環境から水田跡の存在が想定されたが検出には至らず、土壌内植物珪酸体分析からもその痕跡は得られなかった。ただ、東側の台地縁辺部からはAs-Cを含む黒褐色土を埋土にもつ溝2条が検出されて下流域に通水した状況が窺われ、間近に水田跡が存在する可能性もある。北西部の台地にかかる暖傾斜面においては、As-C混じり黒褐色土で埋まる島のさくを検出する。これらは北部に繋がる三和工業団地1遺跡で検出された島の延長であり、古墳時代前期の堅穴住居群に平行する時期の所産と考えられる。

縄文時代に関しては、土器片とともに石斧等の石器類が少量出土しているものの、遺構の検出は無い。旧石器時代に関しては、南東部の暖傾斜地点において、As-BPより上位に相当するLoam層から配石状の転石群が検出されている。周囲には石器・石片類や炭化粒・焼土粒等の検出はなく、配石が人為的な手が加わっているか否かは十分な検討を要する。

なお、大井戸と舞台の両遺跡(G区)間で峻別されるべき地形的・考古学的な差異・変化は認め難く、また調査地点もまたがって同時に実施されていることから、ここでは一括掲載とする。

#### 大井戸遺跡(谷地)土層について(第181・183・189図)

大井戸遺跡は本来的にはLoam台地と沖積低地から形成されているが、本調査にかかる部分は湧水による低地地形に限られる。従って、遺跡地の堆積土層序はかなり複雑な様相を呈するが調査は大凡3面の文化層として仮定認識され実施している。基本的層序には浅間山や榛名山噴火起源による降下軽石や火山灰である浅間B軽石・榛名二ツ岳火山灰FA・浅間C軽石などが介在する。低地部の上位層としては表土を除き大凡次の7層からなっている。(第181・183図上段調査区北縁部)

1. 暗褐色土 浅間B軽石混土
2. 浅間B軽石層
3. 黒色土 榛名二ツ岳FA混土層で植物繊維が多量に混じる。
4. 榛名二ツ岳FA火山灰層
5. 黒色土 浅間C軽石混土
6. 浅間C軽石層
7. 黒色土 植物繊維多量に混じる。

これより下位層は湧水による谷地形成に係わるとともに、埋没谷化への進行作用は人為的ないしは自然的によるか明言しがたく層序的にはかなり複雑な状況を呈する。基本的には粘質土または泥炭質土や砂泥層が続き、およそ1m強の深さで大間々層状地層と考えられる裸層に至る。(第181・189図下段調査区東縁部)

土層図中央部には大溝状の落ち込みが観察され、粘質土とともに埋土の多くは浅間B軽石を混入する。人為的掘削の積極的根拠に乏しいが、木製二股鍬・石櫃や板碑などの出土がある。時代的には必ずしも継続的な行為を意味するものではないが古くは古墳時代に、また、とくに新しくは中世へかかる頃に湧水地点からの導水などの目的で谷地筋に渠構的規模で開削の手が加えられた可能性があり、湧水点は6箇所の溜井跡として調査されている。



## 第2章 検出された遺構と遺物

### 第1節 遺構

ここで報告する遺構は前述のごとく、大井戸遺跡と西側へ隣接連続する舞台遺跡で設定されたG区での検出遺構を一括してある。基本的には大井戸遺跡に含めて記載し、遺構名称などについて特に必要がある場合には文中で帰属を明示することとする。

#### 湧水点（溜井）（第184・186図）

今般の調査範囲になる大井戸遺跡地内に湧水点は存在しない。微地形的には、既調査になる三和工業団地I遺跡で検出調査された湧水池からの水流によって形成された谷地の一部分である。

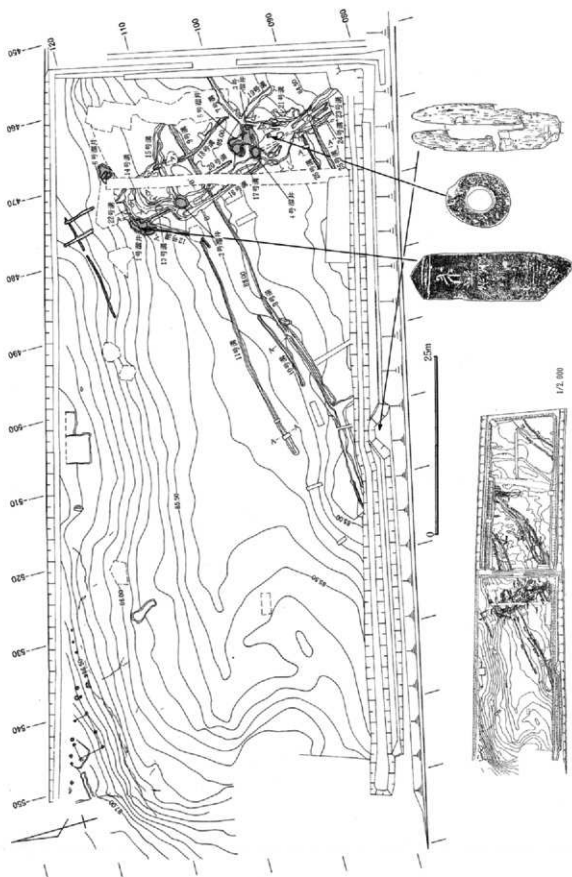
湧水池“おおいと”の名称になる湧水関連の形跡は、舞台遺跡設定のG区にある。しかしながら、規模・形状については、“おおいと”の名に負うにはやや不足の感があり湧水点が似つかわしい。地続きの三和工業団地I遺跡では、A・B二筋の谷筋が確認されているが北方域上流に展開する関係で本遺跡域内では合流一本化されている。谷Aでは「上池」「下池」の2箇所にも井戸が検出されているが、深さや施工方など聞き込み調査による所見が得られていることから、当該の谷頭湧水点の谷Aは「男井戸（おいと）」と呼ばれごく近年に開削ないしは近年までその梗を得ていたことが知られる。遺構状況としては本遺跡名称「大井戸」に近く、谷Aが同意語として呼び慣わされてきたものであろう。

他方、谷Bは、谷Aの谷頭自体は人為的掘削の痕跡がないのに対して、湧水点としての機能は古くから活用されている。古墳前期にはすでに木材を用いた導水施設が施工され、祭祀関連の遺物出土も知られている。

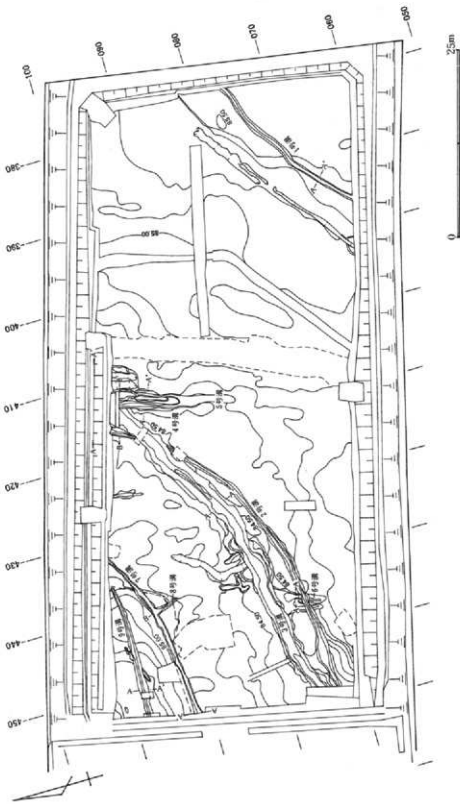
本書大井戸遺跡（遺跡範囲としては舞台G区）は上記三和工業団地遺跡における谷Bに連なるものであるが、しかしその距離約100mと離れ南方下流に当たり、開削の時代も異なっている。本遺跡では北高南低の緩やかな傾斜面で6箇所の湧水点が検出され、いわゆる谷頭の地形は成していない。小規模な楕円形状の窪みから地下水が湧き出すごとくである。この窪みの形成については、明らかな人為的掘削痕は認められないものの川原石形状の礫群がやや集中的に検出される箇所もある。また、30mの間に小さな溜井状の窪み（調査時には溜井と表記、以下溜井と表記するがここでは湧水点と同義語である。）が連続してあり細身の溝で連結されているようにも見える。北高南低の地形的条件からすれば湧水点からの流水筋によっても起こりうる形状でもある。確認・検出は浅間B軽石の混土層の除去面で、時代認識としては古代末から中世にかかる頃である。自然・人為いづれとも決めかねるが、廃棄状態ではあるものの石製骨蔵櫃や板碑などが出土しており、少なくとも年代上限としてこれら遺物の示す時代人には現風景として存在したことは確かである。自然発生の湧水点に何らかの手を加え利用したことは十分に考えられることである。

#### 1. 溜井跡（第184・186図、P.L.81・83～86）

1号溜井は北高南低地形の最上位にあり、径2×1.5m・深さ50cmである。埋土は細・粗粒の砂の互層である。三方向に溝が派生し、南西へ12号が11号に合し、13号溝は南下して2号溜井につながり、22号溝は東へ短くのびて南下して14号溝に合する。完形板碑が出土する。

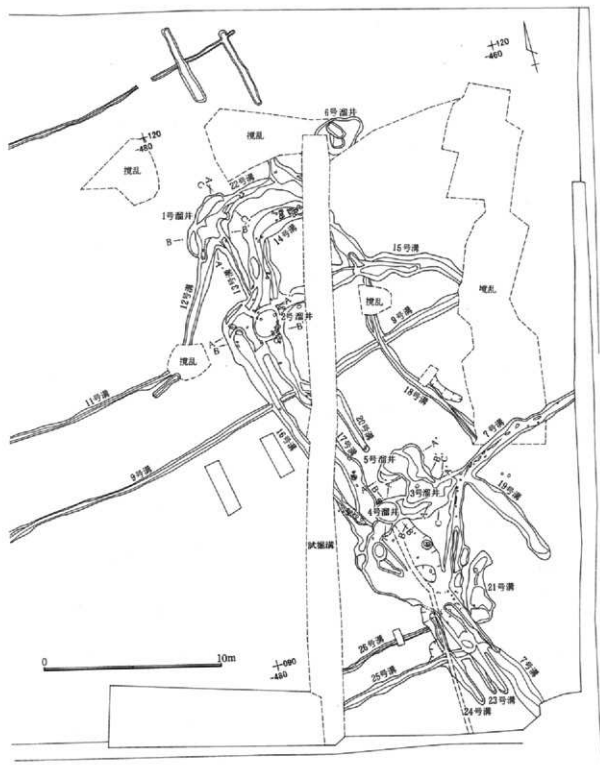


第182図 大井戸（舞台G区）遺跡全体図

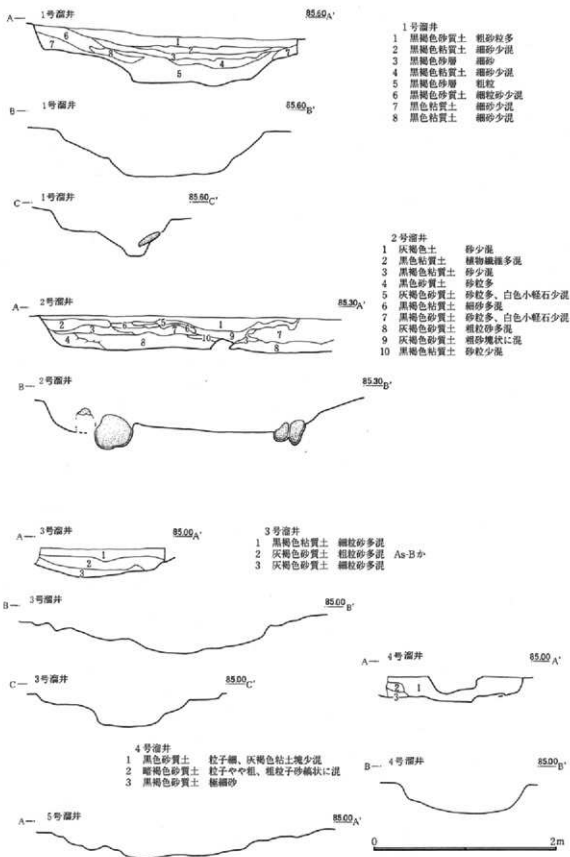


1/2,000

第183圖 大井戸遺跡全体図

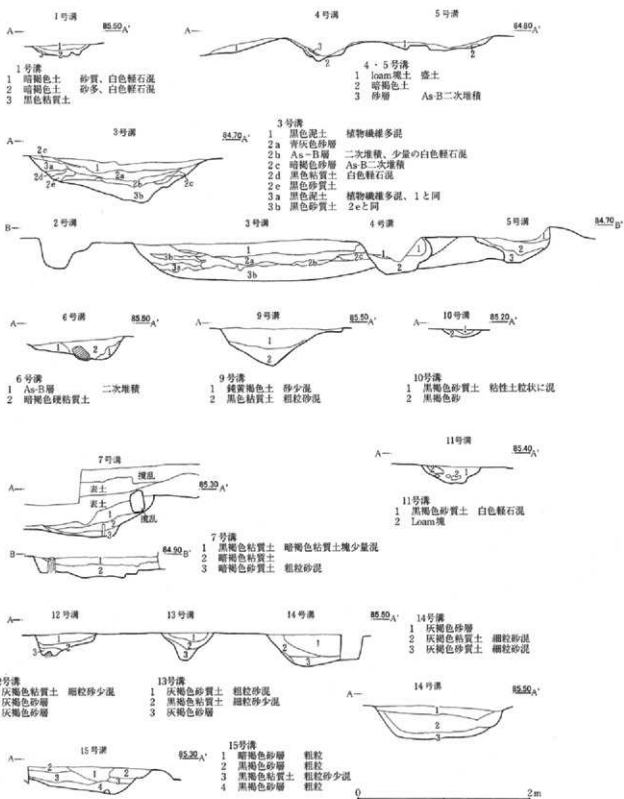


第184図 大井戸(舞台G区)遺跡溜井(湧水)



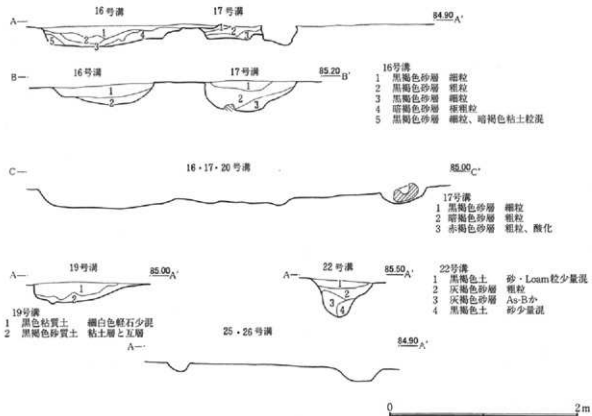
第185図 大井戸(舞台G区)遺跡溜井(湧水)土層図

第2章 検出された遺構と遺物



第186図 大井戸(舞台G区)遺跡溜井(湧水)・溝土層図





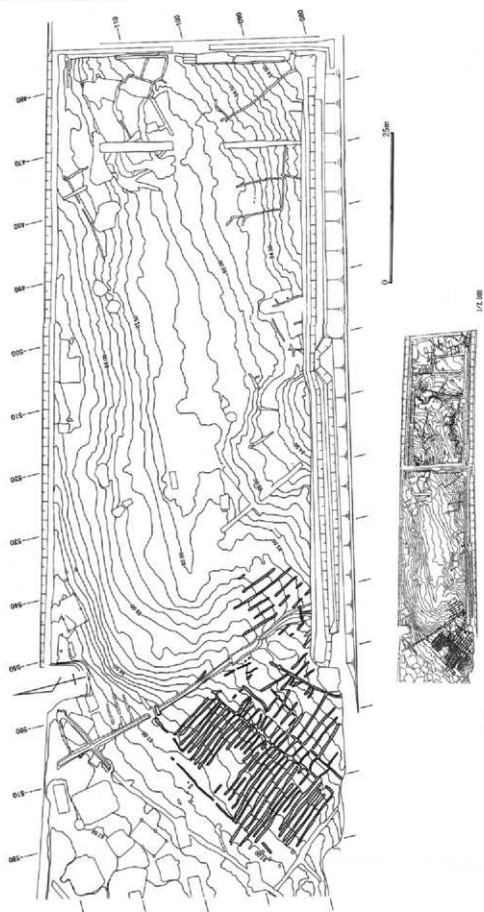
第187図 大井戸(舞台G区)遺跡溝土層図

2号溜井は1号からは南へ下って約5mの間隔をもって位置する。径1.5mほどの比較的整った円形で深さ30~40cmの底面の平たい壘形状である。東縁と西縁の一部には小児頭大の円礫が巡り、意識的な埋設が行われたように見える。埋土は砂の薄層が黒色粘質土と互層に細かく堆積する。東方へ15号溝が、南へは16・17号溝が派生する。

3・4・5号溜井は2号溜井から南へさらに10mほど下り、3所が近接する。4号と3号が東西位置に接し、5号溜井が3号の北上方に接する。3号溜井の前底部にあたる南下方はやや広く窪地となり南先端部には跡切れ状態の23・24号の溝が延びる。埋土は砂質土を主とする薄層の重なりである。前底部にあたる窪地東縁より古代に属すると考えられる石製骨蔵櫃身部が出土する。6号溜井は試掘溝にかりその存在が不明確のままであるが、1号溜井の東方10mほどに位置する。周辺には擾乱が及び形状その他不明部分が多い。2.5×1.5mほどの楕円形になろう。

## 2. 溝跡 (第182・183・186・187図、P.L.81・82・84・86~90)

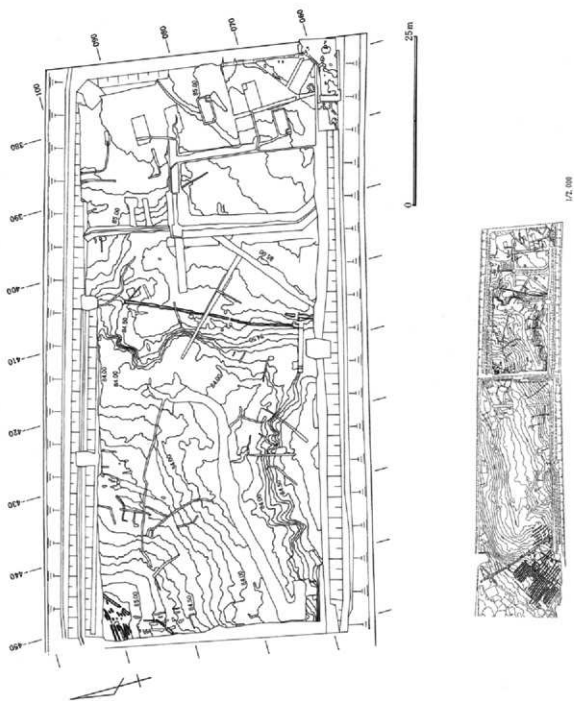
大井戸遺跡及び舞台遺跡G区において検出された溝跡は大別2群になる。1つは本調査による前述の溜井跡にまつわるものと、他は、北側三和工業団地I遺跡(以下工業団地)の調査・検出溝跡に関係するものである。前者には12号~26号溝などが該当し、何らかの形で6箇所各溜井跡に合するものである。これら溝そのものが湧水とそこからの流水によって自然発生的に形成された可能性も考えられるのである。ただ、14号溝や16号溝には部分的とはいへ窪溜まり的ではあるが石材の集中する箇所が有り人為的な所作も窺われ

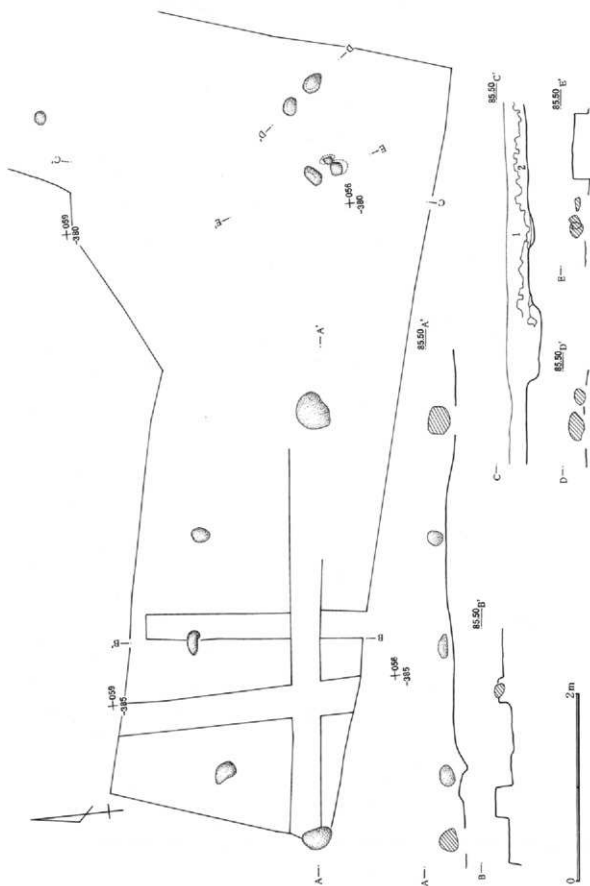


第188図 舞台F・C区遺跡平面図

る。しかし、これら溝群が個々の溜井から導水するための単一単位なのか、または溜井間を結合し集水的機能を有したのかは判然としない。このいずれかで溜井群の形成過程に保ってくる問題ではあるが、調査においては新旧関係等の所見は得られていない。溜井跡に関連するこれら溝群の埋土については溜井跡主体との差異はなく、いずれも砂層を主体として泥炭気味な黒色薄層との互層となっている。

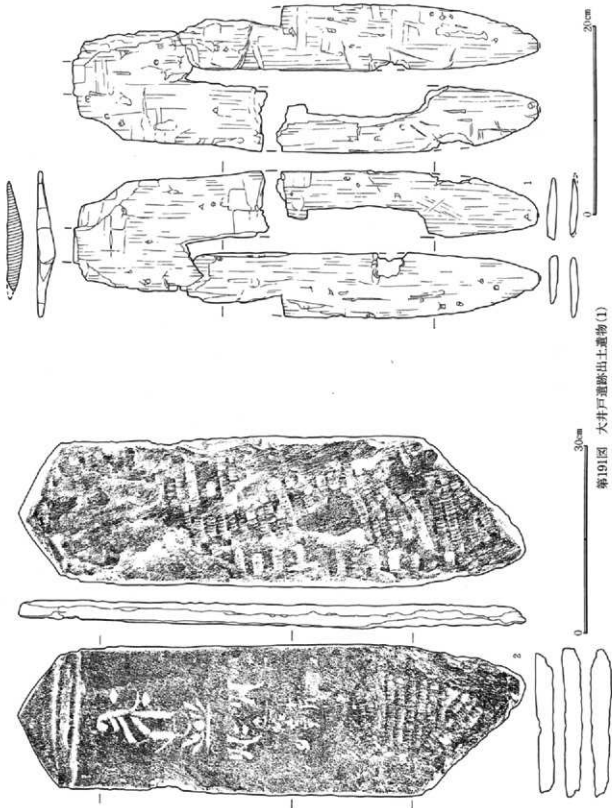
他の1群は過年に調査・報告されている三和工業団地に連なるものである。1号～11号溝が相当し、うち1号～6号溝は大井戸遺跡地内にあり、7号～11号溝は舞台遺跡G区から大井戸遺跡にまたがって検出され





第1900回 大井戸遺跡配石状遺構群

ている。いずれも北東南西方向に走行方をもち、上手にあたる北東方向の三和工業団地の「谷A」へ向かう。3号溝は最も幅広く幅約2m、深さ50cmほどの規模をもつ。検出区域北端で2号溝と合し、工業団地「36号溝」へと連なる。また、舞台・大井戸遺跡にまたがる9号溝も同じく三和工業団地「37号溝」に繋がる。



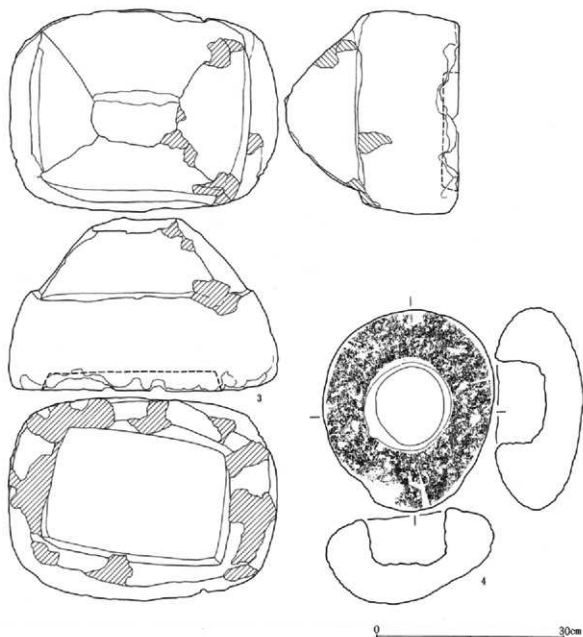
第19図 大井戸遺跡出土遺物(1)

## 第2章 検出された遺構と遺物

両者とも三和工業団地「谷A」に検出されている「1号男井戸」からの湧水溝である。3号溝は「36号溝」と併せた検出総延長約100mに、9号溝は「37号溝」と併せ約150mの長さになる。三和工業団地「谷A」に関する年代的所見では、湧水利用の聞き取り調査可能な時点と、「36号溝」粗土のAs-B（浅間B軽石）の一時堆積状況から、少なくとも平安時代後半頃まで遡る長期にわたる使用が考えられる。

### 3. その他（第190図、P.L.91）

大井戸遺跡調査域の南東部緩傾斜面上部において、As-BPより上位に相当するLoam層から、人為的に配石されたと見える配石状遺構2基が検出された。層位的には旧石器時代に帰属することから、周辺域も含め



第192図 大井戸遺跡出土遺物(2)

注意深く精査を行ったが石器・石片類をはじめ炭化物・焼土の類も検出されなかった。配石そのものについての検討も慎重を期したが遺構として積極的な成果は得られなかった。配石を思わしめた2基の礫群は、大間々扇状地の基層の一部と考えられる礫層群の浮上礫が成した偶然の産物としたい。なお、石礫質は大間々扇状地基層礫に通常な輝石安山岩を主質とする。

## 第2節 遺物

大井戸・舞台G区よりそれぞれ石製骨蔵器の蓋・身部が出土しているが、両者は作りが異なり別個体である。1の蓋部は作りの丁寧さとともに大きさもまた、希有な例に入ろうか。石製骨蔵器、いわゆる石櫃は群馬県における奈良・平安時代火葬墓の一方の代表的墓制形態である。他方には葉壺形骨蔵器があり、両者は赤城山南麓域と榛名山東麓にその分布域を比較的鮮明に分かっている。古代墓制はほぼ体系づけられたかに考えられる（津金澤吉茂「古代の墓制」『群馬県史』通史編原始古代2 1991他）。石製骨蔵器の分類・編年研究もまた定着の感が強いが、当該資料は知見に上る種類の多さの割に、偶発的発見例が多い。分類とその形態変遷に基づく年代的問題にはさらなる確証に裏打ちされることが望まれる。

### 木製品・石造物（第191・192図、PL.79・80・91）

1. 木製二股鍬。樹種はクスギ類か。舞台遺跡G区南縁排水溝掘削C混土面出土。

柄部幅4cmで欠損。身長約48.3cm、両身間は狭く2cm足らず、各身幅は7cm。鍬身の外縁がやや丸味をもって作り出される。着柄部面は横断三角形に中央厚みを持ち、基部ほど顕著で鍬身の部分は極めて薄作り。裏面は平坦。片身がやや短く、使用者の利き手からくる使い減りであろうか。

2. 板碑。緑色片岩製。1号溜井跡出土。

山形の頭部に切り込み二条線、額線は不明。種子は蓮座上に胎蔵界大日。監視種子は本体から右が勢至、左は観音。紀年銘らしき「月」字が読みとれるが詳細は不明。裏面に贅痕顕著。基部三角形に尖る。長さ81cm・幅24cm・厚さ3cm・重量10.73kg。

3. 石製骨蔵器蓋部。粗粒輝石安山岩製。大井戸遺跡出土詳細地点不明。

平面形状は隅丸の長方形をなす。下半は丈高な四面作りで上半は寄せ棟状に五面の面取り整形を施す。身部との接地部は平滑に作り、長方形に列って印籠作りである。各部位は長径42cm・短径31.7cm、総高27.5cm、下半四面部高16.5cm・上半屋根部高11cm、重量31kg。身部との接合孔は裏面方形に対し相似位置にならずやずれている。孔の長径28cm・短径20cm、深さ3cmで丁寧な作りである。

4. 石製骨蔵器身部。粗粒輝石安山岩製。舞台遺跡G区4号溜井前庭部出土。

扁平な楕円形自然転石を使用する。径31.6×27.1cm・厚さ12.9cmで納骨孔は凸・段等の細工を施さない接合部平坦な形状である。孔径12.5cm・深さ8cm、重量7.45kg。

番号	出土位置	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質	番号	出土位置	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重さg	材質
1	大井戸	木器二股鍬	48.3	15.5	1.6		クスギ類*	3	大井戸	骨蔵器蓋	42	31.7	27.5	31000	粗粒輝石安山岩
2	G溜井-1	板碑	81	24	3	10730	緑色片岩	4	G溜井-4	骨蔵器身	31.6	27.1	12.9	7450	粗粒輝石安山岩

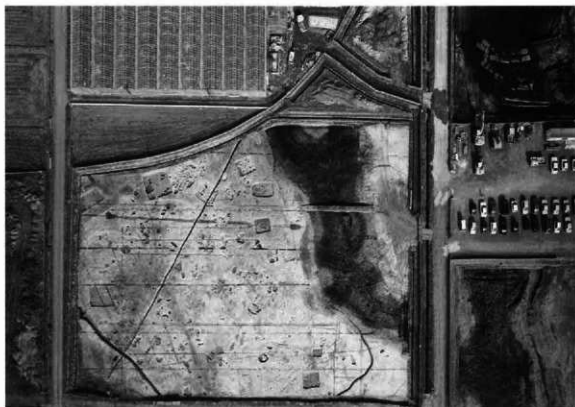
引用・参考文献

- 『群馬県史』資料編1 原始古代1 旧石器・縄文 群馬県史編さん委員会 1988
- 『伊勢崎市史』通史編1 原始古代中世 伊勢崎市 1987
- 『群馬県遺跡大事典』(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 編 上毛新聞社 発行 1999
- 津島秀章『三和工業団地Ⅰ遺跡(1)』-旧石器時代編- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999
- 坂口 一『三和工業団地Ⅰ遺跡(2)』-縄文・古墳・奈良・平安時代他編- (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 1999
- 綿貫邦男『舞台遺跡(1)』(奈良・平安時代他編) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001
- 『光仙房遺跡』友廣哲也(集落編)・綿貫邦男(須恵器産跡編) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2003
- 綿貫邦男『舞台遺跡(2)』(古墳時代編) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004
- 麻生敏隆・桜井美枝『波志江西宿遺跡Ⅱ』(縄文・旧石器時代編) (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団 2004

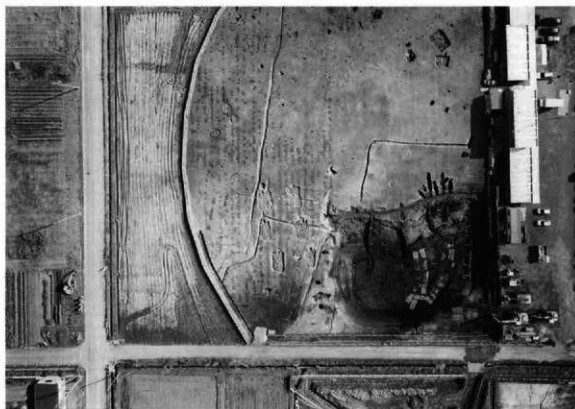


# 写 真 图 版





B区全景 (上が北)



A区全景 (上が東)



A区全景 (上が北)



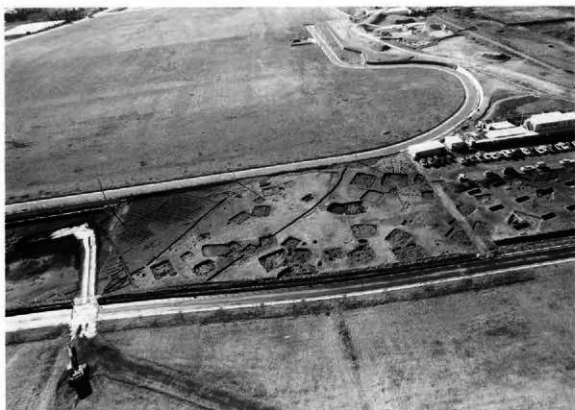
F区全景 (上が北)



F区全景 (上が東)



F区全景 (上が南)



F区全景（上が南）



F区全景（上が北）



C区全景 (上が東)



C区全景 (上が北)



D・Ea区全景（上が北）



E<sub>2</sub>区全景・E<sub>1</sub>区全景（上が北）



D-210号住居跡 (南西から)



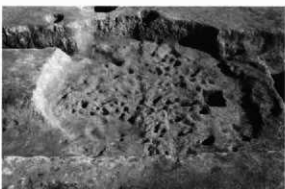
D-210号住居跡出土遺物



E-190号住居跡 (西から)



E-202号住居跡 (西から)



E-202号住居跡掘形 (西から)



E-202号住居跡埋裏



F-62号住居跡 (東から)



F-62号住居3号炉跡



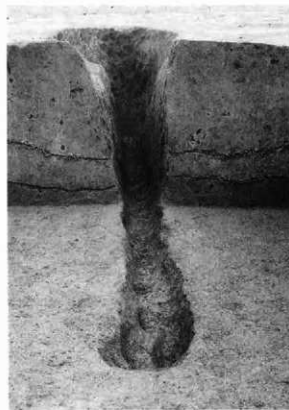
F-86号住居跡 (西から)



F-86号住居炉跡



D-2(左)・D-3号(右) 陥穴 (南から)



D-2号陥穴 (北から)



D-4号陥穴 (東から)



D-5号陥穴 (南から)



D-5号陥穴土層 (西から)



E-6号陥穴 (南から)



E-7号陥穴 (北から)



E-8号陥穴 (北から)



E-9号陥穴 (南から)



E-9号陥穴土層 (南から)



F-10号窟穴 (北から)



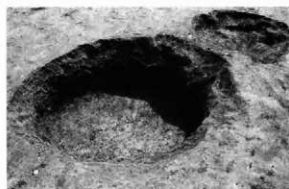
A-280号土坑 (西から)



A-280号土坑土層 (西から)



A-281号土坑 (南から)



A-283号土坑 (南から)



A-281号土坑土層 (南から)



A-283号土坑土層 (南から)



A-284号土坑 (東から)



A-284号土坑遺物出土状況



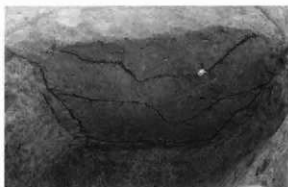
E-359号土坑 (南から)



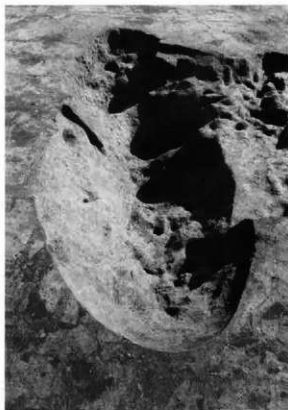
F-161号土坑 (西から)



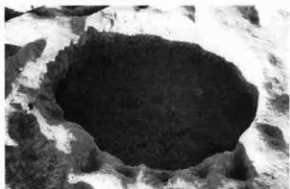
F-164号土坑 (北西から)



F-164号土坑土層 (西から)



F-167号土坑 (西から)



F-178号土坑 (南から)



F-178号土坑土層 (南から)



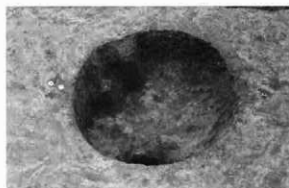
F-181号土坑 (西から)



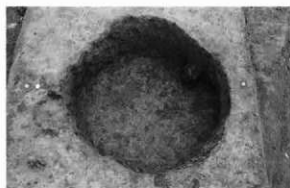
F-188号土坑 (南から)



F-190号土坑 (西から)



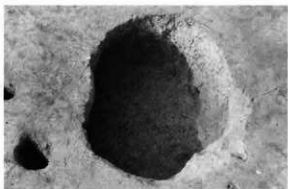
F-191号土坑 (南から)



F-192号土坑 (北から)



F-202号土坑 (東から)



F-204号土坑 (南から)



F-205号土坑 (南から)



F-207号土坑 (東から)



F-207号土坑土層 (南から)



F-208号土坑 (南から)



F-208号土坑土層 (南から)



F-213号土坑 (南から)



F-217号土坑 (南から)





F-202号土坑 (南から)



E-302号埋甕



E-302号埋甕跡土層 (南から)



E-302号埋甕掘形



E-377号埋甕



F区谷地部縁辺



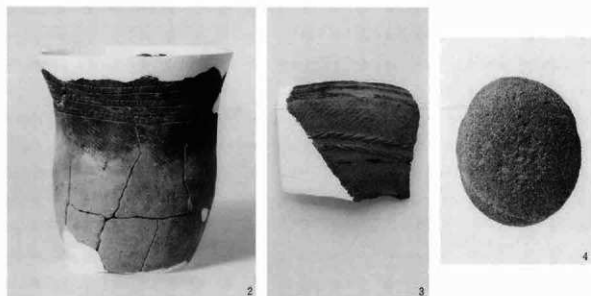
F区作業風景



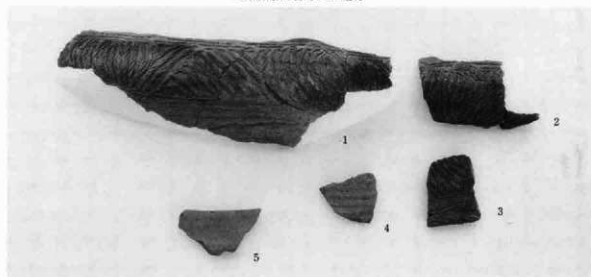
F区作業風景



D-210号住居跡出土遺物（浅鉢）



D-210号住居跡出土遺物



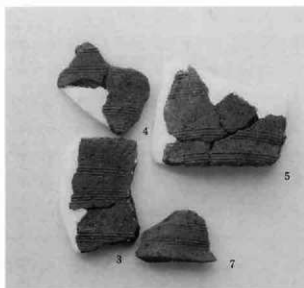
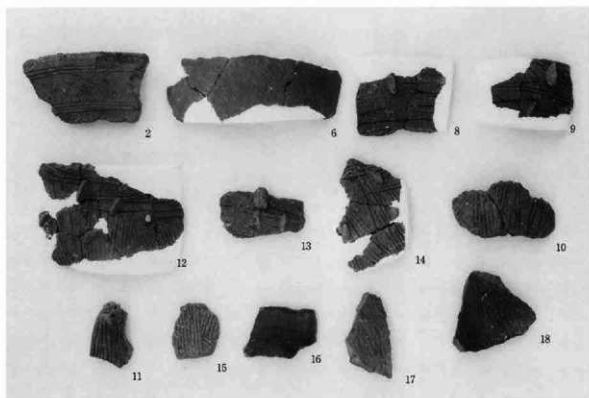
E-190号住居跡出土遺物



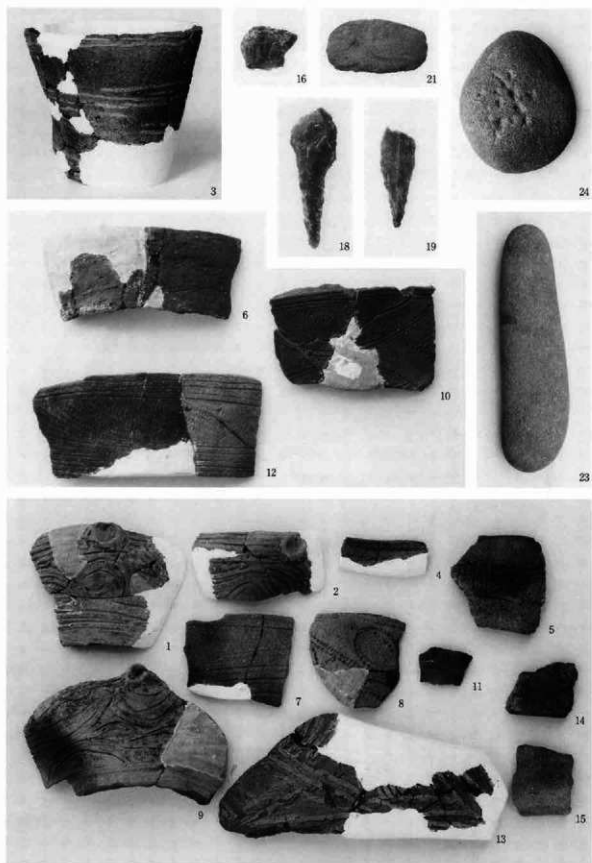
D-210号・E-190号・E-202号住居跡出土遺物

E-202号住居跡出土遺物

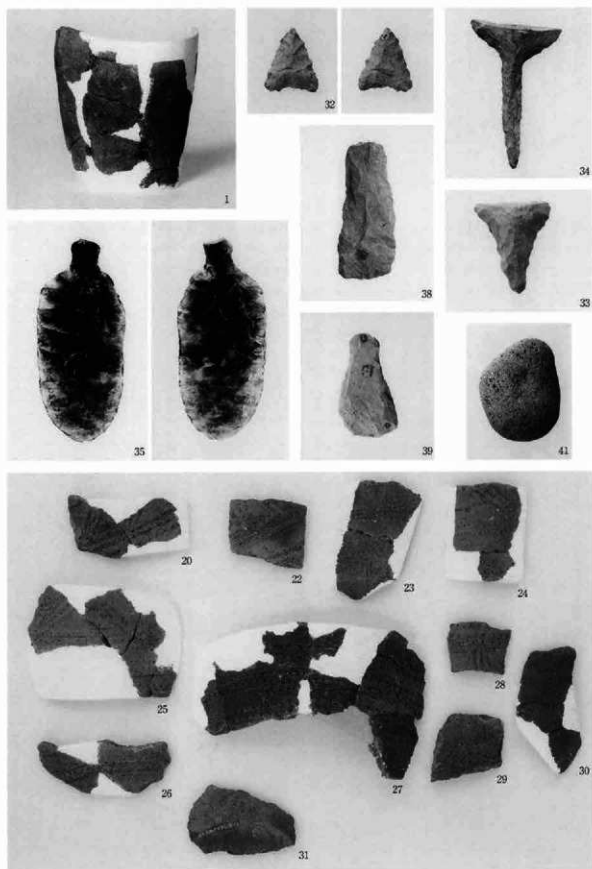
1



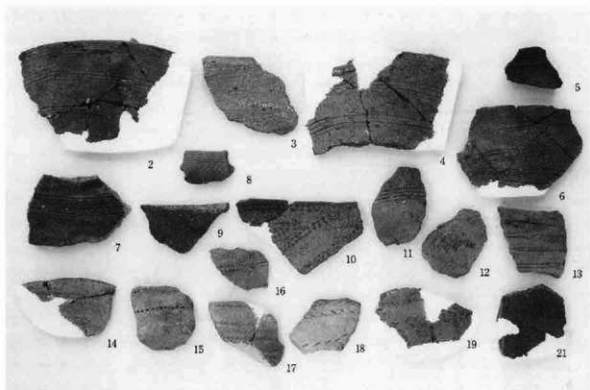
E-202号住居跡出土遺物



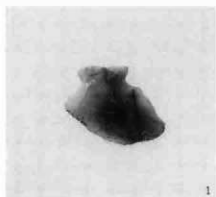
F-62号住居跡出土遺物



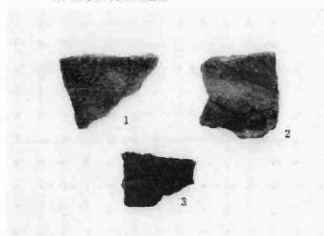
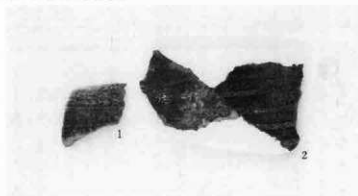
F-86号住居跡出土遺物



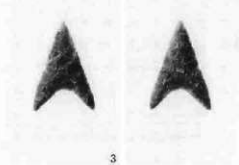
F-86号住居跡出土遺物



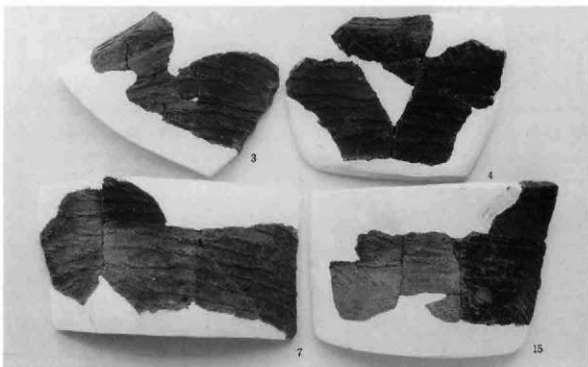
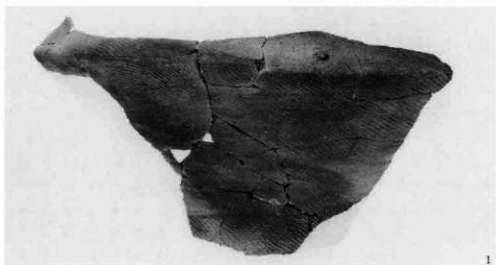
A<sub>1</sub>-19号土坑出土遺物



A<sub>3</sub>-283号土坑出土遺物

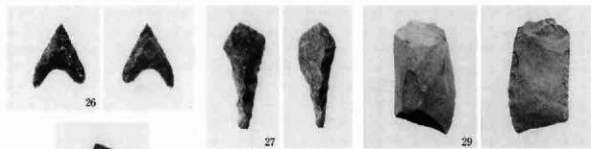
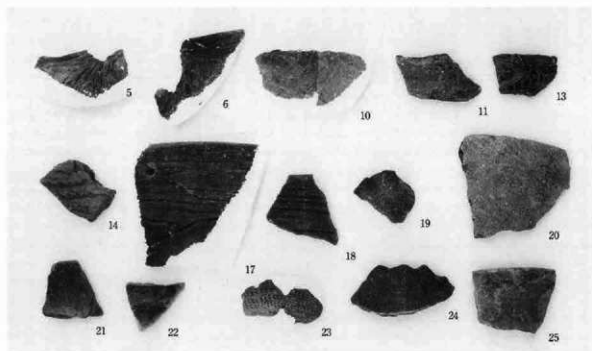


A<sub>3</sub>-281号土坑出土遺物



A3-284号土坑出土遺物





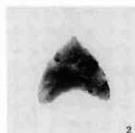
Ax-284号土坑出土遺物



28



Ez-359号土坑出土遺物



2

F-161号土坑出土遺物



1

F-190号土坑出土遺物



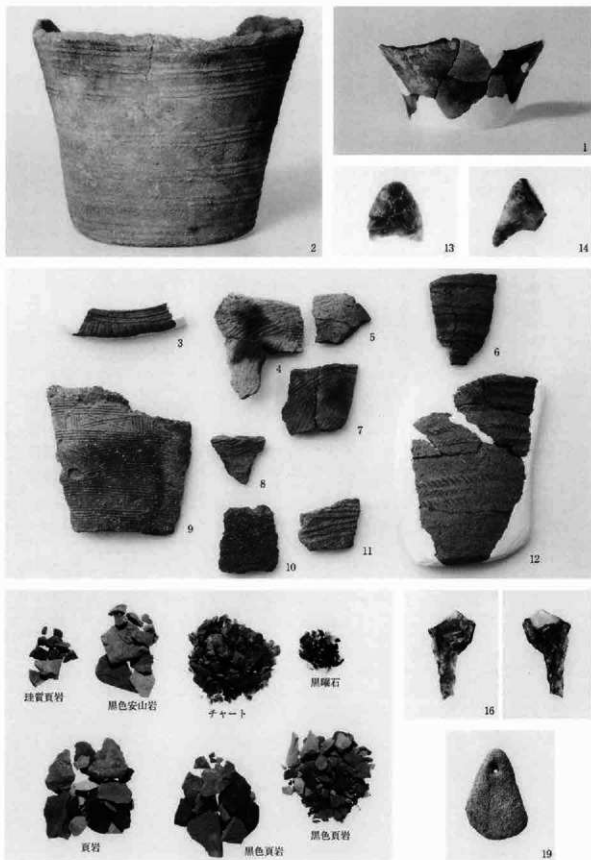
2

Ax-284号・Ez-359号・F-161・167・190号土坑出土遺物

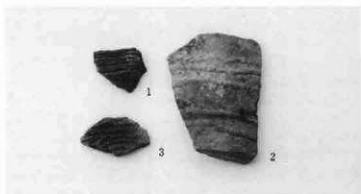


1

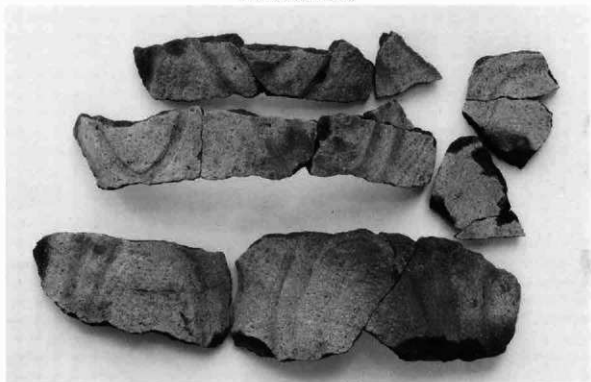
F-167号土坑出土遺物



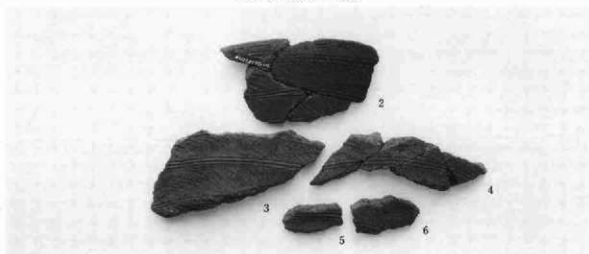
F-202号土坑出土遺物



F-204号土坑出土遗物

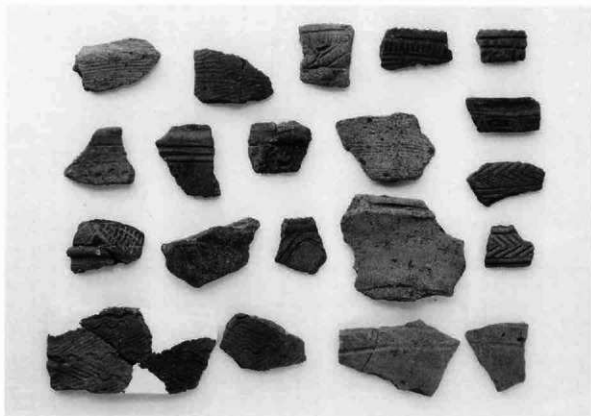


E-302号埋壳跡出土遺物

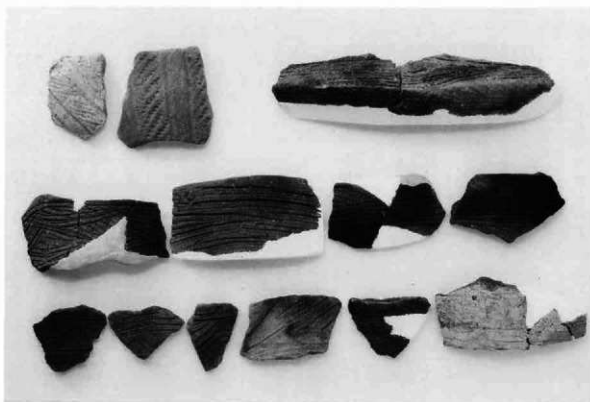


E-377号埋壳跡出土遺物

F-204号土坑・E-302・377号埋壳跡出土遺物



A区1-20



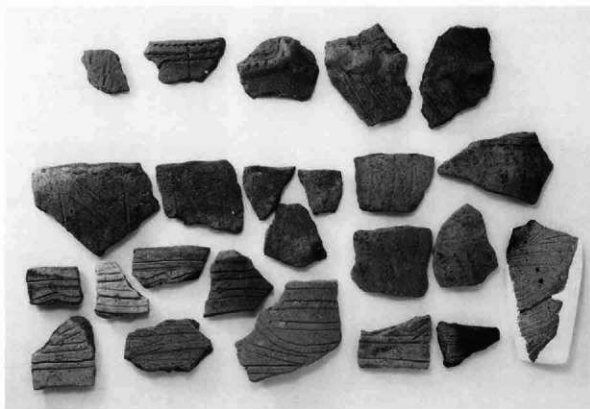
A区21-33



A K34-52



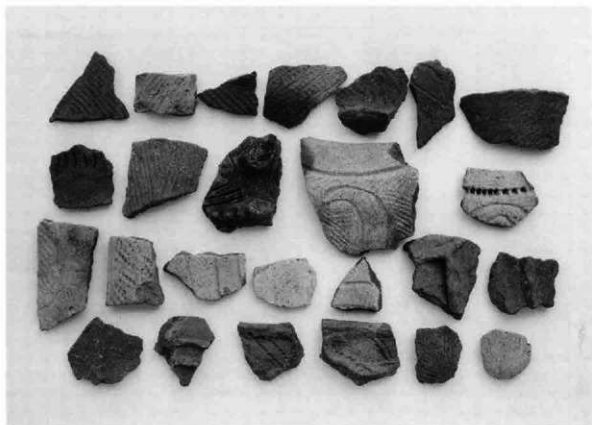
B・C K1-14・17



C区18~22 D区1~19



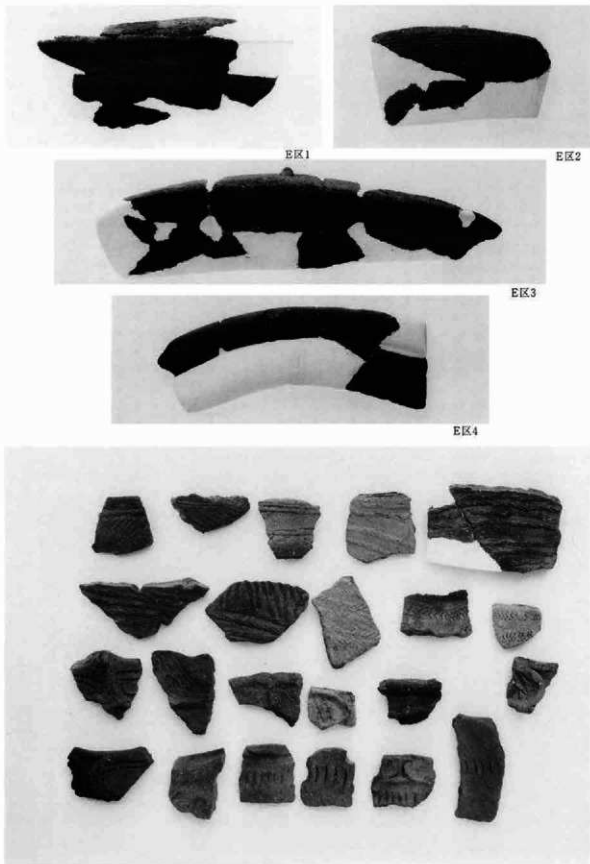
D区20~46



D区47~71



D区72~95



舞台遺跡遺構外出土縄文土器 (5)





E区27~53



FIG1

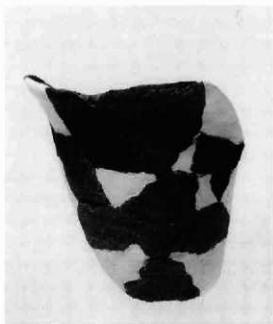


FIG2

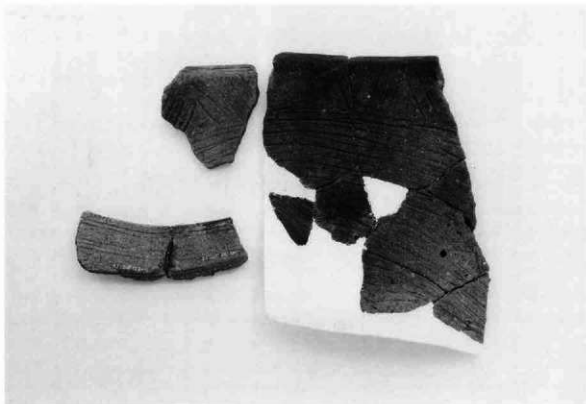


FIG4-6



FIG7-28



F区29~39



F区40~54



FIG.55-66

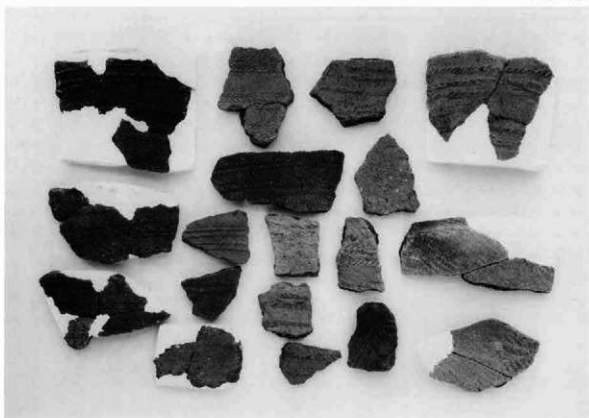


FIG.67-84

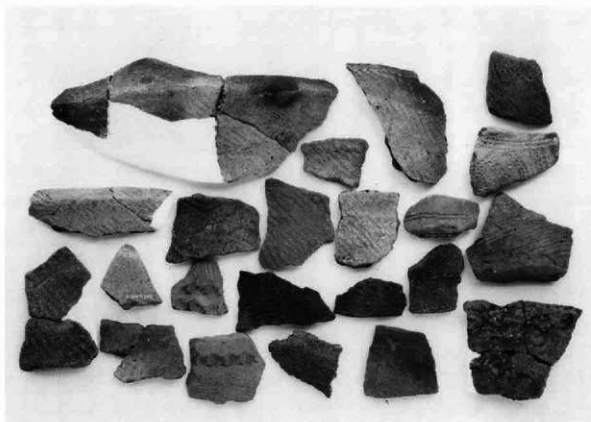


FIG.85~106

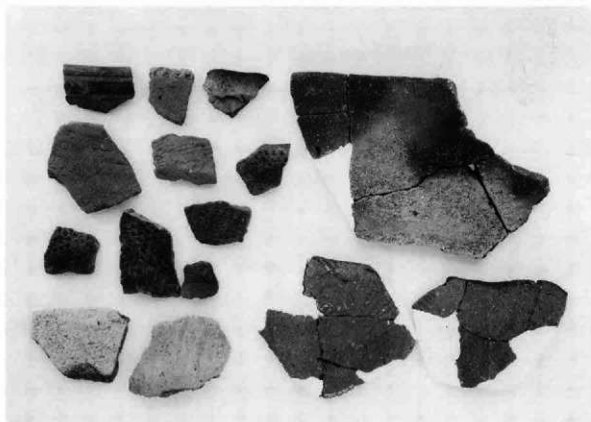
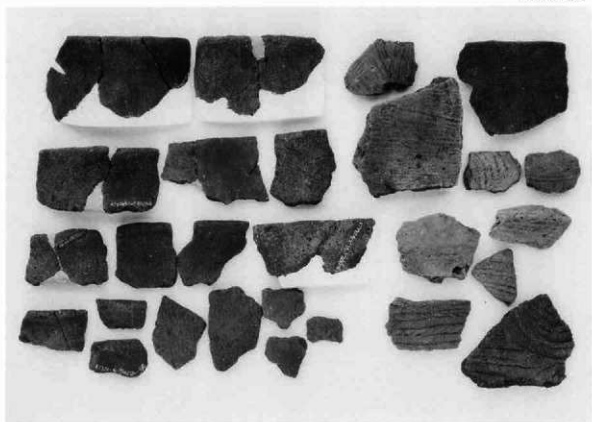


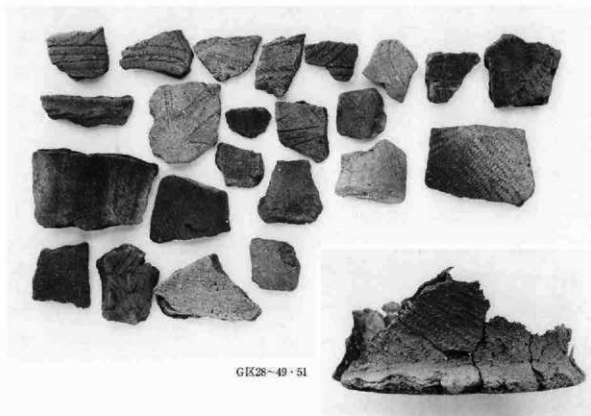
FIG.107~121



FIG122-151

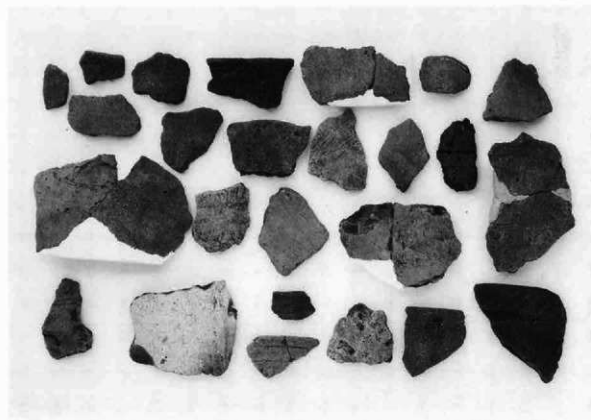


GIX1-27

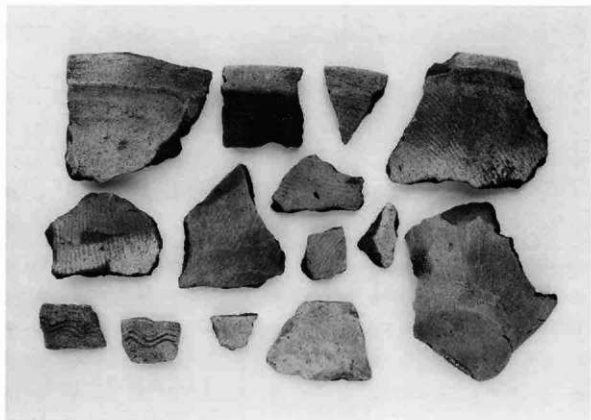


GK28-49-51

GIX55



GK50-52-54-56-75

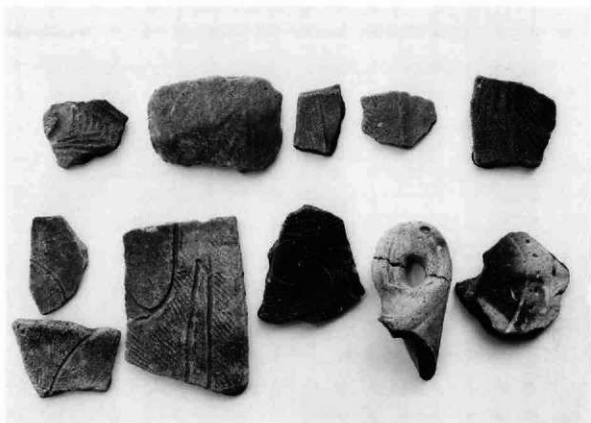


G区76-86



A区谷地1-15

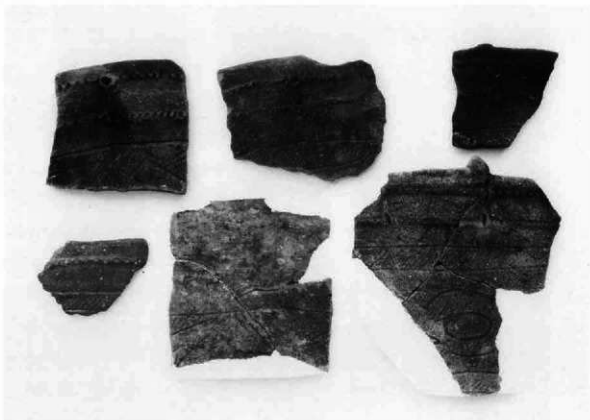




A区谷地16~26



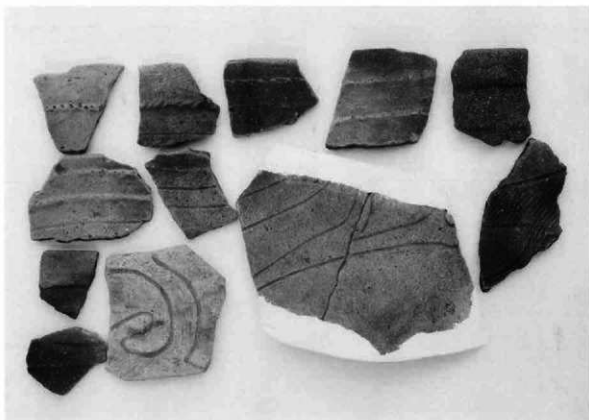
A区谷地27~42



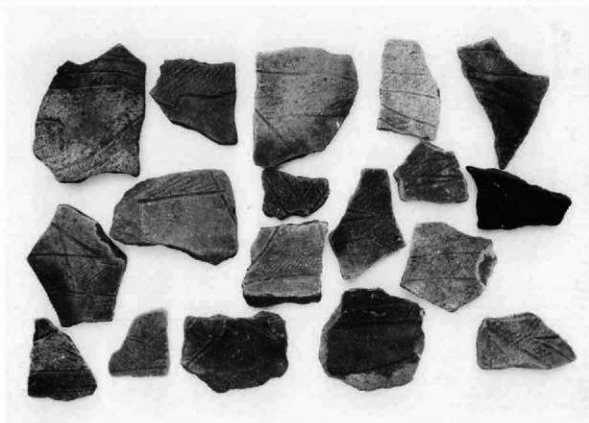
A区谷地43-48



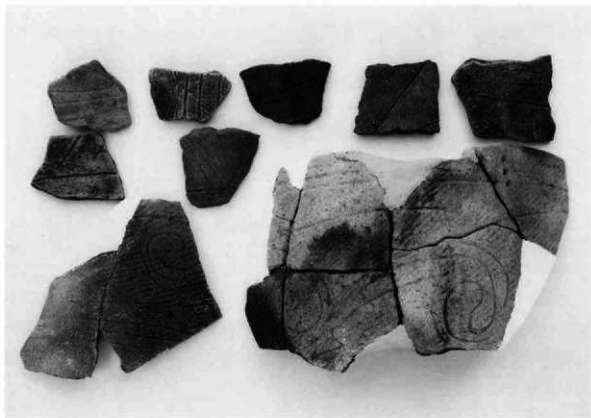
A区谷地49-63



A区谷地64~75



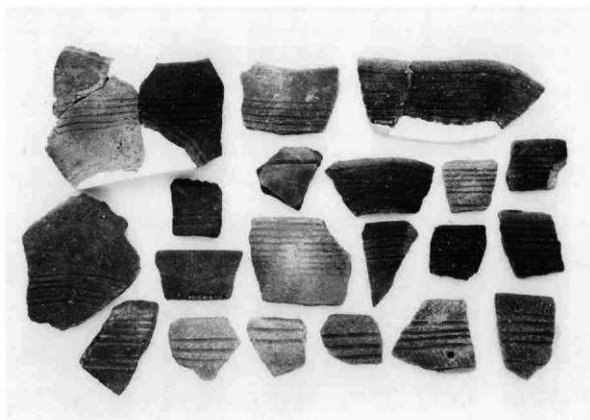
A区谷地76~93



A区谷地94~102



A区谷地103~120



A区谷地121~140



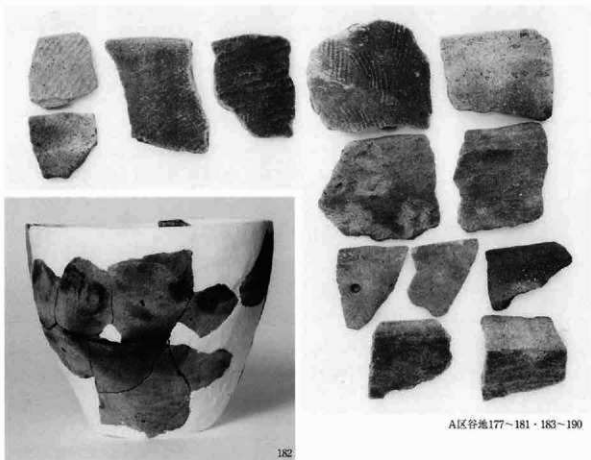
A区谷地121~140裏



A区谷地141~161



A区谷地162~176



A区谷地177~181・183~190

182

A区谷地

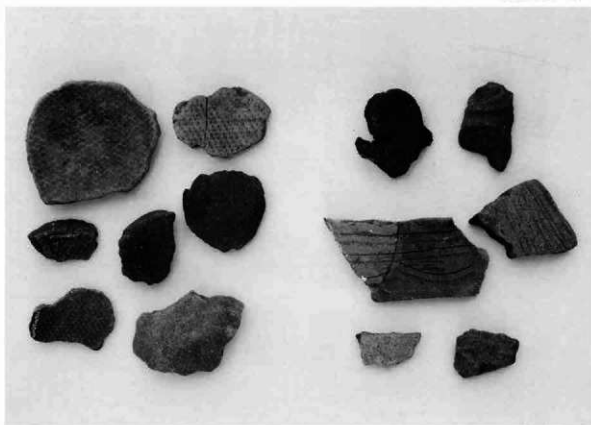


A区谷地191~198

舞台遺跡遺構外出土縄文土器 20

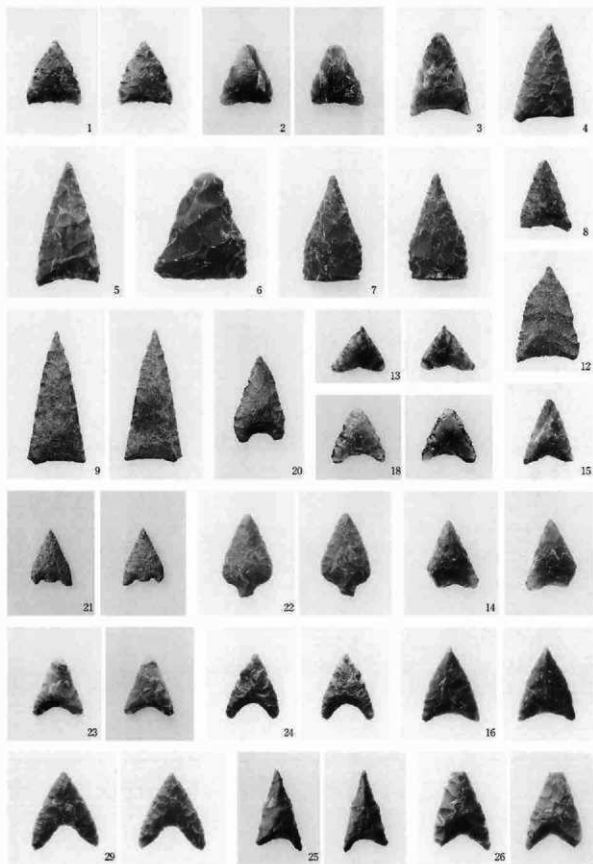


A区谷地200~210

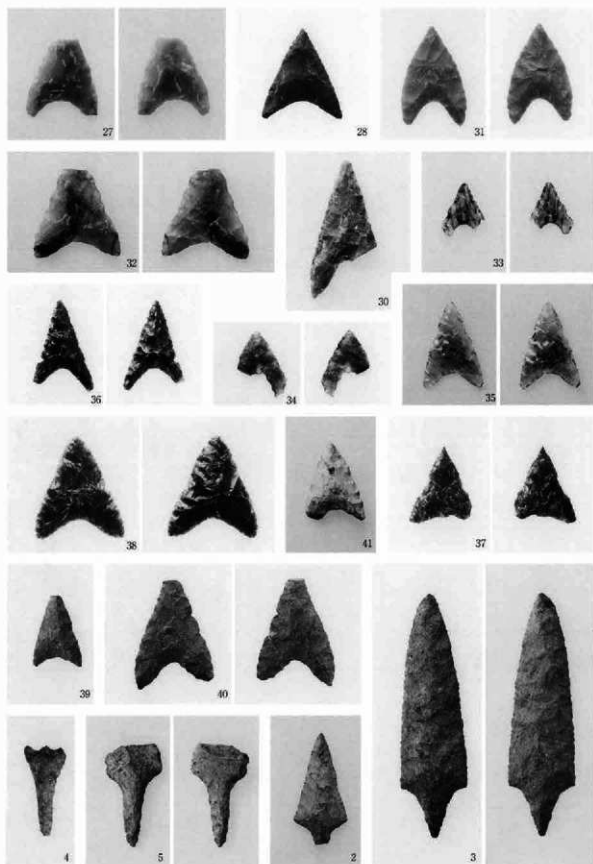


A区谷地211~222

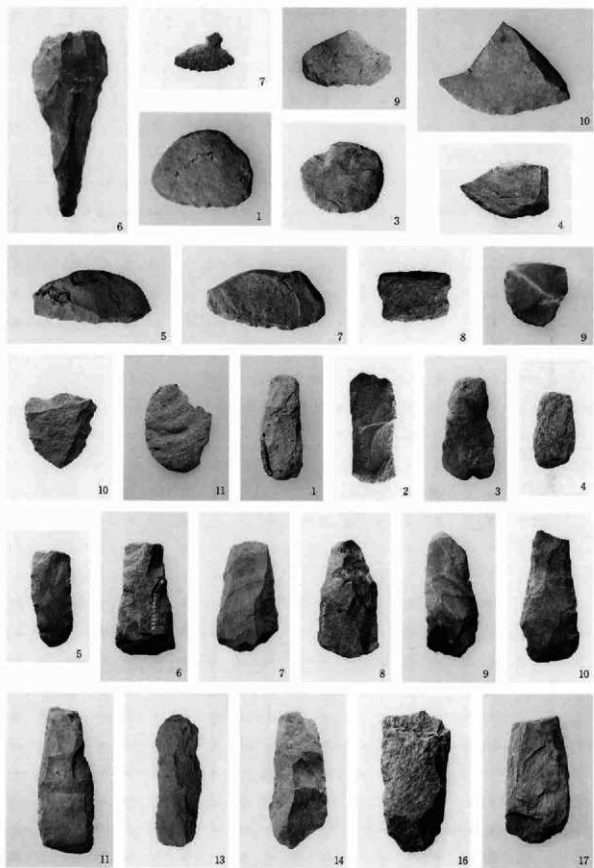




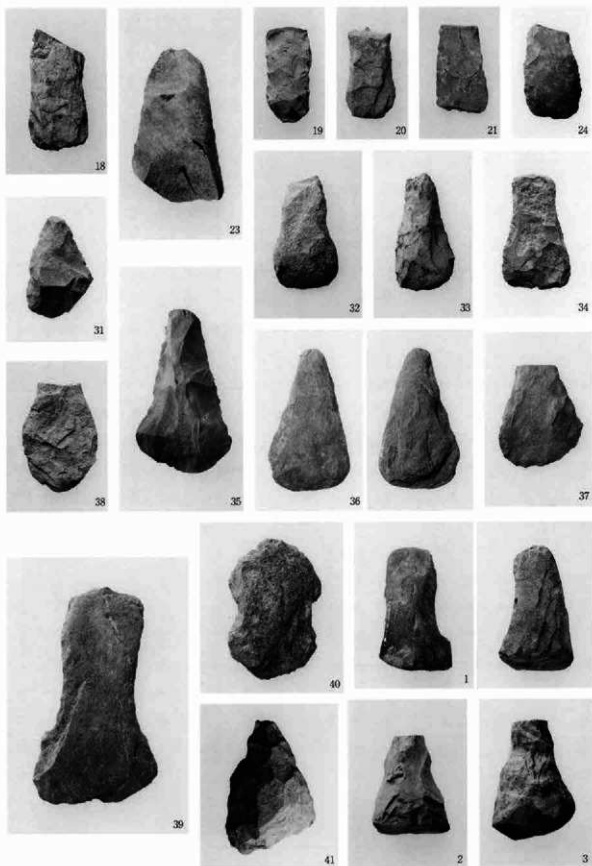
舞台遺跡遺構外出土縄文石器 (1)



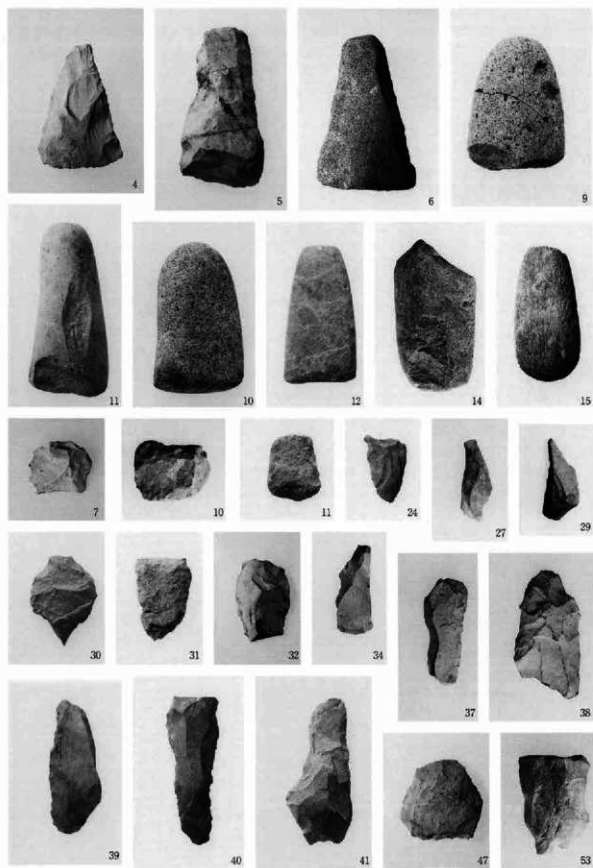
舞台遺跡遺構外出土縄文石器 (2)



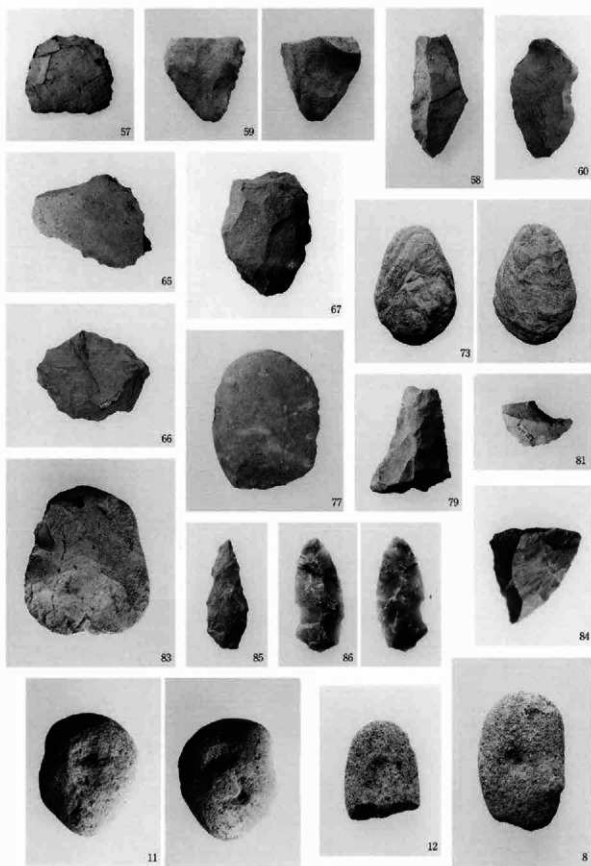
舞台遺跡遺構外出土縄文石器 (3)



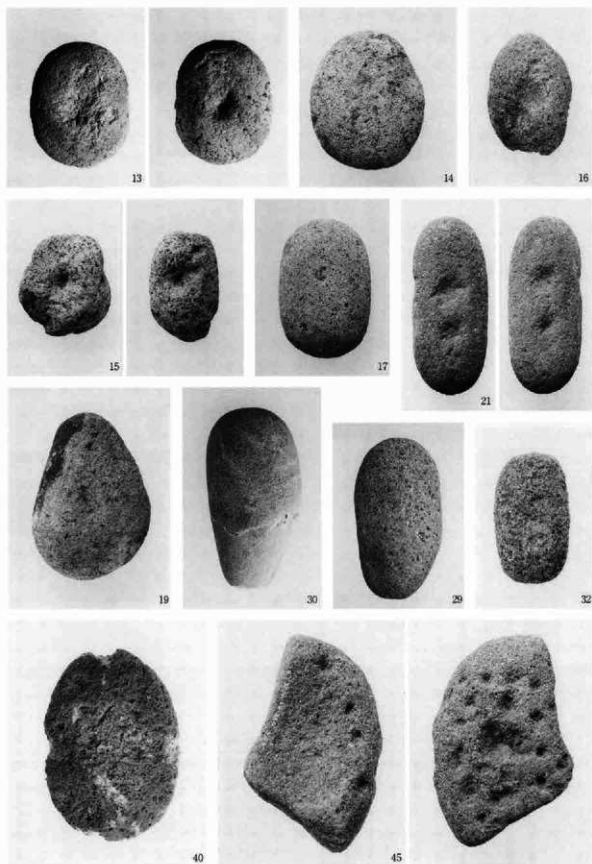
舞台遺跡遺構外出土縄文石器 (4)



舞台遺跡遺構外出土縄文石器 (5)



舞台遺跡遺構外出土縄文石器 (6)



舞台遺跡遺構外出土縄文石器 (7)



E区第1群・第2群旧石器出土状況

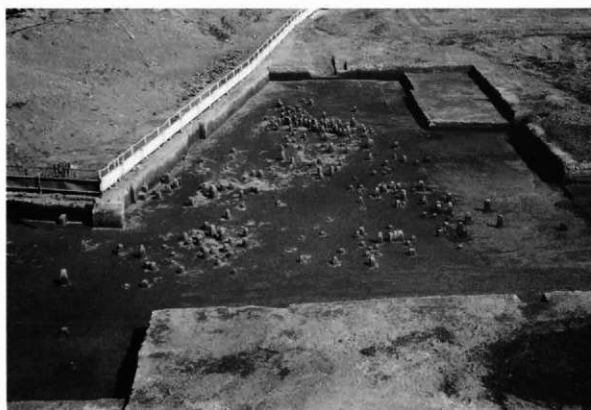


E区第1群旧石器出土状況





E区第1群旧石器出土状况



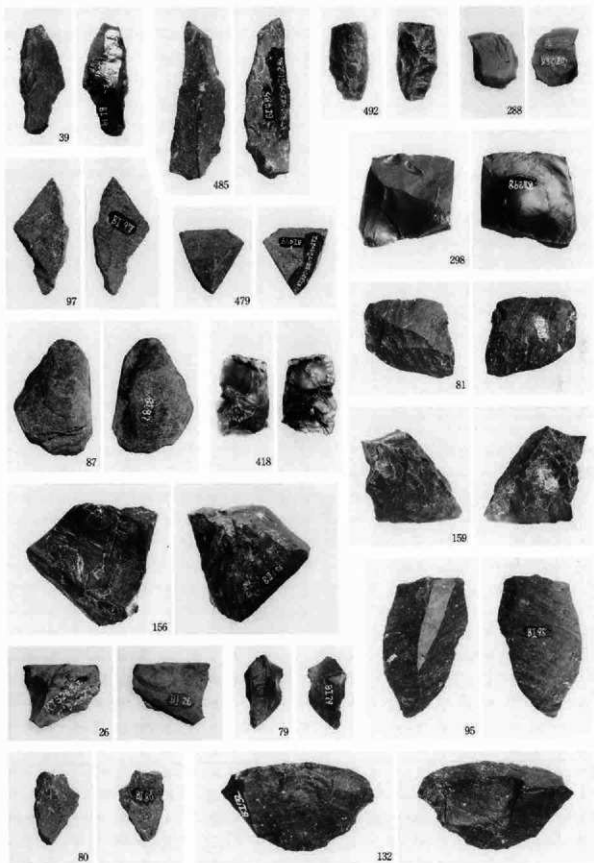
E区第2群旧石器出土状况



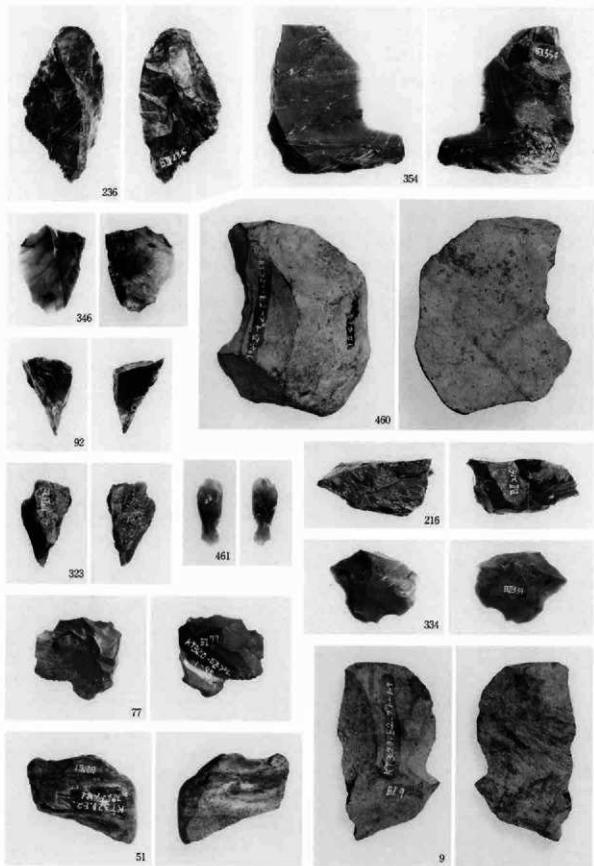
F 区旧石器出土状况



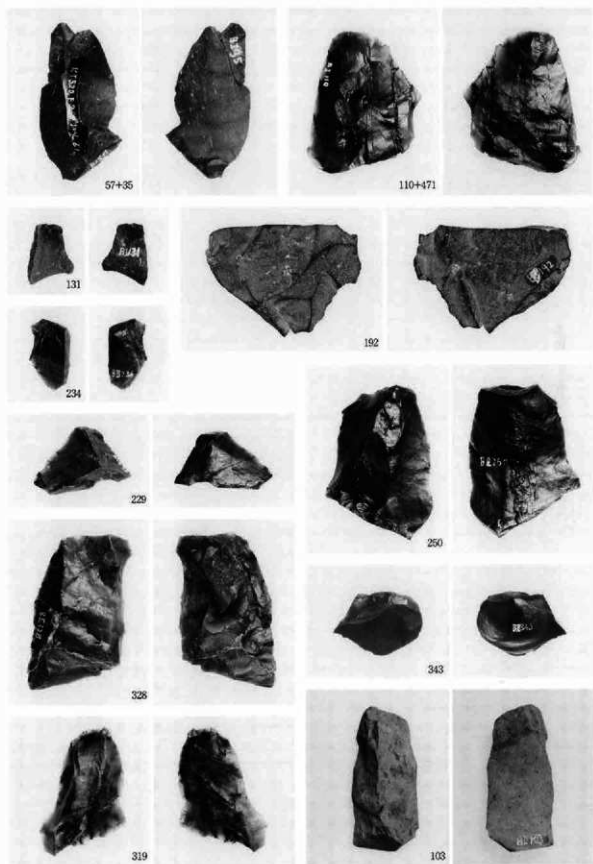
F 区旧石器出土状况



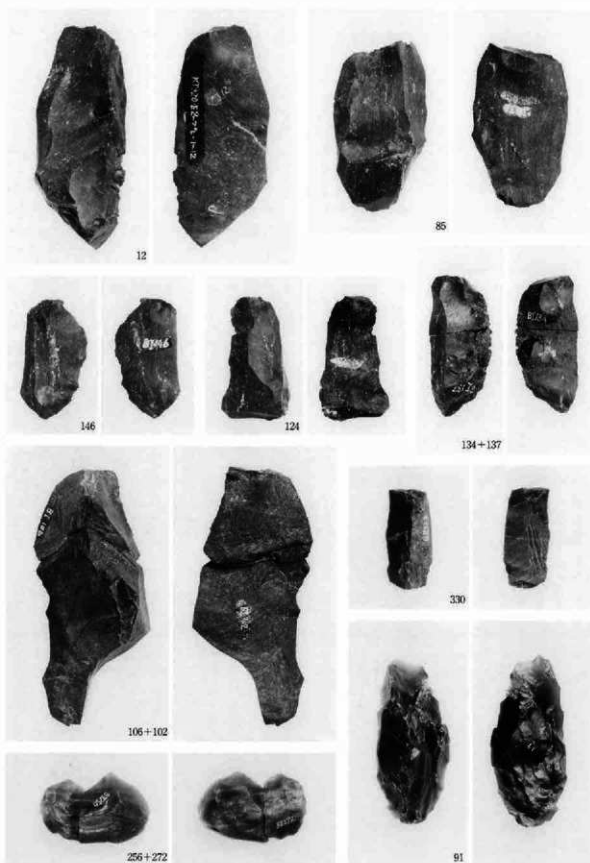
E 区出土旧石器 (1)



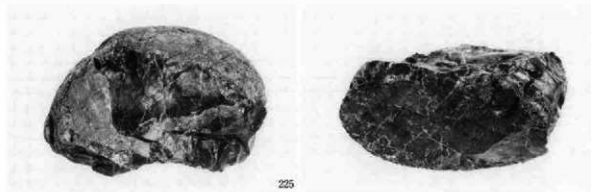
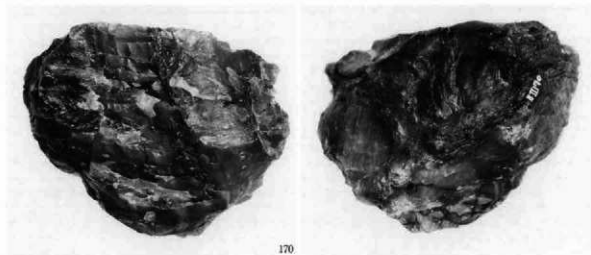
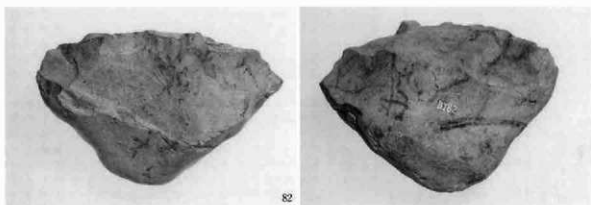
E 区出土旧石器 (2)



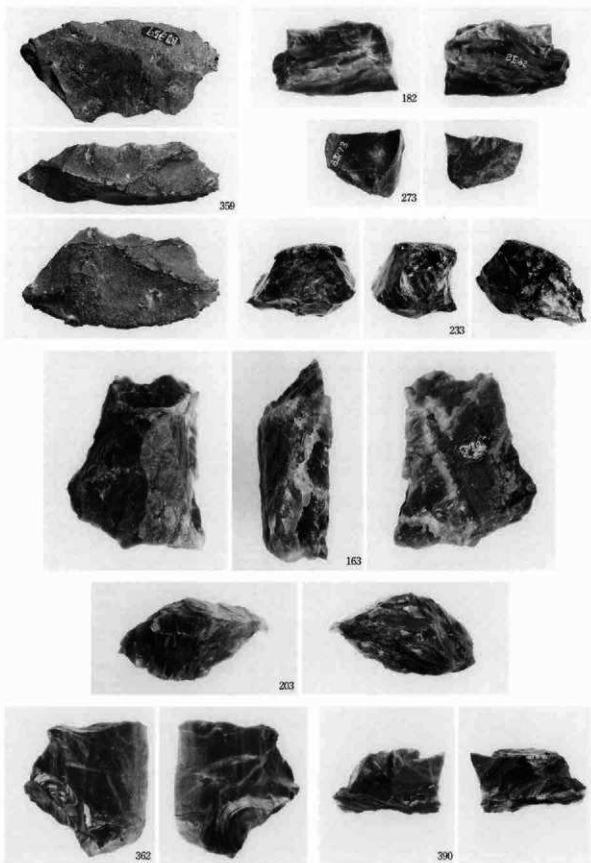
E区出土旧石器 (3)



E区出土旧石器 (4)

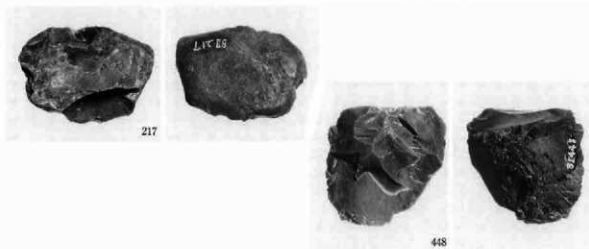
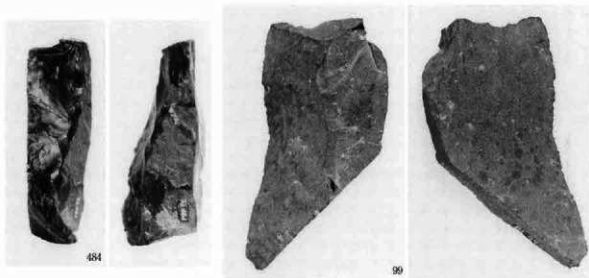
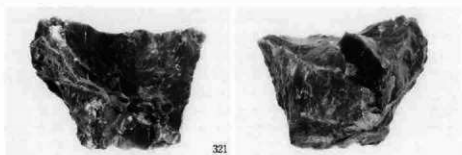


E区出土旧石器 (5)



E 区出土石器 (6)

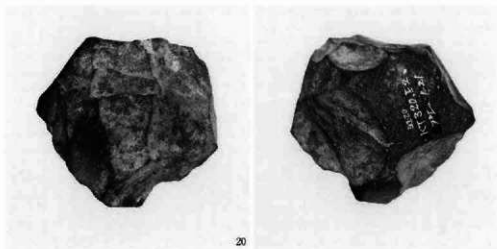




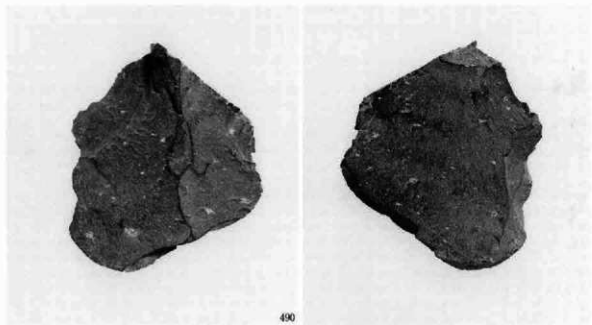
E 区出土旧石器 (7)



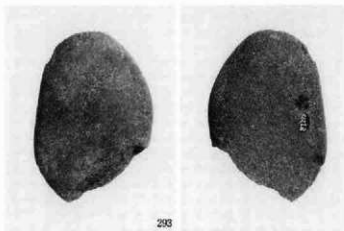
E 区出土旧石器 (8)



20



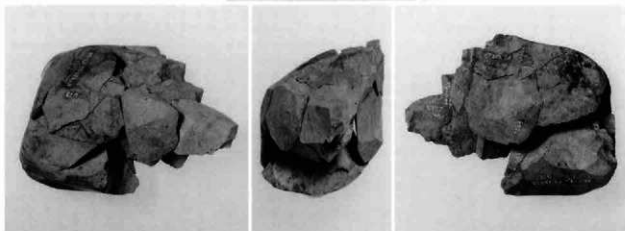
490



293



模 1



模 2





图4





图 5



图 6



图 7



图 8

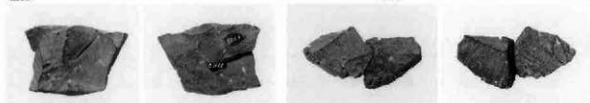


图 9



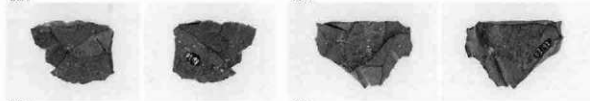
视10

视13



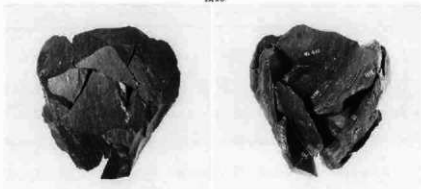
视11

视12



视14

视15

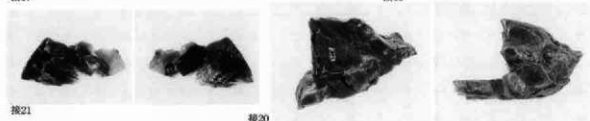


视16



视17

视18



视21

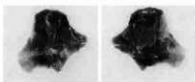
视20



接19



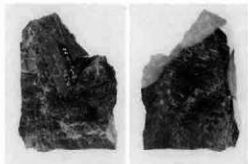
接22



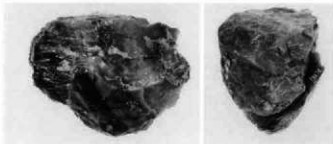
接23



接24



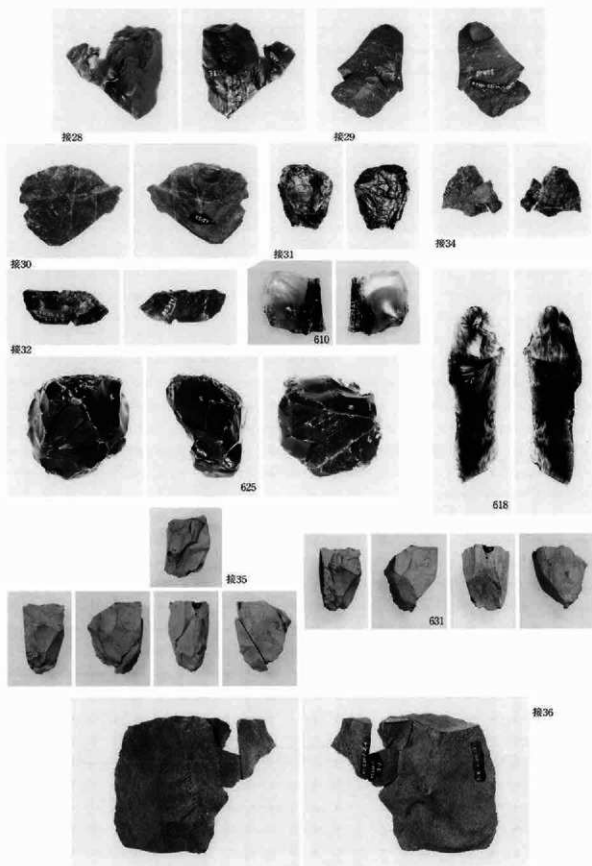
接26



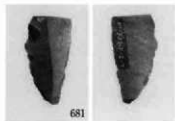
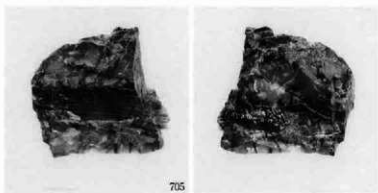
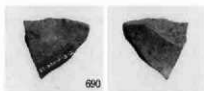
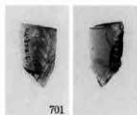
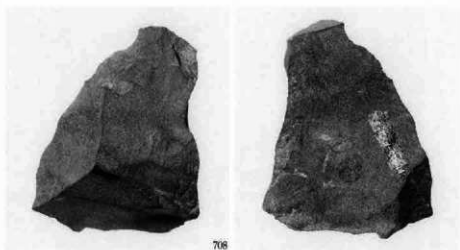
接27







E·A·F区出土旧石器



F 区出土旧石器





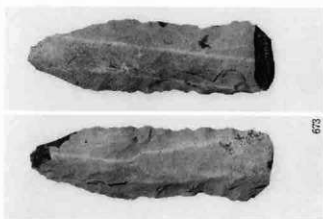
672



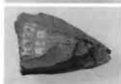
629



627



673



762



627



628



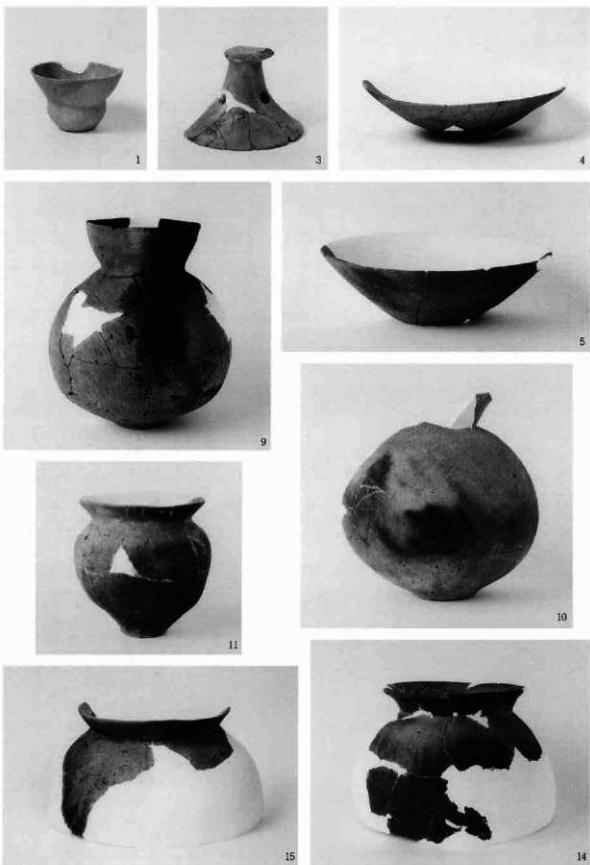
G区・その他出土旧石器



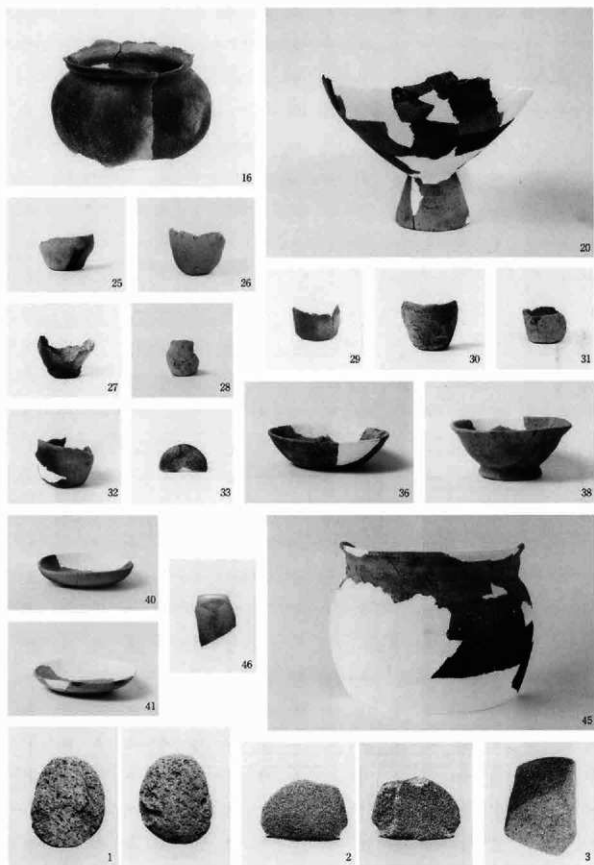
F区古墳時代前期畠跡（南西から）



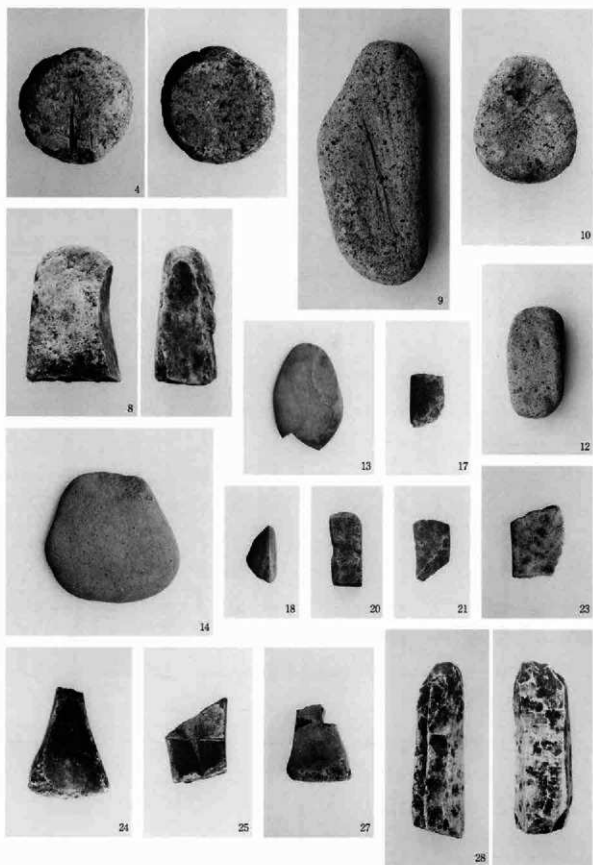
大井戸遺跡古墳時代前期畠跡



古墳時代前期土器 (1)

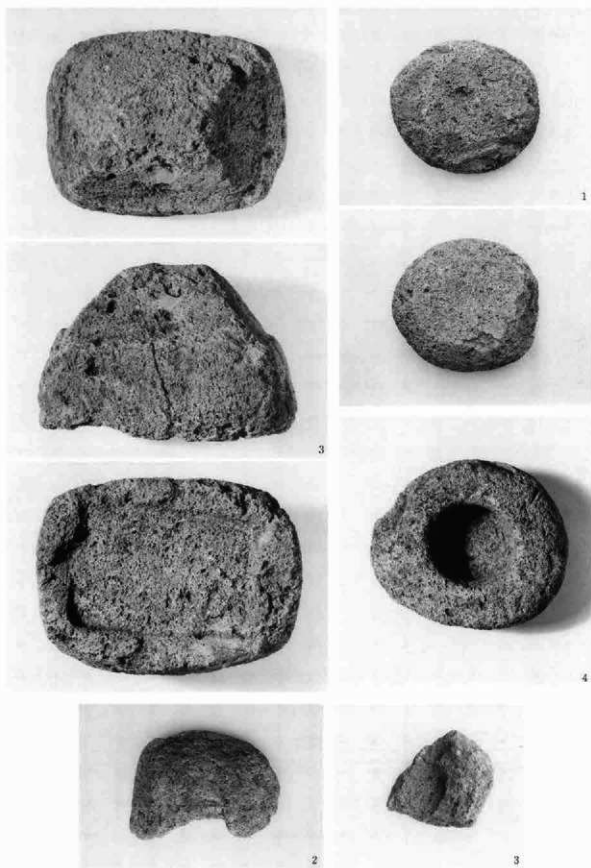


古墳時代前期土器(2)・平安～中世土器他

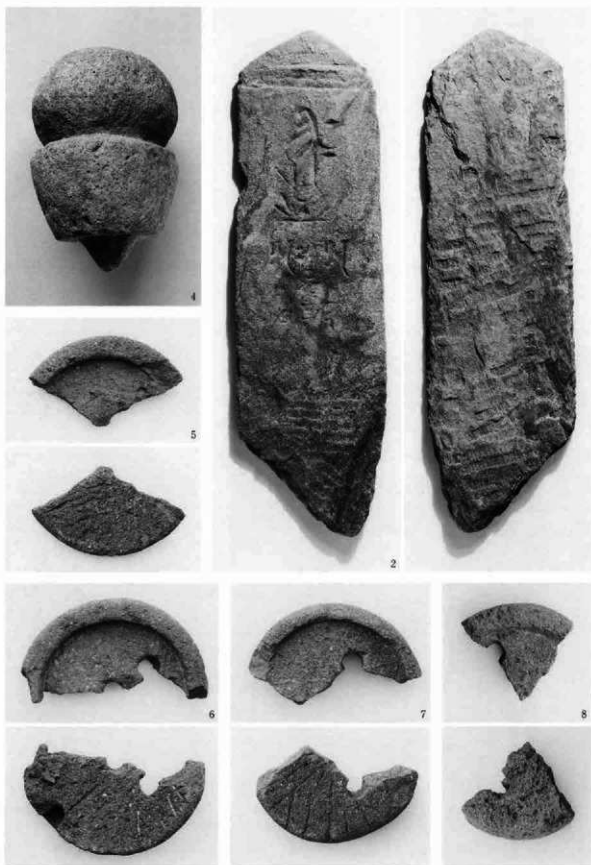


平安・中世砥石





舞台遺跡出土骨磁器



舞台遺跡出土石造物・石臼



舞台遺跡G区全景（北から）



舞台遺跡G区溜井全景（南から）



大井戸遺跡As-B下面



4・5号溝 (南から)



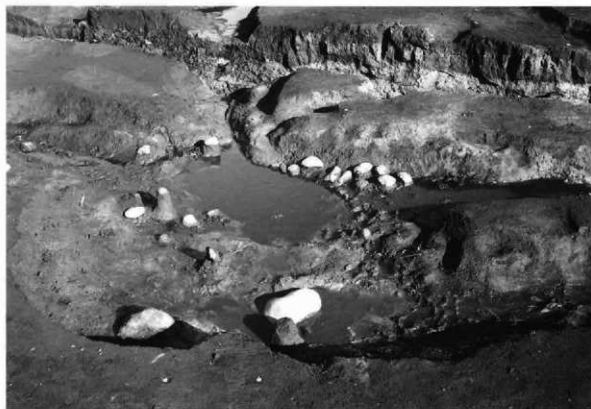
9号溝 (東から)



4・5号溝土層 (北面)



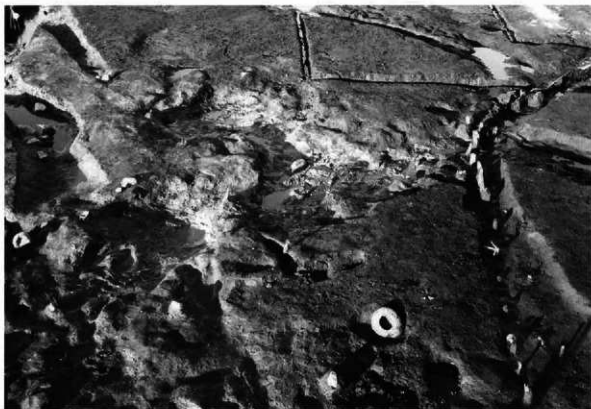
1号溜井 (西から)



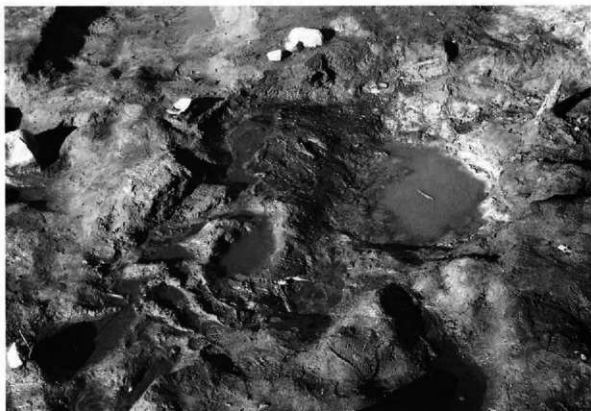
2号溜井 (西から)



3号溜井 (南から)



3・4・5号溜井 (南から)



4号溜井 (南から)



5号溜井 (南から)



6号溜井 (南東から)



13号溝 (南から)





14号溝 (西から)



15号溝 (西から)



16・17号溝（南から）



18号溝（南東から）



19号溝 (南東から)



20号溝 (南から)



22号溝 (西から)



13号溝土層



18・22号溝土層



19号溝土層



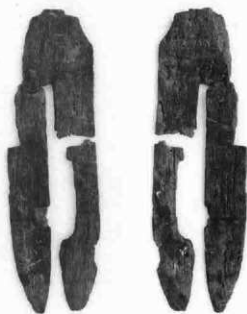
22号溝土層



G区自然礫層確認面



木器出土状況



出土木器（双股鎌）





群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第345集

## 舞台遺跡(3)

舞台遺跡(縄文時代・旧石器時代編)  
大井戸遺跡

北関東自動車道(高崎～伊勢崎)地域  
埋蔵文化財発掘調査報告書第30集

平成17年2月9日 印刷

平成17年2月21日 発行

編集・発行／財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

印刷／上毛新聞社

